



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

学勢調査2012提言書

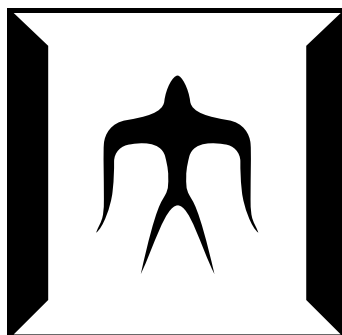


2013年3月
学勢調査スタッフ一同

学勢調査 2012 提言書

2013 年 3 月

東京工業大学
学勢調査スタッフ一同



ごあいさつ

学勢調査は今回で本格実施後 4 回目を迎える本学独自のアンケート調査です。学勢調査により東京工業大学は様々に改善されてきました。

学勢調査は大学に対して学生の生の声、現状を伝えるという役割があります。それだけではなく、大学運営に全くの素人である我々学生スタッフが、今ある問題の解決策を真摯に考え、提言をするという役割もあります。これら諸提言は素人目線ではありますが、我々の考える限りで最も効果的なものばかりです。これらが有効に活かされることにより、東工大に新しい風が吹き込まれます。

また、我々学生スタッフにとって、学勢調査は学びの場でもありました。我々は理工系学部・研究科の学生です。大学の授業等では学問として問題解決の方法を考え、問題を解決します。しかし、それらはすべて頭の中で解決をしています。本学勢調査は、大学という実社会における問題を解決する方法を模索する機会でありました。この機会を得られたことにより、実社会の問題に対しての興味関心が深まりました。それに加え、これは私個人の話ですが、組織運営の感覚を実体験として得られました。教務課をはじめ、大学の様々な部署へお話をさせていただき、日頃大学で学ぶこととは違うことを経験させていただきました。この経験は大学を卒業した後も活かされると考えます。

学勢調査は上述の 2 つの機会を、大学と学生の双方に与えます。学勢調査が効果的に大学運営に活かされることにより、東京工業大学は世界に類を見ない最先端の大学になっていくと信じています。

当学勢調査 2012 では、学勢調査 2010 以前と同様に「大学と学生との情報交換不足」に起因する問題が、数多く見受けられました。そして前回までの学勢調査の結果も踏まえ、この問題を解決するには『大学と学生の情報交換を促進する機会を設けること』が極めて有効であるとの結論に至りました。

最後になりましたが、スタッフを代表して、本学勢調査 2012 に関わっていただいた皆様方に心より感謝を述べさせていただきます。

学勢調査 2012 学生スタッフ代表
金 相殷

目次

1. 学勢調査概要	1
1.1 概要	1
2. 全学を通して重要な提言	6
2.1 提言概要	6
2.2 現状分析	6
2.3 具体的提言	11
3. サービス関連	12
3.1 事務について	12
3.2 事務の窓口時間について	13
3.3 サークル活動について	14
3.4 奨学金について	15
3.5 就職活動について	16
3.6 掲示板について	19
3.7 OCW,OCW-i について	22
4. 施設関連	24
4.1 レストスペースについて	24
4.1.1 レストスペースの設置	24
4.1.2 シャワールームの増設	26
4.2 リフレッシュルームについて	26
4.2.1 リフレッシュルームの開放	26
4.3 学生寮について	28
4.3.1 学生寮の充実	28
4.4 喫煙について	29
4.4.1 喫煙について	29
4.5 自転車について	30
4.5.1 駐輪場について	30
4.5.2 自転車利用について	33
4.6 構内美化について	33
4.6.1 構内美化について	33
4.7 外部者の利用について	34
4.7.1 外部者の利用について	34
4.8 大岡山スポーツ施設について	35
4.8.1 大岡山のスポーツ施設の改善	35
4.9 サークル棟について	36
4.9.1 サークル棟の改善	36
4.10 すずかけ台スポーツ施設について	37
4.10.1 すずかけ台スポーツ施設の改善	37
4.11 緑が丘地区について	39
4.11.1 緑が丘地区について	39
4.12 電波について	41
4.12.1 無線 LAN、携帯電話の電波について	41
4.13 コンビニについて	43
4.13.1 コンビニについて	43
4.14 講義室について	45
4.14.1 講義室の改善	45



5. 学習関連.....	48
5.1 研究及び研究室に関して	48
5.1.1 研究室の情報公開強化について	48
5.1.2 論文について	49
5.1.3 研究資金の補助について	50
5.2 授業の実態・内容	51
5.2.1 学生参加型の講義の充実	51
5.2.2 文系科目について	52
5.2.3 新たな講義の開講について	54
5.2.4 学生の意見を伝える機会について	55
5.3 カリキュラム	56
5.3.1 学部1年次の授業について	56
5.3.2 他大学との交流について	58
5.3.3 授業選択の自由について	58
5.4 単位・成績	59
5.4.1 成績評価について	59
5.5 国際教育関連	60
5.5.1 語学力について	60
5.5.2 すずかけ台での語学授業について	61
5.5.3 留学の門戸について	62
6. ハラスメント関連	64
6.1 ハラスメントの実態	64
6.2 ハラスメントの防止策	67
6.3 研究室の閉鎖性について	71
7. 図書館関連	74
7.1 開館時間について	74
7.2 蔵書について	76
7.3 設備について	78
7.4 すずかけ台図書館について	79
8. 生協関連	81
8.1 弁当・食堂関係	81
8.1.1 学内食堂の値段について	81
8.1.2 学内食堂の味について	84
8.1.3 ハラルメニューについて	86
8.1.4 健康志向のメニュー・ボリューム重視のメニューについて	87
8.1.5 定食・セットメニューの追加について	88
8.1.6 衛生管理について	89
8.1.7 その他の具体的な要望	89
8.2 施設関係	90
8.2.1 食堂の混雑について	90
8.2.2 営業時間について	91
8.2.3 石川台・緑が丘の弁当販売、食堂・購買新設について	92
8.2.4 大岡山の購買について	94
8.2.5 すずかけ台の食堂・購買の拡充について	95
9. 防災関連	96
9.1 避難について	96
9.1.1 震災当日の避難誘導について	96
9.1.2 避難訓練について	97



9.1.3	緑が丘地区の一時避難場所について	100
9.1.4	災害時の対応について	101
9.2	配布物資について	102
9.2.1	配布物資について	102
9.2.2	各種防災物資について	103
9.3	その他防災関連	105
9.3.1	ボランティア活動について	105
9.3.2	節電について	106
10.	調査関連	108
10.1	生活基盤の変化について	108
10.1.1	生活環境	108
10.1.2	食生活	111
10.1.3	時間の使い方	113
10.1.4	アルバイト	116
10.2	学習状況について	122
10.2.1	大学への意識	122
10.2.2	講義に対する姿勢	124
10.2.3	学修時間	125
10.3	学勢調査に対して	135
10.3.1	回答率について	135
10.3.2	層ごとの回答率について	136
10.3.3	回答者の傾向の変化	137
10.3.4	学勢調査 2012 に対する意見	139
11.	調査資料集	140
0.	基本情報	140
1.	生活基盤について	148
2.	学習状況について	159
3.	キャンパスライフについて	173
4.	防災関連について	186
	学勢調査 2012 設問一覧	190
	基本情報(必須項目)	190
1.	生活基盤について	191
2.	学習状況について	193
3.	キャンパスライフについて	196
4.	防災関連	200
5.	その他	201
	謝辞	202
	学勢調査 2012 スタッフ	203



本提言書の見方

本提言書は全 11 章で構成されています。

1 章

学勢調査についての概要説明です。

2 章

学勢調査 2012 の回答の傾向から、大学をより良くするためにはどのようにすればよいかを、学生スタッフで議論した結果から導き出された全学的に重要な提言です。

3 章～9 章

調査の結果を分析した学生スタッフによる、項目別の提言です。

10 章

今までの学勢調査で継続して調査してきた項目の比較です。

11 章

本学勢調査の回答と設問の一覧です。

下の表は、3 章から 9 章で用いた表の各項目についての説明です。

1.1.1 項目別提言で用いた表についての説明

提言概要	提言の概要です。
学生の意見	学勢調査のアンケート結果から、学生からどういった意見が挙がっていると判断できるのかを示しました。
具体的内容	学生からの具体的な意見です。基本的には学生の回答をそのまま引用しましたが、一部の意見は、学生スタッフにより表記の修正などを行いました。
現状分析	学勢調査のアンケート結果、大学の各部署のウェブサイトやフィールドワーク、他大学の状況やキャンパスミーティングなどで得た情報を基に、学生からどういった意見が挙がっているのか、現在の東工大がどういった状況に置かれているのかを学生スタッフがまとめました。
学勢調査 2010 以前との比較	この提言項目と類似した項目が学勢調査 2010 以前の提言書でも取り上げられていた場合は、その内容と現状を比較しました。比較がない項目に関しては、「なし」と記してあります。
提言	現状分析を基に、どのようにすれば大学がより良くなるのかを学生スタッフで議論し、提言としてまとめました。



1. 学勢調査概要

調査目的及び沿革

学勢調査は、本学における教育改善や施設建設・整備、学内サービス向上と言った大学の事業に学生の声を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的とした全学的アンケート調査です。学勢調査は本学独自の取り組みであり、国勢調査になぞらえて、「学勢調査」と名付けられました。学勢調査は、2004年の試行を経て、2005年より本格実施となり、学生が分析と提言を行うシステムとなりました。今回の学勢調査2012はこのシステムとなってから4回目となり、過去3回の調査ではいずれも学生の意見を大学側に伝える大きな役割を果たしています。

今回行われた学勢調査（以下、「本学勢調査」と記します）の回答者数は、前回は最多の回答数であったのに対して減少しています。（学部4803名、修士課程3457名、博士課程1553名、研究生105名、全学9918名に対し、回答者計1956名）（図1-1）。原因の一つとして、学勢調査の広報方法に問題があったと考えられます。回答数を増加させ、これからの学勢調査を有用なものとするためには、時代に合わせた広報活動を模索していく必要があります。回収率が上昇すると信頼性が向上するという統計学的な観点からも、回答数を増加させる事がこれからの課題だと考えています。

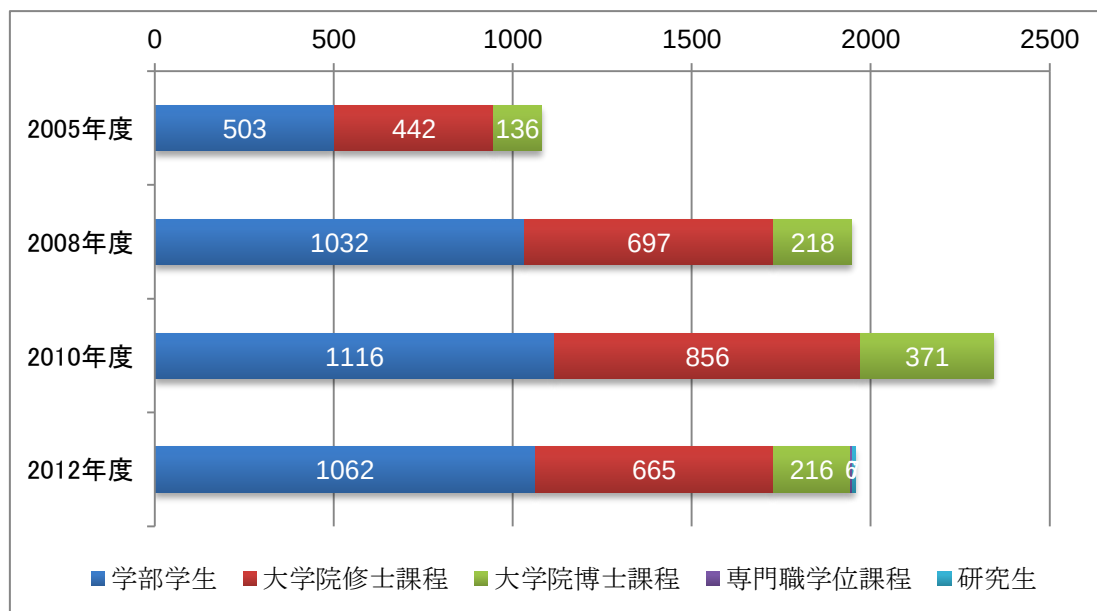


図 1-1 学勢調査回答者数の推移
(専門職学位課程、研究生の項目は2012年度のみ)



1. 学勢調査概要

本学以外で行われている一般的な学生生活実態調査は、おもに大学の教職員によって、学生の生活や意見が調査・報告され、大学事業へ反映されます。この方法では、大学側が学生の意見や動向を間接的に把握して、新規のサービスや施設を導入するので、大学側の提供するサービスが学生の要望にできていない場合があります。一方、本学の学勢調査では、調査実施前の項目検討から調査実施後に具体的改善案を提言するまで学生（学勢調査スタッフ）が行います。前者に比べ、調査結果と改善案提言の繋がりが強化しているため、より正確に大学側が学生の要望に応じたサービスを提供することが可能になります。これまでの具体的な実績としては、学食でのハラルメニューの導入、講義室の改修、電子掲示板の設置、リフレッシュ・ルームの拡充、コンビニエンス・ストアの出店、グラウンドの人工芝化が挙げられます。また、教職員の意識改革も進みつつあり、教職員と学生のすれ違いや不満足を解消する役割を果たしつつあります。

また、2011年3月に発生した東日本大震災を受けまして、学生の安全や大学と社会との関係に関する項目として、防災関連の調査項目を追加しました。

学勢調査における、大学、学生、学勢調査スタッフの役割関係図を図1-2に示します。

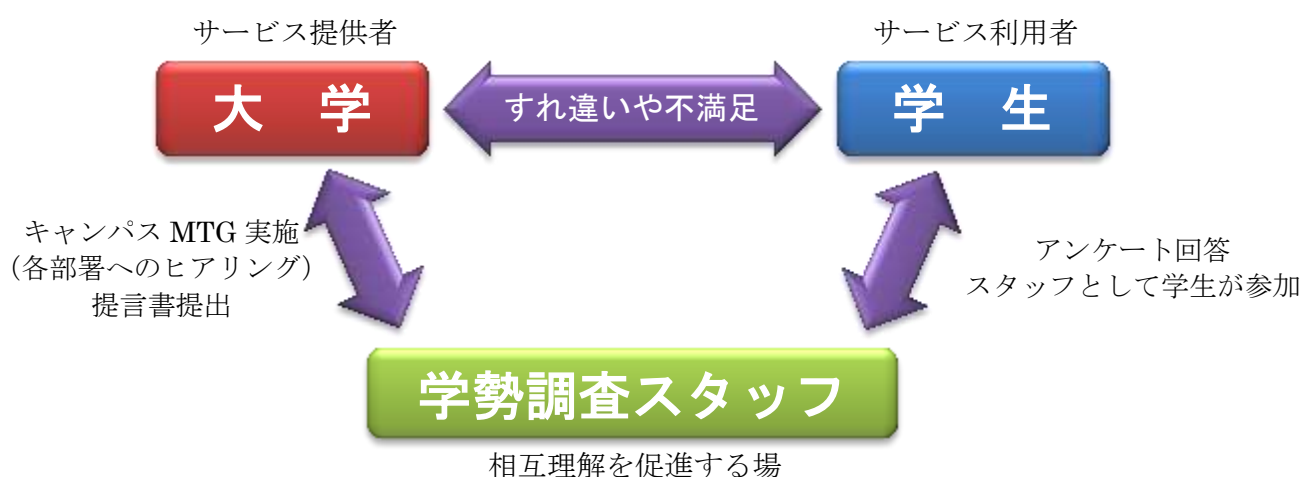


図 1-2 大学、学生、学勢調査スタッフの役割関係



調査母体

教育推進室学勢調査WG（主査：岩附信行教授）が、学生支援GP（Good Practice）の協力を得て、学生スタッフを募集して実施しました。

調査項目の検討

前回の学勢調査2010スタッフに新たなスタッフを募集し、計7回に渡って、調査項目の検討と、新項目の選定を行いました。その際には、学内関係部署より新たに加えて欲しい項目案を提示していただきました。会議の記録は下記の通りです。

- | | | | |
|-----|-------|----------|----------------------|
| 第1回 | 2012年 | 5月24日（木） | 顔合わせ・方針の確認 |
| 第2回 | 2012年 | 6月6日（水） | 項目検討（2．学習状況について） |
| 第3回 | 2012年 | 6月13日（水） | 項目検討（3．キャンパスライフについて） |
| 第4回 | 2012年 | 6月20日（水） | 調査方法について |
| 第5回 | 2013年 | 6月27日（水） | 項目検討（1．生活基盤について） |
| 第6回 | 2012年 | 7月4日（水） | 新規項目検討 |
| 第7回 | 2012年 | 7月11日（水） | 調査項目決定 |

調査時期

本学勢調査は、2012年10月1日～同年10月31日に行われました。

調査対象

本学勢調査は、本学に在籍している学部、修士、博士学生と専門職大学院生、研究生を対象としました。

調査事項

「11．調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。また、今回の調査でも、本学学生のより生の声を取り入れるために、自由記述欄を多く設定しております。

調査方法

本学勢調査は、オンライン上に設置した専用調査ページを通じて実施しました。その際、回答者が、本学学生であることの確認として、学外からのアクセスに対しては本学学生でない場合は知り得ないと考えられる質問を行い、正解者のみ調査への回答を可能としました。



1. 学勢調査概要

分析方法

アンケートによる調査データは項目ごとに分類し、調査と同時に募集した学生スタッフがデータ分析、問題発見、原因分析、改善策議論を行いました。学生スタッフの各班とその担当範囲は以下の通りです。

- － リーダー班 …… 全体の進捗状況管理
- － 学習、施設、図書館班 …… 本学学生の学習状況、施設、図書館について
- － サービス、生協、防災班 …… 本学の各種サービス、生協、防災について
- － データ班 …… データ整理、解析

全体会議の記録

- | | | |
|-----|-------------------|------------------|
| 第1回 | 2012年 11月 12日 (月) | 学勢調査の説明・スタッフ顔合わせ |
| 第2回 | 2012年 11月 21日 (水) | 学勢調査の説明・班分け |
| 第3回 | 2012年 12月 5日 (水) | 定量・定性データ分析途中報告 |
| 第4回 | 2012年 12月 21日 (金) | キャンパスミーティングの準備 |
| 第5回 | 2013年 1月 11日 (金) | キャンパスミーティングの準備 |
| 第6回 | 2013年 2月 1日 (金) | 全学を通して重要な提言の決定 |
| 第7回 | 2013年 3月 8日 (金) | 最終確認 |

全体会議以外に、適宜各班ごとに会議を行いました。



教職員の方の意見の取り入れ

提言案を作成するにあたり、キャンパスミーティングとメールによる質問を行いました。キャンパスミーティングとは、調査データを基に作成した提言案や質問を大学各部署に提出し、それを基に教職員の方にヒアリングを行うものです。キャンパスミーティングを行うことにより不要な誤解を避け、実りある意見交換ができ、より現実的で実効性のある提言案を作成することができます。今回ご協力頂いた部署は以下の通りです。

- － 学務部学生支援課 …… 本学学生生活全般について
- － 学務部教務課 …… 本学教務サービスについて
- － 施設運営部施設安全企画課
すずかけ台地区事務部総務課，学務課 …… 本学施設サービスについて
- － 総務部評価・広報課 …… 本学広報活動について
- － 研究推進部情報図書館課 …… 本学図書館について
- － 研究推進部情報基盤課
学術国際情報センター …… 本学情報ネットワークについて
- － 東京工業大学生協本部 …… 本学生協について
- － 外国語研究教育センター
国際部留学生交流課，国際事業課 …… 本学外国語教育、留学について

公表および報告

本提言書は本学学長に提出後、インターネットの専用サイトおよび冊子、CD-ROM 形式において公表されます。



2. 全学を通して重要な提言

2.1 提言概要

今回で4回目となる学勢調査ですが、学勢調査2010・2008・2005（以下「過去の学勢調査」とします）と同様に、学生からの意見がたくさん集まりました。今回の学勢調査の回答を分析すると、大学が良くなっているという意見もありましたが、過去の学勢調査と同様に、大学の現状に対する様々な不満を述べる意見もあります。一方、過去の学勢調査の提言を受けて大学が改善を図っている事例にも関わらず、再度意見として挙がっているものも見受けられます。これは、大学からの情報がうまく学生に伝わっていないという現状によって引き起こされていると考えられます。

これらの問題点を解決するにあたり、学勢調査のスタッフで議論した結果、大学の情報を効果的に学生に伝えるシステムの構築と、学勢調査の提言を受けて、大学がどのように対応しているのかを積極的に学生に伝える機会を設けることが必要だという結論に至りました。

2.2 現状分析

学勢調査2012で挙げられた意見のうち、大学からの情報がうまく学生に伝わっていないという現状が見られる意見は、大きく分けると3種類に分類できます。以下に、類型別の例を挙げます。

類型1 今回の調査で新たに出された事例

～工大祭の日程変更について～

- 2011年度までは、工大祭の前日と翌日は終日休講となり、それぞれ準備日、片付け日とされていましたが、2012年度からは工大祭の日程が従来より2週間早くなり、前日が水曜日の講義日程、翌日が体育の日で祝日となりました。
- そのため学生から「工大祭の期間を今まで通りに戻してほしい。オープンキャンパスとして重要な日、準備にもそれなりに時間がかかる。休日を減らすのは非効率この上ない。別の日で授業を補うべき。」「工大祭の日が夏休み明けすぐで、後片付けの日を祝日で代用するのはやめてほしい」といった意見がありました。

学生支援課とのキャンパスミーティングで得た情報によると、この日程変更は学期内に15週の講義を確保するための措置であるそうですが、多くの学生はこの事実を知らないため、このような意見が出されているのだと考えられます。

大学は、もっと多くの学生にこの日程変更の理由について周知すべきです。



類型2 現状では改善の見込みがないのに出された事例

～駐輪スペースと自転車の登録～

- ・自転車の駐輪スペースが不足しているという意見は、過去の学勢調査から継続して出されています。
- ・今回の学勢調査でも「4.5 自転車について」で取り上げています。

教務課・施設運営部とのキャンパスミーティングで得た情報によると、現在の駐輪スペースの数や新たな駐輪スペースの設置の是非は大学に登録された自転車の総数により決められており、現在の駐輪可能台数は大学に登録された自転車の台数を上回っているそうです。しかし、「4.5 自転車について」でも挙げられているように、放置自転車の半数以上が未登録であり、また図 2-1 より、毎年一定数の学生が未登録で使用しています。

このようなデータを考慮すると、実際のところは駐輪スペースが不足しているのかもしれませんが、この問題については、自転車の利用登録を通して大学に十分なデータを提供していない学生側に問題があると言えます。

大学側も、駐輪スペースは学生の利用登録が前提で決められていると言う事実の周知を図ることが大切です。

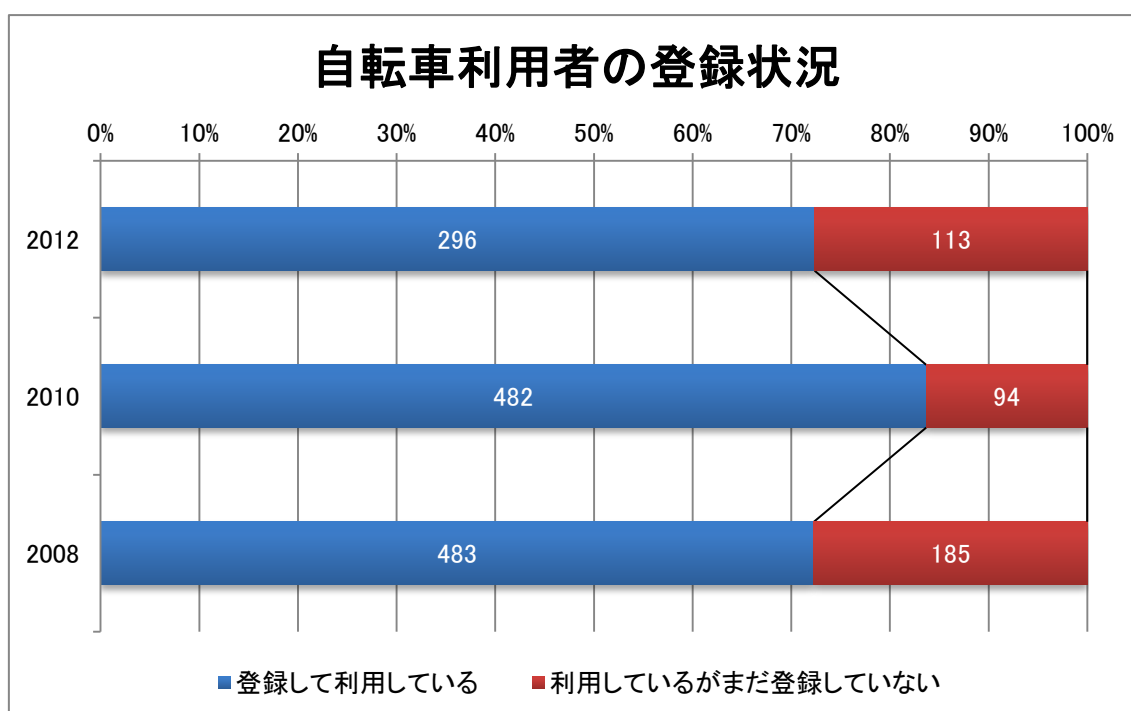


図 2-1 自転車利用者の登録状況



2. 全学を通して重要な提言

類型3 改善されたのに上手く活用されていないという事例 ～電子掲示板～

- 過去の学勢調査の結果、重要情報が思いのほか学生に届いていない、あるいは相互交流のための情報共有が難しいという実態が明らかになり、その対策として、電子掲示板が導入されました。
(参照：<http://www.siengp.titech.ac.jp/bbs.html>)
- このような経緯で設置された電子掲示板ですが、人通りが多い場所に設置されているため立ち止まって見るのが難しく、通り過ぎる学生に情報が伝わらない、逆にじっくり見たい学生にとっては一つの情報の表示時間が短い、という現状があります。

この学勢調査の情報も電子掲示板で配信されていましたが、図 2-2 から見て取れるように電子掲示板で学勢調査を知ったという学生は少なく、効果的な情報発信が行われているとは言いがたいです。

そのため、電子掲示板単体ではなく、他の手段とも組み合わせたより効果的な情報発信が必要です。



図 2-2 学勢調査 2012 を知った場所



学勢調査 2010 では、学生側がより意見しやすいシステムの構築、学生のニーズの把握や相互理解を促進する方法を提案するために、「事前アンケート・説明会」「学生モニター」「意見交換ポータル」の 3 通りのシステムの設置が提言されました。

しかし、2013 年 3 月の段階で設置されているのは、学生からの意見を直接学長に伝えるための「学長ご意見箱」だけであり、その存在自体もほとんどの学生には知られていません。このシステムをより有用なものにするためには、学生により周知させることが必要です。

ここで、学生が大学の情報をどのように得ているのかを確認します。

図 2-3 より、学勢調査 2012 のデータでは「OCW/OCW-i・教務 Web」から情報を得ている学生が最も多いです。これは学勢調査 2010 と比較して唯一増加している項目となっており、大学からの情報発信が改善されていると言えます。

しかし、学勢調査 2008 から毎年割合は減少していますが、依然として高い割合を保っている情報源が「友人」です。図 2-3 に挙げられた選択肢の中で唯一大学が関わっていない情報源であり、図 2-4 で示されているように、学生が一番有用だと考えている情報源でもあります。

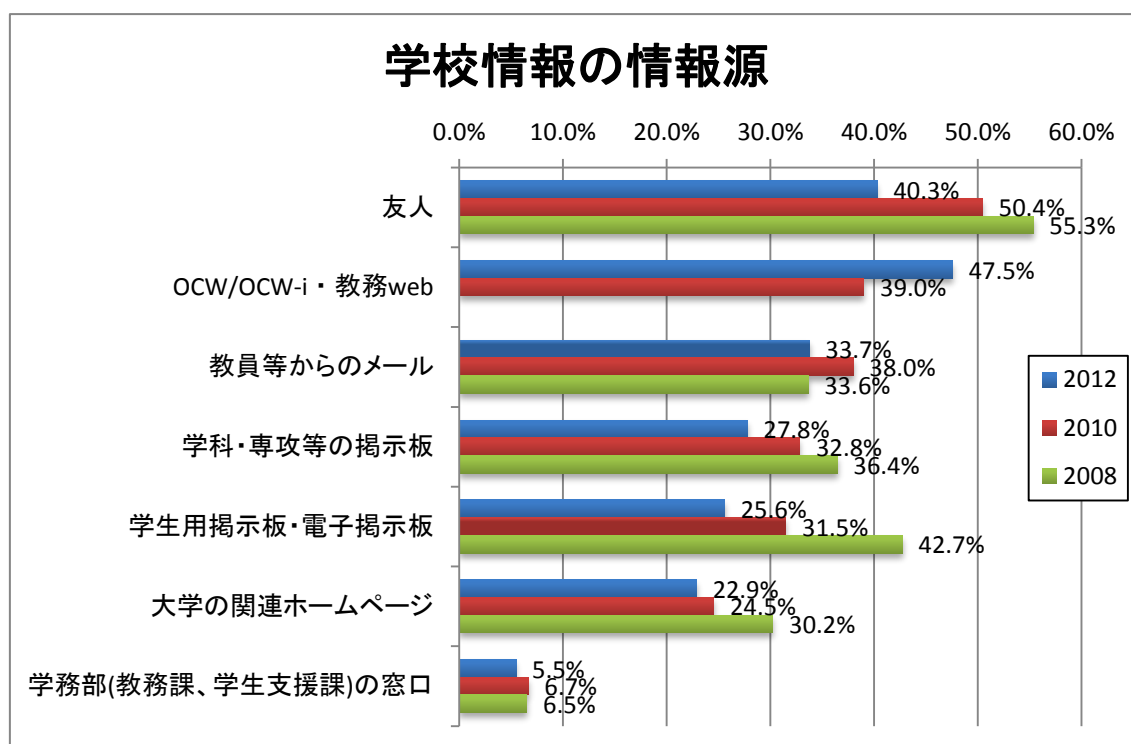


図 2-3 学校情報の主な情報源（上記選択肢の中から 3 つまで選択）



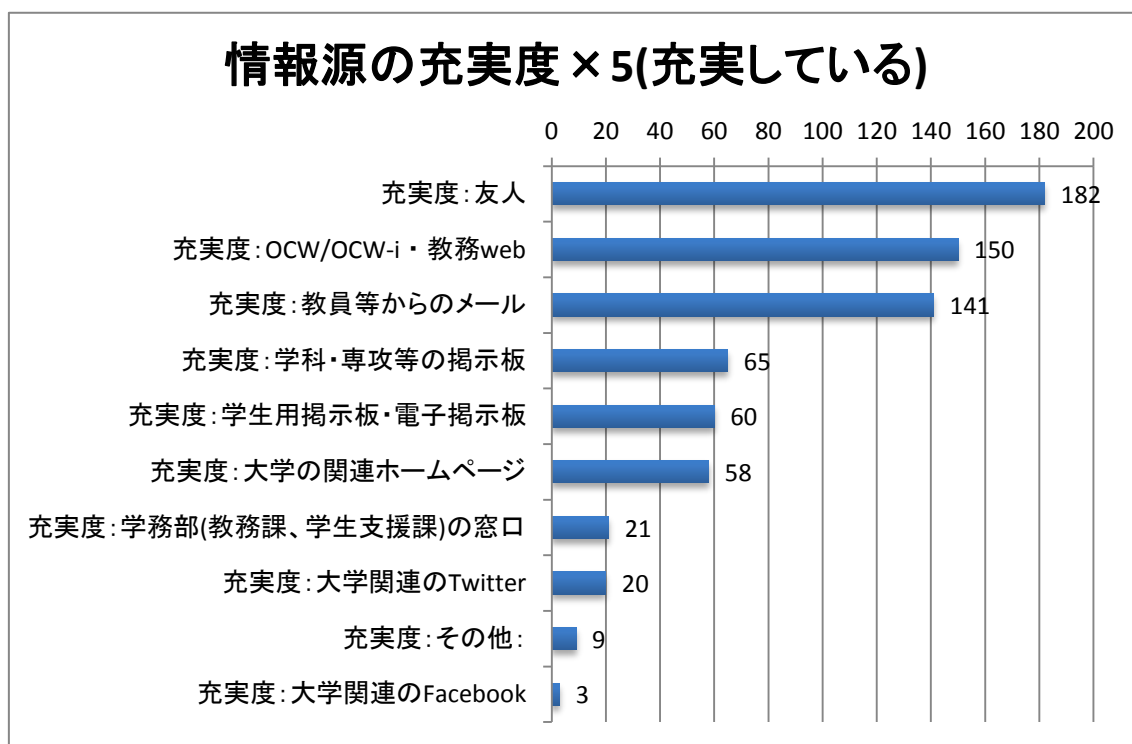


図 2-4 利用する情報源の充実度で5(充実している)を選択した人数

このように、大学からの情報発信が改善されているにも関わらず、依然として学生同士での情報共有が最も有用とされています。そのため、大学の情報をよりの確に発信するためには、この「友人」という情報源を無視することはできません。



2.3 具体的提言

これまで述べてきたように、現状では大学から発信されている情報が的確に学生に伝わっていない事例があります。

そのような問題を解消し、これまで以上に的確に学生に情報を伝えるためには、学生にとって一番信用されている友人同士の情報網に、大学からの情報を伝えることができれば良いと考えます。そうすれば、より多くの学生の興味・関心を大学に向けることができ、大学からの情報をよりの確に学生に届けることができます。

このようなシステムを考案する際には、学生が大学の正確な情報を確実に得られるシステムであること、単発ではなく継続的な情報発信が行えること、という 2 点が満たされるように検討する必要があります。

(1) 学生が大学の正確な情報を確実に得られるシステムを構築すること

現状で実施されている大学からの情報発信でも友人同士での情報共有は見込めますが、友人を通じた情報には、有用であっても不確実な情報がたくさんあります。

学生の持つ情報の精度を上げるためには、大学からの情報を発信する側に学生も関与させるシステムを構築することが考えられます。自主的に集まってきた学生だけでなく、幅広い層の学生を集められるシステムとして機能させることが重要です。

(2) 継続性があること

学勢調査スタッフのように隔年で募集するシステムではなく、年間を通して高頻度で実施できるシステムにすることが大切です。

以上の点を踏まえ、具体案として学生モニターの設置を提言します。

学生モニター

～友人同士の情報網を通して大学からの情報を伝える～

- 各学科・専攻から均等に抽出された学生達によって構成される組織。
- 大学からの情報伝達の間として機能させる。
- 学勢調査の結果を踏まえた大学の取り組みもここで発表する。
- 学生側の意見を集めるという役割も担う。

このシステムは、学生への情報伝達の確実化という点において一定の効果を見込むことができ、大学と学生の新たなあり方を社会に向けて発信する革新的な試みともなる可能性があります。学生モニターを継続的な組織とするためにも、学生に広く周知するための努力や工夫を続けていくことが大切です。



3. サービス関連

3.1 事務について

提言概要	事務について
学生の意見	事務職員の対応が悪い。どの課に行けばいいか分からない。
具体的内容	・事務の方の態度が高圧的。 ・複数の窓口をたらい回しにされた。 ・間違った指示をされた。 (同様の意見が 80 件寄せられました)
現状分析	事務職員の対応に関する苦情は、2008 年の調査時には約 120 件、2010 年に 95 件と自由記述で多く指摘されています。一方、年を経るにつれて、本調査の結果から事務職員の学生対応は、良くなっていると言えます。また、教務課や学生支援課に関しては、学勢調査 2008 の結果から学務系職員に対し CS (Customer Satisfaction : 顧客満足度) 研修を実施したことによる改善が見られていると言えます。 業務によって窓口が複数存在し、学生は適切な場所で問い合わせができないという意見がありました。事務職員は、担当業務以外の問い合わせに関して判断可能なものは、該当窓口へ学生を案内しますが、両者の質問と対応が食い違う場合があり、その結果として「たらい回しにされた」という意見が生じると考えられます。この齟齬を回避する目的として、本学ホームページの「在学生の方へ」のページには、『「困ったときは・・・」学生のための FAQ』(http://www.titech.ac.jp/campuslife/pdf/faq.pdf)という資料が、設けられています。 教務課へのキャンパスミーティングでは、大学が提供している情報を下調べすることなく問い合わせに来る学生や、的を射ない質問をする学生がいることを指摘されました。
学勢調査 2010 以前との比較	図 3.1-1 のように、事務職員の学生への対応は学勢調査 2010 に引き続き改善されていると言えます。
提言	事務職員の対応は、CS 研修などを継続的に実施し、引き続き改善をお願いします。 また、学生は本学ホームページの掲載情報等を事前に確認するとともに、質問や要望事項を明確にするなど良識のある行動をすることが必要であると言えます。



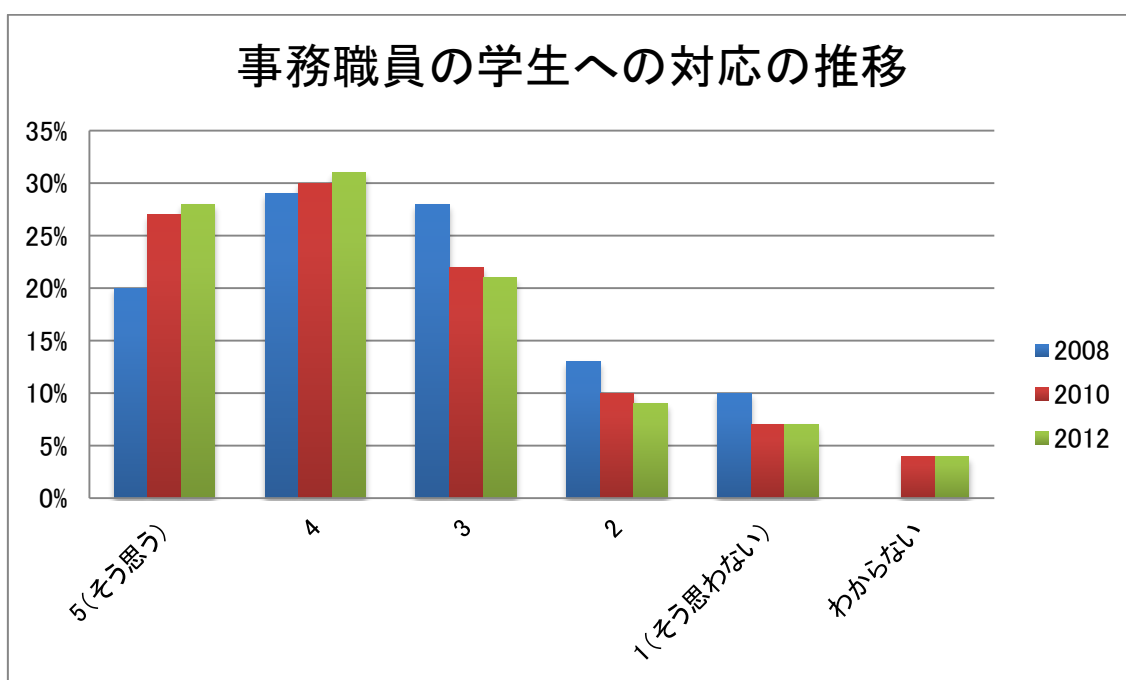


図 3.1-1 「事務職員の学生への対応が適切か」の推移

(※2008 年は、「わからない」の選択肢は無し)

3.2 事務の窓口時間について

提言概要	事務について
学生の意見	事務の受付時間が短い
具体的内容	・ 土日も受付して欲しい。 ・ 授業時間とかぶってしまっているので行けない。 (同様の意見が 11 件寄せられました)
現状分析	大岡山キャンパス、すずかけ台キャンパスの窓口受付時間は＜平日 8:30～17:15＞、田町キャンパスは、＜月・金 9:30～18:30＞＜火・水・木 9:30～20:30＞＜土 10:15～17:15＞です。 本学は理工系の大学であるため、実験や演習などしばしば延長する授業があり、授業終了が受付時間を超えてしまうことが頻繁にあると言えます。 表 3.2-1 より、国立大学の中で著しく窓口受付時間が短いわけではなく、むしろ受付時間は長い方です。
学勢調査 2010 以前との比較	2008 年の時点では、大岡山キャンパス、すずかけ台キャンパスでは、平日の窓口受付時間が、8:30～17:00 でした。現在は窓口終了が 15 分延長されています。



3. サービス関連

提言	本学事務窓口の受付時間は比較的長い方ですが、未だ不便を感じている学生は多いです。そのため、本学田町キャンパスや一橋大学のように、大岡山キャンパスやすずかけ台キャンパスについては、まだ受付時間を改善する余地があると考えられます。事務窓口の受付時間、開室曜日のより一層の拡充を希望します。
----	---

表 3.2-1 各大学の事務受付時間

東京大学工学部学務課総務・学生支援チーム	9:00 ～ 17:00
京都大学工学部・工学科教務掛	8:30 ～ 17:00
一橋大学（学部生対象）	8:30 ～ 18:10
東京外国語大学教務課・学生課	9:00 ～ 17:00

※) 東京大学：http://www.t.u-tokyo.ac.jp/for_alumni/certificate.html

京都大学：<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/f-procedures/certificates>

一橋大学：<http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/graduates/certification.html>

東京外国語大学：<http://www.tufs.ac.jp/insidetufs/gakusei/procedure.html>

3.3 サークル活動について

提言概要	サークル活動について
学生の意見	サークル活動向けの支援をしてほしい。
具体的内容	・公認サークルが優遇されている。 ・公認サークルになれない。 (同様の意見が 10 件寄せられました)
現状分析	本来公認サークル間の意見をまとめるサークル連合が機能していない状況です。そのため、サークル全体として大学側に交渉することが難しくなっています。同時に大学側は、サークル全体の実態を把握できない状況であると言えます。 公認サークルからは、サークルで使用する講義室の使用時間の延長や更なる支援の要請、非公認サークルからは講義室の使用権利が欲しいという意見が多くあります。 三島学長から在学生へのメッセージ (http://www.titech.ac.jp/about/president/enrolled.html)では、学生が取り組むべき事に「運動やサークル等の課外活動をがんばる」という文言があることから、課外活動の強化を推奨していると考えられます。



学勢調査 2010 以前との比較	2010 年時点では存在していたサークル連合が機能していない状態にあります。学生側と大学側、双方のサークル全体に対する関心や働きかけが減少していると言えます。
提言	サークル側からの意見を吸収したり、大学側の意見をサークル側に届けたりといった組織づくりをしていくことを、学生と大学の双方から働きかけていくことを希望します。

3.4 奨学金について

提言概要	奨学金について
学生の意見	多様な奨学金が欲しい
具体的内容	・留学に行きやすくなるためにも単位互換、奨学金を改善して欲しい。 ・奨学金が、ただただ成績の良い人ばかりがとれる制度がおかしい。 本当に貧しい人間は毎日バイトをしなくては行けなく、そのお金も家庭のためで、自分で使えるわけではない。そんな人間が毎日何時間も勉強できるはずもなく、平均的な成績をとることはできても、トップレベルは難しい。それにも拘わらず、奨学金がもらえないのはおかしい。親からお小遣いをもらって生活をしているような人間が奨学金を受け取って、家にお金をいれなきゃいけない人間が奨学金を受け取れないのはおかしすぎる。 ・今の大学生は、大学側の方々が想像する以上に経済的に厳しい状況にあります。一人暮らしをしても実家から仕送りの無い学生や、学費をアルバイト代で賄っているという学生も決して少なくありません。奨学金の情報をより積極的に発信して頂き、アルバイトのしやすい環境(学内アルバイトの充実、そして何より、先生方の学生によるアルバイトに対する理解)が整えばと思います。
現状分析	図 3.5-1 (実現してほしい学生生活サービス) では、多様な奨学金やアルバイト紹介といった、金銭に関する要望が 2 番目と 3 番目に多い結果となっています。このことから、多くの学生が経済的な不安を抱えていることが推測され、その一つの解決方法として、多様な奨学金制度の導入があると考えられます。 また、既存の奨学金の多くは、成績や課外活動での功績を基準に給付の判断がされていて、経済的に苦しい学生が実質的に獲得しにくい状況にあると言えます。 東京工業大学では、大学院に進学する学生が多く、その分返済金額が多くなると考えられます。



3. サービス関連

学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 以前には設置されていなかった東京工業大学基金奨学金（コミカミノルタ奨学金、ブリジストン／東工大奨学金、手島精一記念奨学金、青木朗記念奨学金、草間秀俊記念奨学金、130 周年記念博士進学エンカレッジ奨学金）が設立されました。
提言	現状としては、いまだ経済的に困窮している学生が多いため、更なる奨学金の拡充を求めます。 また、今ある奨学金でも、学生の経済状況が把握されるように面接等の機会を増やしてはいかがでしょうか。

3.5 就職活動について

提言概要	就職活動情報について
学生の意見	就職活動情報の充実
具体的内容	・研究と就活を両立できる環境が大事だと思います。 ・博士の人間にももっとそのような機会があることをアピールしていくとなお良いと思います。 ・就職対策というか、斡旋はあった方がいいかと。ただし、それらの企業は精査されていて欲しい。 ・研究機関としての大学を目指すのであれば、研究力が必須。そのためには、研究に専念できる環境を作る必要がある。修士課程に進んだところで、大半が就職活動でつぶされてしまう現状は間違っていると思う。
現状分析	2012 年 12 月 1 日時点での 2013 年卒業の大学学部生の就職内定率が 75.0%（文部科学省と厚生労働省の調査より http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/01/1329907.htm）というデータから、就職活動が厳しい状況にあると言えます。しかし本学では、学部卒業生の 9 割弱が大学院へ進学しているという状況があり、他大学の就職環境とは違うと言えます。 図 3.5-1 の中でも、「進路就職に関する情報が得られる企画・活動」が最も多く選択されています。
学勢調査 2010 以前との比較	図 3.5-2（欲しいサービス比較）では、「進路・就職に関する情報が得られる企画・活動」を選択している割合が、2008 年には 57%、2010 年には 47%、そして 2012 年には 46%となっています。この結果より、2008 年と比較すると進路・就職に関する情報を必要としている割合は減少しています。



提言

「進路・就職に関する情報が得られる企画・活動」を必要としている割合は、確実に減少していますが、この減少が2008年と比較して社会的に就職状況が好転していることによる影響か、本学の進路・就職に関する情報の充実度が挙がっていることによる影響かを判断するのは、難しい状況です。

一方、自由記述に記載されているような本学特有の就職環境を考慮に入れた進路・就職の提供が求められています。以上より、よりいっそう本学学生の就職へのニーズ合う情報を提供し、更なる進路・就職情報の充実を希望します。

【実現してほしい学生生活サービス】

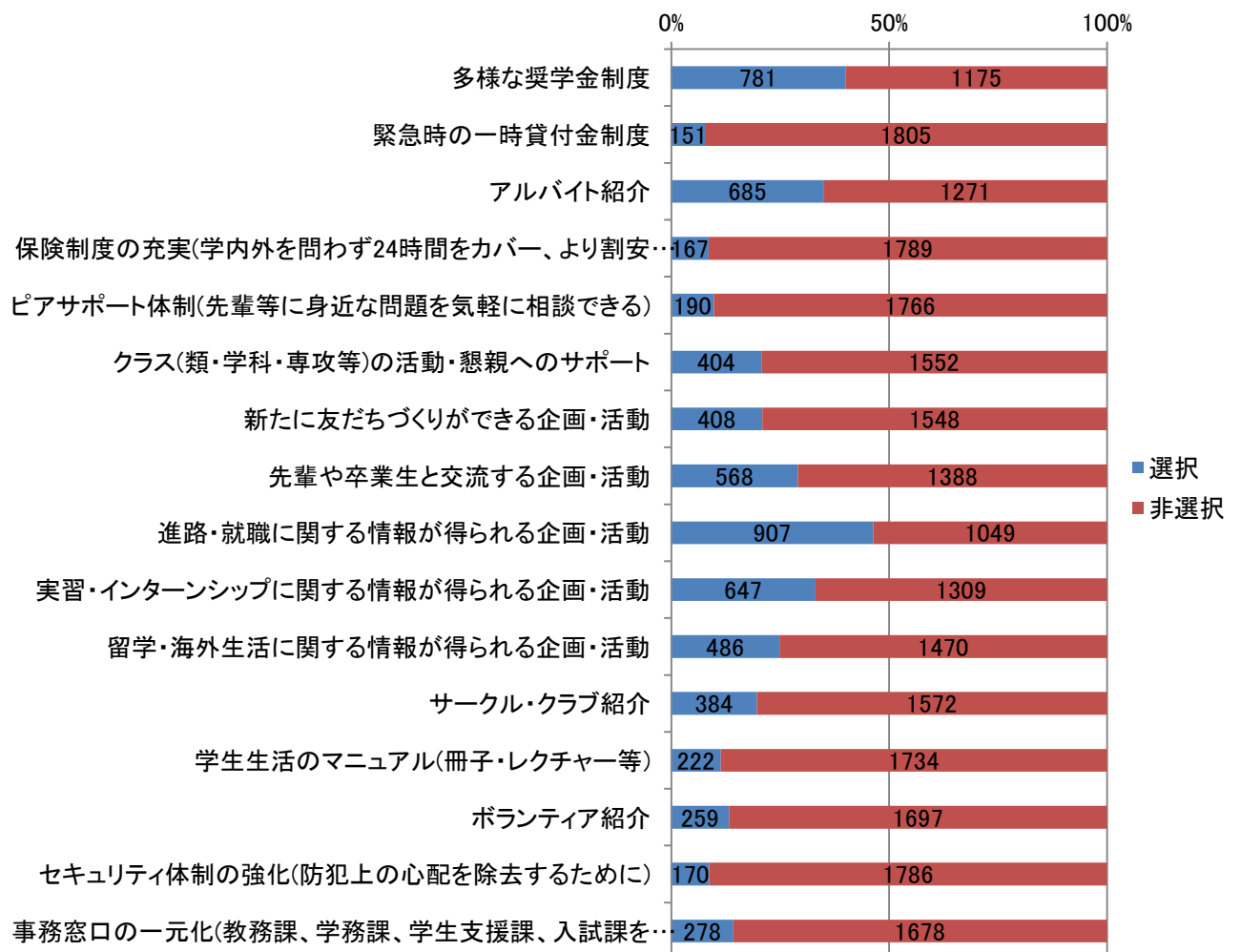


図 3.5-1 実現して欲しい学生生活サービス



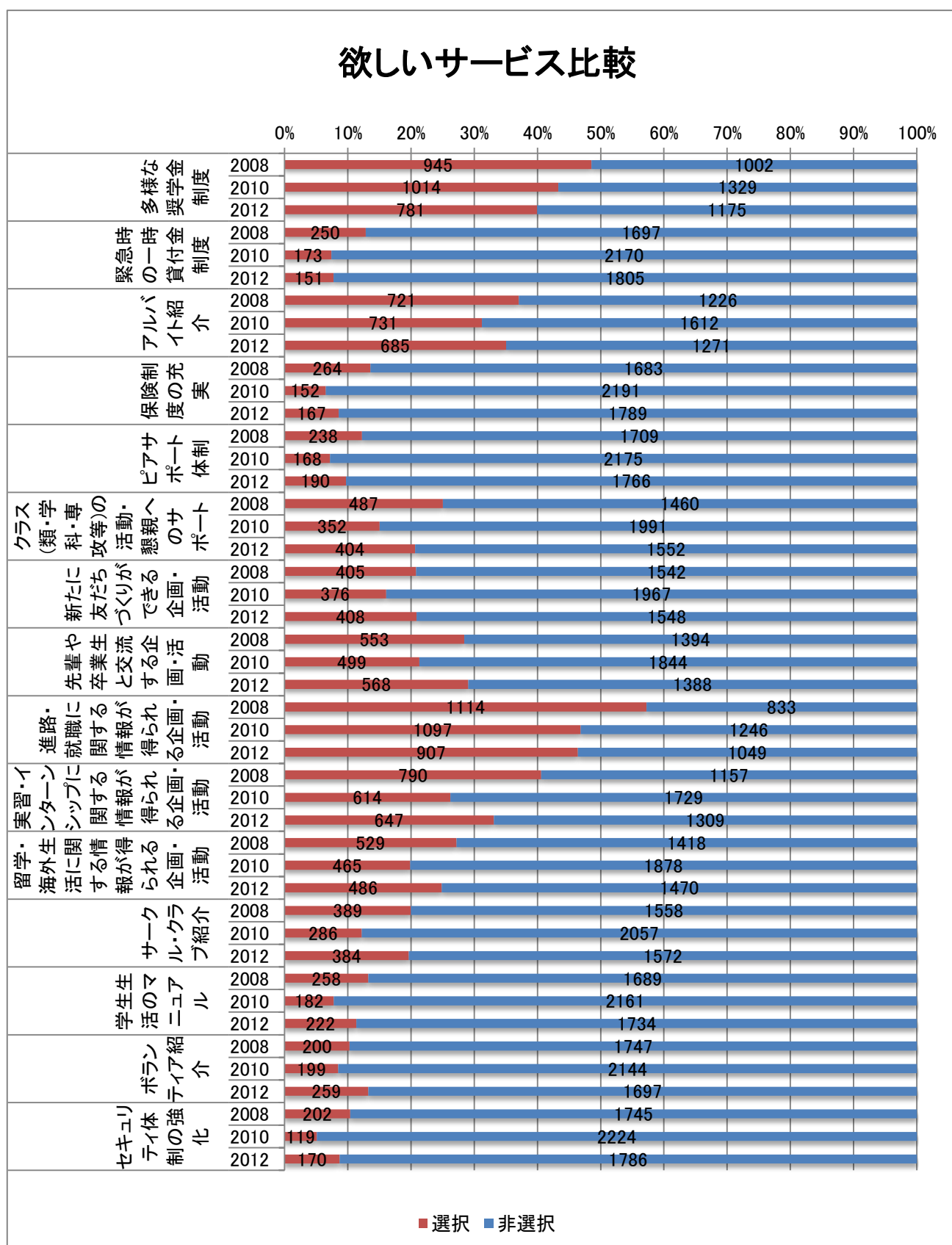


図 3.5-2 実現して欲しい学生生活サービス比較



3.6 掲示板について

提言概要	学内掲示板について
学生の意見	掲示板の電子化（Web 化）をしてほしい。
具体的内容	ウッドデッキ横やその他の掲示板に関して、情報が分散化されていたり、過去の情報が残っていたりして、不便を感じる。Web 上に集約した情報があると見やすいのではないだろうか。
現状分析	ウッドデッキ横の掲示板は、実際に見ている人が少ないです。根拠として、図 3.6-1（学校情報の情報源 2010）と図 3.6-2（学校情報の情報源 2012）を比較すると、2010 年から 2012 年の情報獲得媒体の変化として、電子媒体から情報を得る人が増えているのがわかります。 個人 PC の所持率は 88%（2010 年は 57%）で、スマートフォンの所持率は 63%（2010 年はデータなし）と所有率は高い水準にあります。
学勢調査 2010 以前との比較	図 3.6-3（PC などの有無 2010）、図 3.6-4（PC などの有無 2012）より、情報源として、学生用掲示板・電子掲示板は、2010 年は約 31%、2012 年 26%、学科・専攻等の掲示板は、2010 年は約 33%、2012 年は約 28%となっています。一方、OCW/OCW-i・教務 Web といった Web 上で見られる情報源は、2010 年は約 39%、2012 年は 48%と増加傾向にあります。 また、自分専用のノート PC がある割合は、2010 年の約 58%から 2012 年の 88%へと大きく増えています。さらに、2010 年には普及していなかったスマートフォンを 2012 年には約 63%の人が所持しています。
提言	スマートフォンや個人 PC の普及により、Web ページ上で学校からの情報を見たいという需要が増加しています。広報などの情報が集約された Web ページの開設を期待します。



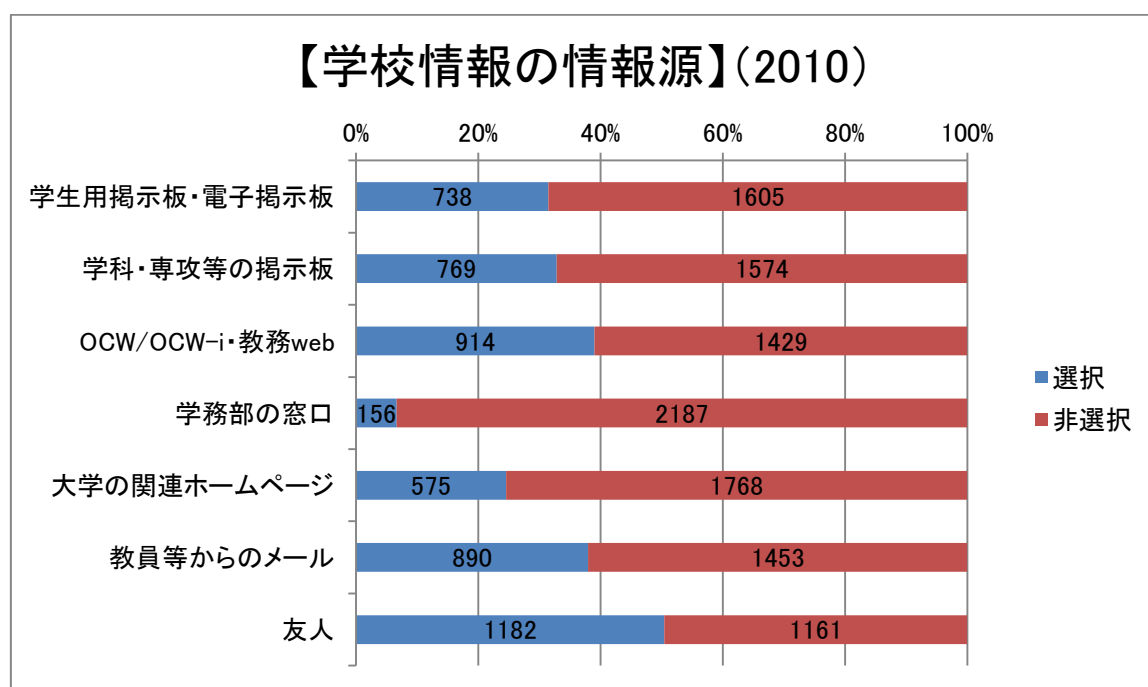


図 3.6-1 学校情報の情報源 (学勢調査 2010)

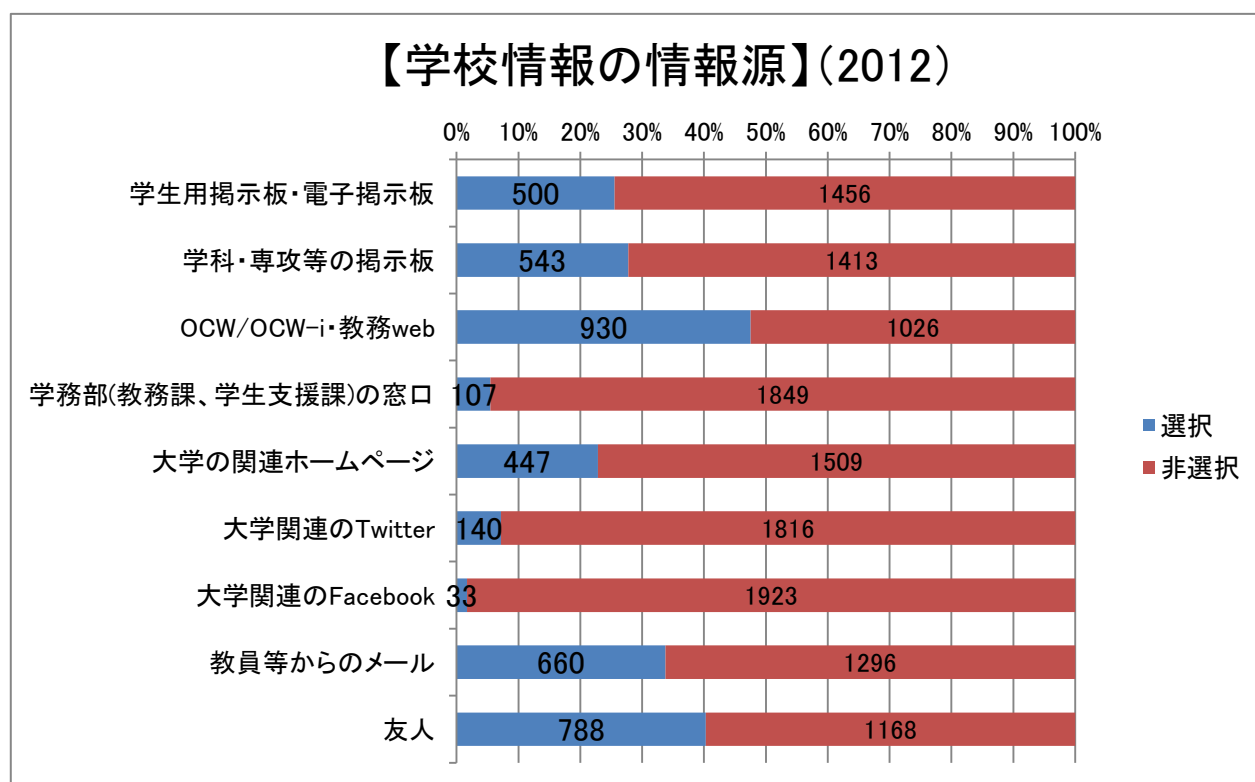


図 3.6-2 学校情報の情報源 (学勢調査 2012)



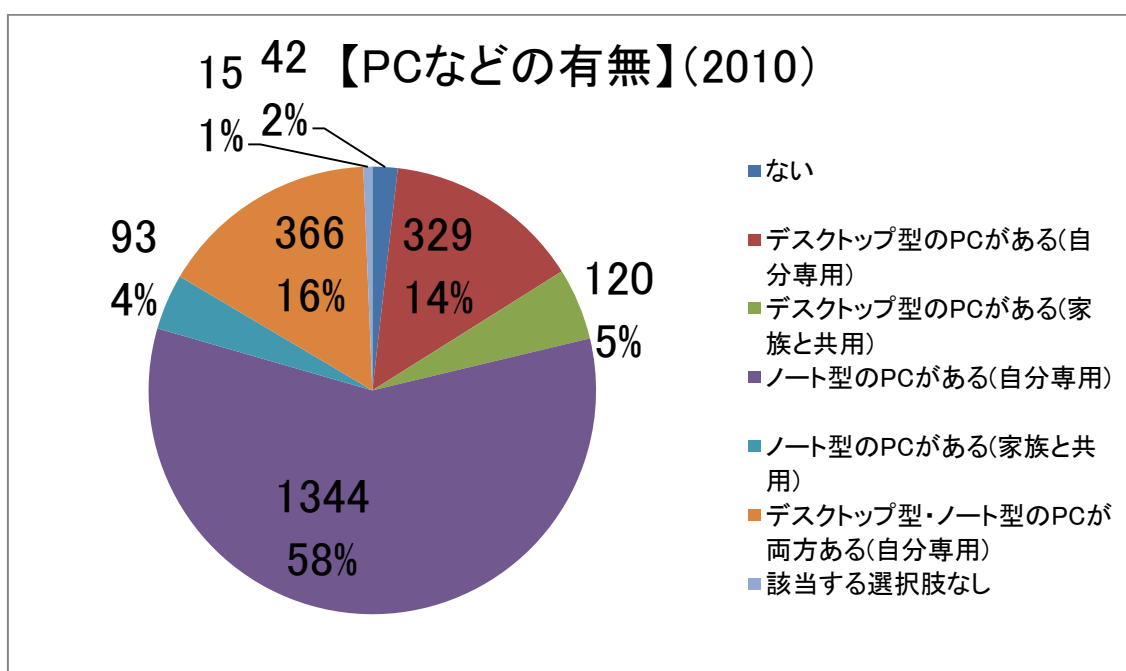


図 3.6-3 PC などの有無 (学勢調査 2010)

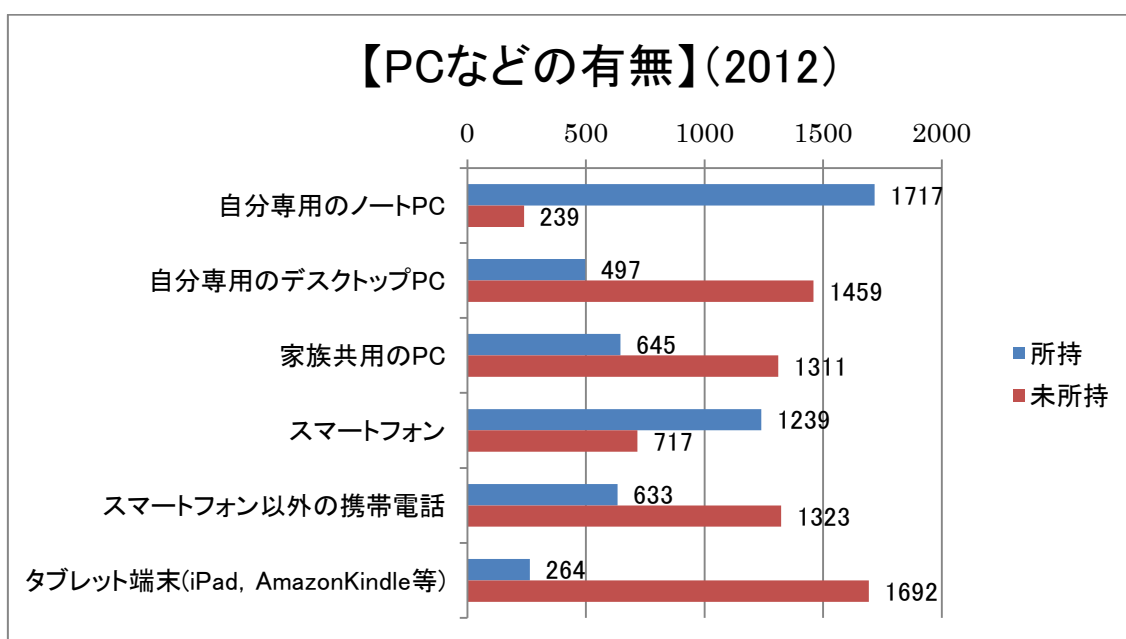


図 3.6-4 PC などの有無 (学勢調査 2012)



3.7 OCW, OCW-i について

提言概要	OCW,OCW-i について
学生の意見	OCW,OCW-i の改善
具体的内容	・教員の方は、OCW,OCW-i をこまめに更新して欲しい。特に、授業情報や授業で使用したファイルに関して。 (同様の意見が 6 件寄せられました) ・OCW,OCW-i をもっと使いやすくして欲しい。具体的には、OCW の検索システムの改善と OCW-i で未履修単位をすぐに把握できるようにして欲しい (同様の意見が 8 件寄せられました)
現状分析	OCW、OCW-i、教務 Web の情報量の充実度は、図 3.7-1 のように改善していると考えられます。 OCW において過去のファイルがたまっていること、OCW,OCW-i に授業スライドのファイルがアップロードされていないこと、さらには情報が誤って使いづらいものとなっているという状況もあります。 OCW は、本学学生だけではなく社会人や本学大学院受験者等の一般ユーザーを想定して作られた Web サービスです。そのため、本学学生には、不要と思われる機能であっても、その他のユーザーにとって有意義な機能が多くあり、学生側からの視点のみでの改善は難しいと考えられます。
学勢調査 2010 以前との比較	図 3.7-1 より、OCW/OCW-i・教務 Web の充実度は 2010 年に比べ高くなっていると言えます。
提言	「3.6 掲示板について」でも言及したように、PC やスマートフォンの普及率、使用頻度が増加傾向にあることから、OCW、OCW-i、教務 Web の継続的な改善に取り組むようお願いいたします。



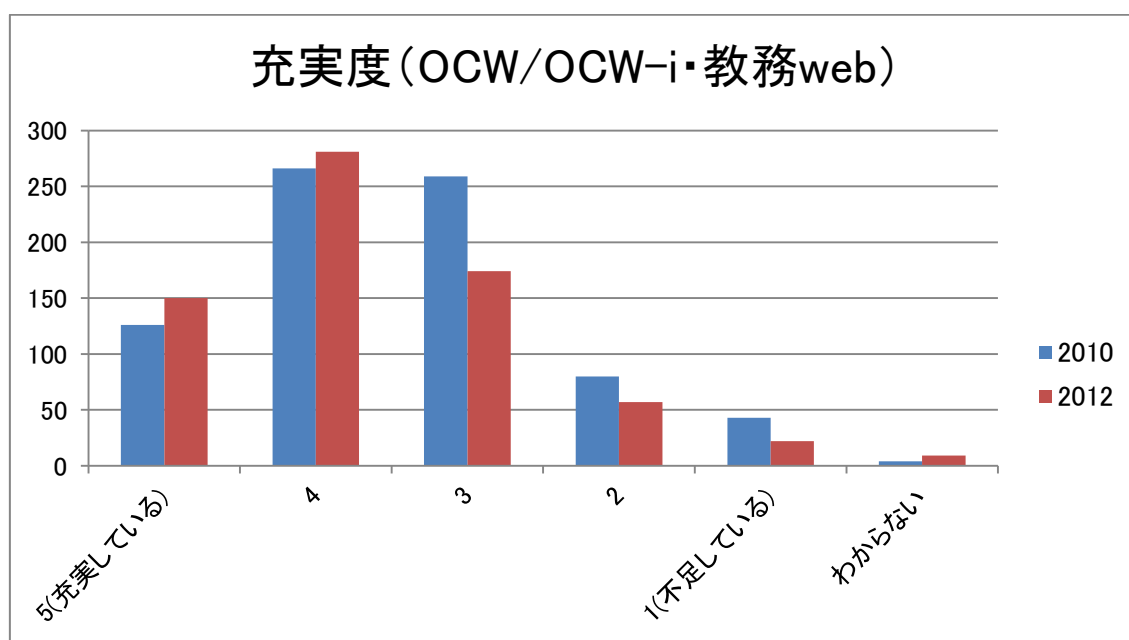


図 3.7-1 OCW/OCW-i の充実度



4. 施設関連

4.1 レストスペースについて

4.1.1 レストスペースの設置

提言概要	レストスペースについて
学生の意見	仮眠施設を作って欲しい
具体的内容	・学部学生のために、寝泊まりや飲食が可能なレストスペース的な空間は必要だと思う。「電電カフェ」が無くなったため、代替案がほしい。 ・仮眠施設の確保（10 件） ・緑が丘に建築学科の学生が利用できる仮眠室を設置すること。
現状分析	図 4.1.1-1 の平均睡眠時間より、約 40% の学生は 1 日 6 時間の睡眠が取れていません。ただし、図 4.1.1-2 を見ると、修士～博士の学生は約半数が週に 1 回以上家に帰っていない一方で、学部学生の約 8 割は毎日家に帰れています。そのため、仮眠施設の設置に関する要望は、主に修士～博士の学生から出ていると考えられます。 大学側の方針としては、大学での宿泊は必要がないものとして、各研究科・学科等はそれに則って十分帰宅可能となるカリキュラム制定を行っています。 増設が難しい理由として、スペースの問題もあります。
学勢調査 2010 以前との比較	以前もこの項目は取り上げられましたが、改善はされておられません。
提言	泊まり込みする理由、頻度、仮眠環境といったところまで詳細に調査する必要があると考えます。また、特定の専攻に偏って問題が見られる場合は、大学側とその専攻で検討を行う事を提言します。その際に仮眠施設の設置も前向きに検討すべきです。



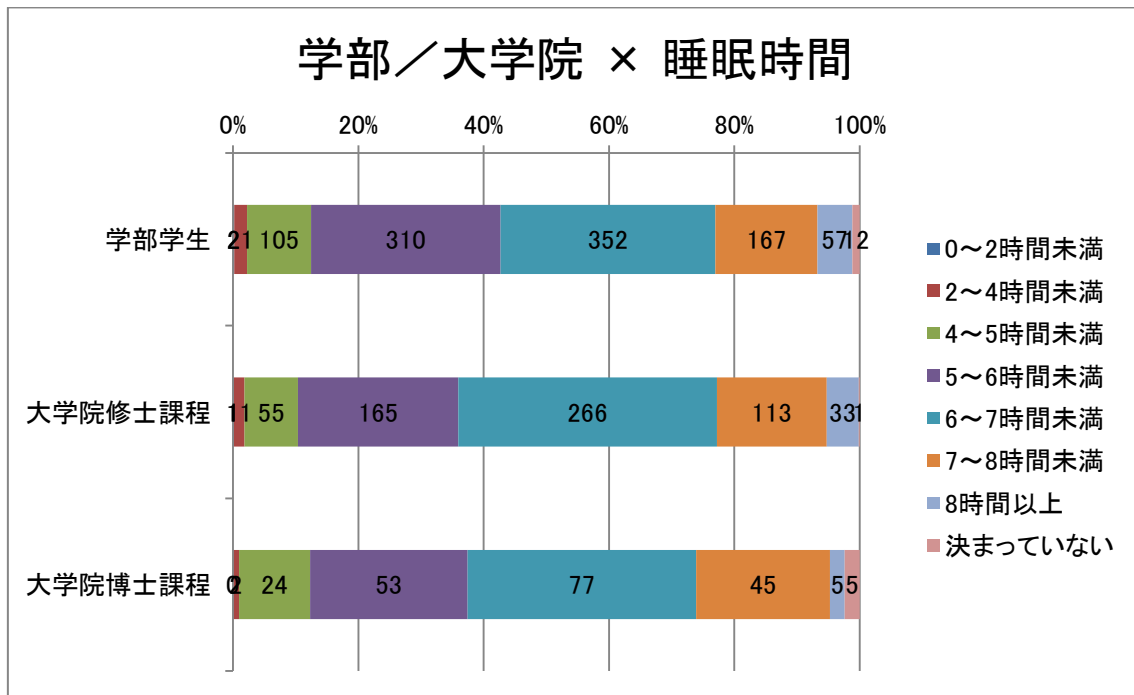


図 4.1.1-1 課程×睡眠時間

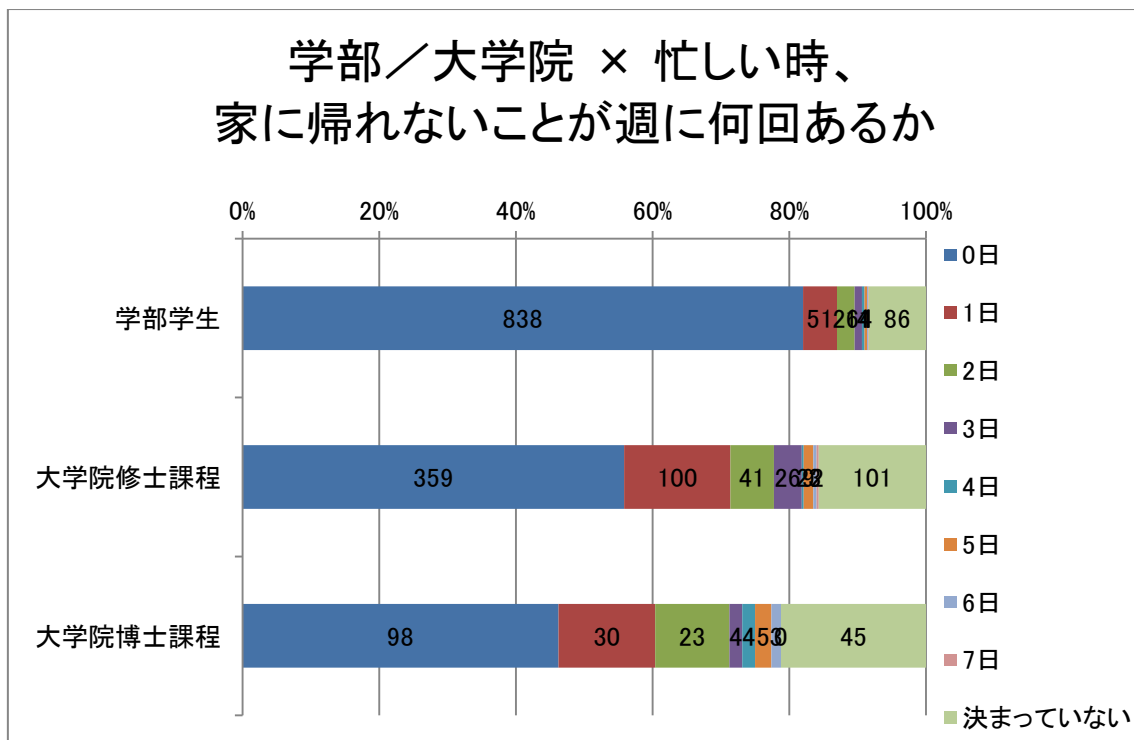


図 4.1.1-2 課程×家に帰れない日数



4. 施設関連

4.1.2 シャワールームの増設

提言概要	シャワールームについて
学生の意見	自由に使えるシャワールームを増やして欲しい
具体的内容	・自由に利用できるシャワールームの充実（7件） ・有料のものでいつでも誰でも使えるものが欲しい。 ・シャワールームを利用者以外にも開放して欲しい。 ・グラウンド横のシャワー室をよくしてほしい。 ・部活で朝早く学校に付かなければならない、研究で夜遅くまで実験しているなどの理由でシャワールームが必要なため、南地区、部活棟、グラウンド横、緑が丘などにシャワールームを設置して欲しい。 ・すずかけ台 B 棟のシャワールームは、総合理工は終日使えるが生命理工は終日使えない。
現状分析	現在全学生が使用可能なシャワールームがある場所は、体育館およびサークル棟のみであり、いずれも遅くまで大学にいる学生が使うための施設ではありません。管理を行っている学生支援課では、なるべく早く帰宅して自宅でシャワーを利用することを推奨しています。スペースもないためこれ以上シャワールームを新設することは難しい状況ですが、学科・専攻によっては専用のシャワールームが設置してあるため、不公平感があります。
学勢調査 2010 以前との比較	以前もこの項目は取り上げられましたが、改善はされておられません。
提言	現在設置してあるシャワールームに関しての管理状況を含めた現状把握とその情報の公開をお願いします。そののちで、現在設置してあるシャワールームを全学生へ開放することを検討してはいかがでしょうか。

4.2 リフレッシュルームについて

4.2.1 リフレッシュルームの開放

提言概要	リフレッシュルームについて
学生の意見	自由に使えるリフレッシュルームを増やして欲しい
具体的内容	・本館のリフレッシュルームが数学専攻専用のものになり使いづらい。 ・臨時のリフレッシュルームとして開放してほしい。 ・リフレッシュルームも閉鎖されたものが多いが、キャンパスの面積の割に学生が集う場所が少なくなっている。（14件）



	・リフレッシュルームがなくなったことで不便を感じる、残念だ（14件） ・あいている講義室を一般学生にもレンタル可能にして欲しい。 ・すずかけ台キャンパス B 棟におけるリフレッシュルームの完備。
現状分析	リフレッシュルームは各学科、専攻ごとの管理であり、講義室の利用は制限があるという現状で、全ての学生が自由に利用できる施設がありません。そのため、食事場所がない、学生同士で集まるのが難しいという意見があります。一方で、利用する学生のマナーの問題や不特定多数の利用による管理の難しさが原因で、学生に自由に開放できないという現状もあります。 学生支援課の意見を伺ったところ、大学としては学生が集まる自由な活動を推奨しており、特に最近の耐震補強工事のためのリフレッシュルームの一時的な閉鎖などの為にスペースが足りないことも認識しています。できれば、全学生を対象とした学生会館のようなスペースの設置を検討しているとのこと。 今あるリフレッシュルームに関しては専攻ごとの管理のため現状把握はできていませんが、大学にメリットがないため管理体制の一本化の予定はないようです。 講義室に関しても、学生だけで講義室を管理するのは難しいという事実があるため、自由な利用は不可能です。しかし、教務課のキャンパスミーティングで得た情報によると、2013 年度から講義室の前に利用時間割を張り出して利用時間外の休憩室としての利用を促す予定があります。また、講義室を類・学科ごとに管理させて、各類・学科に合わせた仕様変更を実施する案もあります。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 では清掃、マナーの問題が多く挙がっていましたが、リフレッシュルームの減少にあたりその分野の意見が減少、リフレッシュルームを増やして欲しいという意見が増加しています。
提言	学生が自由に利用できるスペースの新設は是非とも行うべきです。実際に利用する学生の意見をふんだんに盛り込むために、詳細を検討する際には大学・学生間の相互の意見交換の場を設けるとよいと考えます。 また、学生へのリフレッシュルーム及び講義室利用のルール周知および罰則の明文化、さらにマナー意識の徹底により、快適な環境を維持する雰囲気や定着させることが大切です。学生の意識向上の一環として、学生による自主的な運営を行う場を設置することを提言します。



4.3 学生寮について

4.3.1 学生寮の充実

提言概要	学生寮について
学生の意見	学生寮を充実させて欲しい
具体的内容	・日本人寮を充実してほしい。(3件) ・大岡山に学生寮をつくってほしい ・適正な価格でもっと部屋を多くしてほしい(留学生の意見)
現状分析	近年、海外からの留学生が多くなっています。それに伴い留学生からの学生寮を増やしてほしいとの意見が多くなっています。2010年度より学生寮が充実してきていますが、入寮の条件として、新規留学生である等があり、そのサービスを受けられていない人がいるという状況があります。また、料金に関して、出身国によっては日本との経済格差があり、現状では金銭的に厳しいとの意見も見受けられます。 また、大岡山地区に限ったことですが、留学生向けの寮はキャンパス周辺にあるのに対して日本人向けの寮がないため、交通費が高つく、不満が出てきているのではないかと考えられます。 学生支援課へのキャンパスミーティングで得た情報によると、すずかけ台地区に南つくし野ハウス(すずかけ台徒歩5分)が新設されました。これは学生や研究員が対象で、3人で部屋をシェアするものだそうです。現状の留学生用の学生寮に日本人学生を居住させる予定はなく、家賃に関しても運営できるぎりぎりの額となっています。大学のホームページに部屋や家賃などの一覧が掲載されています。
学勢調査2010以前との比較	学勢調査2010の際には「21世紀の個性輝く東京工業大学検討委員会」の下に、“すずかけ台ハウス”の取得について検討を進め、研究者を含めた学生向けの寮を確保するための手続きが進行中でした。学勢調査2010で留学生の学生寮のニーズが大きかったことを反映して、現在では留学生向けの寮の整備が進んでいます。
提言	親の低所得化の現状にあって、家賃は一部の学生の生活に大きな負担となっています。学生寮の新設が難しいとしても、代替案は必要となります。例えば、大学側がルームシェアの斡旋をするなども可能はずです。まずはこの問題に関して検討する場を設けることを提言します。



4.4 喫煙について

4.4.1 喫煙について

提言概要	喫煙について
学生の意見	・喫煙場所の改善 ・全面禁煙 ・喫煙場所の設置 ・マナーの改善
具体的内容	・建物の入口、移動路など場所が迷惑、辺鄙である（118 件） * 要望場所：、W5、W9、S6、S7、I1（講義室にまでにおいが入ってくる）、サークル棟、体育館から 1 食の間、すずかけ台の生協売店横、G1 ・喫煙者のマナーが悪い（54 件） * 歩きたばこ、外部の人のマナーが悪い、喫煙所以外での喫煙 ・改善がみられる及び現状で OK（72 件） ・室内に用意してあげてほしい（40 件） ・全面禁煙希望（34 件）
現状分析	施設運営部へのキャンパスミーティングで得た情報によると、喫煙場所に関しては、これまで安全管理委員会に申請があった喫煙所の移動が行われています。また、産業医の意見も勘案して、喫煙所として不適当な場所である場合は移動されています。ただし喫煙所の設置基準は制定されていません。 煙に対する苦情が多数ある一方で、現状で問題ない、無回答という意見も多数見受けられるため、喫煙者のマナー改善及び分煙には一定の効果があがっていると考えられます。施設運営部も、喫煙所を減らすのは限界にきていると判断しています。 健康上の理由から全面禁煙も議論されています。しかし、喫煙者も一定数存在していることから、これは現実的でないとも言えます。 喫煙者のマナーに関しては、直接の呼びかけにまでは至っていません。喫煙者全てを管理することは難しく、個人のモラルの問題であると言えます。また、外部業者の喫煙マナーに問題があるという意見もあります。
学勢調査 2010 以前との比較	以前より喫煙に関する意見は減っています。しかし、それと同時に「灰皿が少ない」という意見が増加しています。
提言	外部業者の人、特に出入り業者の喫煙マナーが問題視されているという事実があり、この点は管理部署に申し入れをお願いします。 喫煙者および非喫煙者の共存に関しては常に議論があります。しかしながら、国内外の大学において構内全面禁煙に成功した事例もあります。は



4. 施設関連

じめのうちは反発も予想されますが、全面禁煙の決断をするのも良いかもしれません。

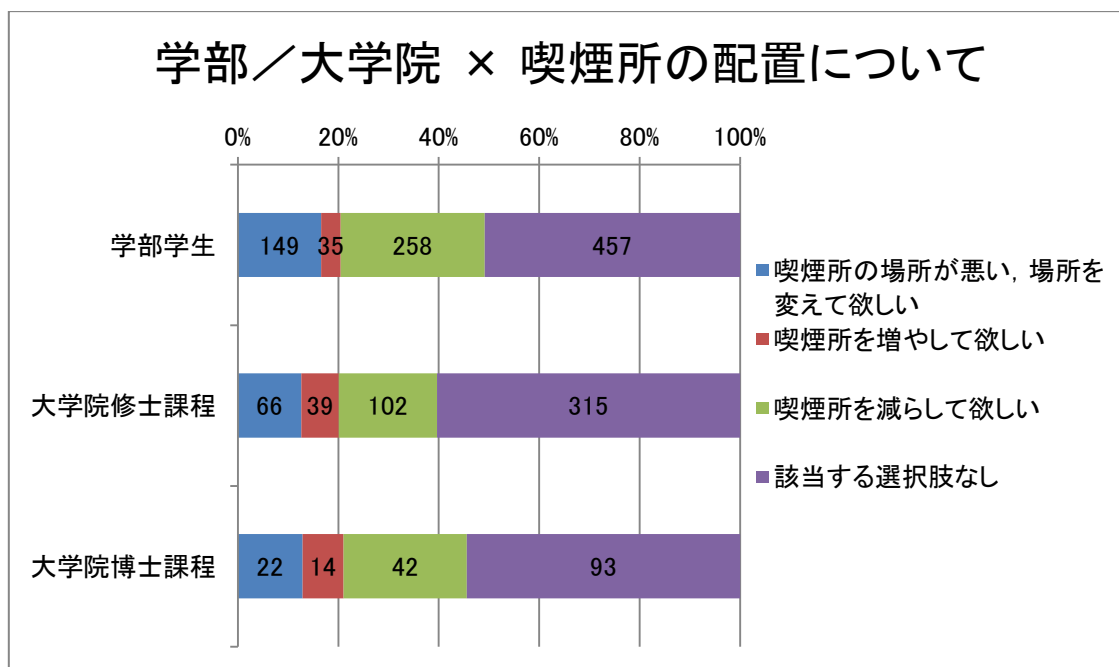


図 4.4-1 課程×喫煙所の配置についてどう思うか

4.5 自転車について

4.5.1 駐輪場について

提言概要	駐輪場について
学生の意見	駐輪場を増設、改善して欲しい
具体的内容	・駐輪場が不便・不足している（21 件） ・駐輪所の増加要望 * 要望場所：S7、S8、I3、緑が丘、図書館近く、セブンイレブン前、環境エネルギー棟、正門付近、部室棟入口、図書館の西側、すずかけ台全般、J2、J3 ・屋根付き駐輪場の完備（19 件） ・駐輪場以外の自転車の撤去（5 件） * 要望場所 W9、教科書販売スペースの付近 * 駐輪場について意見を言っても改善がないとの意見が 1 件



現状分析	施設運営部へのキャンパスミーティングで得た情報によると、現在の登録自転車数は 1459 件、駐輪可能台数は 1750 台であり、収容能力は足りているためこれ以上駐輪場を増やすことはできないそうです。しかし実際は未登録車および学外の人物の利用などから駐輪場不足が起きています。施設運営部が 2012 年 12 月に西 9 号館前の自転車を調査したところ、全体の約半数が未登録車であることが明らかになっています。登録シールが無料であるにもかかわらず登録率が低いことが問題となっています。 未登録車に対しては事前に張り紙を行い、撤去後法令上必要な 3 ヶ月の保管の末に処分を行っています。コストも撤去に 20～30 万円、処分に 100～200 万円と多額の費用がかかっています。 駐輪場に偏りがあることについては、費用面でこれ以上の改善が難しいとの回答を得られています。また、駐輪は自転車通学のためのものであり、学内での移動に関して徒歩以外は推奨していないという事実もあります。
学勢調査 2010 以前との比較	大学構内は徒歩での移動を推奨しています。登録自転車数の推移もあまり変わっていません。屋根付き駐輪場を設置したところ、駐輪場への放置自転車の増加が見られました。
提言	まず自転車の登録に関してはルールを徹底し、それでも改善が見られない場合はより厳格にルールを適用すべきです。登録が無料であるにもかかわらず登録率が低い現状の改善には、駐輪可能台数は登録自転車台数をもとに決定されていることを学生に周知することが必要であると考えます。



4. 施設関連

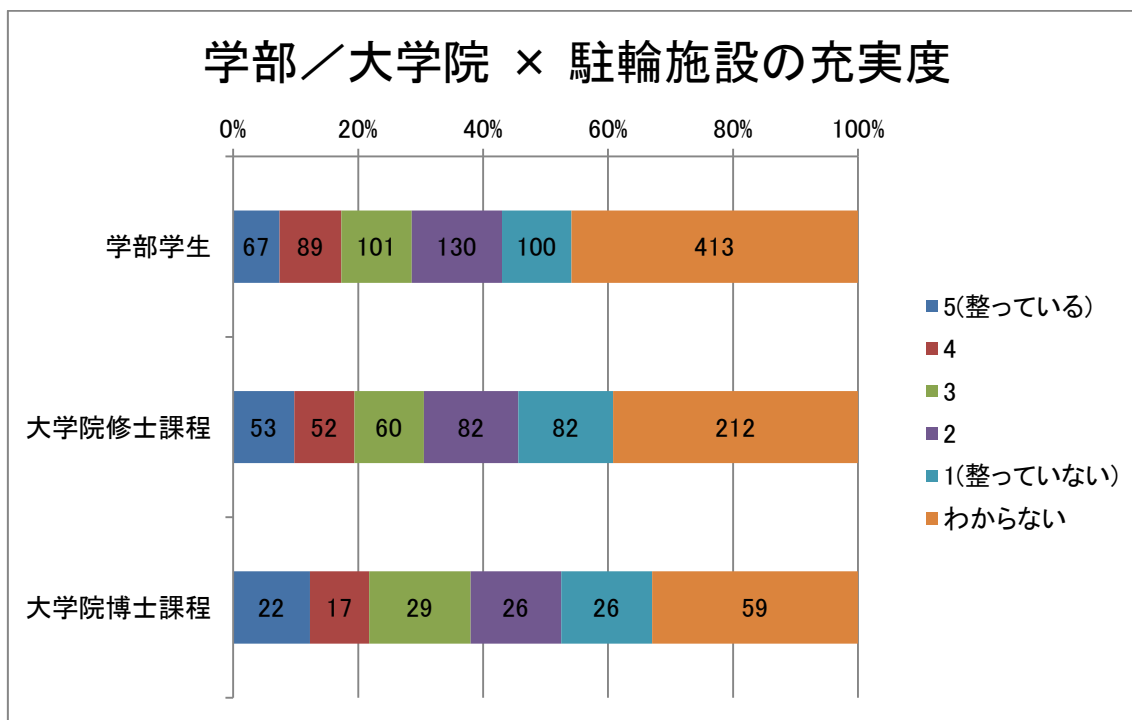


図 4. 5. 1-1 課程×駐輪施設の充実度

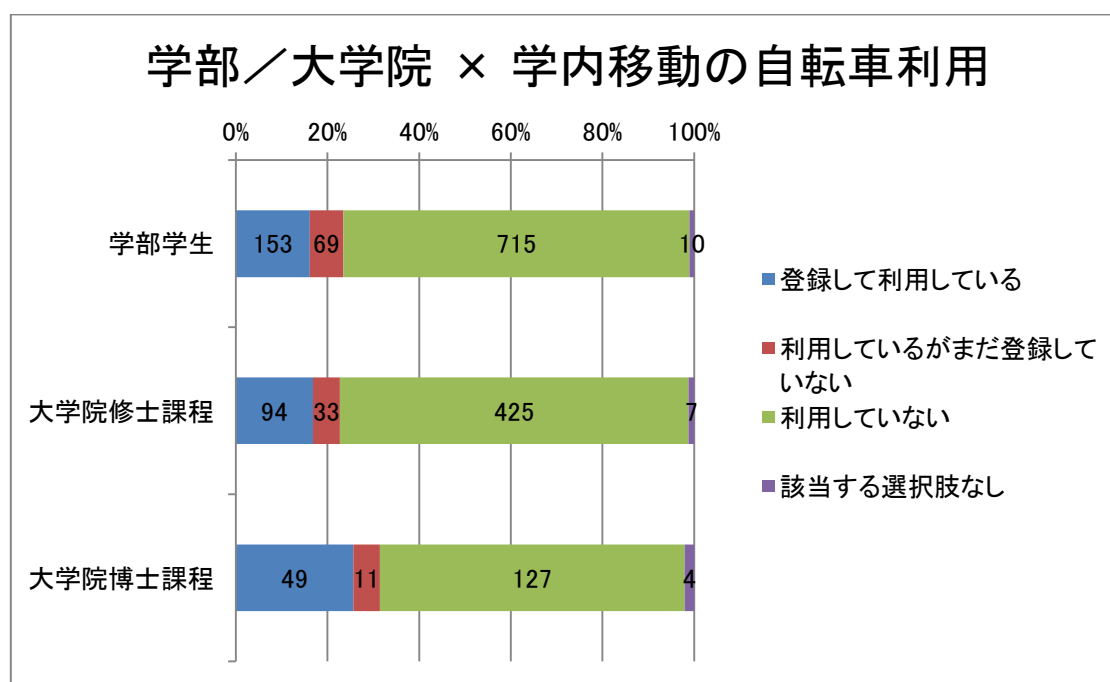


図 4. 5. 1-2 課程×学内移動の自転車利用



4.5.2 自転車利用について

提言概要	自転車利用について
学生の意見	自転車利用のマナーが悪い
具体的内容	・マナーが悪い（13 件） ・大岡山西-北のトンネル（東急線下）車は通行禁止にしてほしい。 逆に南-石川台のトンネルは自転車通行可にしてほしい。 ・自転車の取り締りの強化。登録していない自転車や、指定の駐輪場以外の場所に駐輪している自転車の即時撤去。ルールが守られていない。 ・百年記念館脇の歩行者用の通路の自転車進入禁止の徹底。 接触の危険性が高いとの意見。 ・附属図書館前を自転車で通行するのをよく見る。 ・第一食堂横サークル棟入口に自転車が放置されており迷惑 ・外部利用者の自転車の不法駐輪が見られる（子供椅子のついた自転車等）
現状分析	自転車のマナーについて多くの人が問題視しています。主な問題点は、駐輪マナー及び運転マナーについてです。 現状では放置自転車が多数見受けられ、緊急時に避難の障害となることが予想されます。また、違法駐輪は撤去されていますが、受け取りにいけない即座に返却される現在の体制では、撤去の意味を疑問視せざるを得ません。 運転に関して、学内移動に自転車を利用する学生が多数いる現状では、不意の事故を引き起こす危険性があります。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	駐輪および運転に関してルールの周知を徹底し、その上で取締りを強化する必要があります。

4.6 構内美化について

4.6.1 構内美化について

提言概要	構内美化について
学生の意見	キャンパス内をもっときれいにしてほしい
具体的内容	・セブンイレブン近くのゴミ箱が汚い。 ・学内で家庭用ごみが廃棄されているのを見る。 ・ゴミ箱の増設（12 件） *ゴミ箱の撤去後ひどくなったとの意見（1 件） ・すずかけ台駅から学校に入って左手がゴミ臭い。



4. 施設関連

	・ S2 のゴミ箱が汚い。 ・ 清掃に関するパートタイマーの態度が悪い。 ・ サークル棟の清掃が少ない、汚い（10 件）
現状分析	ゴミ箱の増設を要望としてあげている人がいる一方で、ゴミ捨てのマナーについて問題視する意見もあります。マナーが悪いと思われるのは外部利用者と学生であると考えられます。 ウッドデッキ周辺のゴミ箱の削減(3ヶ所実施)は、外部からのゴミの持ち込みを減らすために実施され、ゴミの散乱がなくなるなどの改善が見られましたが、未だにゴミの散乱が見られる場所があるというのが現状です。 ウッドデッキ周辺のゴミ箱は削減されましたが、その分他の場所に設置されているためゴミ箱の総数は減らされておらず、セブンイレブン脇のゴミ箱を大きくするなどの改善策も実施されています。 現在ゴミの回収は週に 2 回行われています。
学勢調査 2010 以前との比較	ウッドデッキ周辺のゴミ箱が削減され、美化は進みました。また、一部のゴミ収集量の多いゴミ箱に関してはゴミ箱が拡張されています。
提言	ゴミ箱の整理などハード面の改善は進んでいますが、ゴミが溢れている光景はまだ見られるため、回収頻度や時間、設置場所など、さらなる改善をお願いします。また、ゴミを捨てる学生の美化意識向上のために、リフレッシュルームの清掃をその部屋を使用する学生の当番制にするなどの試みはいかがでしょうか。

4.7 外部者の利用について

4.7.1 外部者の利用について

提言概要	外部者の利用について
学生の意見	外部利用者を制限して欲しい
具体的内容	・ 構内での犬の散歩（2 件） ・ 外部者の侵入禁止（4 件） ＊東工大生がまともに利用できないとの意見が 2 件
現状分析	現在大岡山キャンパスは外部者に対しても、花見や散歩をはじめとして非常に開かれた環境となっています。外部者が団体で利用する際は大学に申請をする必要があります。
学勢調査 2010 以前との比較	なし



提言	大学が学生のためだけにある訳ではなく、周辺住民の理解のもと存在していることを学生に周知することを提言します。 また、学生の目を地域に向けることを目的として、学生と地域をつなげるイベントを企画するなどはいかがでしょうか。
----	---

4.8 大岡山スポーツ施設について

4.8.1 大岡山のスポーツ施設の改善

提言概要	大岡山スポーツ施設について
学生の意見	スポーツ施設を拡充して欲しい
具体的内容	・トレーニング施設の時間延長（2件） 夜の利用時間、日曜も利用したい、学部生が不便を感じる。 ・ランニングマシンの設置（1件） ・グラウンドのナイター設置（3件） ・グラウンドの拡大（1件） ・得点板の設置（1件） ・テニスコートの開放（4件） *学部生にも利用可能を希望、現状では教職員は利用可能らしい。 ・体育館の床が滑る。 ・サイクルサッカーコートの設置。 ・体育館での体操器具設置用の穴。 （部員数増加に伴い、特定の器具に部員が集中する傾向にあるとの事）
現状分析	学生支援課へのキャンパスミーティングで伺ったところ、これら施設の老朽化問題に関して、大学側は現状で耐震面での問題はなしと判断しているそうです。なお、学生支援課に要望があれば、その都度予算内で対応はしているという事実もあるそうです。 施設の夜間利用を求める声もありますが、周辺住民や節電への配慮という観点から実施は簡単ではありません。 また、テニスコートは現状では一般の学生に対し定期的な開放がされていません。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 以後、体育館に防犯カメラが設置されました。残りの予算でトレーニングセンターの充実もおこなわれました。 破損した器具等は都度修繕されています。
提言	学生からの要望があればその都度改善されているようですが、施設の利用上危険が伴う場所に関しては早急に改善する必要があります。そのため、



4. 施設関連

	体育館など改修が必要な場所の把握が求められます。学生からの要望だけではなく、大学としても積極的な現状把握に努めて頂きたいです。 テニスコートに関しては、定期的な開放を提言します。前提としてテニスコートは大学の所有物であるので、大学関係者には解放されるべきであると考えます。開放が困難であるなら、ただ規制するのではなく、学生側も大学側もお互いに歩み寄る必要があります。
--	---

4.9 サークル棟について

4.9.1 サークル棟の改善

提言概要	サークル棟について
学生の意見	サークル棟の現状を改善して欲しい
具体的内容	・サークル棟の増築（17件） ・サークル棟の衛生状態が悪い（17件） トイレトペーパーがすぐなくなっている。 清掃が少ない。 ・改修が必要である（16件） 盗難が起きるなどセキュリティに問題がある。 サークル棟5周辺で蛇口をひねると濁った水が出てくる。 学食脇のサークル棟の流しの温水を早く直して欲しい。 一食上サークル棟男子トイレの個室のドアを直してほしい。 サークル棟等の修繕を頼んでもなかなか直されないのが辛いです。 ・サークル棟の空き部屋が非常に無駄、割り振りが不公平である（3件） ・サークル棟利用時間制限の撤廃（2件）
現状分析	サークル棟に関しては大学側の管理が十分に行き届いていないと考えられます。清潔にして健康を害することのないようにすることをはじめとして、今一度管理状況について見直すことが必要です。 学生支援課とのキャンパスミーティングでは、学生の意識の問題が挙げられました。使用時間をはじめとして、基本的なルールが守られていないことが多々あります。また学生の危機管理能力の低さが盗難に結びつくこと、修繕がなされていないのは申告がないためであることなど、多くは学生側の問題であるとの認識をされています。衛生面に関しても大学による清掃は実施されていますし、盗難に関しても監視カメラの設置など十分な対応はなされているとのことです。



学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	サークル棟が汚いのは利用している学生の管理体制にも問題があるのではないかと思います。 学生の意識改善の為に、サークル棟の利用方法を改めて周知することを提言します。改善が見られない場合はより現実的な規定を作ることが必要なのではないかと考えます。 また、学生側からの申告がないという事に関してですが、大学側が修繕申告を受けていることをより周知させる事を提言します。積極的に学生側の意見を聞く姿勢をとることによって、申告数の増加が増えると考えます。

4.10 すずかけ台スポーツ施設について

4.10.1 すずかけ台スポーツ施設の改善

提言概要	すずかけ台スポーツ施設のうち、フットサルコートとテニスコートの利用について
学生の意見	すずかけ台キャンパスでのスポーツ施設について、特にフットサルコートのグラウンドが 2012 年度より変わったことに対する意見、テニスコートの学部生による夜間利用についての要望が多く寄せられました。
具体的内容	・フットサルコートについて、去年はテニスコート横の多目的コートを使用できましたが、今年から、丘の上の土のグラウンドを使用しなければならなくなりました。そこには柵もなく水道もなく、そして照明すらないので秋から冬にかけては夕方以降ほとんどできない状態です。 (同様な意見が 8 件寄せられました。) ・テニスコートを、夜でも学部生が予約できるようにしてほしい。学部生の需要が非常に大きく、夜はコートが比較的空いているのにもかかわらず教職員、研究室生などしか利用できないのはもったいない。 せめて教職員・研究室生優先という形で学部生も使用できるようにしてほしい。 (同様な意見が 4 件寄せられました。)
現状分析	図 4.1.10-1 (主な活動場所×スポーツ施設の充実度) に示すように、すずかけ台で活動している学生について、スポーツ施設の充実度を見ると、整っていると感じる学生が全体の 40% 以下にとどまり、大岡山地区と比べても低いことがうかがえます。



	まずフットサルコートについてですが、すずかけ台では研究室によるフットサル大会やフットサルの練習がよく行われています。しかし今年度より場所が土グラウンドに変わり、ナイター照明がないため夕方以降は使用できないことから、フットサルを行う学生をあまり見かけなくなりました。すずかけ台の学務課の方によると、そもそもフットサルコートの場所が変更したのは費用対効果の観点からだそうです。フットサル用に人工芝のコートを使用すると4年で張り替える必要があり、費用対効果がテニスなどと比べて小さいそうです。そのため、フットサルに人工芝コートを用いると費用がかかりすぎるため、土グラウンドへ移転したということでした。設備についてはこれから整えていくそうで、ナイター照明も設置する予定だそうです。 また、テニスコートについては現在多くの学生、教職員が利用しています。17時以降の夜間利用は教職員、研究室所属学生のための利用となっており、そういった面から学部生も利用したいという要望が寄せられました。土日については学部生も利用可能ではありますが、学務課の方に尋ねたところ、平日についても教職員、研究室所属学生優先という形であれば利用可能にしてもよいということでした。ただし、テニスコートの使用についてきちんとマナーを守ってほしいということでした。テニスコートを使用している大半が大岡山のテニスサークルに所属している学生だそうです。ナイター照明の使用方法や、ゴミ捨てについてなど、きちんとルールが守られていないことも多々あるようです。また、予約を行わずに無断でコートを使用する学生もいるようで、学生もきちんとルールを守った上で使用する必要があります。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	すずかけ台のフットサルコートについては、今後のコート整備を提言します。既に学務課の方で整備をしていく予定ではあるようですが、ナイター照明や柵、水道などについて順次整備をお願いします。 テニスコートについては、平日の夜間利用においても、教職員、研究室所属学生優先のもと、学部生も予約可能とすることを提言します。また、予約方法について、インターネット上での予約が可能となれば利用しやすくなるので、あわせてお願いします。学生側についてもきちんとルールを守った上での使用を心がけるようにしたいと思います。そのため学生側へ、スポーツ施設の利用について、ナイター照明の使用やゴミ捨て、予約利用などに関してきちんとルールを守った上で使用することを提言します。



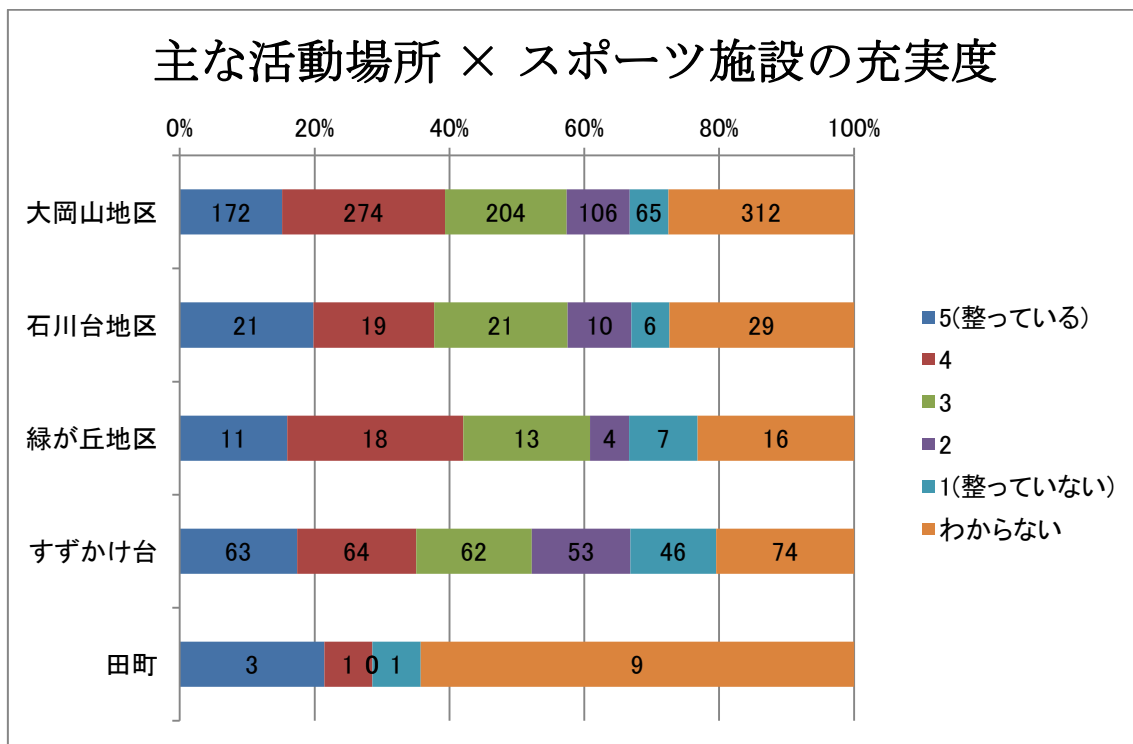


図 4.10.1-1 主な活動場所×スポーツ施設の充実度

4.11 緑が丘地区について

4.11.1 緑が丘地区について

提言概要	グリーンヒルズという建物名称、緑が丘駅から大学までの歩道整備、緑が丘地区内のコンビニの設置について
学生の意見	環境イノベーション棟のグリーンヒルズという建物名称についての要望が数件寄せられました。（グリーンヒルズ 1 号館は大岡山北地区、2 号館は緑が丘地区） また、緑が丘駅から大学までの歩道について、緑が丘地区内の設備についても意見が寄せられました。
具体的内容	・"グリーンヒルズ"という建物の名前を変えてほしい（緑が丘を英訳しただけではないか）。 （同様な意見が 3 件寄せられました。） ・緑ヶ丘駅から大学まで歩く道が歩行者と車両が全く分離できておらず歩きにくい。 ・コンビニを設置してほしい。



現状分析	平成 24 年にグリーンヒルズ 1 号館が大岡山地区に建てられ、メディアでも取り上げられました。施設運営部の方によると、環境エネルギー機構の中核建物として、キャンパス相互でスマートグリッドを作る「グリーンヒルズ構想」は、伊賀健一前学長によって名付けられたそうです。 現在、1 号館は大岡山北地区にあり（緑が丘地区には近い）、2 号館は緑が丘地区に建造中ですが、「グリーンヒルズ」は地区名ではないので、すずかけ台にできる可能性もあるということでした。 そのような中で、このグリーンヒルズという建物の名称について、グリーンヒルズ＝緑が丘を連想させ、違和感をもつ人もいます。施設運営部としては、名称自体の変更は可能ではあるそうですが、名称決定のプロセスを尊重したいという思いもあるそうです。現在「グリーンヒルズ(環境エネルギーイノベーション棟)」と表記されています。 次に、緑が丘駅から大学まで歩く道についてですが、たしかに歩道は非常に狭く、ガードレールも完備されているわけではないので、歩きにくいようには見受けられます。ただ、東工大の敷地外なので、勝手に工事はできません。現在、緑が丘駅の改良工事が行われていますが、そこで高架下に通用口が作られることにより、多少は改善されるかもしれません。施設運営部の方によると、通行量が上がれば東急へ要望を出すことも可能になるかもしれないので、将来的には駅と大学が直結することになる可能性もあるようです。 コンビニについては、付近にないので設置を求める声があるようですが、大岡山地区にもあるセブンイレブンなどのコンビニエンスストアは、利益の観点から実質厳しいということでした。ただ、生協の方によると、生協の購買部については利益を踏まえた上で設置が可能であるということでした。購買部が設置されれば、コンビニの設置に対するニーズにも応えられると考えます。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	「グリーンヒルズ」という建物の名称については、名称の変更を提言します。名称決定のプロセスも尊重したいところではありますが、「グリーンヒルズ」という名称に違和感をもつ学生が多かったので変更をお願いします。新しい名称については、グリーンヒルズと併記されている「環境エネルギーイノベーション棟」が妥当だと考えます。 緑が丘駅から大学までの道については、ひとまず駅の改良工事が終わった頃の状況を見てから判断したいと思います。もし歩道の幅に改善が見られないようであれば、東急側への要望も視野に入れて欲しいと思います。



	コンビニについては、設置は厳しいということですが、生協購買部の設置はできるということなので、緑が丘地区への生協購買部設置を提言します。生協購買部が設置される際には、なるべく多くの学生のニーズを満たしてほしいと思います。
--	--

4.12 電波について

4.12.1 無線 LAN、携帯電話の電波について

提言概要	無線 LAN のアクセスポイント増設、携帯電話の電波について
学生の意見	図 4.1.11-1 (東工大無線 LAN の使用頻度) に示すように、東工大無線 LAN を利用しないという学生は 38%にとどまり、多くの学生が利用していることが分かります。毎日利用しているという学生も 18%おり、無線 LAN に対するニーズは高いと思われます。そういった中で、学内全てで無線 LAN を使用できるようにして欲しいという意見が寄せられました。 また、屋外でのアクセス反応の悪さ、プロキシシステムがその原因となっているという意見も寄せられました。無線環境という点では、携帯電話の電波についても建物によって繋がりにくい場所があり、改善を求める意見が寄せられました。
具体的内容	- 無線 LAN の範囲をキャンパス内全ての範囲を網羅するように拡大してもらいたい。 - The reception outside is terrible (almost non-existent). And the proxy system makes it annoying to setup and use. At least this is my opinion when comparing it to the wireless internet system in the university in my own country. - スマホをよく使うのですが、ネットがつながりにくい場所を減らして欲しいです。個人的には西 3 号館をよく使うのですが、地階がつながりにくいです。 (同様な意見が 1 件寄せられました。)
現状分析	学内の多くで東工大無線 LAN を利用することができますが、建物によっては利用できない場所もあります。また、屋外では繋がりにくいことも多く、無線 LAN を利用している学生は多いので、学内全てでの無線 LAN 利用を求める意見が多いようです。情報基盤課にキャンパスミーティングを行ったところ、学内全てに無線 LAN を設置するのは、費用対効果の点から現実的ではないそうです (無線 LAN の価格は 1 台約 6 万円)。全ア



	アクセスポイントは現在 650 台（大岡山 500 台、すずかけ台 150 台）で、公共スペースや各専攻から要望のあった場所に設置を行っています。情報基盤課としても需要の高いところに設置したいということだったので、学生が要望を出しやすい環境を整える必要があると思われます。屋外ではウッドデッキのみに設置しており、他の場所は電波が漏れている関係で使えるようで、ウッドデッキ以外の屋外での使用は現在難しいと思われます。 また、無線 LAN について繋がりにくいなどの意見がある場合は、公共スペースであれば IT サービスデスク、講義室は各専攻または教務課が窓口となっているそうです。現在、学生はどこへ意見を出せばよいかあまり分かっていない状況にあるため、大学側は窓口についての情報を積極的に広報し、その上で学生の要望を取り入れる体制を整えていく必要があると思います。 次に、携帯電話の電波についてですが、管理は電話会社が行っているため、情報基盤課の方では対応できないということでした。要望があれば電話会社へ伝えてほしいそうです。 無線 LAN のプロキシシステムについては、情報基盤課の方も使いづらいと感じられているようで（本来はセキュリティ確保のために導入）、次回システムを切り替える際は外す方針ということでした。
学勢調査 2010 以前との比較	前回の学勢調査では、無線 LAN を使用できない場所、繋がらない場所についての要望が多く寄せられました。今回も同様の意見は寄せられましたが、情報基盤課の方によると、年間 30~40 台を増設し、アクセスポイントは増加しているようです。こういった場所に設置してほしいか、要望があれば教えてほしいということだったので、無線 LAN の設置を希望する場所を伝えれば、設置される見通しが立つ可能性もあります。そういった学生の声を拾えるよう、学生視点でのサポート体制を作ることを学勢調査 2010 で提言しましたが、まだ学生への周知が完全でないなど、改善点もありそうです。
提言	無線 LAN について、学生視点でのサポート体制の改善を提言します。現在無線 LAN に対する要望は、IT サービスデスクや各専攻、教務課と窓口がばらばらで、どの場所がどこの管轄か分かりにくいです。まずはこれらの一元化をお願いします。一元化によって、より多くの学生のニーズに合った場所へ無線 LAN を設置するための、学生の要望を拾いやすい環境が整えられると考えます。 また、携帯電話の電波については、学生から電話会社へ要望を伝えるのは難しい面もあると思うので、大学側が学生の意見をまとめて電話会社へ



伝える体制を整えることを提言します。今回の学勢調査では、西 3 号館について電波が繋がりにくいという意見があったので、まずは西 3 号館の電波状況が悪いことについて、大学側で主要電話会社の電波状況を確認し、不備があれば電話会社へ要望を伝えるようお願いいたします。同様に、「7.3 設備について」で挙げたように、附属図書館の電波状況に対する不満もありますので、確認をお願いいたします。

無線 LAN のプロキシシステムについては、次回システムを切り替える際に、外すようお願いいたします。

東工大無線LANの利用頻度

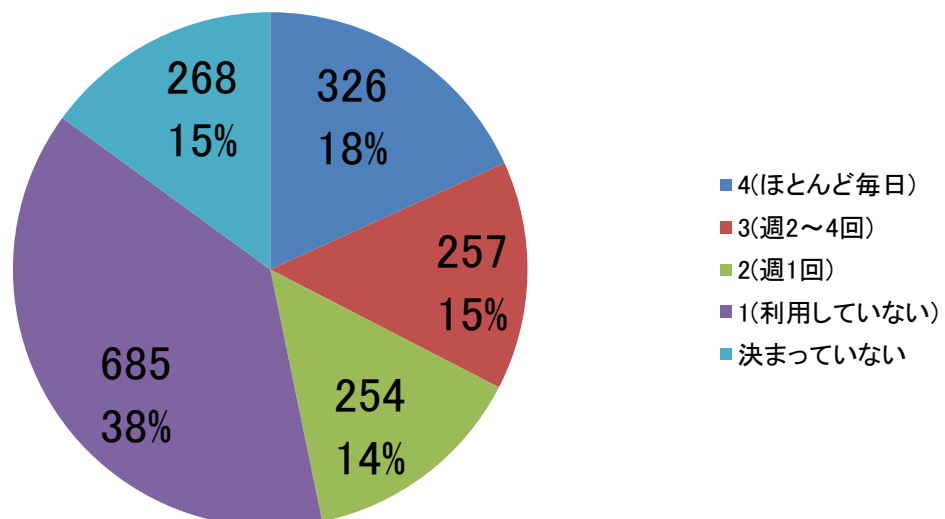


図 4.12.1-1 東工大無線 LAN の利用頻度

4.13 コンビニについて

4.13.1 コンビニについて

提言概要	コンビニの営業時間拡大、増設について
学生の意見	大岡山キャンパスの南地区にあるセブンイレブンについて、営業日や営業時間の拡大を求める意見が寄せられています。 また、コンビニの更なる設置を求める意見も寄せられています。



4. 施設関連

具体的内容	・大岡山南地区のセブンイレブンの営業時間が非常に不便。週末は土曜の夕方まで、長期休暇中は営業しない等、周りの飲食店が休業する時期に学内でコンビニが営業していることが便利なのに、そういう時に限って営業していない。学部生はそれでもよいかもしれませんが、大学院生にとっては非常に不便です。 (同様な意見が 6 件寄せられました。) ・コンビニの数を増やしてほしい。 (同様な意見が 8 件寄せられました。)
現状分析	大岡山キャンパス南地区にあるセブンイレブンの営業時間について、平日、土曜日の営業時間が短いという意見が多く寄せられました。また、日曜日や長期休業期間は営業していないことについても、不便だと言う意見が多く寄せられました。前回の学勢調査でも同様の意見が寄せられたものの、利益上の問題などから結果として営業時間は変わらなかったため、今回も同様の意見が寄せられたと考えられます。学生支援課によると、やはり利益や売上げの関係上、営業時間の改善を要求することは難しいということでしたが、教職員からも営業時間の延長を求める要望が寄せられているようで、営業時間の改善要求について検討するかもしれないということでした。また、不定期に休業していることもあり、店頭に行けば休業日について書いてあるもののあまり周知されていないことから、休業の周知不足に対する不満もあると考えられます。 また、コンビニの増設を求める意見も寄せられました。実際に、図 4.1.13-1 (欲しい施設・設備) に示すように欲しい施設・設備としてコンビニは全項目の中で 2 番目に多くありました。しかし、これについても南地区のセブンイレブン同様、利益の観点から難しいだろうということでした。
学勢調査 2010 以前との比較	上記にもあるように、前回の学勢調査でもコンビニの営業時間の改善について、多くの意見が寄せられました。その際は、セブンイレブンも営利団体であり、利用者数が当初見込みより少なかったことなどからやむを得ずに現在の営業時間となっているということでした。可能な範囲での営業時間の変更要請をお願いしましたが、やはりなかなか難しいようです。前回と比べて意見数は減少していますが、依然として多くの要望があり、教職員からも要望が寄せられているということなので、業者の再選定も見据えた検討が必要だと言えます。
提言	大岡山南地区のセブンイレブンの営業時間については、前回に引き続き学生からの要望が多いため、営業時間の見直しを提言します。どうしても難しいということであれば、生協の営業時間を延長することや、業者の再



選定も見据えた検討の必要があるかと考えます。また、不定期の休業については、周知の徹底をお願いします。

コンビニの増設については、大岡山南地区のセブンイレブンでさえ、利益上の問題から営業時間の短縮が生じた為に改善を求めている状況であり、現実的に非常に難しいので、今回は提言を見送ります。

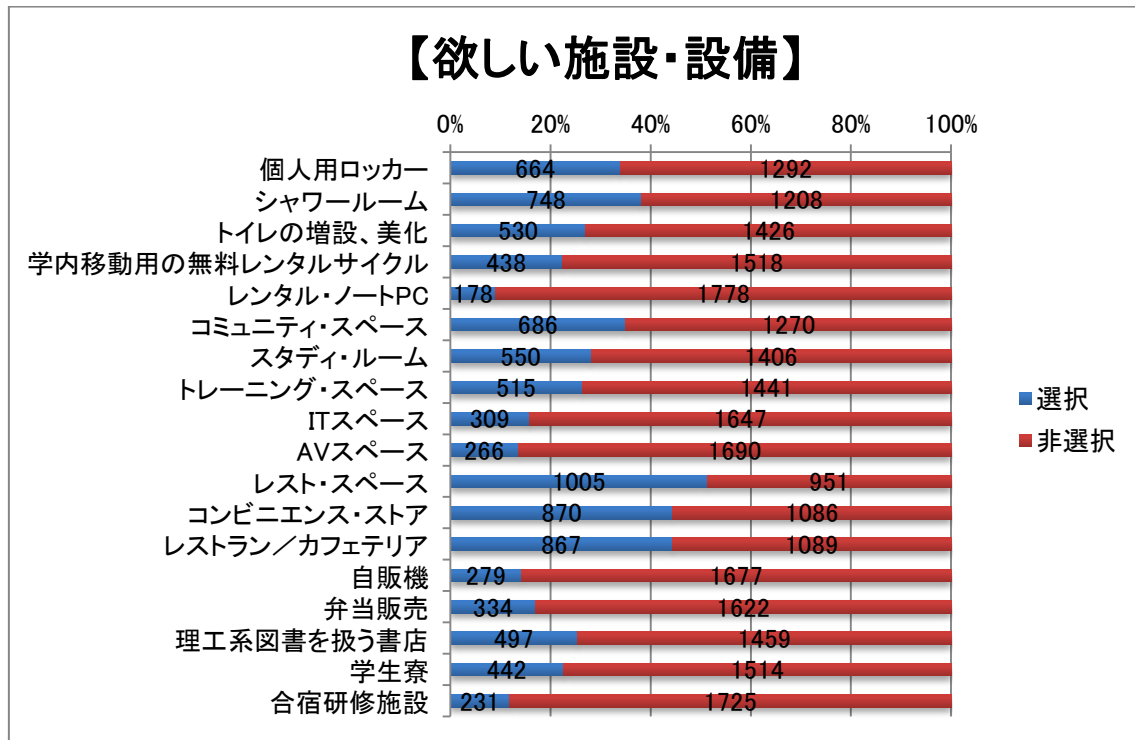


図 4.13.1-1 欲しい施設・設備

4.14 講義室について

4.14.1 講義室の改善

提言概要	講義室の黒板とスクリーンの位置、講義室の使用時間、情報ネットワーク演習室のプリンタートラブルについて
学生の意見	大学内の講義室について、黒板とプロジェクターのスクリーンが位置的に重なっていること、講義室の使用時間、情報ネットワーク演習室のプリンターのメンテナンスについての要望が寄せられました。
具体的内容	・黒板とプロジェクターのスクリーンの位置が重なっていて使いにくい。同時に両方使えるようにすべき。 ・講義室をもっと遅くまで使用可能にしてほしい。



4. 施設関連

	・情報ネットワーク演習室等のプリンターを使おうとすると、「インクが少なくきれいにカラー印刷されない」等のトラブルが高確率で発生しているので、メンテナンス・確認の頻度を増やしてほしい。
現状分析	講義室の多くに黒板、そしてプロジェクターとスクリーンが設置されていますが、黒板とスクリーンの位置が重なっているために、同時に使用することができません。授業中に黒板とスクリーンを同時に使用する際、不便を感じる学生がいるのだと考えられます。これについて改善が可能かどうか教務課の方に聞いたところ、様々な講義が行われるために画一的な対応は難しいが、検討してみるということでした。学生だけでなく教員からの要望もあるようです。 また、講義室は原則 20 時に施錠されますが、これを延長してほしいという意見が寄せられました。これは、リフレッシュルームや自習スペースを増やしてほしいという要望に似た理由であると考えられます。教務課の方によると、20 時を過ぎて講義室を使用させることは防犯上難しく、また学生が講義室を管理することも責任上難しいそうです。守衛の巡回時間が 20 時であるため、20 時に施錠を行っているそうですが、守衛の施錠時間を変更するのは検討可能だということです。リフレッシュルームや自習スペースが改善すれば、講義室の代わりに使用できるので、講義室の使用時間についての要望は減少すると思われます。 情報ネットワーク演習室のプリンターについては、授業や授業の合間に使用する学生が多く、印刷時のトラブルが頻繁に起こってしまうのだと考えられます。管理は情報基盤課が行っておりますが、教務課へ問い合わせたところ、印刷トラブル時の対応マニュアルについては、情報基盤課への確認が必要ですが作成は可能だと思われるということでした。
学勢調査 2010 以前との比較	前回の学勢調査では、教室の形状や椅子についての要望が多く寄せられました。教務課によると、講義室の改善のために独自に調査し、改善を図っているとのことでした。今回の学勢調査では、教室の形状や椅子についての要望はあまりなく、前回よりも改善された部分があると言えます。実際に図 4.1.14-1（受けにくい原因）に示すように、講義室で授業を受けにくいと不満を感じている学生は少ないです。ただ、今回の学勢調査では黒板とスクリーンの位置について、同時使用ができないので改善してほしいといった意見が新たに寄せられました。
提言	講義室の黒板とスクリーンの位置について、同時に使用できるよう位置の改善を提言します。専攻ごとに必要な対応が異なり、画一的な改善は難しいと思われますが、文系科目で使用する大きな教室など、一部のみでも改善をお願いします。



講義室の使用時間延長については、防犯上や管理上の問題もありますが、可能な範囲での使用時間延長を提言します。同時に、リフレッシュルームや自習スペースの改善もあわせてお願いします。

情報ネットワーク演習室のプリンタートラブルについては、情報基盤課への確認のもと、対応マニュアルの作成を提言します。また、定期的なメンテナンスもお願いします。

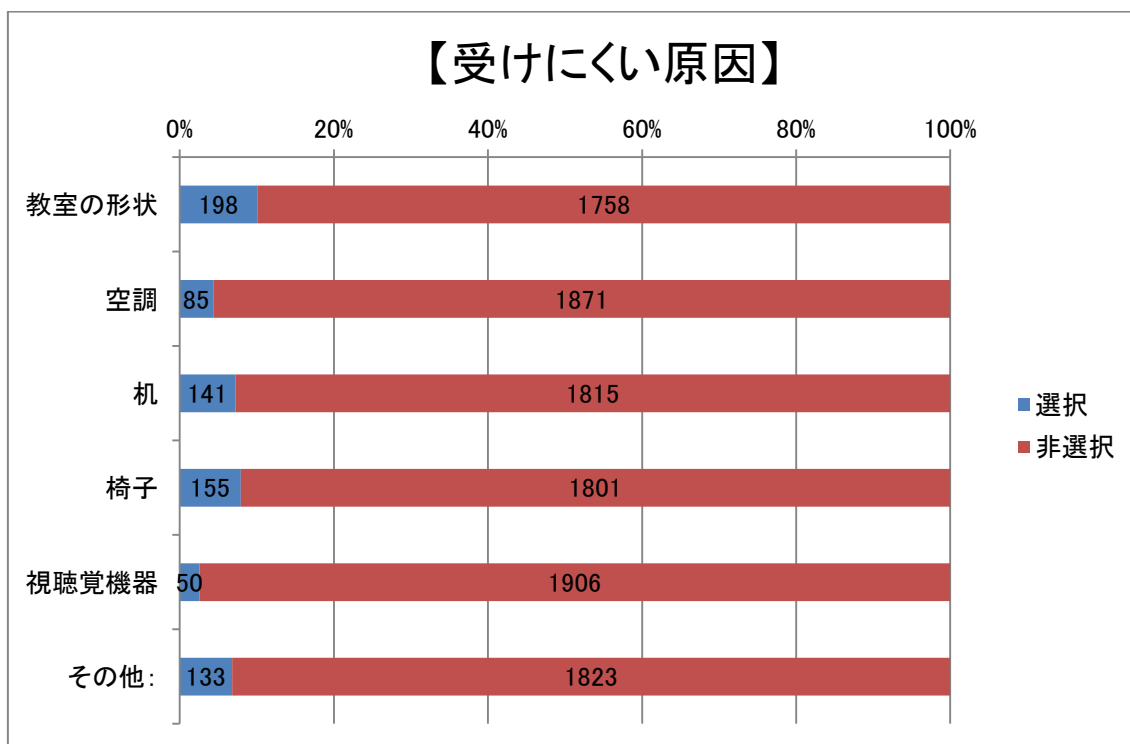


図 4.14.1-1 受けにくい原因



5. 学習関連

5.1 研究及び研究室に関して

5.1.1 研究室の情報公開強化について

提言概要	研究室の情報公開強化
学生の意見	研究室の研究に触れられる機会の充実
具体的内容	・学部 1-3 年次において、研究室で行われている研究に触れる機会を増やした方が良いと思う。 ・研究室訪問の機会を増やして欲しい。研究生活に対する具体的なイメージがないまま学習意欲を維持するのは難しい。 (同様の意見が 6 件寄せられました)
現状分析	各研究室が HP で情報公開を行っていますが、公開される項目が統一されていないため、簡単な研究テーマの紹介文しか書いてない HP があります。学部 3 年生が研究室所属の前に各研究室について調べようと考えても、研究室訪問やオープンキャンパス、研究室説明会など限られた機会しかありません。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 の「5.3.4 研究室同士の交流」において、研究室所属の学生同士の交流強化を提言しましたが、今回は学部生と研究室のつながりを強化するための提言を設けます。
提言	研究室の研究等を検索したい場合、学生には T2R2 や STARsearch をもっと利用するようにしてもらいたいです。しかし、学生が研究室を調べる際に知りたい情報というのは研究室の雰囲気や環境です。そのような情報を現在の各研究室の HP は十分提示していると言えない状態です。研究室の HP 上での情報公開を強化するよう働きかけることを提言します。



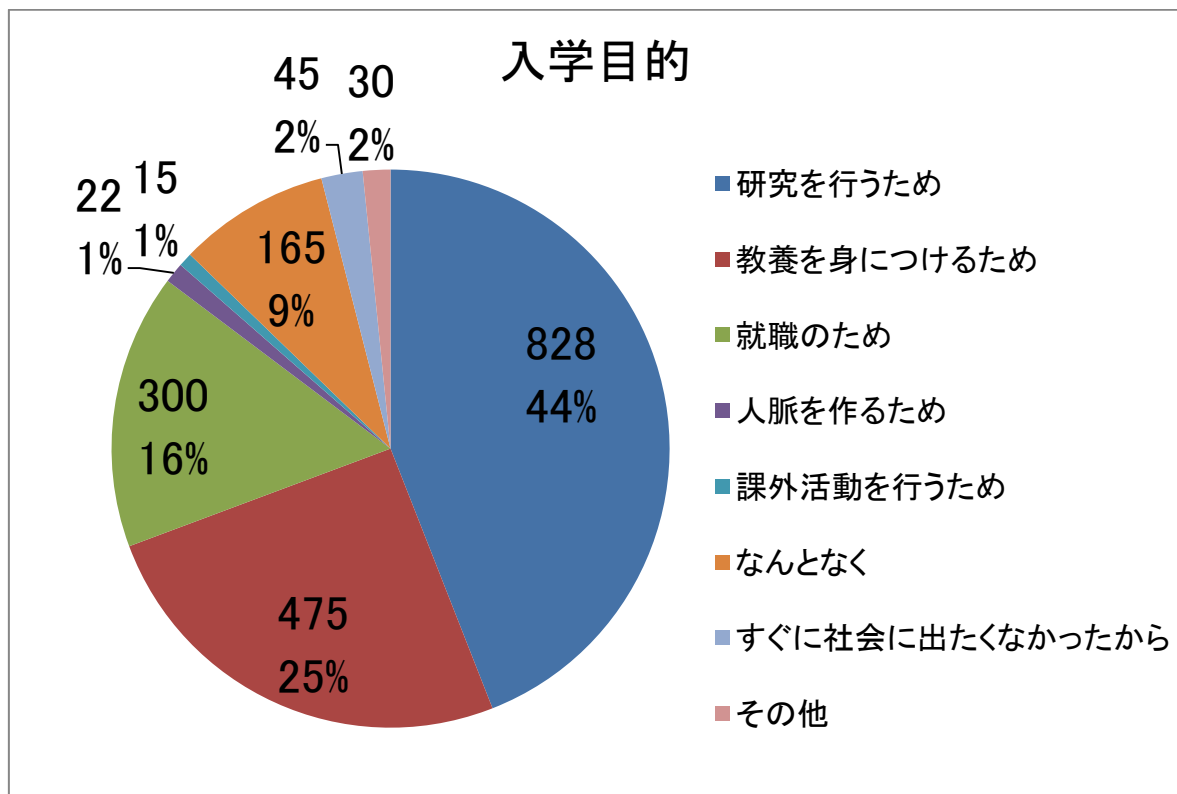


図 5.1.1-1 入学目的

5.1.2 論文について

提言概要	論文の書き方についての授業の充実
学生の意見	論文の書き方を早い時期に学びたい
具体的内容	・研究室所属以前において、テクニカルライティング等、考えをアウトプットする方法の教育が足りていないと感じる。いきなり研究室に配属され、はいどうぞといきなり理科系の文章がかけるはずがない。 ・理工系のための英語論文の書き方の授業を開設して欲しい ・1年次の教養科目が、研究室に入ってから役にたたなかったり、逆に研究室で必要な知識が3年次までに蓄えられていなかったりすることが多くあります。もっと研究室に入ることを前提に1年次から学べるようになれば良いと思います。 (同様の意見が9件寄せられました)
現状分析	現在論文の書き方を勉強することの出来る講義はいくつかの学科で行われていません。論文を書くことは、卒業するうえで避けて通ることができませんが、その論文の書き方を学ぶ機会が殆どありません。 ただし、論文の書き方は研究分野によって大きく異なるため、それぞれの研究分野に合った論文の書き方を学ぶ必要があります。



5. 学習関連

学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	論文だけでなく、レポートの書き方や英語でこれらを書くときのコツなどについても、論文を書くまで学ぶ機会がありません。卒業論文を書き始める前に、論文の書き方を取り扱う講義を受講できるようにすべきであると提言します。

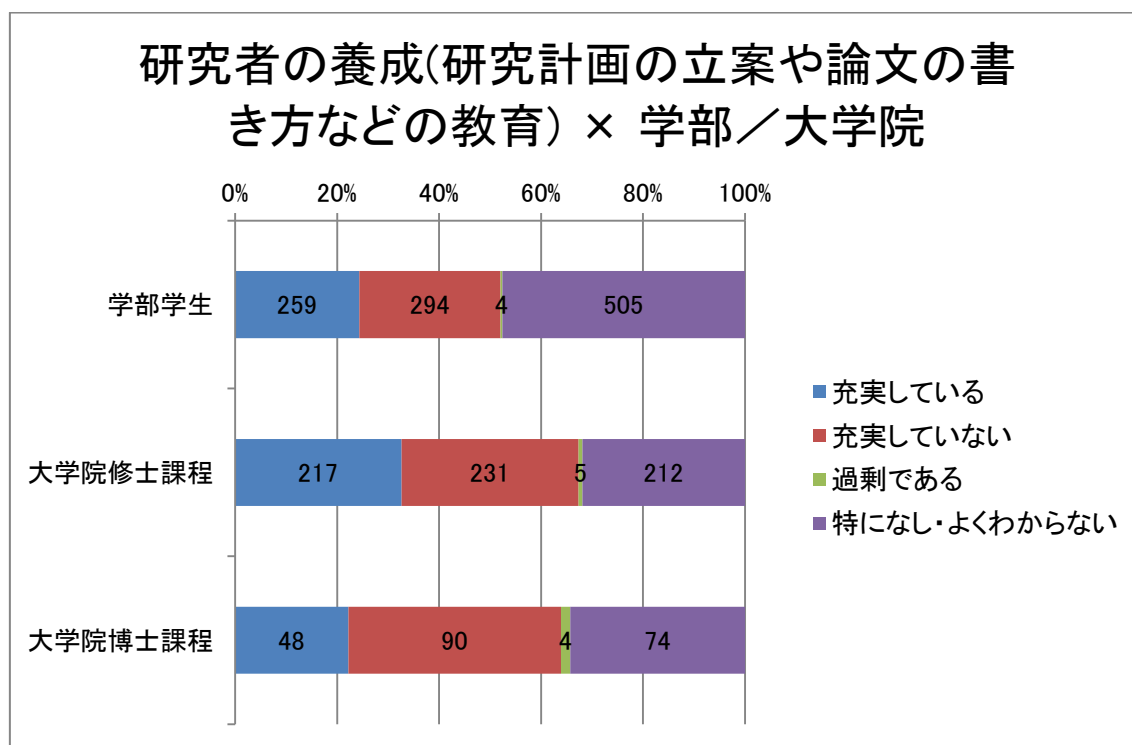


図 5.1.2-1 研究者の養成に対する印象 × 課程

5.1.3 研究資金の補助について

提言概要	研究資金の補助について
学生の意見	研究資金を補助して欲しい
具体的内容	・学会や学外研修等への参加費の援助が欲しい。 ・博士課程に対する経済的支援に乏しい。 (同様の意見が合計 6 件寄せられました)
現状分析	研究を行う学生にとって研究資金の獲得は死活問題です。特に、海外で研究を行う必要がある学生にとっては、負担が大きくなっていくでしょう。研究資金を獲得できる研究室であれば良いのですが、そうでなければ経済的事情によって研究活動に支障が出てくる学生も存在すると考えられます。



	これらの意見を踏まえ、学生支援課へのキャンパスミーティングで、学会発表の参加費等の研究資金を補助して頂くことは可能かどうか、質問を行いました。その結果、現在大学では、教員に対する研究資金も少なくなっている状況なので、学生へ学会発表の参加費等の補助を行うことは難しい、という回答を頂きました。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	大学が教員に配分できる研究資金が減っている現状では、学生としては研究資金の獲得のために自ら努力する他ないようです。研究費を補助する代わりに、奨学金の拡充などで学生への経済支援をして頂きたいと思います。（「3.1.4 奨学金について」参照）

5.2 授業の実態・内容

5.2.1 学生参加型の講義の充実

提言概要	コミュニケーション能力の向上
学生の意見	ディスカッションやディベートなどの学生参加型の講義の充実
具体的内容	・もう少し学生参加型のディベートのような授業を増やして欲しい。 ・学生参加型の授業が少なすぎる。 ・もっとコミュニケーション能力を養成するような授業を行うべき。 ・留学生など他国の学生と議論するような授業がもっとあってもいいと思います。 （同様の意見が 23 件寄せられました）
現状分析	座学の授業が多く、ディスカッションやディベートを行う授業が殆どありません。しかし、ディスカッションやディベートを行うには事前に学生も準備が必要です。 大学内で学生間の議論が活発ではなく、また学生同士の交流も少ないです。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 では「5.1.2 学生の学習に取り組む姿勢・意識、および視野の広さ・多様性の受容の向上」において、主体性・視野の広さを広げることを目的に提言されましたが今回はコミュニケーション能力の向上を目的に再度提言します。
提言	ディベートやグループワークというのは他人に自分の意見を発表する場であり、他人とのコミュニケーションを図る場でもあります。大規模なプロジェクトや研究で他人と意思疎通や議論を行う上でコミュニケーション



5. 学習関連

力は大きな力になります。昨今の社会事情において他人とのコミュニケーションは欠かせないものになっています。学生のコミュニケーション能力向上のため早急に学習課程を見直すべきであると提言します。

大半を占める座学の講義を、TA 等の補助教員を増やすなどの方法で、講義の担当者と学生がコミュニケーションを取りながら進めていく形に変えていくべきであると提言します。

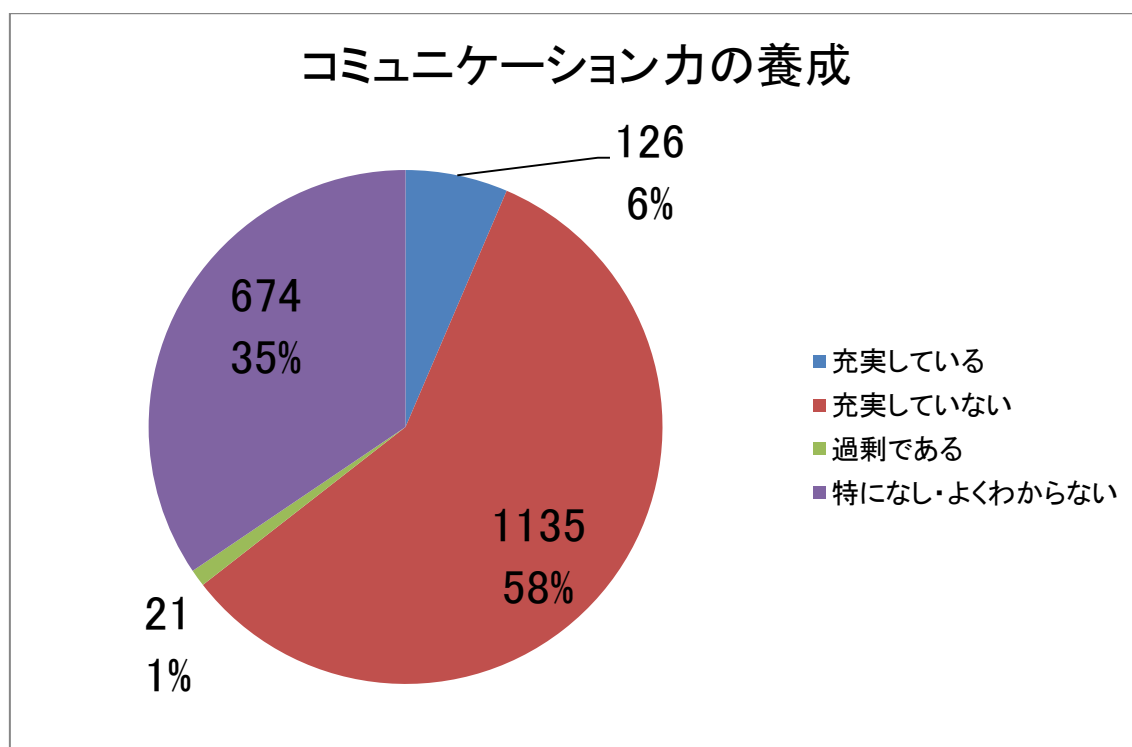


図 5.2.1-1 コミュニケーション力の養成に対する印象

5.2.2 文系科目について

提言概要	文系科目の内容の見直し
学生の意見	文系科目は講義数が多いですが、魅力的な講義が少なかったり成績のつけ方に大きな差があったりします。
具体的内容	・ただの消化試合となっている文系科目が多すぎる。 ・もっと学生が受けたいくなるような教員・授業内容を検討すべき。 ・文系の科目が入門的すぎて面白みにかける上、内容が重複することが多い。 ・文系科目で、単位の取得しやすい科目に人が集中するのをどうにかして欲しい。 (同様の意見が 11 件寄せられました)



現状分析	選択することの出来る文系科目は沢山ありますが、内容が被ってしまっているもの、授業に出ていなくても簡単に単位が取れてしまうものがあります。 文系科目に興味を全く持たない学生が多く、授業の取り組みに大きな差があります。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 では「5.6.2 文系科目への要望」において文系科目の充実を提言しましたが、今回は新規講義の開講ではなく文系科目の内容の見直しを行うことを提言します。前回の提言で述べられていた学生のニーズの明確化に関する調査は今回の学勢調査で行うことは出来なかったため、改めて文系科目に関して学生のニーズの調査が必要であると考えます。
提言	文系科目の中には、内容が重複していたり受講人数に偏りが見られたりするものがあります。文系科目の講義数や内容について検討し直し、カリキュラムを再編することを提言します。文系科目は導入、基礎、発展の順にステップアップするようにカリキュラムが組まれています。講義の目的ごとにグループ分けを行い推奨する講義の組み合わせを示し理想的な文系科目への取り組み方を学生にもっと伝えていくべきであると考えます。 どの講義を取ればどの分野に関する理解が深まるのかということを明確に示し学生の学習計画の補助となる情報を発信していくことが大切です。講義の科目が多いため単位の取り易い講義に学生は集中しがちですが、講義ごとの目的や連携をはっきりすることで学生も自分の興味のある講義を選べるようになるはずです。このためには成績評価の統一が欠かせませんのでこのことを踏まえてカリキュラムの再編をすべきであると提言します。



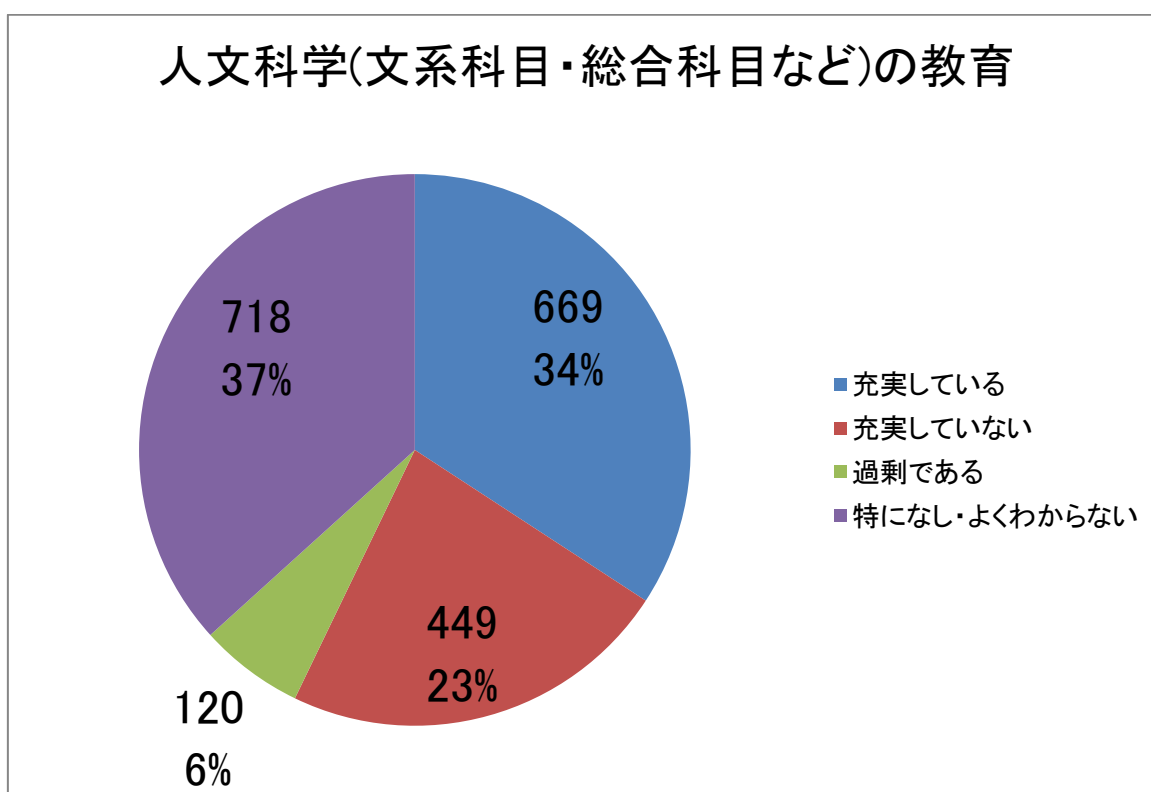


図 5.2.2-1 人文科学の教育に対する印象

5.2.3 新たな講義の開講について

提言概要	新規講義の開講
学生の意見	既存の枠にとらわれない多種多様な講義の開講
具体的内容	・自主ゼミによる単位申請などが可能になって欲しい。 ・工系基礎科目を俯瞰できるような、「理系の知識のつながり」を数学、生物、地学、科学、物理、情報にまたがって感じられる授業が欲しい。 ・プレゼンのやり方・課題の設定の仕方についての授業は早い時期からやってもいいと思う。 ・学生同士で意見を交換し合うような授業を文理問わず増やすようにする ・学生個々人の健康管理の観点から考えても、非常に有益であると思うので、ぜひとも「食育教育」ひいては、調理法や料理の歴史を含めた講義の開講を望みます。(以下略) (新しい講義を要望する意見が6件寄せられました)
現状分析	現在学部の講義でプレゼンテーションや意見交換を行うものは十分ではありません。また、類や学科を跨いで意見交換を行えるような講義は文系科目などの一部講義しかありません。



	また、一部の意見で料理の授業の開講を挙げるものがあります。料理は自然科学と密接に結びついているので、理工学系の授業と関連づけられるのではないかと考えます。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	社会が必要であるプレゼンテーション技術や意見交換の準備として、プレゼンテーションのやり方を学べる講義や、類や学科と関係なく意見交換や議論を行える講義を、新たに開講すべきであると提言します。特に議論を行いながら講義を進めていくという形のは少ないので、新たに開講すべきであると強く提言します。 NHK 白熱教室 JAPAN で取り上げられた宇佐美誠教授（社会理工学研究科）の講義のように、様々な意見を集約して結論を導き出すというのは非常に大切な力であり今後の人生において役立つと考えられます。 またブレインストーミングや KJ 法など新たな発想や思考を生み出すことを目的とした講義の開講も提言します。イノベーション創出を目指し意見交換を行うことで自分の研究や学習内容に関して新たな価値を見出すことが出来るのではないかと考えます。 料理を科学的観点から学習するという授業の開講を提言します。また、それにあたって、生協と協力し、産学連携などを検討してみたいかがでしようか。

5.2.4 学生の意見を伝える機会について

提言概要	学生の意見を授業担当者や類・学科・専攻責任者に伝える仕組みの設立
学生の意見	学生の意見を伝えられる仕組みについての要望
具体的内容	・授業評価アンケートにも書いたのですが、全くフィードバックされていないので、英語教員に対する生徒の声を集めるシステムを作って欲しいです。 ・なぜ学生が指導教員を評価する制度がないのか、またなぜその学生の声が軽んじられているのか理解できない。大学は教員のみが研究を行う場ではなく、学生に対する指導も同時になされるべきである。現在の教員の評価方法では、学生を指導するインセンティブが働かない。結果として、教育力のない（次世代の研究者を育てることのできない）自己中心的な教授ばかりになってしまっている。 （講義のカリキュラムや授業内容に関する意見が 14 件寄せられました）



5. 学習関連

現状分析	受講した講義に関する意見を、直接的に講義担当者に伝える仕組みはありません。学勢調査では多数の意見のみピックアップして議題にすることができないため、学科のカリキュラムに関する意見等に対応することができていません。各学期の終わりに授業アンケートが実施されていますが、結果が実際に授業に反映されているのかということについてアンケート結果及びフィードバックが公開されている大学公式サイト http://www.cradle.titech.ac.jp/hyoka/index.html を確認した限りでは、具体的にどの講義がアンケート結果を受けて授業内容を変更したのか不明で、またアンケートのフィードバックが遅すぎるという意見が教員の意見の中に見られます。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 の「5.4.1 授業評価アンケート」で授業評価アンケート結果の情報公開強化を求める提言をしましたが、特に改善が見られなかったため今回は授業評価アンケートの内容の見直しを提言します。
提言	授業のカリキュラムから各々の授業の内容まで、学生の意見は多岐にわたっています。現在の授業評価では学生の意見を汲み取れているとは言い難いので、授業評価システム自体を見直すべきであると提言します。学生の声がしっかりと講義の担当者や類・学科・専攻の講義責任者に届くような仕組みを是非とも実現して頂きたいです。

5.3 カリキュラム

5.3.1 学部 1 年次の授業について

提言概要	1 年次のカリキュラムの改革
学生の意見	類と学科の連携を取って欲しい
具体的内容	- 学部 1 年のとき受けた講義は、当時は重要性がわからなかったためあまり勉強できなかったが、研究室に所属してから必要になったため勉強し直すことになった。基礎科目がどのように役に立つのか具体的に示して欲しかった。 1 年次の基礎教育が 2 年次以降まったく役に立っていない。1 年次から積極的に専門課程の授業を採らせるべきである。 - 理工系の基礎教育、特に 1 年次の理工系科目について、学生の大半が工学部所属に対し、授業担当の理学系の割合が高いと思う。1 年次に取得すべき能力を学部ごとではなく類ごとに明示し、それを達成できるよう授業担当者との意思疎通を積極的に行うべきと思う。 (学部 1 年次の授業内容を変えて欲しいという意見が 16 件寄せられました)



現状分析	学部1年次の基礎科目が必ずしも学科が望んでいる講義内容となっていないわけではないため、学科の講義に必要な知識が欠落した状態で学部1年生が学科に所属するということが起きています。 図5.3.1-1が示すように、学部1年生の半数近くが、専門の科目を増やすことが学習意欲の向上に有効であると考えています。しかし、現状では学部1年次のカリキュラムの中で取ることの出来る専門科目は少ないです。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	類と学科の講義内容のミスマッチを減らせるように、理工系基礎科目の内容を見直し、その後の学科の講義と上手く合うように調整すべきであると提言します。

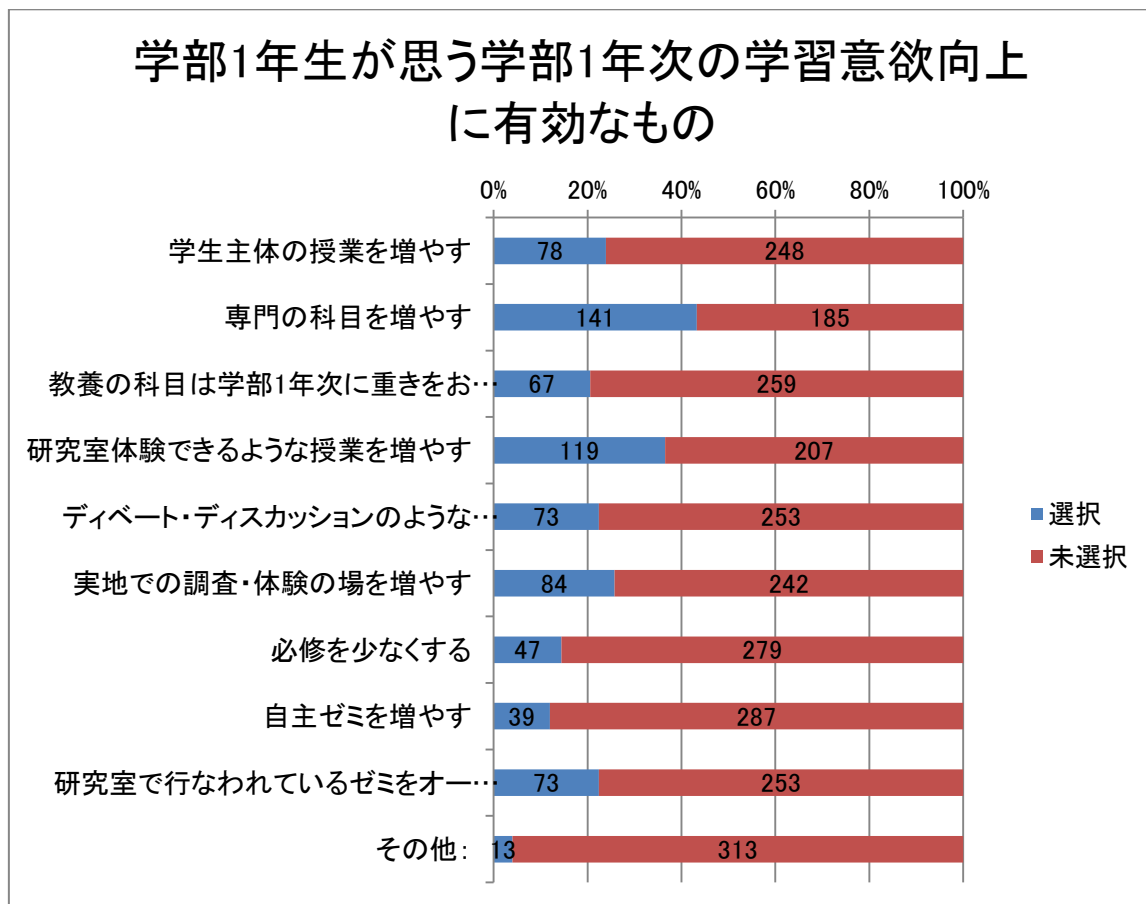


図 5.3.1-1 学部1年次の学習意欲向上



5. 学習関連

5.3.2 他大学との交流について

提言概要	他大学との交流
学生の意見	他大学との交流制度の充実
具体的内容	・四大学連合という良いコースがあるにもかかわらず、それを活かさないカリキュラムになっていると思います。 ・現在、四大学連合複合領域コースの単位は「理工系広域科目(他学科)」という扱いになり、単位としてはほとんど役に立たないため、履修するインセンティブが弱い。例えば、一橋大学なら文系科目と互換できるようにするなど、単位を取るメリットを増やしてほしい。そうすればもっと履修者が増えると思う。 ・四大学や他大学との単位互換制度はあるが、カリキュラムが忙しく、また、他大学との距離も遠く、断念せざるを得ない感じがする。
現状分析	四大学連合複合領域コースや慶應義塾大学などと単位互換制度が実施されていますが、各大学間の移動に時間がかかり、本校の時間割との関係で受講しにくくなっています。 学科によっては、複合領域コースの修了認定基準を満たすことが、非常に難しいです。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 の「5.5.1 他大学との交流の活性化について」では他大学との交流制度の充実を提言しましたが、より一層の充実が必要であると考えられるので、今回も改めて提言します。
提言	四大学連合複合領域コースの東工大で単位認定可能な講義数は学科により大きく異なるため、学科ごとの差の改善が必要です。また、東工大の時間割との調整をやりやすくするために、他大学で受講可能な講義数をさらに増加させられるように交渉すべきであると提言します。

5.3.3 授業選択の自由について

提言概要	授業選択の自由度について
学生の意見	授業の選択の幅を広げて欲しい
具体的内容	・選択できる講義を増やして自分の興味のある分野に関する知識を増やせるようにして欲しい。 ・授業の選択における自由度が低すぎる。 ・類や学科、専攻にとらわれず、様々な先生の授業を履修したい。 ・柔軟性のあるシステムが欲しい。 ・東工大学内で複数学位の履修ができればと思う。 (同様の意見が 8 件寄せられました)



現状分析	学科の必修科目が多いため、複数学位の取得は困難です。 1年間に取得できる単位の上限があるため、学科の授業を受けながら他学科の授業まで受けに行くことは難しいです。 学科の修了要件は、多くが124単位であるため、単位数の上では他学科の講義を受講する余裕があります。ただし、1単位は通常45時間の学習を必要とするため、学習時間を確保することは相当な負担になります。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	他学科の講義を受講する際の不安を低減し履修を促進するため、講義の情報公開を強化することを提言します。

5.4 単位・成績

5.4.1 成績評価について

提言概要	成績評価の公平性について
学生の意見	成績評価が教員によって大きく異なっています
具体的内容	・5類は特に人数が多く、同じ授業であってもクラス分けが行われて、クラスごとに別の先生が授業を担当していることが多いが、先生ごとに評価基準が大きく異なるということが結構あるのでどうにかして欲しい。 ・授業の成績評価についてですが、過去問をほぼそのまま出す授業が非常に多いことについて、生徒の学習意欲を下げ、戦略的コミュニケーションの上手い人が学業成績という基軸で有利に評価されることは僕にはフェアではないように思えます。 (同様の意見が4件寄せられました)
現状分析	教員によって出席を重視したり試験の成績を重視したりと、成績の評価基準がまちまちです。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 の「5.7 単位・成績」において、成績評価基準の公開・標準化について提言しましたが、今回は具体的な講義についての成績評価基準の見直しについて提言します。
提言	成績評価の不公平感を減らす、または不公平をなくすために、出席を成績評価で考慮するのか、複数クラスがある講義の成績評価基準はどう統一するのかということを、再度検討することを提言します。



5.5 国際教育関連

5.5.1 語学力について

提言概要	英語の授業について
学生の意見	図 5.5.1-1 に示すように、本学の半数の学生は語学の授業が充実していないと考えています。英語の授業に関する意見が合計 40 件寄せられました。 英語の授業のレベルを上げて欲しい、またはレベル分けをより細かく行って欲しいという意見があります。また学部・大学院ともに英語の授業や英語を用いた専門の講義を増やして欲しいという意見も寄せられました。
具体的内容	・英語の授業をもっと充実させて欲しい。 ・TOEIC などによりレベル別の授業をして欲しい。 ・留学生と交流する授業を増やせば英語学習のやる気が増すのではないかな ・英語（語学）の授業を増やして欲しい。 ・英語で行う（専門の）授業を増やしてもよいのではないかな（学部・大学院ともに）。 ・Please provide more English based courses. ・英語のできる人にとっても、できない人にとっても満足のいくシステムにして欲しい。
現状分析	本学の学生の英語のレベルは幅が広く、学生の語学力に合わせた授業が困難となっています。その結果、英語の授業が充実していないと考える学生が多数います。また、現在は学部生に対して英語を用いての専門科目の授業は行われていません。大学院生に対する英語による専門の講義も少なくなっています。 教務課へのキャンパスミーティングで英語の授業について話を聞いたところ、講義室の関係から困難ではありますが、より細かい英語のクラス分けを検討中だそうです。また、学部生への授業ではしっかりと理工系基礎知識を身につけるためには母国語が適切であると考え、英語での講義は行っていないそうです。大学院に関しては、英語での授業が多く行われているようです。
学勢調査 2010 以前との比較	前回の調査時も、今回と同様に語学教育の強化の必要性が挙げられています。
提言	個々の語学力に合わせた授業を展開するためにも、類・クラスの枠を取り払い語学のクラス分けを行うことを提言します。また、語学に対するやる気上昇のために、早い段階から留学生との交流の場を多く設けたり（タンドムの募集や ICS の利用など）、留学するという選択があることを周知していく必要があります。



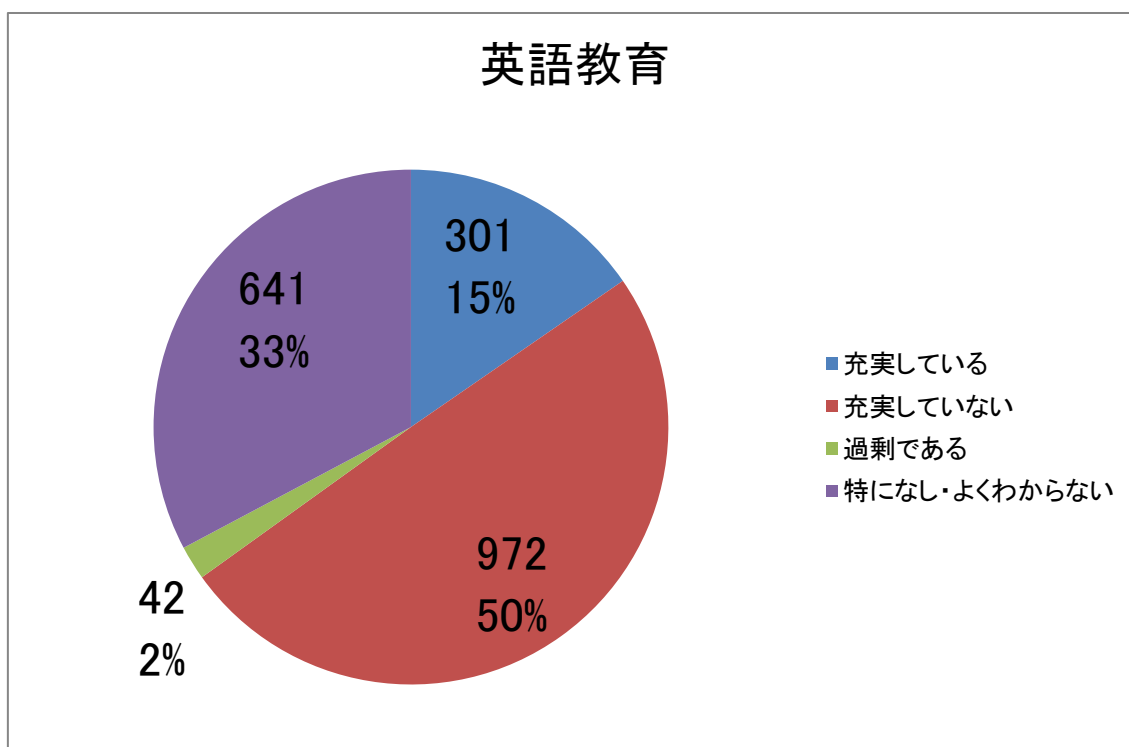


図 5.5.1-1 英語教育の充実度

5.5.2 すずかけ台での語学授業について

提言概要	すずかけ台での語学授業について
学生の意見	すずかけ台での語学授業に関する要望が合計 5 件寄せられました。すずかけ台での語学授業を増やして欲しいとのことです。
具体的内容	・すずかけ台での語学の授業を増やして欲しい。現在もあるが人数制限等で取れないことがある。 ・すずかけ台での国際コミュニケーション選択科目（英語口頭表現など）が欲しいです。
現状分析	すずかけ台では語学の授業が行われていますが、大岡山のように充実していません。その結果として、やる気があっても思うように語学学習ができないような環境になっています。 教務課へのキャンパスミーティングですずかけ台での英語の授業について話を聞いたところ、現在は履修者が少なく授業を増やすのは難しいとのことでした。ただ、遠隔講義については検討しているそうです。
学勢調査 2010 以前との比較	前回も今回と同様に、すずかけ台で語学の授業を提供して欲しいという意見があります。



5. 学習関連

提言	大岡山の水曜日には語学の授業が豊富にあるように、週に一日、すずかけ台で語学の授業が充実した日の設置検討を提言します。
----	--

5.5.3 留学の門戸について

提言概要	留学の門戸を広げて欲しい
学生の意見	図 5.5.3-1 に示すように、本学の約 3/4 の学生は留学をしたいと考えていますが、金銭・語学等の問題によりその多くは留学できずにいます。カリキュラムに自由が利かず、留学が難しいという意見も寄せられました。
具体的内容	・カリキュラムに自由が利かず忙しいため、留学のための準備（英語など）をする時間がない。 ・準備に 1,2 年かかること、必修科目が多くあること、4 年時は 1 年間研究すること、を考えると卒業を延ばさずに留学するのが難しい。 ・留学の支援体制があまりない。
現状分析	留学に興味を示す学生は多いですが、様々な問題からその実現は困難となっています。 教務課へのキャンパスミーティングで留学について話を聞いたところ、まず語学の基準は留学先大学が受け入れるかの問題が大きいので、本学の中で基準を変動させてもあまり意味はないそうです。奨学金に関しては、全体の合計が決まっていてそれを振り分けている状態なので、各人の額を増やすのは難しいようです。また、学科ごとのカリキュラムは各学科が決めており、それを変えることは難しく、積極的に留学を奨励している学科では独自にカリキュラムを組んでいるようです。留学する学生の多くは大学院で卒業を 1 年伸ばして留学しているようです。 語学力をつけたいと考えている人は、近年開始された TASTE という語学留学プログラムが利用できるようです。また、TOEIC と同様に TOEFL の受験機会を学生に与えることを検討中だそうです。
学勢調査 2010 以前との比較	前回は今回と同様に、留学の門戸を広げてほしいという意見が寄せられています。
提言	学生が海外生活を経験することは学生にとっても大学にとってもプラスになると考えられるので、各学科で留学しやすいようなカリキュラムを設定することを提言します。また、TOEFL の受験機会を学生に与えることで、学生が目標をもって語学の勉強に励み、留学しやすい環境が構築されていくことを願います。



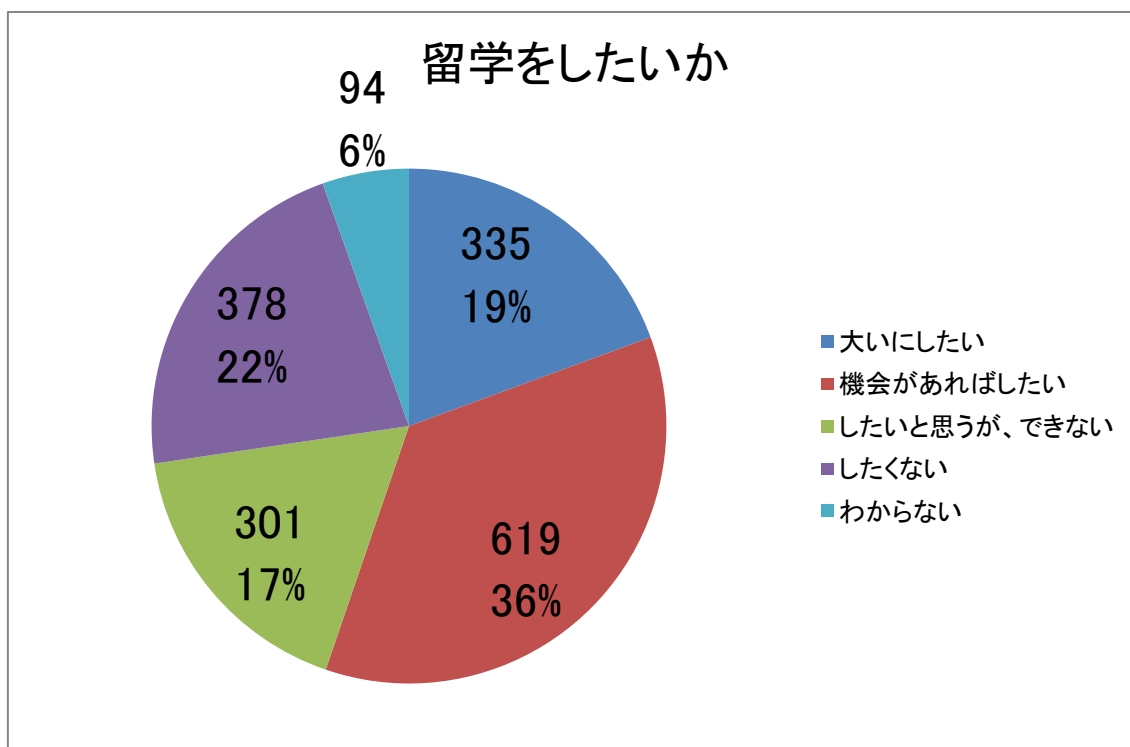


図 5.5.3-1 留学をしたいかどうか

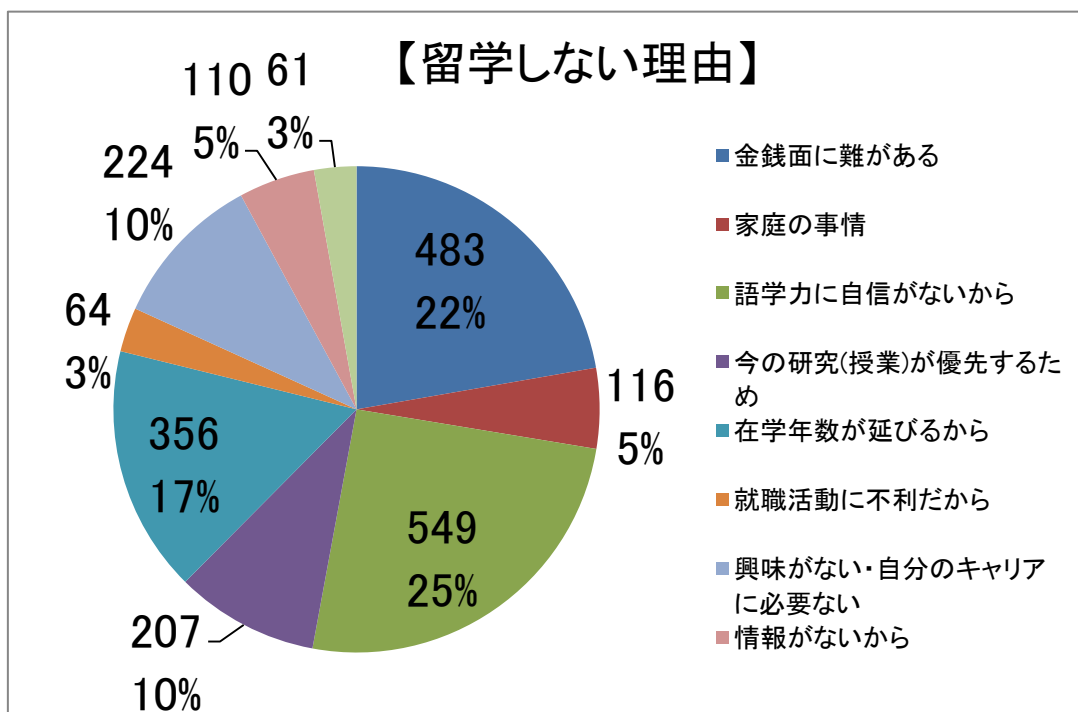


図 5.5.3-2 留学をしない理由



6. ハラスメント関連

6.1 ハラスメントの実態

提言概要	ハラスメントの実態を報告する
学生の意見	ハラスメントの実情を訴える内容
具体的内容	・ 研究室の仕事の振り分けで私にタスクが一極集中し、胃潰瘍になりました。 ・ ある研究室の学生への執拗な嫌がらせは聞いていて非常に不快。 (個人が特定される恐れがあるため自由記述の一部は改変してあります。) (同様にハラスメントの実態を訴える意見が合計 12 件寄せられました。)
現状分析	ハラスメント行為は、学生の生活や心身に著しく影響を及ぼす重要な問題です。この問題に対し、東工大においてもハラスメント相談窓口が設置され、学生や研究室への啓発活動が行われています。今回の学勢調査でも、前回、前々回同様、アカデミックハラスメント（アカハラ）、セクシャルハラスメント（セクハラ）、アルコールハラスメント（アルハラ）について実態調査を行いました。 この3つのハラスメントのうち、依然としてアカハラに対して最も多い訴えがありました（図 6.1-1）。調査年度ごとのハラスメント被害者数の推移を見ると、アルハラに関しては若干の減少が見られ、「入学時(2005)に比べて状況が良くなっているので、防止策はうまくいっていると思います」という意見もあるように、改善の傾向が見られます。しかし、アカハラ、セクハラに関しては 2010 年度とほぼ変わらない結果となりました。 ハラスメントに関しては、心理的不安定に加えて、体調不良や大学へ行けなくなるという実生活への影響も訴えられています（図 6.1-2）。アカハラはここでも被害を受けて影響を訴えた学生の割合が最も多く、強い影響力が伺えます。またアカハラ、セクハラ被害を経験した人で「死にたいと思う、自分を傷つけたくなる」と回答した人は 2 割を超え、これらのハラスメントによる学生への影響力の強さを示しています。
学勢調査 2010 以前との比較	現状分析をご参照ください
提言	東工大ではこれまでハラスメント相談窓口の設置、学生や研究室への啓発活動等の取り組みを行ってきました。しかし、被害者数の推移と学生に与える影響力の強さを鑑みると、より力を入れた取り組みを行うことが必要です。次節で、その対策法について具体的に提言します。



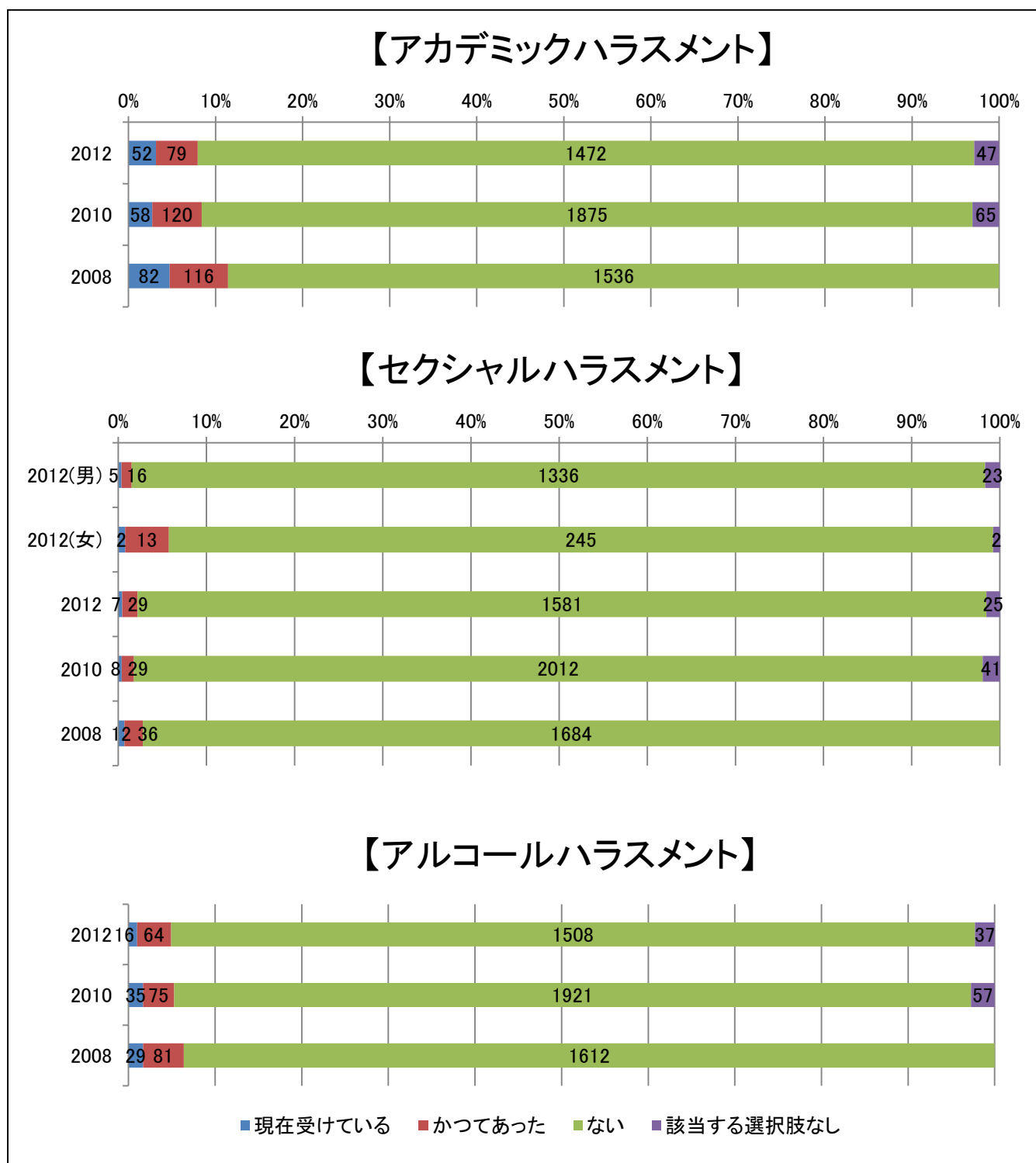
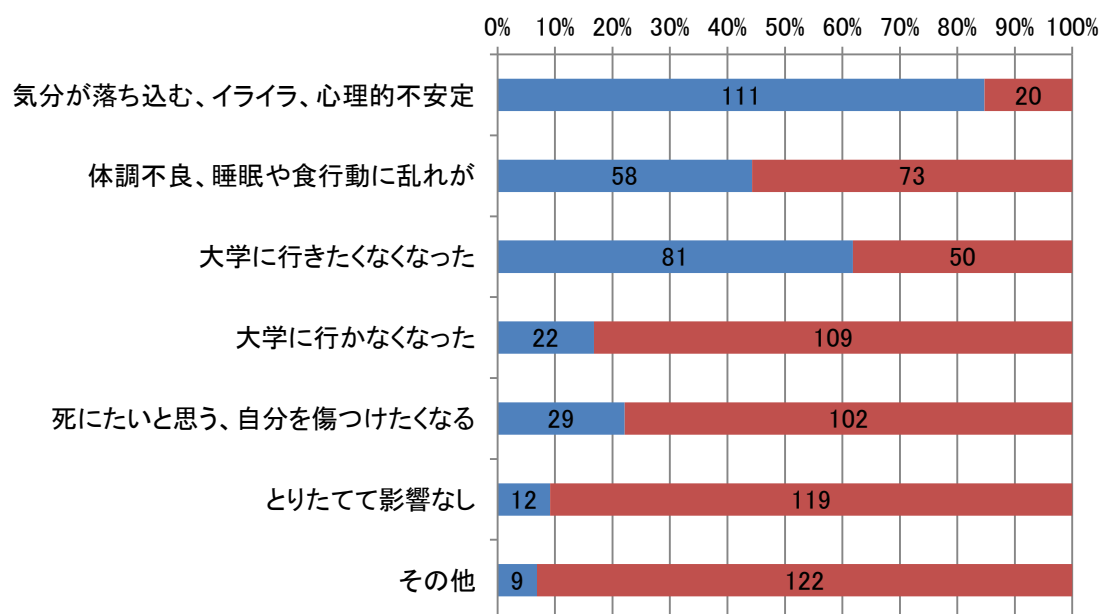


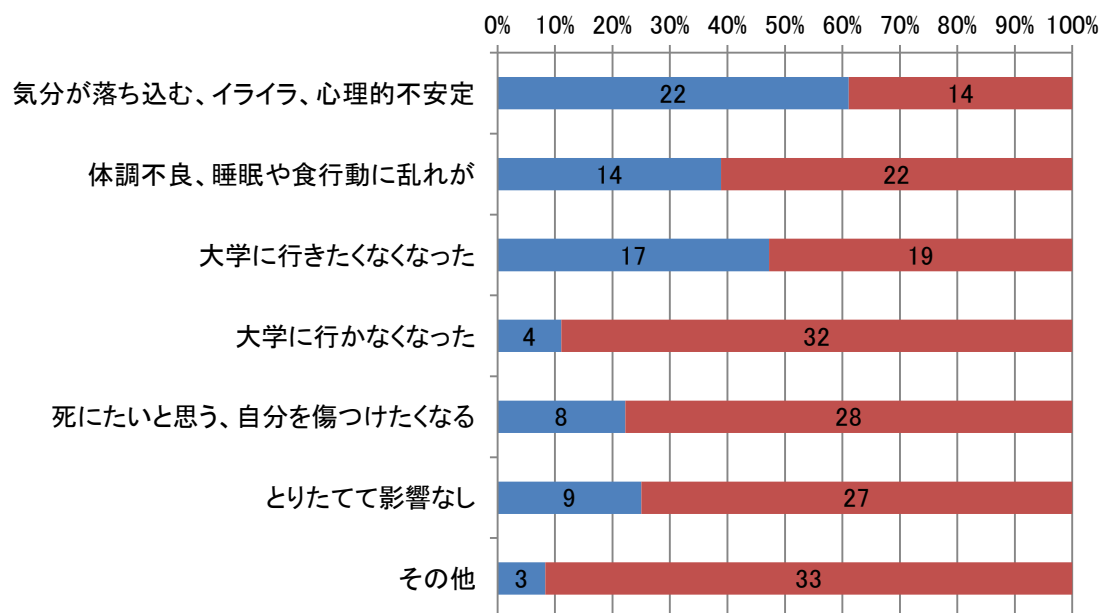
図 6.1-1 2012 年度と 2010, 2008 年度の各種ハラスメント被害者数の比較



アカデミックハラスメント経験者 × 影響



セクシュアルハラスメント経験者 × 影響



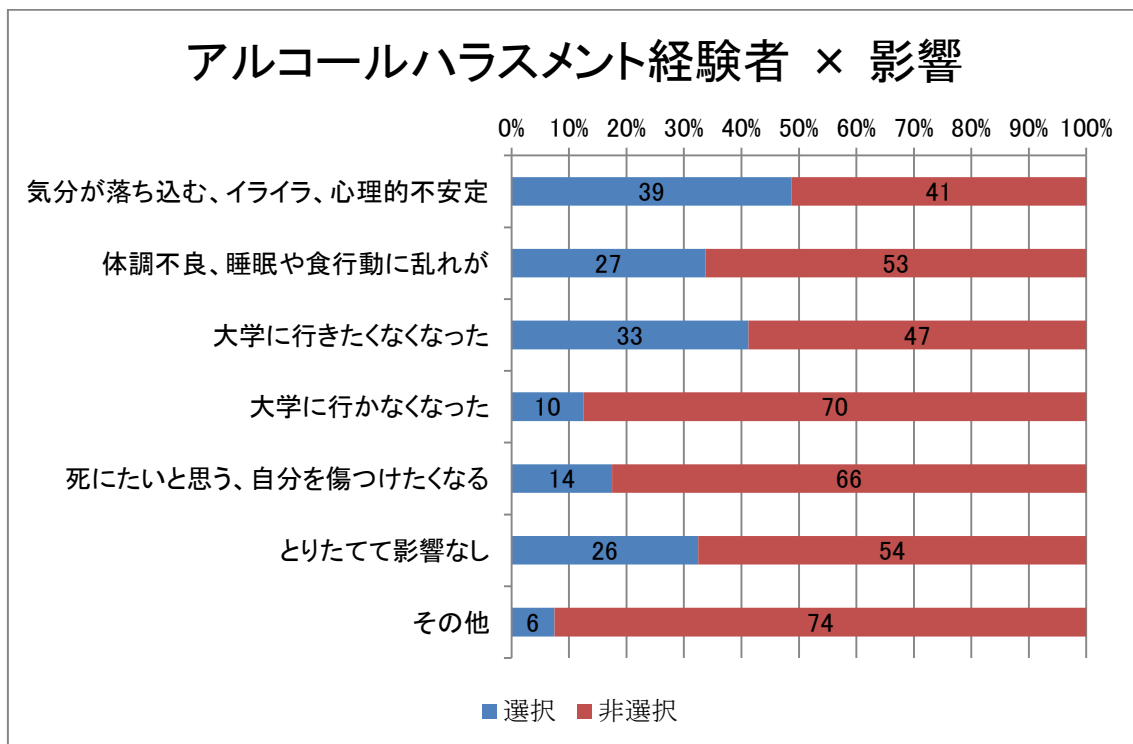


図 6.1-2 各種ハラスメントの被害に対する影響

6.2 ハラスメントの防止策

提言概要	ハラスメントの防止策の強化を提言する
学生の意見	ハラスメントの防止策を提案する内容
具体的意見	・ if harassment happen, where to report? (相談制度の充実・改善・広報を求める意見が 22 件) ・ ハラスメントに対する意識強化 (特に教員に) (教員へのハラスメント防止指導を求める意見が 22 件) ・ 学生からの評価制度設立、罰則強化、教員に対して指導方法を講習する場の設置。 (教員への採用基準強化・厳罰化を求める意見が 16 件) ・ 他の研究室のゼミに気軽に参加できるなど、“学内で”オープンな環境になると良い防止策になるかと思います。 (研究室の閉鎖性の改善を求める意見が 9 件) ・ 定期的な外部機関の査察、アンケート調査などの実行などで現状を把握すべき。 (ハラスメント実態調査の要望が 8 件)



	・ Girls even boys just need to be wise and know how to protect themselves. (学生へのハラスメントの定義、対策法の説明を求める意見が 7 件) ハラスメントの防止策に関してはのべ 131 件（うち留学生は 8 件）の意見が寄せられました。 アカハラに関しては上記以外にも、指導教員の権限を小さくする（3 件）、先生とのコミュニケーションを図る（2 件）などの対策が挙げられました。 またアルハラについては、入学後のオリエンテーションで説明する・責任者への危険性の確認・罰則の強化など、全 12 件の意見が寄せられました。
現状分析	自由記述では、相談制度の改善を求める意見が 22 件と、前回（2010）の学勢調査と同様最多でした。その一方、アカハラを「現在受けている」と答えた人の相談窓口の利用率は、学生相談室、カウンセラー、キャリアアドバイザーでは前回に比べ増加しました（図 6.2-1）。これは、前回の学勢調査を受け、相談窓口 HP の改修や新入生向け資料への情報の掲載等、広報の強化が行われたためと考えられます。しかし、それ以外の相談窓口の利用率の増加は見られませんでした。 相談制度の改善を求める意見のうち、5 件は「対応を教職員が行うのは、どこかでリークがあるように思えてなかなか相談しづらい」「ピアサポートが最初の相談に乗る場所として機能すればと思います」等、現在の制度では利用し辛いという意見でした。広報活動に加えて、窓口の相談のしやすさが求められています。 相談制度の改善と並んで最多だった教員への防止指導は、現在ハラスメント講習会が着任時及び年に 1 回以上行われています。現状の防止策には 1 件の「職員の方々も(過剰なくらい)配慮してくださっている」という一定の効果が伺える意見の一方で、「ハラスメントを繰り返す人は、実際に事が起こってからでないとその重大な悪質さを実感できないでしょう」等の防止の難しさも 12 件指摘がありました。 これらの意見を踏まえ、教務課、学生支援課へのキャンパスミーティングで以下の質問を行いました。 ①各相談窓口では、相談内容に関して、相談員同士での情報共有などはされていますか？ ②ピアサポート制度を研究室所属の学生に拡張することはできますか？また、博士課程のサポーターを増やすことはできますか？ ③ピアサポーターとハラスメント相談室が連携することは可能でしょうか？



	④ハラスメントを行った教員に対し、罰則を強化することは可能でしょうか？ ⑤今後、定期的な実態調査を行う予定はありますか？ 回答は以下の通りです。 ①相談員の先生には守秘義務があり、相談内容を共有することはありませんのでご安心ください。また学生相談室の先生の待機予定表が学生相談室前およびHPに掲載してあるので、相談しやすい時間に来て下さい。（学生支援課・教務課） ②ピアサポート制度にはどなたでも相談に来ることができますが、現在ピアサポーターには修士課程の方までしかいません。博士課程の方を増やすことに対しては、今後検討してみます。（学生支援課） ③これまでピアサポーターではハラスメントの相談はあまり扱ってきませんでした。ハラスメントの相談は個人的かつ繊細な情報を含みますので、同じ学生であるピアサポーターが取り扱うには負担が大きいのではないのでしょうか。（学生支援課） ④罰則の強化は、学生からハラスメントの報告がないと対応できません。対応を改善するためにも、まずは相談窓口へお越しください。（学生支援課） ⑤数年前から研究室環境の改善のために産業医による巡視と一斉ストレスチェックが行われています。今年度から内科医（特任教授）が着任したことによって体制が強化され、巡視時に実施される個別のストレスチェックもさらに活用されることになりました。（学生支援課）
学勢調査 2010 以前との比較	産業医による巡視の強化やストレスチェックの実施は、前回の調査で定期的な実態調査が提言されたことと符合する動きと考えられます。しかし、これらはハラスメントそのものへの調査ではないため、今後とも調査方法を検討していく必要があります。また前回の調査における学生へのハラスメントの定義・対策法の啓発の提言に対しても、啓発リーフレットが研究室へ送付されましたが、前回の調査同様、今回も自由記述での反応は見られませんでした。学生への啓発の方法に対してもさらなる検討が求められます。
提言	①相談窓口の窓口の拡大 相談窓口をより相談しやすく、解決への実行力があるものに変えることを提言します。具体的には、各相談員のハラスメント対応への理解の徹底、相談員の守秘義務の明示、教員以外の相談員の増加および広報、窓口のHPに相談員のメッセージを掲載することを提言します。 ②学生へのハラスメントの定義・対策法の啓発の強化 仮にハラスメントを受けた場合、学生がそれをハラスメントと認識し、

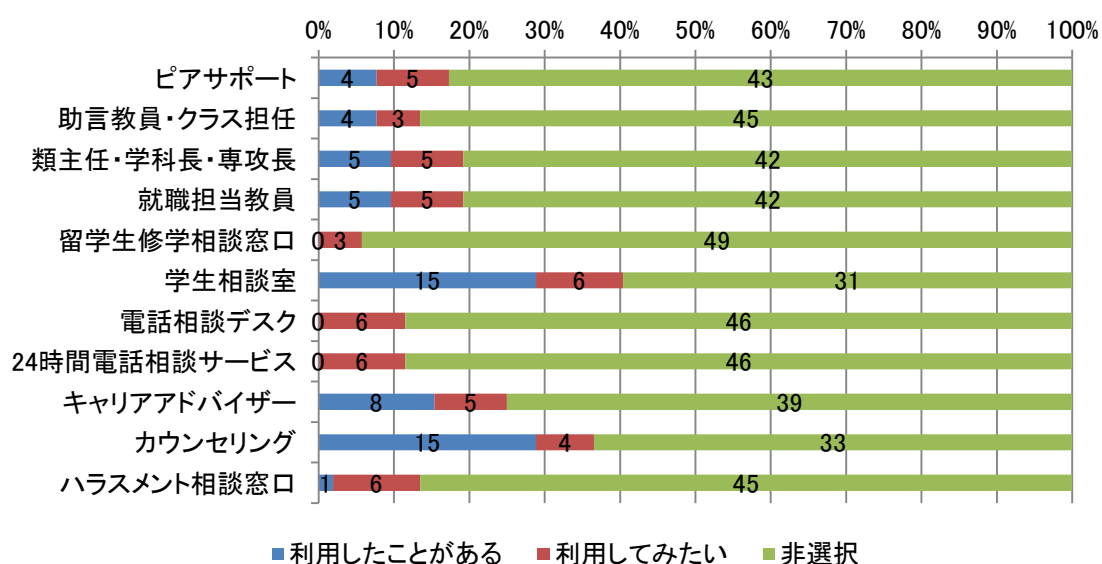


それに対応する力を養うことも重要です。そこで、修士・博士入学時の対策講習会の施行、ハラスメントの基準や被害割合、対策法をポスターやHP上で公表することを提言します。

③閉塞的な研究環境の改善

ハラスメントの助長や公表の阻害の原因となる閉鎖的な研究環境の改善を提言します。次節で具体的な提言を行います。

アカデミックハラスメント_現在受けている× 相談窓口(2012)



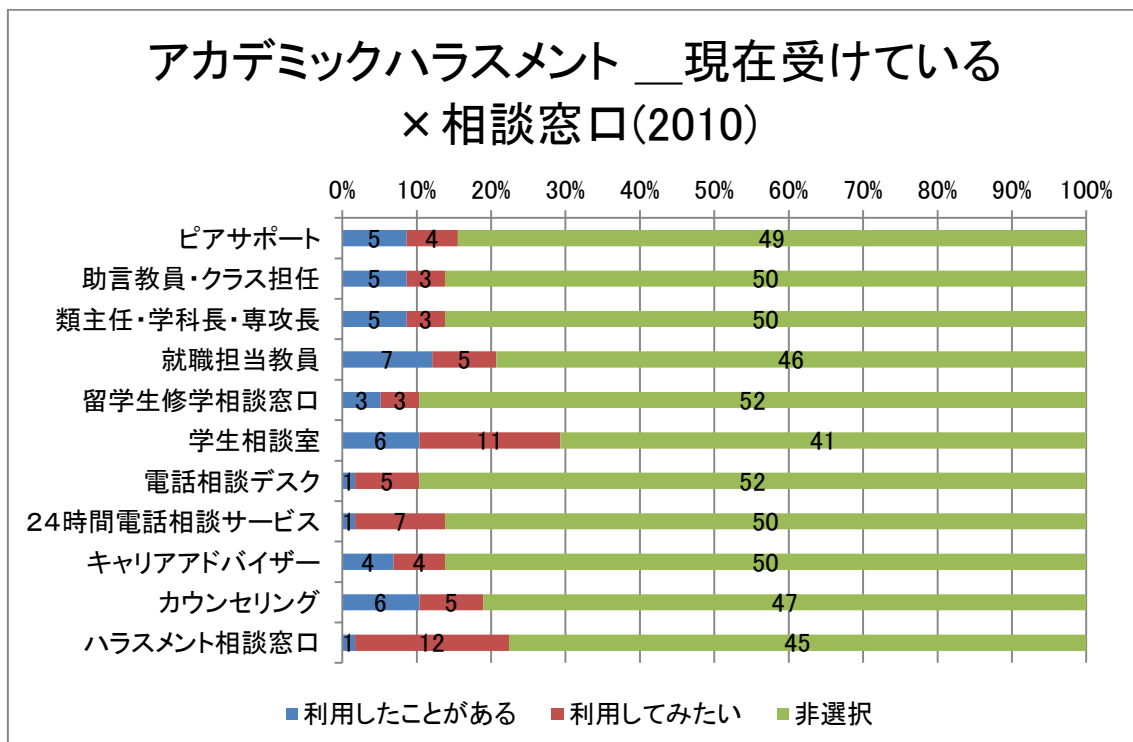


図 6.2-1 アカハラを「現在受けている」と回答した人の相談窓口利用率(2012, 2010 年度)

6.3 研究室の閉鎖性について

提言概要	研究室の閉鎖性について
学生の意見	研究室の閉鎖性を改善して欲しい
具体的内容	・ 専攻は人間関係が閉鎖的です。なんとかして下さい。 (同様の意見が計 6 件寄せられました) ・ 学部生には様々なケアがあるが、修士、博士と進むごとに放置状態になっていく。案外に多い博士課程のドロップアウトを防ぐため、そのノウハウをより積極的に用いてもいいのではないか。
現状分析	研究室の閉鎖性を問題視する意見が 6 件挙げられました。 研究室では、コミュニティの規模の小ささや年次の増加に伴う研究時間の増加(図 6.3-1) から、どうしても相談できる人が少なくなり、研究室外との関わりが減少しがちです。この閉鎖性によってアカデミックハラスメントなどの研究室内の問題が起りやすくなっているという意見も 9 件寄せられました。



	研究室内の閉鎖性を解消、かつ研究室内の問題を解決しやすくするために、研究室間の交流を望む意見が 5 件、リフレッシュルームの増設等、施設の改善を望む意見が 3 件寄せられました。 これらの意見を踏まえ、教務課、学生支援課へのキャンパスミーティングで以下の質問を行いました。 ①閉鎖的な研究環境を改善する策は何か予定されていますか？ ②現在、博士向けの交流会等のイベントがありましたら教えて下さい。 ③リフレッシュルームや議論スペースを増設することはできますか？ 回答は以下の通りです。 ①異なる研究室での、複数指導教員制度を取り入れていきたいと考えています。形骸化を防ぐためにどうすべきか、これから検討を行っていきます。 (教務課) ②博士だけではなく、女性研究者向けのガールズトークが有志で行われています(学生支援課)。以前行っていたソフトボール大会のように、スポーツ大会等を企画して人脈を増やしてみてもはどうでしょうか。(教務課) ③図書館跡にできる新しい建物に、リフレッシュルームを増設できないか交渉しているところです。また来年度から講義室を授業時間外に休憩室として開放する予定ですので、自由に使えるスペースは増えるはずです。(教務課)
学勢調査 2010 以前との比較	前回の調査でも、専攻間・研究室間の交流を求める意見が 5 件挙げられており、公開セミナーの広報強化が提言されています。
提言	研究室から距離を置くと共に、研究室以外の人とも交流できる、リフレッシュルームや議論スペースの増設を提言します。他研究室の人と接することにより、気分転換や外部への相談が可能になり、人間関係等の問題解決に繋がると期待されます。それと共に、学生側でも自ら企画を行うなど、研究室外と交流する積極的な態度が必要と考えられます。また、リフレッシュルーム増設や博士向けの交流会の開催には教員組織との連携も重要です。これらの問題について議論を行えるような、教育推進室をはじめとする教員組織との意見交換の機会を設けることを提言します。



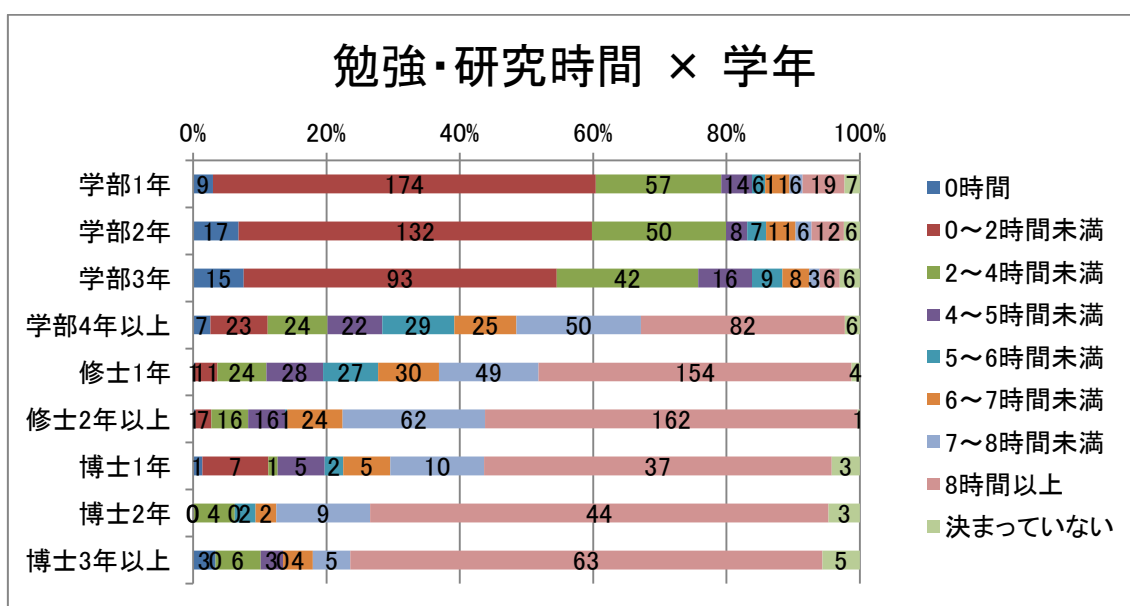


図 6.3-1 学年別の勉強・研究時間



7. 図書館関連

7.1 開館時間について

提言概要	開館時間の延長について																				
学生の意見	開館時間の延長に関する要望が合計 65 件寄せられました。 特に夜遅くまで（あるいは 24 時間）開けて欲しいという意見が 29 件寄せられました。その多くは自習のためのスペースが欲しいということです。																				
具体的内容	・夜遅く（11 時等）まで開けて欲しい（同様の意見 18 件） ・24 時間利用できる学習スペースが欲しい（同様の意見 11 件） ・夏季、冬季休暇中の開館時間を延長して欲しい（同様の意見 3 件）																				
現状分析	参考までに本学と他大学の附属図書館の開館時間を比較すると以下のようになります。（通常授業期） <table><tr><td>東京工業大学</td><td>平日</td><td>8:45-21:00</td><td>休日</td><td>11:00-17:00</td></tr><tr><td>東京大学</td><td>平日</td><td>8:30-22:30</td><td>休日</td><td>9:00-19:00</td></tr><tr><td>一橋大学</td><td>平日</td><td>8:40-22:00</td><td>休日</td><td>8:40-17:00</td></tr><tr><td>東京理科大学</td><td>平日</td><td>9:00-22:00</td><td>休日</td><td>11:00-19:00</td></tr></table> 現在、本学では試験期間およびその前一週間は開館時間の延長が行われています。しかし、試験期間のみではなく、授業期間中や長期休暇中も図書館を利用して学習を行いたいという学生が多くいます。 図書館へのキャンパスミーティングで開館時間の延長について聞いてみたところ、平日に関しては現在の開館・閉館時間の周辺では利用者も多くはなく、開館時間の延長にかかる費用と合わせて考えると難しいとのことでした。24 時間開館に関しては、安全管理の問題や学生の生活習慣への懸念から同様に難しいようです。ただ図書館としては学生の要望には応えていきたいので、十分に多くの学生が望むのなら開館時間の延長については検討するということです。	東京工業大学	平日	8:45-21:00	休日	11:00-17:00	東京大学	平日	8:30-22:30	休日	9:00-19:00	一橋大学	平日	8:40-22:00	休日	8:40-17:00	東京理科大学	平日	9:00-22:00	休日	11:00-19:00
東京工業大学	平日	8:45-21:00	休日	11:00-17:00																	
東京大学	平日	8:30-22:30	休日	9:00-19:00																	
一橋大学	平日	8:40-22:00	休日	8:40-17:00																	
東京理科大学	平日	9:00-22:00	休日	11:00-19:00																	
学勢調査 2010 以前との比較	前回と図書館の利用目的に大きな変化は見られず、図 7.1-2 のように 6 割は図書の利用、3 割は自習スペースの利用を目的としています。また、前回も自由記述で開館時間の延長の要望が挙がっています。																				
提言	図書館という資料が十分に揃っており、落ち着いて勉強に集中できる場所は学生の学力向上に必須です。そのような環境を少しでも長く提供できるように、学生の利用状況等を考慮の上で平日・休日ともに図書館の開館時間を延長することを提言します。																				



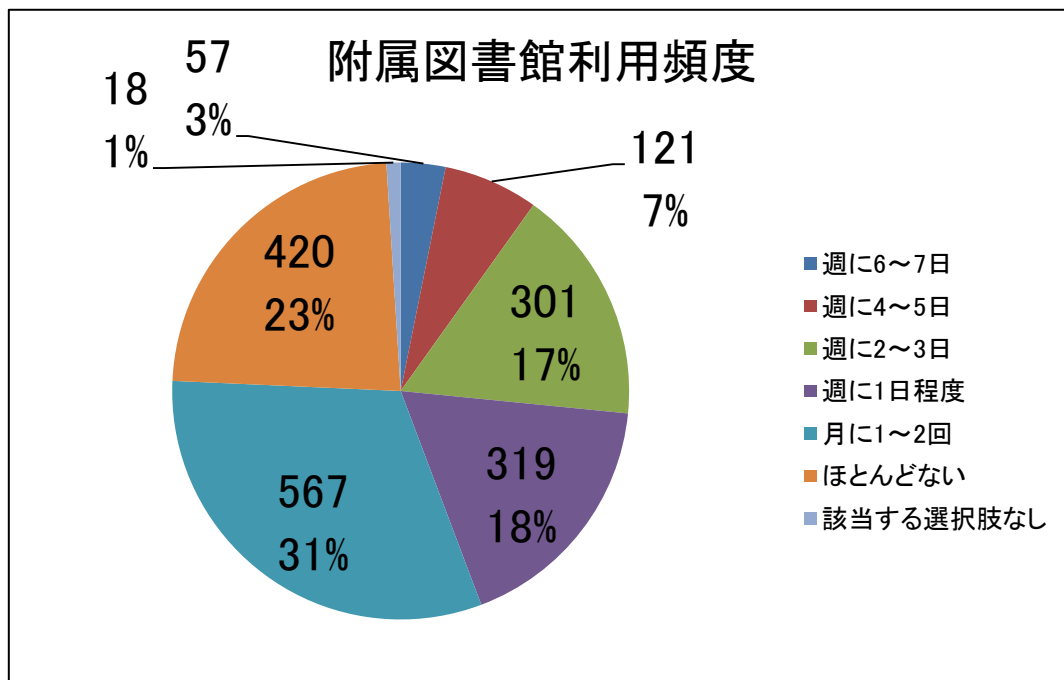


図 7.1-1 附属図書館利用頻度

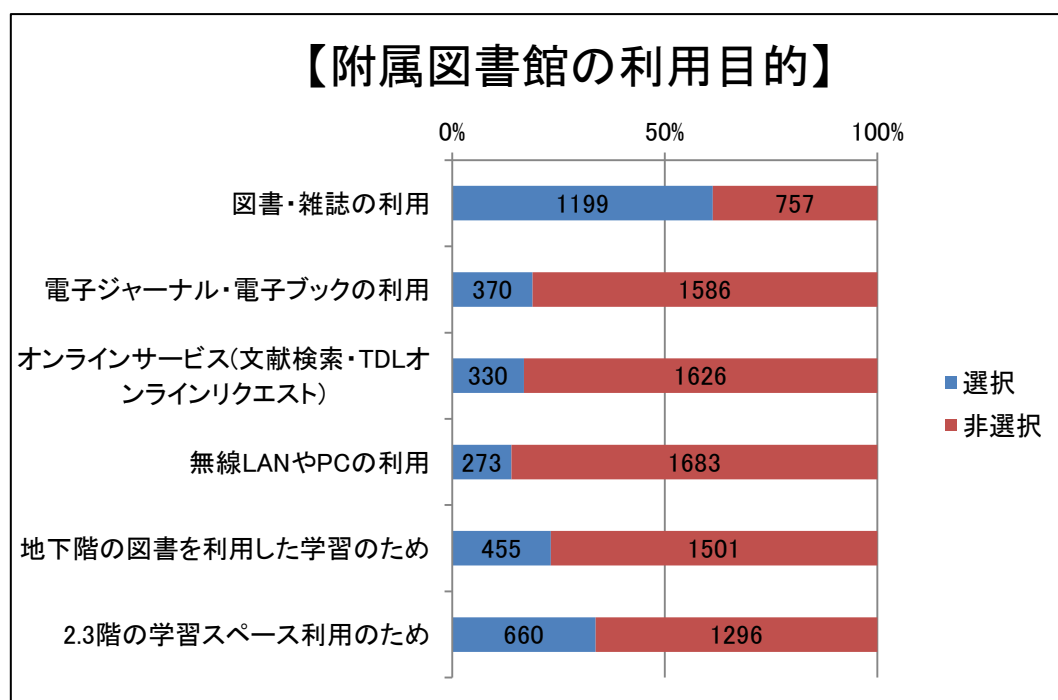


図 7.1-2 附属図書館の利用目的



7.2 蔵書について

提言概要	蔵書の拡充について
学生の意見	図 7.2-1 (充実させてほしい資料) のように参考書・専門書の拡充を求める声が多く最も多くなっています。蔵書の拡充に関する要望は自由記述で合計 142 件寄せられました。理工系の専門書に関する意見が 17 件寄せられ、置いてあるものが古い、特定の分野の物が少ない等の意見がありました。 自由記述で多くみられた意見として、文系図書を増やして欲しいという意見が 90 件、中でも小説や文学作品に関する意見が 44 件ありました。
具体的内容	・近年出版された専門書が少ない気がするので、最新のものを置いて欲しい (同様の意見 5 件) ・生命理工学系、宇宙論、物理、地学、有機化学の専門書が少ないので置いて欲しい (各 1 件) ・普通の小説や文学作品をもっと置いて欲しい (同様の意見 20 件) ・新書や文庫本、ビジネス書など (ベストセラーとなっている作品) も置いて欲しい (同様の意見 14 件) ・文系の専攻や授業をサポートする書籍を置いて欲しい (同様の意見 8 件)
現状分析	参考書や専門書は多く置かれていますが、さらなる拡充を求める声が多くあります。学部生は学習に用いる参考書、大学院生は研究に用いる専門書を必要としており、特に専門書については自由記述からもさらなる充実が求められています。 理系図書に比べて文系の本、文庫や新書、文学作品等は少なく感じられます。本学には社会工学専攻や価値システム専攻など文系的な素養も重要となる専攻もあり、また文系の授業も増えてきているため、そのような専攻・授業をサポートするためにも文系書の充実が必要です。また、理系専門書は時間と共に内容が古くなります。最先端を研究する本学学生のために常に新しいものを取り入れていく必要があります。 図書館へのキャンパスミーティングで蔵書の拡充について聞いてみたところ、現在、図書の購入方法には①教員の推薦②学生からのリクエスト③図書館職員による選定の 3 種類があるそうです。学生からのリクエストは、図書館のオンラインサービスや受付にあるリクエスト用紙にて受け付けているそうです。本学の附属図書館は、市区町村の図書館には置いていない理系専門書の充実を第一と考え本を購入しているため、文庫本や新書等は予算の関係もあり充実させるのが難しいようです。



学勢調査 2010 以前との比較	前回と大きな変化はなく、理系参考専門書の充実を求める声が一番多く、その次に多いのは文系図書を求める声となっています。
提言	学生の教養を深めるためにも文系書の拡充が必要です。著名なものだけでも文系書の拡充を提言します。また、理系専門書は他に頼りとする図書館もないため、より一層の充実が必要です。 学生側も、置いてほしい本があれば積極的にリクエストをしてみてもいいでしょうか。

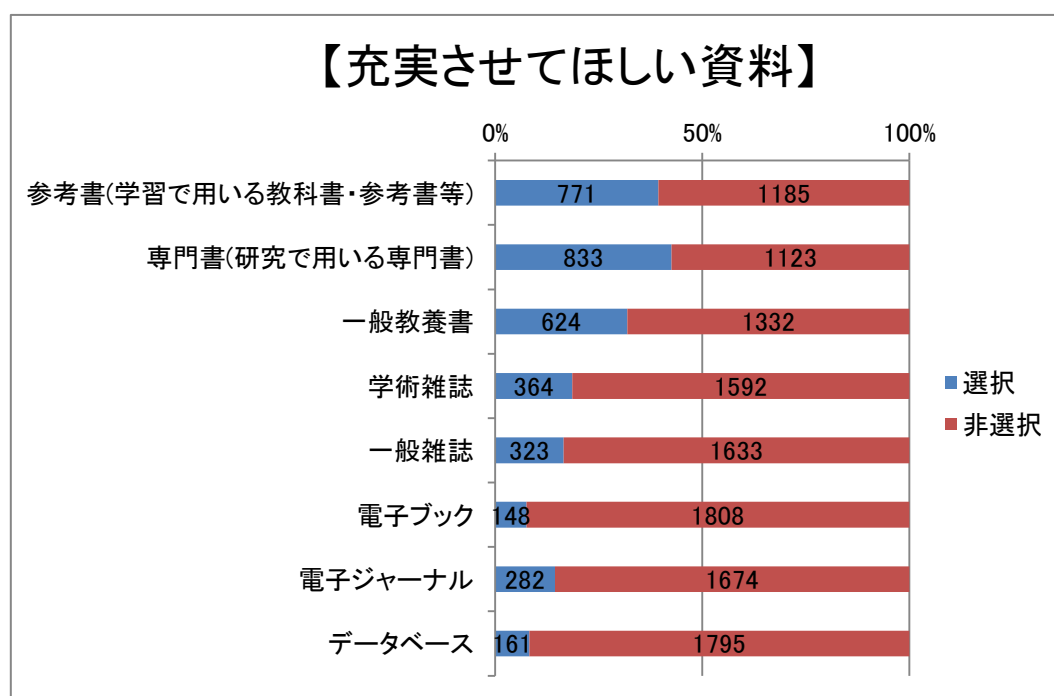


図 7.2-1 充実させてほしい資料



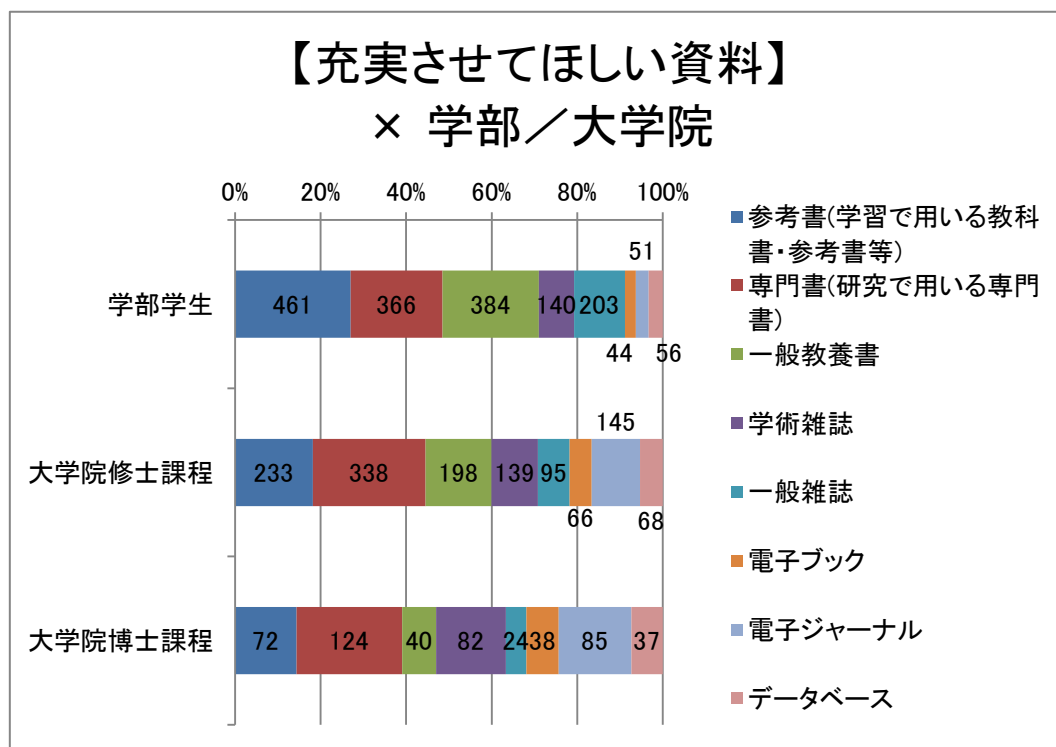


図 7.2-2 充実させてほしい資料×学部/大学院

7.3 設備について

提言概要	設備の改善について
学生の意見	設備の改善に関する要求が合計 95 件寄せられました。主に以下の 4 点に関する要望が多くありました。 ・適切な室温の保持と換気の要求(同様の意見 53 件) ・携帯電話の電波改善要求 (同様の意見 12 件) ・床からの騒音に対する改善要求 (同様の意見 10 件) ・飲食ができるスペースの要求 (同様の意見 11 件)
具体的内容	・夏は暑くて集中できなかった、もう少し冷房をしっかりとかけて欲しい。 ・(地下は特に) 換気が行き届かず空気が悪い気がする。 ・地下は特に携帯電話の電波が通らないので、友達と連絡を取るために通るようにして欲しい。 ・足音が響いてうるさいので、床をカーペットにするなどして欲しい。 ・2、3階だけでも、あるいは飲むだけでもよいので、自由に飲食ができるスペースが欲しい。



現状分析	図書館設備についての現状分析および図書館へのキャンパスミーティングにより得られた話をまとめると以下のようになります。 地上の学習スペースは窓が全てガラス張りで熱が簡単に出入りするため空調を運転しても温度調節が行き届きにくくなっています。大学全体で節電に努力しているため空調の使用に制限はありますが、学生の要望があればその都度対応しているようです。設計上は地下でも空気が循環するようになっているようです。 図書館は厚いコンクリートの壁で作られ地下にあるため、一部窓の近くなどを除いて、携帯電話の電波が通りにくくなっています。ただ、図書館は電話をするための場所ではないので、現状を維持しているようです。 床が固いので普通に歩くだけでも足音が大きくなり響きます。カーペットにする案もあったそうですが、アレルギーの観点から取りやめとなったそうです。台車の使用には音が立たないように対処しているようです。 以前はリフレッシュルームで飲食できましたが、現在はそれができなくなっています。これは、図書館は食事場所ではない、新図書館のリフレッシュルームは窓がないためにおいがこもる、新しい図書館なのできれいに使いたい等の理由があるそうです。しかし、土日で図書館に勉強しに来た時に昼食をとろうと思ったら、特に雨の日は周りに弁当を食べる場所がありません。
学勢調査 2010 以前との比較	前は施設に関する要望はなく、新図書館となった今回の学勢調査では自由記述に多くの意見が寄せられました。
提言	図書館を学習場所として利用する学生は多いため図書館の環境は学習の質に影響します。特に騒音や空調の問題は重要ですので、そのような設備に対策を施すことを提言します。また、全学での取り組みが必要となるかもしれませんが、図書館内もしくは周辺での飲食可能場所の設置も検討する必要があります。

7.4 すずかけ台図書館について

提言概要	すずかけ台図書館について
学生の意見	すずかけ台図書館に蔵書を増やして欲しいという意見が 11 件ありました。 また、すずかけ台図書館がすずかけ台地区の端に位置するため、立地場所に関する改善要求が 3 件ありました。



7. 図書館関連

具体的内容	・すずかけの図書館も大岡山並みに本をそろえて欲しい。 ・取り寄せはできるが、実物を見て判断できない。 ・敷地のはずれにあるため使いにくい。 ・すずかけ門の近くに図書の回収ボックスを置いて欲しい。
現状分析	すずかけ台図書館は大岡山図書館に比べて蔵書数が少なくなっています。取り寄せはできるものの、取り寄せでは本の中身を見て借りる本を選ぶことができず、目的の本を見つけるのに手間がかかってしまうことは否めません。また、すずかけ台の図書館は敷地の端にあり、図書館を利用するのに時間がかかります。 図書館へのキャンパスミーティングですずかけ台図書館について話を聞いたところ、大岡山とすずかけ台で同じ本を購入すると蔵書の種類が減ってしまうため、なるべく多くの本をそろえるため同じ本を置くことは避けているようです。また、すずかけ門近くにポストを設置するのは、管理や返却日の判断が難しくなる等の問題から難しいようです。
学勢調査 2010 以前との比較	前回は今回と同様に、すずかけ台図書館の蔵書拡大要求と立地に関する意見が寄せられました。
提言	次回、すずかけ台図書館を建造する際には場所についてよく検討する必要があります。



8. 生協関連

8.1 弁当・食堂関係

8.1.1 学内食堂の値段について

提言概要	学内食堂の値段について
学生の意見	現在のメニューが高いので、安いメニューが欲しい。
具体的内容	・値段を下げてほしい！！ ・学食をより安くして欲しい。 (同様の意見が 6 件寄せられました) ・現在あるメニューよりもっと安いメニューを作してほしい。 (同様の意見が 9 件寄せられました)
現状分析	学内食堂に対する安価なイメージを受け、現状では学生の過半数が値段の安いメニューを増やしてほしいと考えています。(図 8.1.1-2) 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 学内食堂の値段は基本的に事業連合による商品提案に基づいて決定されます。そのまま利用する大学もありますが、一部を差し替える大学もあります。そのため大学間の値段の差はほとんどありません。2013 年度より麺類の値下げが予定されています。
学勢調査 2010 以前との比較	2008 年では 29 件、2010 年では 38 件の値段に関する意見が寄せられました。意見数は減少していますが、設問形式が変わっているため、学生の値段への不満が一概に解消されたとは言えません。しかし、図 8.1.1-4 より、学内食堂の値段が適切だと考える学生の割合は増えており、改善傾向にあります。
提言	学内食堂の値段について、現状維持をお願いします。



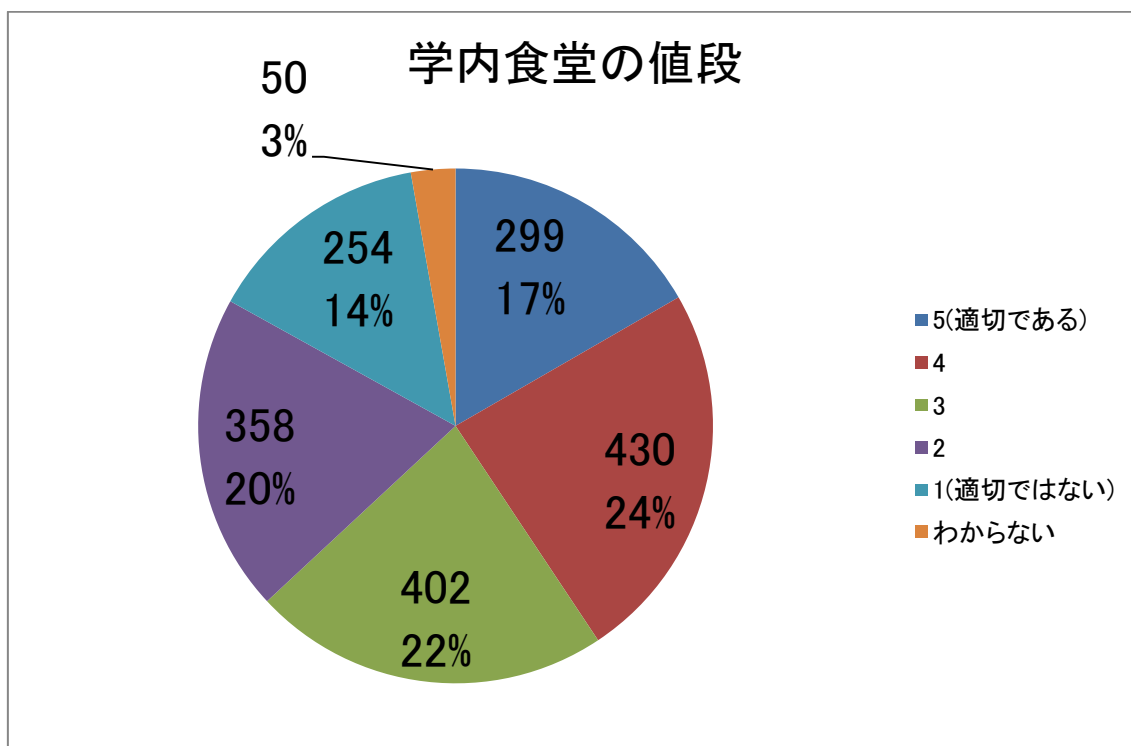


図 8.1.1-1 学内食堂の値段

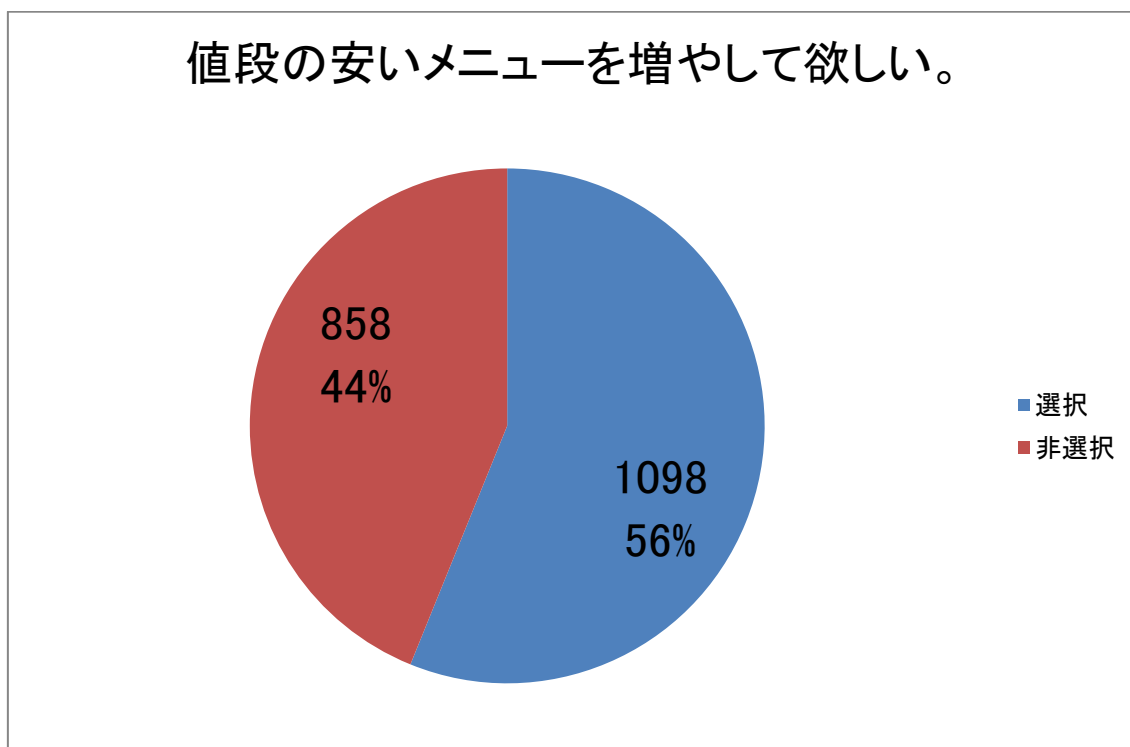


図 8.1.1-2 値段の安いメニューを増やして欲しいか



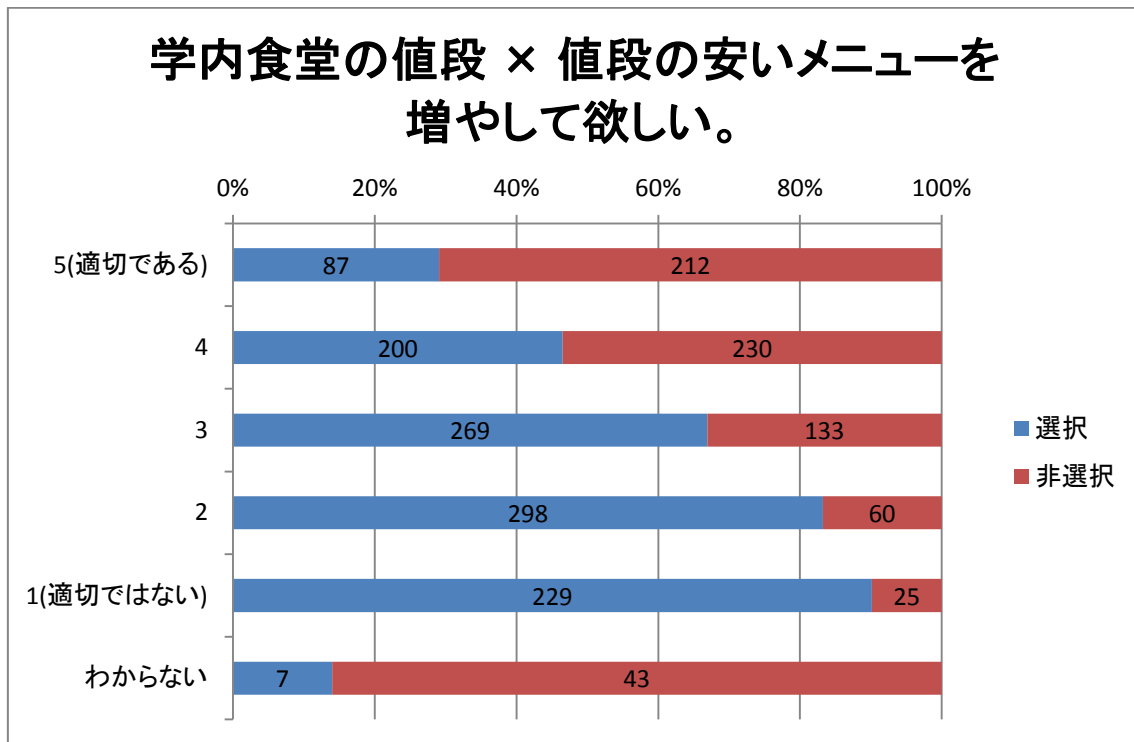


図 8.1.1-3 学内食堂の値段 × 値段の安いメニューを増やしてほしいか

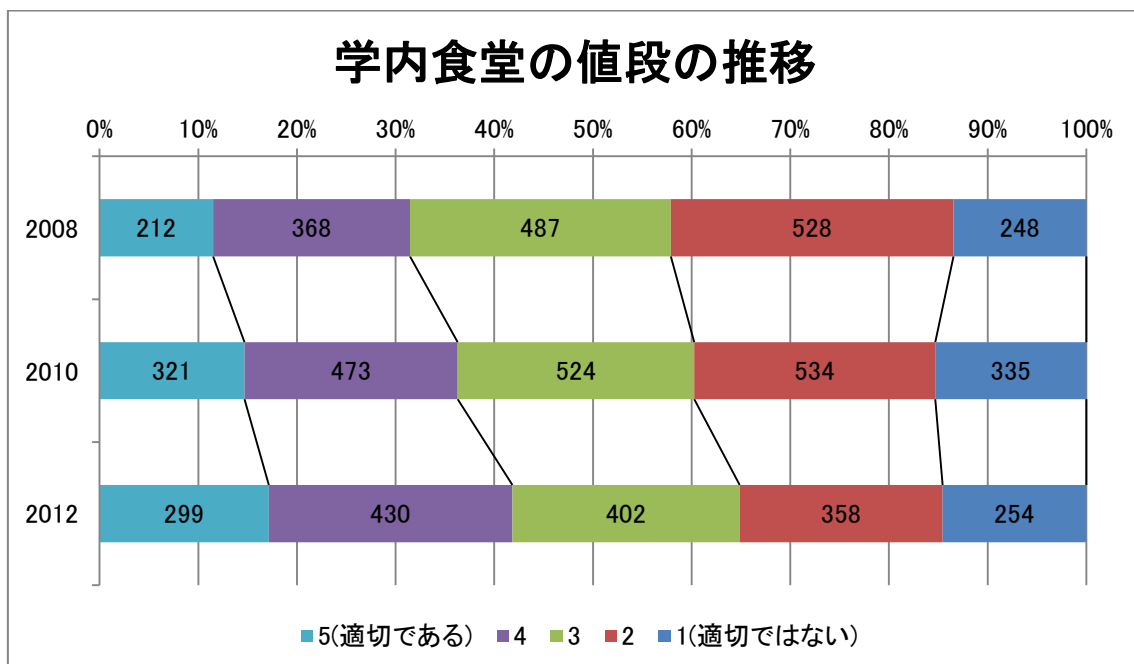


図 8.1.1-4 学内食堂の値段の推移



8.1.2 学内食堂の味について

提言概要	学内食堂の味について
学生の意見	油っぽく、食べづらいメニューが多い。
具体的内容	・油っぽいメニューが多い。 (同様の意見が 4 件寄せられました) ・まずい。まずすぎる。上の選択肢に「美味しくしてほしい」という項目が無いのは理解に苦しむ。特に麺類がひどい。カップ麺の方がよほどマシなレベル。 ・生協はおいしくない。 (同様の意見が 8 件寄せられました) ・安くておいしいものが欲しい。 (同様の意見が 8 件寄せられました)
現状分析	安い、多いだけでは満足できない学生がいる一方で、図 8.1.2-1 を見る限り、おいしくないと感じている学生は多数派ではないようです。 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 レシピは基本的に事業連合による商品提案に基づいて決定されます。そのまま利用する大学もありますが、一部を差し替える大学もあります。そのため大学間のレシピの差はほとんどありません。同じメニューを出していても、できたてで提供できるか等の要因で味は変わる可能性があります。調味料の見直しはできます。例えば、現在、ハウスのカレーを使用していますが、SB 食品のものと比較検討しています。ラーメンについては、難しいです。支払いをしている内に、伸びてしまいます。食べる時の評価なので、ピーク中に食べる人と、閑散期に食べる人で評価が異なります。作業効率の関係上、ベースとなる調味料を入れた上でお湯を入れていたり、冷凍麺を使用していたりするので、味を追求することは困難です。 東工大と海洋大で、試作をすることもあります。東日本の 4 地区でメニュー開発をしていて、共同制作のメニューと東工大で作っているメニューの比率は 8:2 くらいです。
学勢調査 2010 以前との比較	2008 年では 14 件、2010 年では 20 件の味に関する意見が寄せられました。毎回、一定の割合で学内食堂のメニューが油っぽい、おいしくないと感じている学生がいるようです。しかし、図 8.1.2-2 より、学内食堂の味が美味しいと思っている学生の割合は増えており、改善傾向にあります。
提言	学内食堂の味について、現状維持をお願いします。



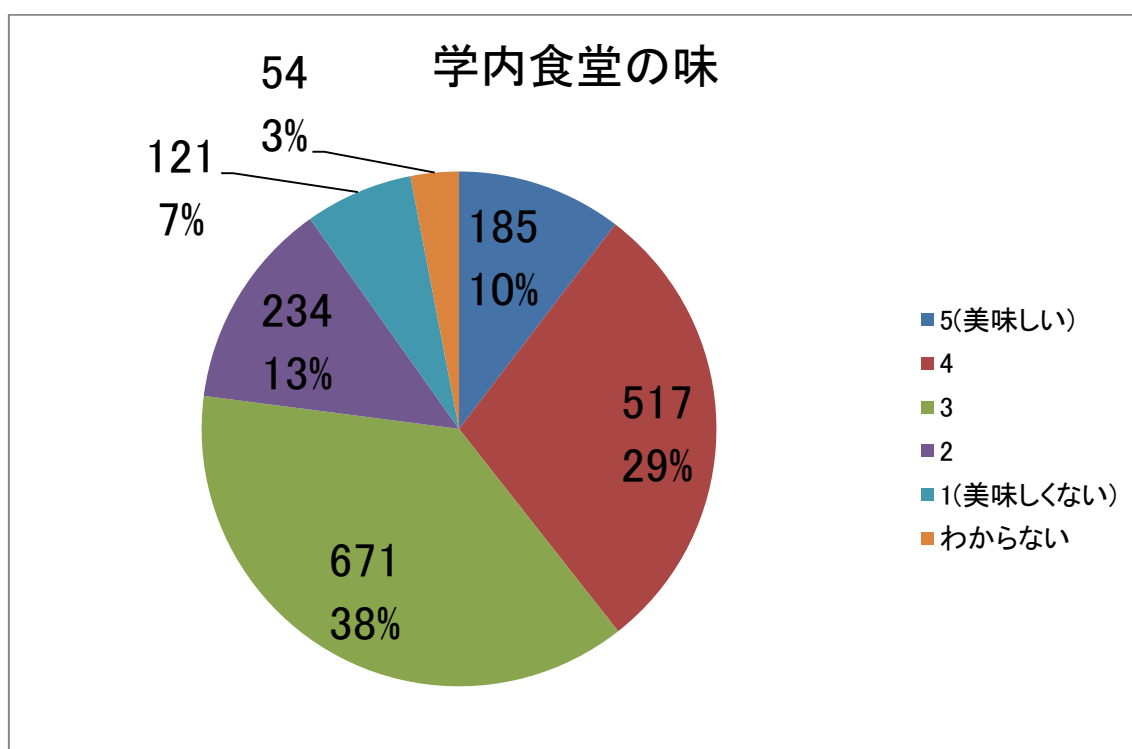


図 8.1.2-1 学内食堂の味

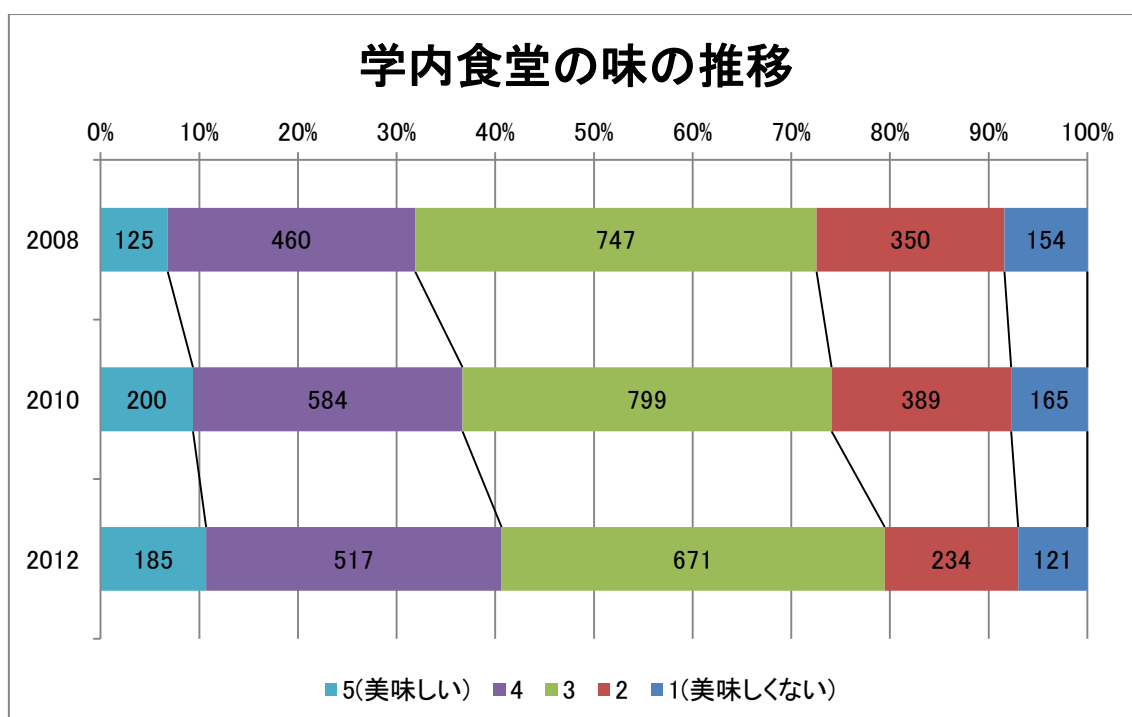


図 8.1.2-2 学内食堂の味の推移



8. 生協関連

8.1.3 ハラルメニューについて

提言概要	ハラルメニューの充実
学生の意見	ハラルメニューを増やしてほしい。
具体的内容	・ more HALAL food please ・ increase the Halal Food Menu (同様の意見が 4 件寄せられました)
現状分析	東工大には留学生も多く、宗教・文化に対応したメニューの充実を求めている人も一定数います。 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 ハラルメニューの材料は事業連合で仕入れています。現在、ハラルメニューは旧帝大くらいにしかありません。東工大では、すずかけ台で調理したものを冷凍し大岡山に輸送しています。2013 年度に向け、新たなハラル食材でハラルメニューが提案できるよう新年度スタートに合わせた準備が連合理事会で進められています。
学勢調査 2010 以前との比較	2010 年では 13 件のハラルメニューの充実を求める意見が寄せられています。ハラルメニューの要望は減っており改善されています。しかし、東工大には留学生が多いため、可能であればより一層の充実が求められます。
提言	ハラルメニューの充実をお願いします。

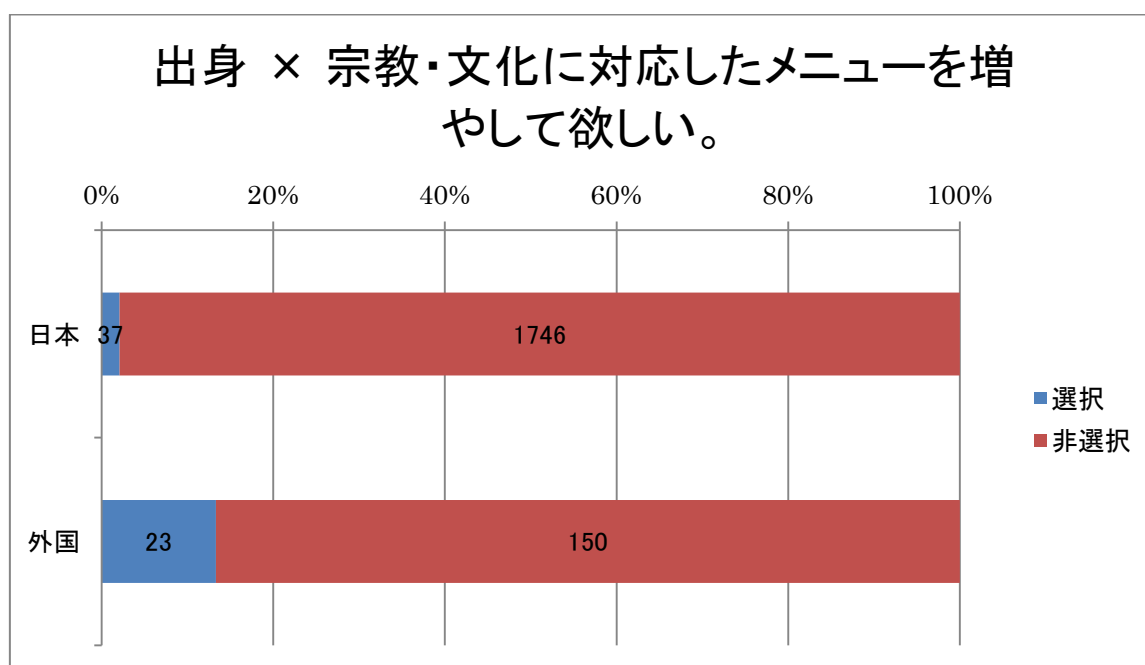


図 8.1.3-1 出身×宗教・文化に対応したメニューの充実



8.1.4 健康志向のメニュー・ボリューム重視のメニューについて

提言概要	健康志向のメニュー・ボリューム重視のメニューについて
学生の意見	健康志向、ボリューム重視のメニューを充実させて欲しい
具体的内容	・つけあわせの野菜を増やして欲しい。 ・野菜の煮物系のおかずが増えとうれしいです。 (同様の意見が 8 件寄せられました) ・安くてボリュームのあるメニューが欲しい。 ・多くて安いメニューがほしい。 (同様の意見が 4 件寄せられました) ・魚料理を増やしてほしい。 ・すずかけ台の魚の種類を増やしてほしい。サバとさんましかありません (同様の意見が 6 件寄せられました) ・ヘルシーなものがない。 ・減塩食品を増やしてほしい。 (同様の意見が 5 件寄せられました)
現状分析	安価なメニューの充実以外にも、学生からは様々な意見が出ています。特に、魚や野菜などの健康志向のメニュー、ボリューム重視のメニューの要望が多いです。 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 メニューは基本的に事業連合による商品提案に基づいて決定されます。そのまま利用する大学もありますが、一部を差し替える大学もあります。東工大では主にガッツリ系・ヘルシー系の 2 系統でメニューが決定されています。
学勢調査 2010 以前との比較	2010 年では 25 件のメニューに関する意見が寄せられています。件数的にはあまり変わっていません。
提言	健康志向、ボリューム重視のメニューのさらなる充実の検討をお願いします。



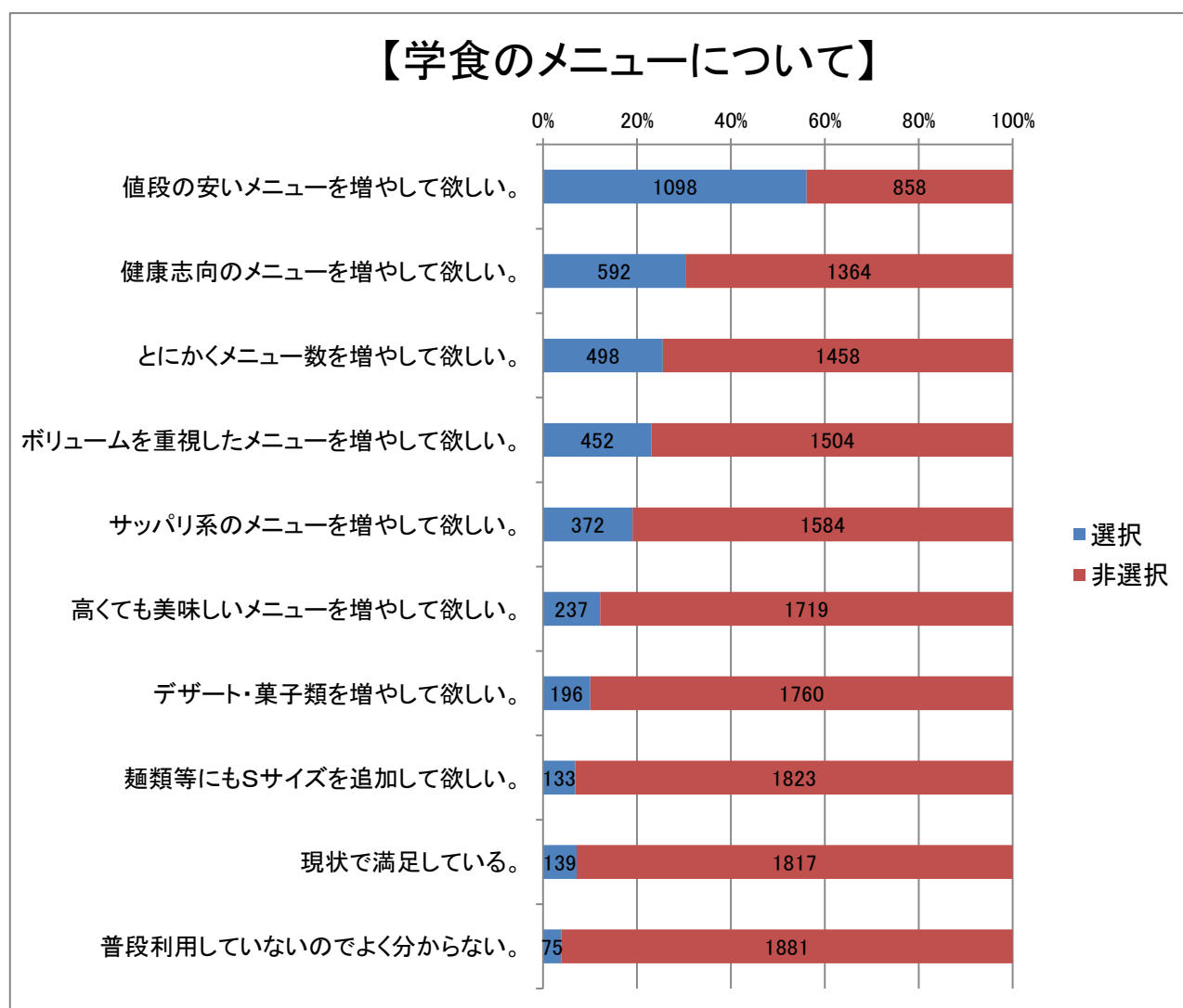


図 8.1.4-1 学食のメニューへの要望

8.1.5 定食・セットメニューの追加について

提言概要	メニューの組み合わせの提案
学生の意見	定食やセットメニューがほしい。
具体的内容	・安い定食を用意して欲しい。 ・セットメニューを導入して欲しい。 (同様の意見が 6 件寄せられました)
現状分析	現在、大岡山には定食やセットメニューがありません。すずかけ台には数種類あります。 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 以前は大岡山にも定食やセットメニューがありましたが、作業効率の関



	係上、全て廃止されました。その代わり、主菜メニューが増えました。すずかけ台での生協組合員懇談会の場で、生協食堂での「おすすめ組み合わせの提案をしてほしい」という声があがりました。そうした声に応じて、組み合わせ例の案内が2013年2月よりホームページ上や公式ツイッターで始まりました。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	メニューの組み合わせの提案をこれからもお願いします。

8.1.6 衛生管理について

提言概要	衛生管理について
学生の意見	衛生管理の要望
具体的内容	・とにかく衛生的であってほしい。 ・マスク等、調理員の髪・唾液が入らないような工夫をしていない。非常に不快。 ・2食をきれいに使いやすくしてほしい。
現状分析	現在、厨房で働く人のマスク、ヘアキャップ、手袋等の着用は義務化されていません。件数的には少ないですが、不快に思っている学生もいるようです。 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 食堂では衛生マニュアルに沿って手洗い、髪の毛、食材の保管の衛生管理が行われています。厨房でマスク着用を義務付けている大学はありません。弁当調理の際は、マスク着用を義務づけています。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	衛生管理について、継続的な徹底をお願いします。

8.1.7 その他の具体的な要望

質問概要	その他の具体的な要望
学生の意見	具体的な要望
具体的内容	・小鉢のバリエーションが欲しいです。 ・ささみチーズカツ弁当を毎回欲しい。



8. 生協関連

	・回鍋肉を1年中出してください。 ・1年中「冷やしキツネうどん（細麺）」が食べたいです。 ・麺類の米粉使用など、食料自給率に貢献するメニューがあると面白い。 ・L サイズよりさらに大きいサイズのご飯をメニューに入れてほしい。M サイズのみのメニューがあるが、L サイズも入れてほしい。 ・More items that aren't based on rice. ・ご飯持ち込みに対応したメニューが欲しい。カレーとか。 ・牛肉食べたい。 ・飲み物などを充実させてほしい。 ・座席数を増やして欲しい。生協弁当の種類を増やして欲しい。 ・麺類の所に人を増やしてほしい。 ・麺類メニューの入れ替えをなくしてほしい。 ・揚げ物が多い。焼きそばやそうめん、お好み焼きなど主食メニューを増やしてほしい。 ・値段のレートが謎。例：トン汁(小トン汁-割高, 大トン汁-値段2倍, サイズも2倍), チキンガーリック(2個189円, 3個298円, 4個334円, 3個の場合の値段設定が謎) ・生協の店員の接客マナーが悪い。客が学生だからといって手を抜かないでほしい。
提言	具体的な要望として大きな特徴は見つからなかったもので、学勢調査としては提言を行いません。上記のように様々な要望がありますので、今後の参考にしてください。

8.2 施設関係

8.2.1 食堂の混雑について

提言概要	昼時の混雑の対策・待ち時間の短縮
学生の意見	座席が少なく配置が非効率で、昼時の食堂が混んでいる。
具体的内容	・座席数を増やして欲しい。 ・座席の配置上の問題がある。 ・第一食堂の座席・人の動線が非効率だと感じる。第二食堂のような改善を図って混雑を緩和してほしい。 (同様の意見が4件寄せられました) ・昼時の食堂混みすぎ。



	・食堂のメニュー、システムに関しては満足しているが、食事スペースがいっぱいのために利用できないことがある。 ・具体的に言うとまず待ち時間が長い。5～10 分程待たされることもあるような気がする。麺類は仕方ないとしても定食等なら 2～3 分の待ち時間になればと思う。 (同様の意見が 10 件寄せられました)
現状分析	座席数の増設により、通路が狭くなりました。昼休みには食堂が大変混雑し、待機列が入り口の外にまで伸びています。 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 第 1 食堂では 80 席ぐらい（テーブル 20 個ぐらい）増設されました。その結果、12 時から 1 時間は客が増えましたが、前後で減ったので、ピークに対応しただけとなってしまいました。第 1 食堂は昔、定食の食堂だったのですが、無理矢理カフェテリアにしたため、動線が複雑になってしまっています。現在、事務室の横を出口にする等の改善案が考えられています。しかし、そもそもの広さは以前から変わっていないため困難です。第 2 食堂は、もともと食堂として作られているわけではなく、増築したことにより複雑な構造になってしまっています。
学勢調査 2010 以前との比較	2008 年では 50 件、2010 年では 25 件の混雑に関する意見が寄せられました。それと比較すると食堂の混雑への不満は多少落ち着きました。
提言	より効率的なレイアウトへの変更をお願いします。 大学の研究の一環として機能的な配置を考えることはできないでしょうか。

8.2.2 営業時間について

提言概要	営業時間の延長
学生の意見	食堂、購買の営業時間が短いので、伸ばしてほしい。土日も開けてほしい。
具体的内容	・二食を土曜日でも営業してほしい。 ・食堂がもう少し早く開くと嬉しいです。 ・土日休日でも生協の食堂を利用できるようにしてほしい。 (同様の意見が 9 件寄せられました) ・社会人学生に門戸を拓けているのであれば、土曜日に生協の売店等を開けて欲しい。でないと、折角の生協が社会人学生（在田町）には使えないので。



8. 生協関連

	・生協の開店時間を延ばしてほしい。 (同様の意見が 7 件寄せられました)
現状分析	大岡山第 2 食堂 平日 11:00-20:00 大岡山購買書籍店 平日 10:00-18:00 すずかけ台食堂 平日 11:00-20:00 土曜 11:30-14:00 すずかけ台購買書籍店 平日 10:00-21:00 土曜 11:00-14:00 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です 第一食堂の土曜日営業が検討されています。土曜日はサークル活動の利用が多く、夕方のパーティーで食堂が利用されることも多いので、従業員の方々は土曜日にも出勤しています。そのためフルメニューは難しいですが土曜日の営業は可能です。朝は営業しても利用客は少ないと予想されます。ミールカード（生協食堂年間利用定期券）を導入すると同時に営業時間を延ばす事は考えられています。これは 2013 年度ではなく 2014 年度での課題です。ミールカードは東京では 20 大学くらいで始められる予定です。システム投資が必要なので、検討中です。購買に関しては、検討はされていません。大岡山購買は、食品が少ないので、経営効率の観点から土曜日の営業はできません。
学勢調査 2010 以前との比較	2008 年では 28 件、2010 年では 20 件の営業時間の延長を求める意見が寄せられました。土日営業を求める声はいずれの調査でも多いです。
提言	第一食堂の土曜日営業をお願いします。

*ミールカード・・・購入すると一年間、一日の限度額まで生協食堂を自由に利用できます。

8.2.3 石川台・緑が丘の弁当販売、食堂・購買新設について

提言概要	石川台地区・緑が丘地区への食堂、購買の新設
学生の意見	石川台や緑が丘から大岡山の食堂が遠いので、石川台や緑が丘にも食堂や購買がほしい。
具体的内容	・石川台に食堂。 ・石川台地区にも学食が欲しい。 (同様の意見が 21 件寄せられました) ・緑が丘地区に生協または売店が欲しい。 ・緑ヶ丘地区に学食、または類するものが欲しい。 (同様の意見が 23 件寄せられました。)



現状分析	以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 販売する場所に手洗い設備がなければならぬため、石川台地区では石川台1号館の3階に弁当販売場所があります。売れ行きは現状維持、または微減です。出店をするのは、生協だけではできません。食品衛生法の許可や場所が必要です。経営効率の観点から石川台地区、緑が丘地区での食堂新設は無理です。少人数の専門的な講義棟、点在型のキャンパスでは困難です。購買新設は生協だけではできませんが、大学が場所を提供するならば積極的に検討したいと考えています。
学勢調査 2010 以前との比較	2008 年では 32 件、2010 年では 46 件の食堂や購買の新設を求める意見が寄せられました。緑が丘地区に関する意見が増えています。
提言	石川台地区および緑が丘地区に生協が購買を新設するためにはスペースが必要です。その場所の提供を大学側で検討願います。

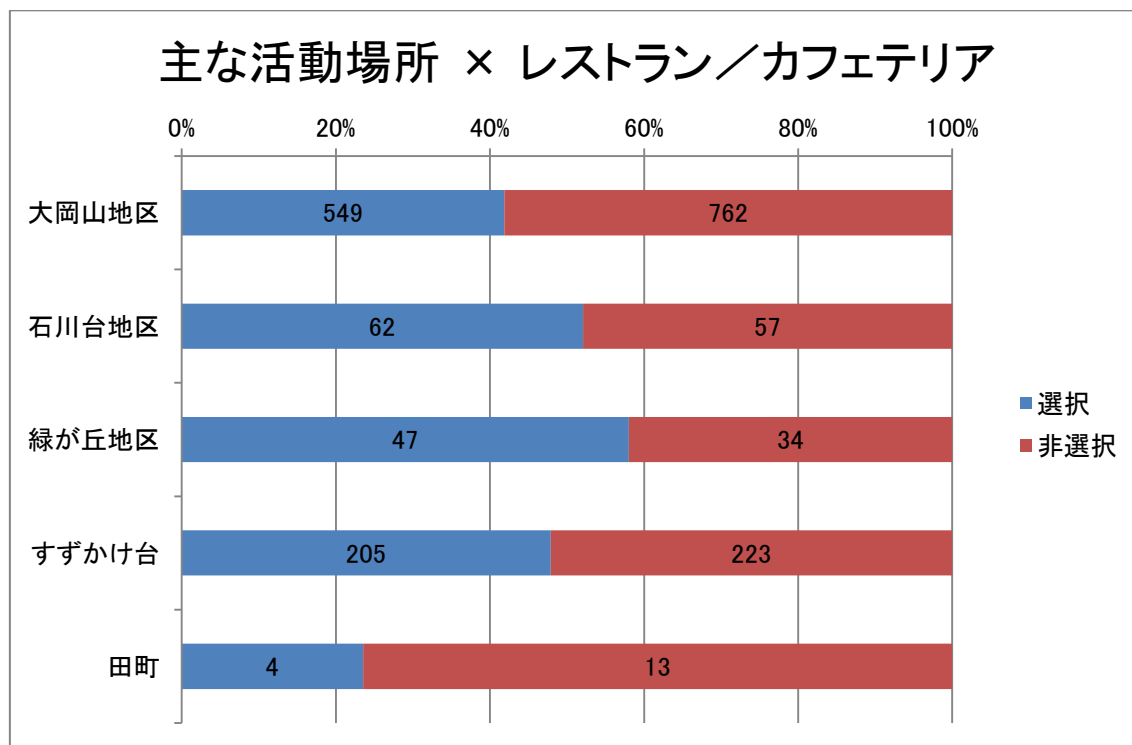


図 8.2.3-1 主な活動場所×レストラン／カフェテリアが欲しいか



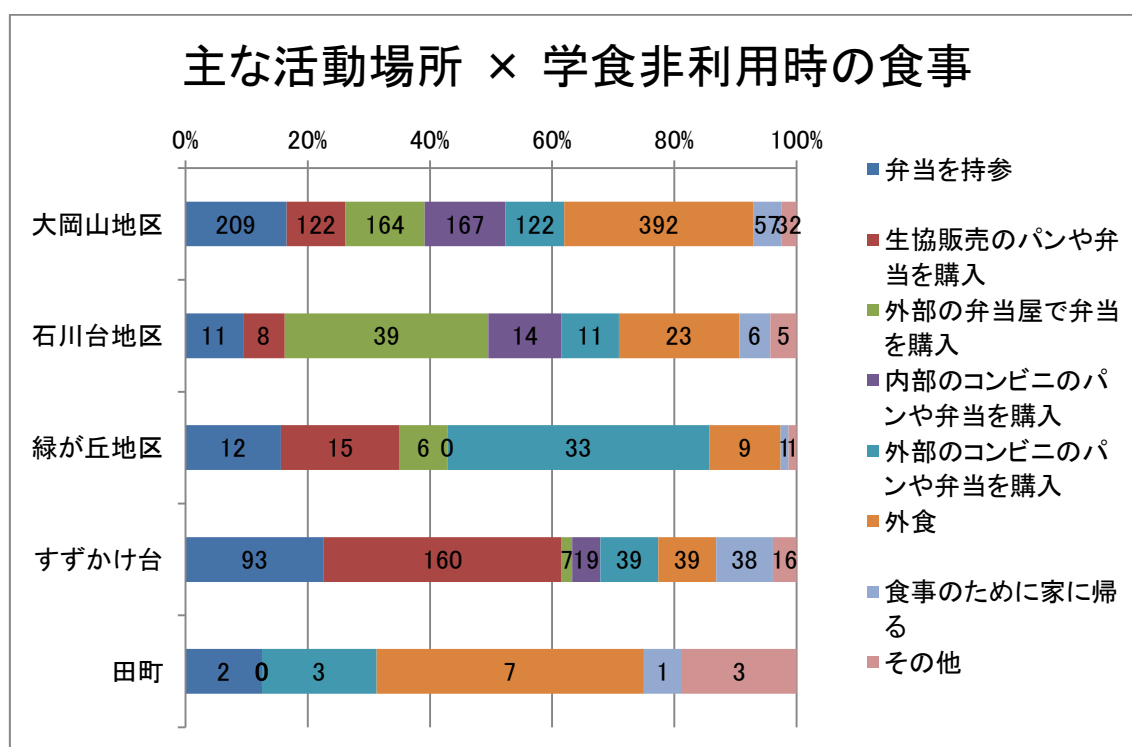


図 8.2.3-2 主な活動場所×学食非利用時の食事方法

8.2.4 大岡山の購買について

提言概要	大岡山の購買の拡充
学生の意見	購買を充実して欲しい。
具体的内容	・生協の書籍の品揃えが、東大本郷の理工系書籍スペースと比較して貧弱。 ・電子部品の出張店舗（秋月、千石通商など）、生協の扱う PC 関係用品類の充実。 ・生協の充実を切に願う。他大に比べて明らかに貧弱である。理系単科大学ということに縛られないで行って欲しい。 （同様の意見が 20 件寄せられました）
現状分析	理工系書籍の充実を求める意見がかなり多くありました。 以下、大学生協とのキャンパスミーティングで得られた情報です。 生協としても、購買の規模は明らかに小さいと考えており、特に、食べ物系と書籍の規模が小さいと考えています。学生からの意見で一番多く言われることは、本がないことです。東工大は、他の大学と異なり、書籍の品揃えを良くすればするほど売れるため、場所があればまず書籍を充実させたいと考えています。食べ物系も充実させたいと考えています。



学勢調査 2010 以前との比較	2008 年では 38 件、2010 年では 5 件の大岡山の購買の充実を求める意見が寄せられました。
提言	大岡山キャンパスの購買の敷地面積拡張をお願いします。

8.2.5 すずかけ台の食堂・購買の拡充について

提言概要	すずかけ台の食堂・購買の拡充
学生の意見	すずかけ台の食堂・購買を充実させて欲しい。
具体的内容	・すずかけの生協にお酒を置いてほしい。 ・すずかけ台の飲食施設を充実させて欲しい。生協の品揃えを増やすなど。 ・すずかけ台キャンパスは木曜日に昼食を取ることが困難なので何かしら対策が欲しいです。 (同様の意見が 15 件寄せられました)
現状分析	すずかけ台には店数が少ないので、生協の拡充を要望する声が多くありました。 すずかけ台には店が生協しかありません。すずかけ台は大岡山に比べ、コンビニ系の商品が多く、本やパソコンが少なくなっています。 すずかけ台では 2013 年 2 月から酒類の販売が開始されました。スペースの問題上、今のままでは品揃えをより充実させることは困難です。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	すずかけ台キャンパスの購買の店舗面積拡張をお願いします。



9. 防災関連

9.1 避難について

9.1.1 震災当日の避難誘導について

提言概要	震災当日の避難誘導について
学生の意見	避難指示等の情報伝達がうまくなされなかった。
具体的内容	・地震の際、大岡山地区から石川台地区への避難指示等の情報伝達がうまくなされていなかったように思う。あと、学内放送は窓を閉めていると聞こえないことがよくある。 ・災害があったときに、情報をどのように教職員に知らせるか考えてほしい。たとえば、食料の配布開始、仮設トイレの設置場所などの連絡をどのように行うか考えておくべきである。 ・昨年の震災時、毛布や非常食等を配布している情報をメールで流していると知って呆れた。首都直下地震がこの瞬間に起きても同じ対応しかできないのか。停電したらどう連絡するつもりなのか今でも疑問。 ・大学というのはその地域の中核機関としても役割を担える機関だと考えます。災害時には多くの人が共存できる場所として今後より一層の防災対策を期待します。特に危険物等の防災時の扱いや対策に関しては重きを置いて欲しいです。 ・今回の避難時には、学内で避難を誘導するアナウンスが流れていましたが、建物、場所によってはそのアナウンスが流れていない、届かないところもあったようです。また、アナウンスが日本語のみであり、留学生や外国人研究者には正確な情報が伝わらない恐れがあります。 (同様の意見が 9 件寄せられました)
現状分析	図 9.1.1-1 より、帰宅困難者への対応を「知らなかった」人と「ロコミ」から情報を得た人を合わせた割合が 8 割に近いことから、大学の情報伝達がほとんど機能していなかったのではないかと危惧されます。窓を閉めていると学内放送が聞こえないといった問題もあり、情報伝達方法の改善が必要だと考えられます。 また、英語での避難案内が行われていないため、日本語が達者でない方(例えば院から留学してきた方)には不親切です。放送を流せる場所が少ないとはいえども学内の誰にでも情報が伝わるよう努力をしていただきたいです。 春休みで学内に居た学生が少なかったですが、もしこれが学期中であったならばどんな事態になっていたか憂慮されます。



学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	学内の放送設備の増強、及び英語によるアナウンスの実施をお願いします。

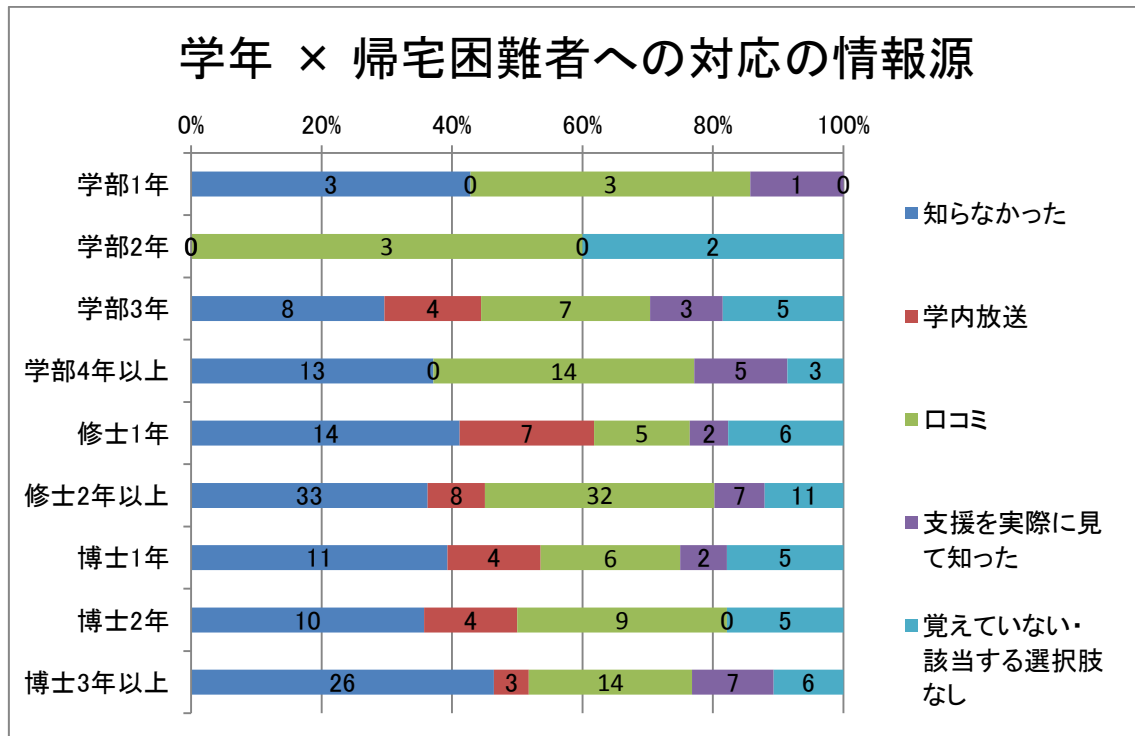


図 9.1.1-1 学年別の帰宅困難者への対応の情報源

9.1.2 避難訓練について

提言概要	避難訓練について
学生の意見	実践的な内容の避難訓練を実施して欲しい
具体的内容	・東日本大震災の際には大学側から何の指示もなく、自主的に避難しました。避難訓練の際には安否確認票の提出などをしていましたが、それらが全く機能しておらず、また、避難場所に大学職員の姿も見えませんでした。今後の訓練では、現実的な内容の訓練を望みます。 ・防災に関して、訓練はどこへやら…という結果。実際はこんなものなのかもしれないが、放送もないし、取りまとめる人間もいなかった(生命理工の団結ぶりと、J2、3棟のまとまりのなさが明確だった)。研究室丸ごとで自主避難したが、自分たちで生きるしかないのだと思った。あの経験をする、今後も繰り返されるであろう避難訓練→待機→点呼に時間の無駄を感じてしまいます。



9. 防災関連

	・災害が起こった後、「あのときあの準備も検討していればよかった、あの訓練をしておけばよかった」と後悔しないように今出来ることをして下さい。 ・昨年の大震災の際、J2 棟では避難指示等が出されなかった。有事に備えて訓練をしているのだから、関係部署が避難誘導・指示を行うべきだったと思う。避難しなかった学生も多くいたので、建物への被害等がもし出ていたら、大惨事になっていたはず。訓練実施の記録だけ残して、それでよしとしないで欲しい。 (同様の意見が 7 件寄せられました)
現状分析	避難訓練が実践的でなく、意味を見いだしてない学生が多くみられます。避難訓練の参加者が少ないのもこれが大きな要因と思われます。もっと実践的な訓練を行うべきです。 また、図 9.1.2-1「地震発生時の行動フローチャート」、図 9.1.2-2「避難所」、図 9.1.2-3「大地震対応マニュアル」について、学年を経るごとに既知率は上がっていきませんが、それでも学生への周知が足りていません。 施設運営部へのキャンパスミーティングでは、大学側も多くの学生に避難訓練の参加をして欲しいとのことでしたが、そのためには今以上に広報する必要があります。現在行っているメールニュースと学内の電子掲示板での広報の他に避難訓練直前の授業での誘導などできることがあるのではないのでしょうか。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	避難訓練を充実させ、多くの学生の参加を促してください。 例えばですが、進級条件として避難訓練を一単位として認める、いま手書きで行われている出席を学生証認証により簡便化する、不参加の学生へはメールでの安否確認訓練をする、などが考えられます。



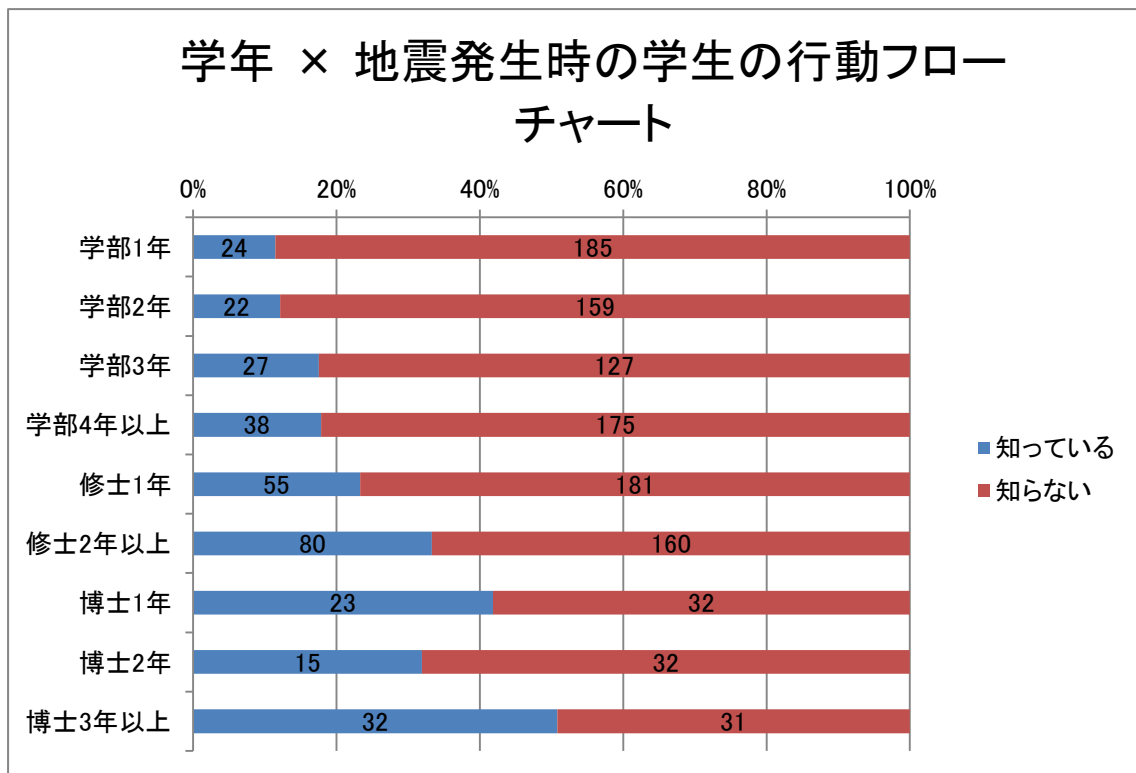


図 9.1.2-1 学年別の地震発生時の学生の行動フローチャート

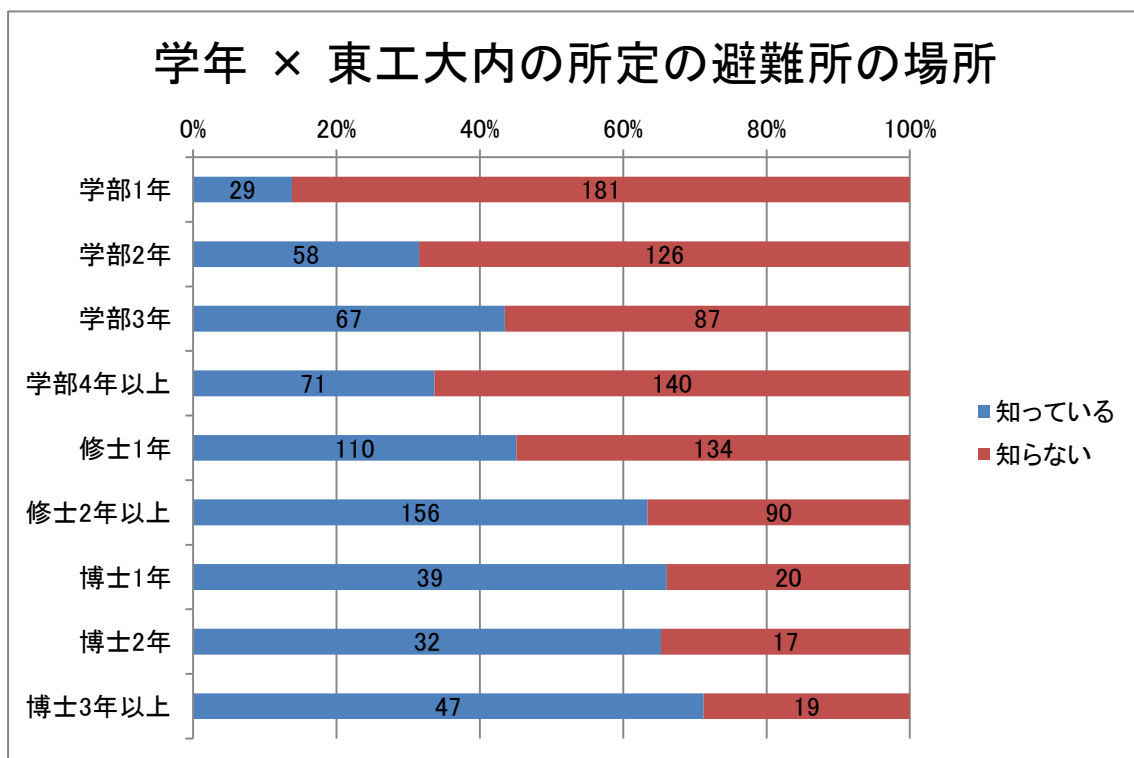


図 9.1.2-2 学年別の東工大内の所定の避難所の場所



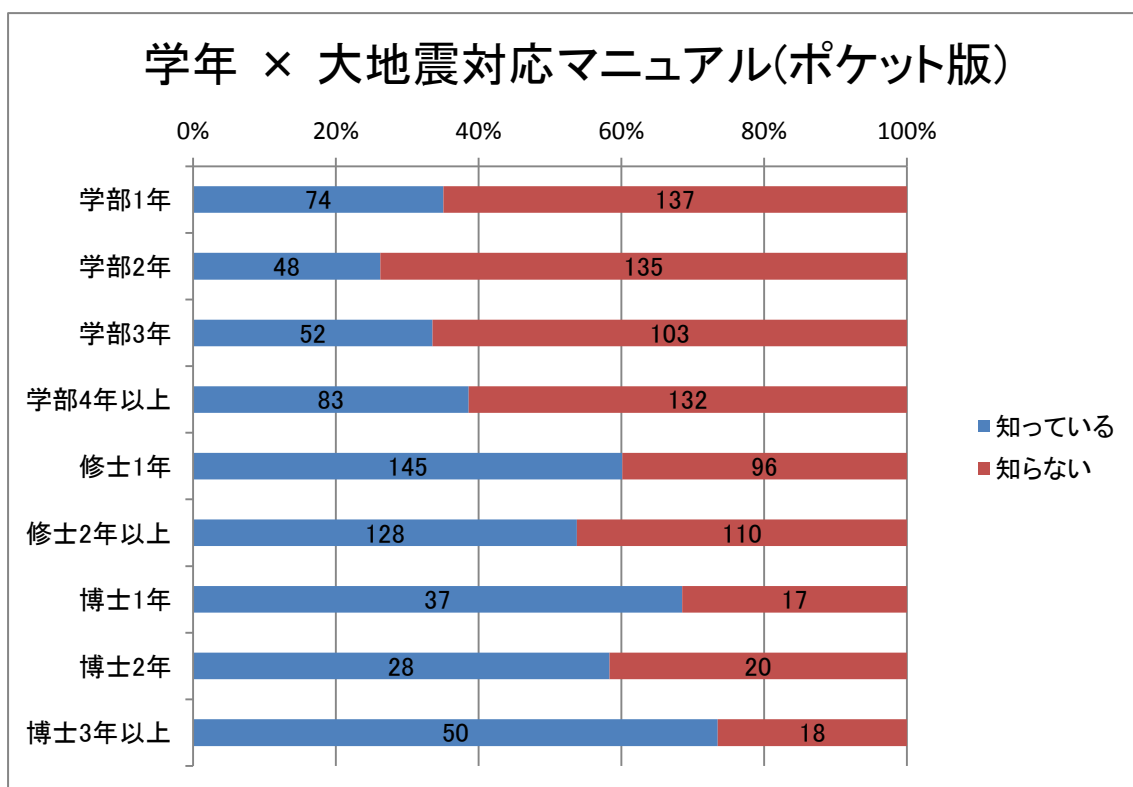


図 9.1.2-3 学年別の大地震対応マニュアル(ポケット版)

9.1.3 緑が丘地区の一時避難場所について

提言概要	一時避難場所について
学生の意見	緑が丘地区に避難するスペースがない
具体的内容	・ 避難場所の確保、緑ヶ丘地区に現在避難場所がないです。 ・ 緑が丘の広場に建物を建てる神経が理解できない。 ・ ただでさえ狭い緑が丘をさらに窮屈にさせる建物づくりはいかがが。 ・ 避難場所。緑が丘の旧避難場所は工事のために封鎖されています。僕たちはどこに逃げればいいのか。 ・ まず何より、緑が丘地区の一次避難場所を指定して欲しい。避難所が工事で使用不能なことに大学側は気づいているのか？ (同様の意見が 6 件寄せられました)
現状分析	工事中は呑川沿いの道が避難場所になっているようですが、学生に十分知られていないのが現状です。工事終了後、広場は元に戻るようですので、それまでの間、避難場所の変更の周知を徹底していただきたいです。
学勢調査 2010 以前との比較	なし



提言	緑が丘地区に限らず、避難場所が変更された場合に、その周知を徹底するようお願いします。
----	--

9.1.4 災害時の対応について

学生スタッフが協議し、まとめたものです。

学生の意見	安否確認情報に連絡先の追加
具体的内容	今回（2011年3月11日の東日本大震災）、全学生に対し安否確認が行われ、学生が大学に報告した情報は、学籍番号、安否状況と現在地でした。これら情報に加え、災害時は確実に迅速に大学と学生とで連絡が取れることが重要になるかと考えられます。 教務課が把握している電話番号、メールアドレスなどの連絡先は、携帯電話の買換えなどにより、古い情報となっている恐れがあります。しかし、氏名や連絡先などを報告情報に加えると、大学と偽った悪質メールではと懸念する学生もいるかと思われます。
現状分析	教務課によると、mドメインの転送設定および有事の際の緊急連絡先の設定は必ず行ってほしいとのことです。現在、新たな安否確認方法を検討中で、気象庁の安否確認システムを導入予定だそうです。基本的には安否確認方法は、メールをベースに考えられていますが、メールや電話が使えなくなれば、安否の確認が困難になることが予想されます。
提言	大学から学生にメールで安否確認連絡をおこなう場合がある旨を伝え、定期的なメール確認及び携帯電話へのメール転送設定を学生に促すことを提言します。

学生の意見	安否確認情報の保護者、家族への提供
具体的内容	今回、全学生に対し安否確認が行われました。この情報は主に大学での対応のために使われると思われますが、保護者、家族からの問い合わせにも対応してはどうでしょうか。
提言	学籍番号を知る保護者からの問い合わせに対し安否確認情報を提供すること、情報提供の問い合わせ先を緊急時はWeb上に公開することを提言します。

学生の意見	応急手当の準備
具体的内容	災害時の応急手当は、保健管理センターが主導で行うかと考えられます。救急セットや知識のない人でも実行できるよう応急マニュアルの用意などが十分に必要と考えられます。
提言	救急セット、応急マニュアルを十分に準備してください。



9.2 配布物資について

9.2.1 配布物資について

学生スタッフが協議し、まとめたものです。

提言概要	配布物資について
学生の意見	配布物資の準備数
具体的内容	2011 年 3 月 11 日の夕方から夜間にかけて、学生・教職員、および避難された方々に対して非常食、水、毛布等の配布が行われました。しかし、配布場所に取りに来てても既に準備数分の配布が終了してしまっており、特に毛布を受け取ることが出来ない人もいたようです。
現状分析	図 9.2.2-1（防災に関する要望）に示す様に、半数以上の人が飲食物の備蓄の充実を求めています。 施設安全企画課によると、震災時、配布された物資の準備数は 2000～3000 個で、実際に配布された数はおおよそ 1000 個でした。また、毛布の準備数は 300 枚ほどでした。現在増やす方向で検討中です。 大学は「広域避難場所」に指定されていますが、長期間滞在する場所ではなく一時的に身の安全を確保する場所のため、本学に避難される方々の人数は考慮されていません。また、広域避難場所として 10 万人が避難してくると想定されているので、そこまで用意することは困難です。
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	学生・教職員に十分行きわたるように配布物資の準備をお願いします。

提言概要	配布物資について
学生の意見	配布物資の内容
具体的内容	今回配布された物資は、非常食（アルファ米、クラッカー）、水、毛布です。近年、こういった防災物資は進化しており、物資の内容を再考すると良いのではないのでしょうか。 例えばクラッカーの場合、保存は効くが、口の中が渴き食べ難いという難点があります。それに対し、現在はパン、麺類の缶詰などもあり、これらは食べやすく、水分も同時に摂取が出来ます。
現状分析	施設安全企画課によると、現在、物資の数を増やす方向で検討されており、予算の都合上、まずは質より量を重視していくようです。
学勢調査 2010 以前との比較	なし



提言

非常食に関しては、食べやすく同時に水分が取れるもの、信仰等に関係なく多くの人が食べられるもの、賞味期限直前に他所に救援物資として送りやすいものを取り入れることを提言します。

防寒具に関しては、毛布のほかに、使い捨てカイロや、比較的安価なアルミ製防寒具を用意することを提言します。

その他、照明が使用不可の際に備え、小型懐中電灯を用意すること、各種電気機器が使えるように、電池を用意することを提言します。

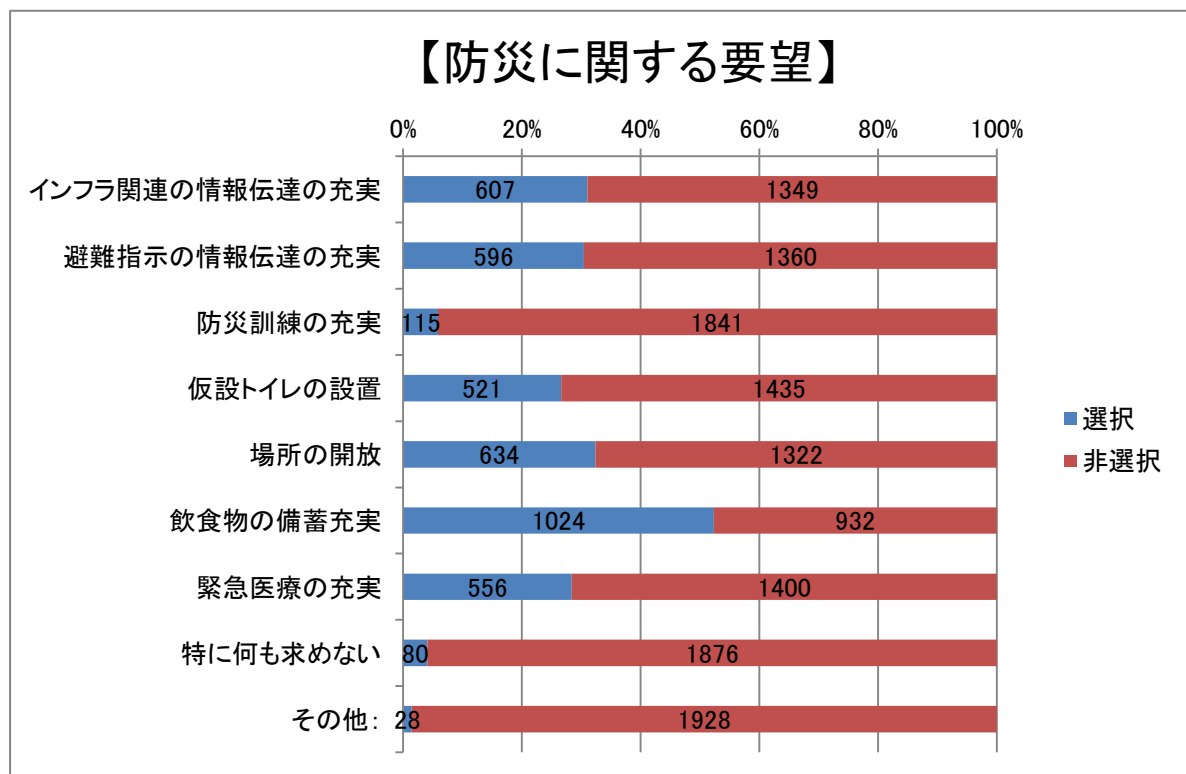


図 9.2.1-1 防災に関する要望

9.2.2 各種防災物資について

学生スタッフが協議し、まとめたものです。

学生の意見	ヘルメットの個数
具体的内容	各研究室には災害時用にヘルメットが配布されていますが、研究室に所属していない学部生にはヘルメットが用意されていません。
現状分析	教務課によると、現在、全学生に折り畳み可能なヘルメットを支給するか、学科ごとの講義室にヘルメットを配置するか等検討しています。 折り畳み可能なヘルメットの場合は実際に学生が持ち運ぶかどうか疑問であり、講義室への配置は配置場所がないといった問題があります。



9. 防災関連

提言	ヘルメットが用意されていない学部生のために、講義室の椅子の裏等にかさばらない折り畳み式ヘルメットを配置することを提言します。
----	--

学生の意見	発電機
具体的内容	停電した場合に備えて、発電機を用意しておく、各種電気機器をそのまま使うことができ、良いと考えられます。
現状分析	現在、停電時に使用できるような移動式の小型発電機、もしくは大規模発電ができるような大型発電機は殆どありません。普段からメンテナンスして使うことができれば望ましいですが、使い方が難しいといった問題点も挙げられます。
提言	発電機の用意、設置を提言します。

学生の意見	テレビ、ラジオ
具体的内容	災害時にはテレビやラジオなどのメディアも、有効な情報入手手段と考えられます。インターネットは誰もが容易かつ迅速に情報を入手、発信できる利点に対し、回線の集中や学内 LAN、中継局の停止に弱いという欠点があるためです。テレビやラジオの場合は情報の幅広さや迅速さではインターネットには劣りますが、比較的事故に強く、また多くの人が同時に情報入手できるという利点があります。これらの各種メディアを組み合わせることが、情報入手には重要ではないでしょうか。
提言	災害時には、一部講義室においてテレビ、ラジオを公開することを提言します。

学生の意見	仮設トイレの設置
具体的内容	大学が避難場所となったときに、現在のトイレの個数で足りるのでしょうか。
現状分析	施設安全企画課によると、携帯トイレを備蓄しています。施設安全企画課で一括管理しており、備蓄倉庫が数カ所あります。 9.2.1「配布物資について」で述べたように、大学は「広域避難場所」に指定されていますが、長期間滞在する場所ではなく一時的に身の安全を確保する場所のため、本学に避難される方々の人数は考慮されていません。また、広域避難場所として 10 万人が避難してくると想定されているので、そこまで用意することは困難です。
提言	現状、特に問題ないと考えられます。



学生の意見	ポンプ、ポリタンクの設置
具体的内容	水道が止まった場合、トイレの洗浄のためにプールの水が使われることが考えられます。その水を汲むためのポンプや、持ち運ぶためのポリタンクが必要かと考えられます。
現状分析	施設安全企画課によると、水の運搬のためのポンプ、ポリタンクなどは用意していませんが、ある程度大規模に壊れない限り、直結の水道管があるので問題ないとのこと。また、備蓄があるため、ある程度はそれでしのげると考えられます。 また、トイレに関しては上述の通り、携帯トイレの備蓄があるため、問題ないと考えられます。
提言	現状、特に問題ないと考えられます。

9.3 その他防災関連

9.3.1 ボランティア活動について

提言概要	ボランティアについて
学生の意見	活動に参加する意思はあるが情報が入ってこない。
具体的内容	・ボランティア活動に参加してみたいと思うのですが、あまりそのような情報を収集する場がないように思われます。その点で改善できる場所があればよろしくお願い致します。 ・大学に居ながらできる大学に関係の無いボランティアがあるならやりたい。 ・ボランティアやインターンの情報が欲しいです。
現状分析	現在の東工大近辺では震災の影響が実感しにくくなっていますが、被災地ではまだまだ困っている方がたくさんいらっしゃいます。 図 9.3.1-1 に示されているように、ボランティア紹介を希望する学生の中でも、実際にボランティア活動に参加している学生は半数に満たず、ボランティア情報が行き渡っていないのが現状です。 現在、ボランティア活動は学生支援 GP(Good Practice)や学生団体である東工大 VG (ボランティアグループ) が行っていますが、広報は学内のウェブサイトや電子掲示板等に限られています。被災地の方を助けたいという学生に対してボランティア情報を積極的に伝えていき、ボランティア活動に興味のある学生ならば誰でも参加できる環境を整えていただきたいです。
学勢調査 2010 以前との比較	なし



提言	学生の自主的な活動に期待するだけでなく大学側からもボランティア活動を企画・広報してください。また、ボランティア活動を行う学生に対して、物品援助、人員援助等もお願いします。
----	---

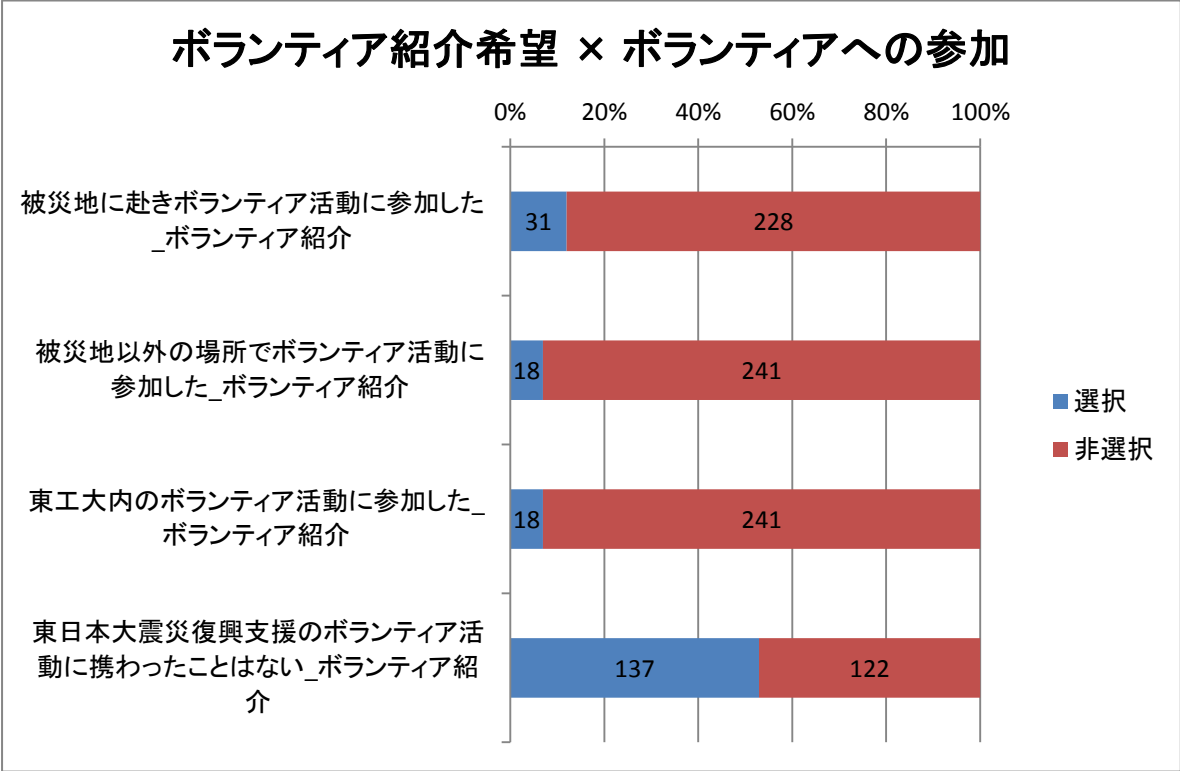


図 9.3.1-1 ボランティア紹介希望者とボランティアへの参加の現状

9.3.2 節電について

提言概要	節電について
具体的内容	・ 冷房を使用できなかった（強制的に）。 ・ 扇風機の利用、階段の利用。 ・ 窓際に植物を設置。 ・ 研究装置の節電。 （同様の意見が 6 件寄せられました）
現状分析	施設運営部によると、節電目標に関しては、平成 23 年度実績の電力使用量を目標としていますが、約 10%超過しています。また、電気料金値上げにより平成 24 年度は約 3 億円の負担増が見込まれており、より一層の節電が必要になっています。そのため、節電意識向上のために電力料金課金制度の導入を検討しています。



	また、本学「節電と省エネガイドライン」に基づき冷房は28℃、暖房は20℃を徹底されているため、建物の構造や窓の向きによって温度設定を変更することはできません。 しかし、冷房の使用や研究に必要な装置の使用を、各施設の状況の違いを考慮せずに一律で節電のために止めてしまうのは、学習や研究に専念できなくなるため、大学が教育研究機関である性質上、本末転倒であるように思えます。
提言	一律の冷房温度設定は現実的ではなく、図書館の学習スペース等、日が強く当たるところには一部融通が利くようにお願いします。

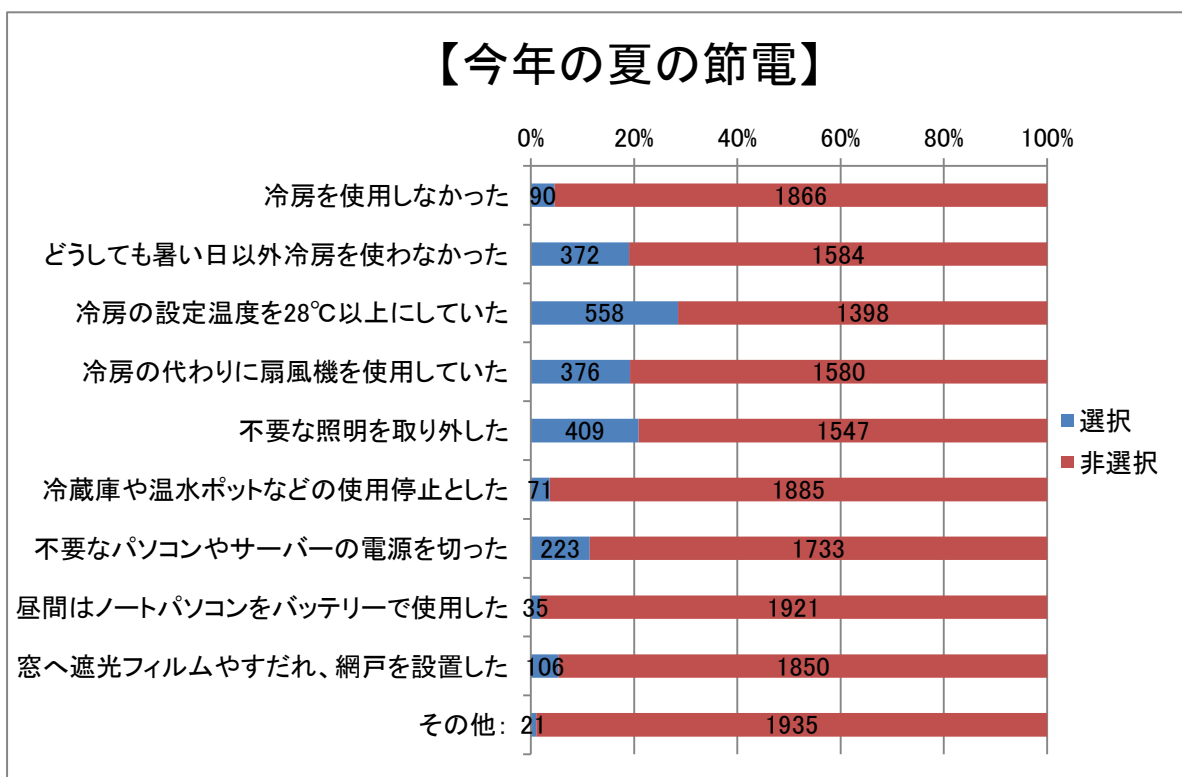


図 9.3.2-1 今年（平成24年）の夏の節電



10. 調査関連

この章では、これまでの学勢調査で継続して調査してきた項目の比較、学勢調査 2012 の結果で作成したクロスデータ、学勢調査そのものに対する意見を掲載します。グラフ名に（2008～2012）と書かれているグラフは 2008 年から 2012 年までの比較、（2012）と書かれているグラフは 2012 年の調査で得た結果のクロスデータです。

10.1 生活基盤の変化について

10.1.1 生活環境

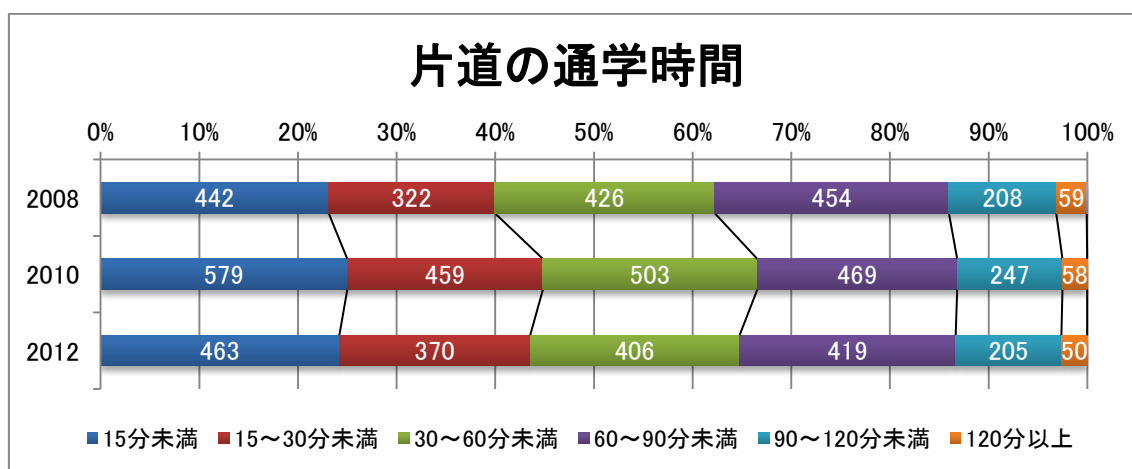


図 10.1.1-1 片道の通学時間(2008～2012)

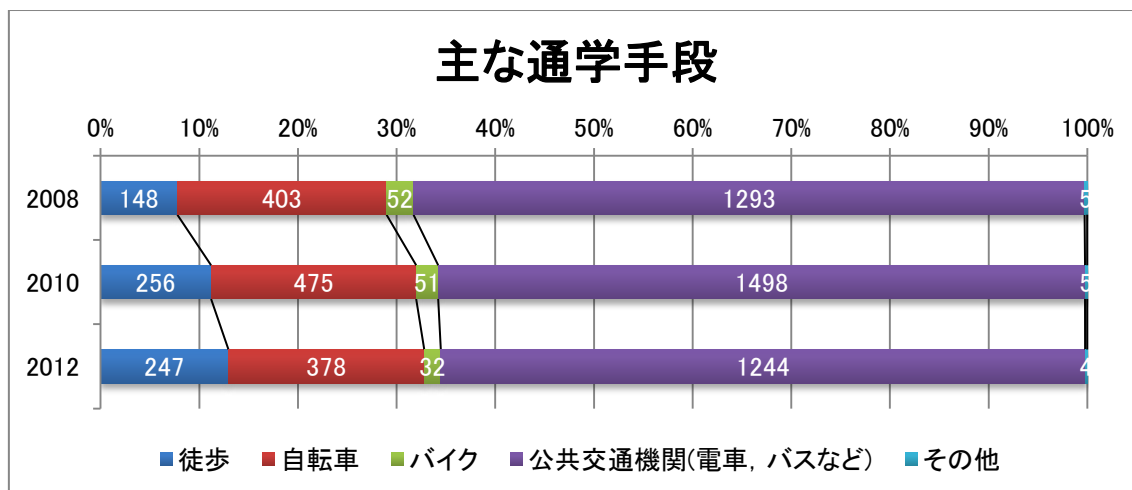


図 10.1.1-2 主な通学手段(2008～2012)



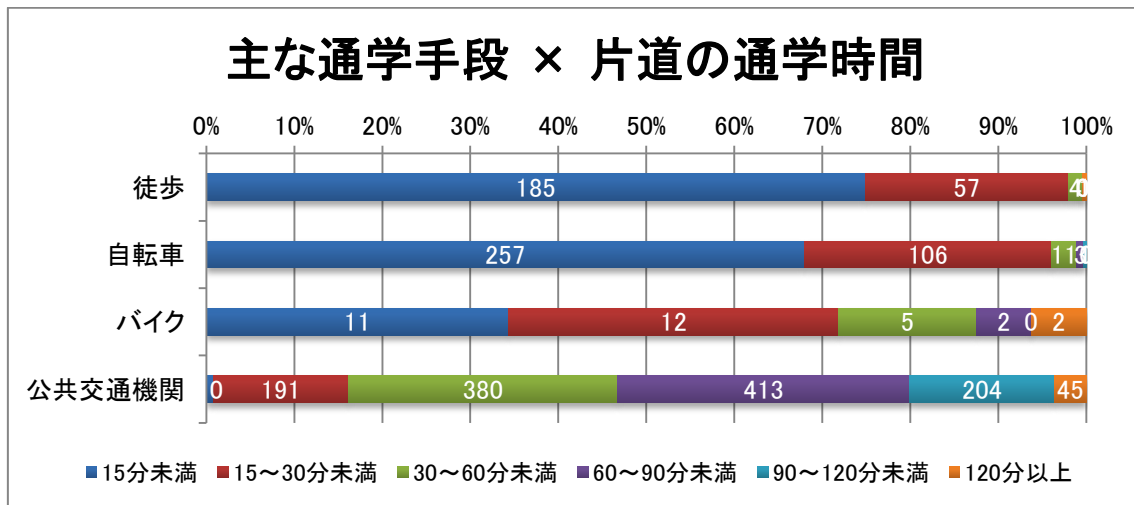


図 10.1.1-3 主な通学手段×片道の通学時間(2012)

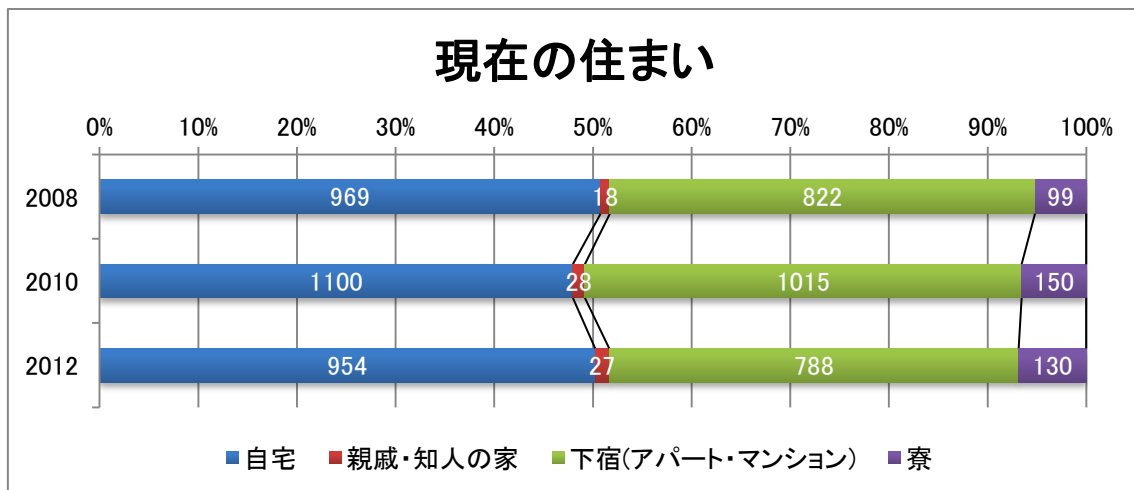


図 10.1.1-4 現在の住まい(2008～2012)

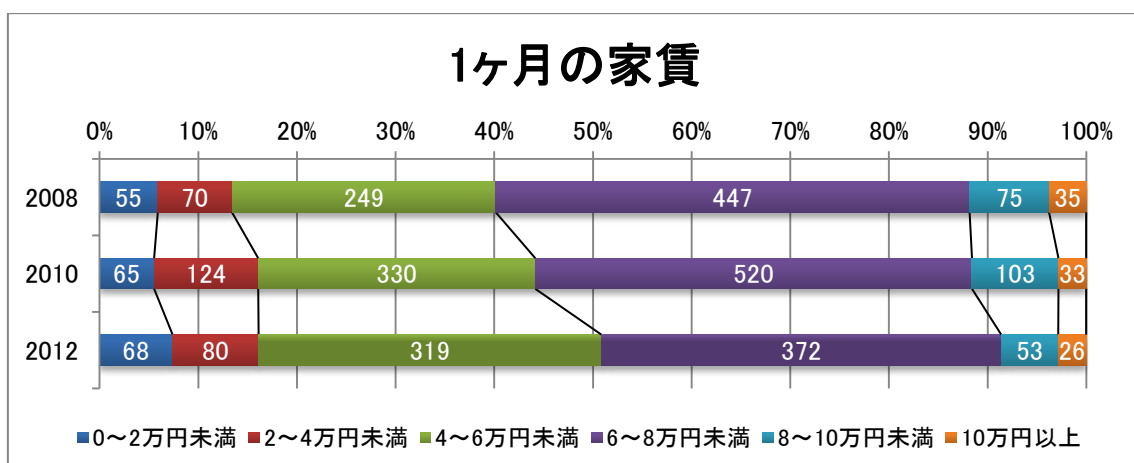


図 10.1.1-5 1ヶ月の家賃(2008～2012)



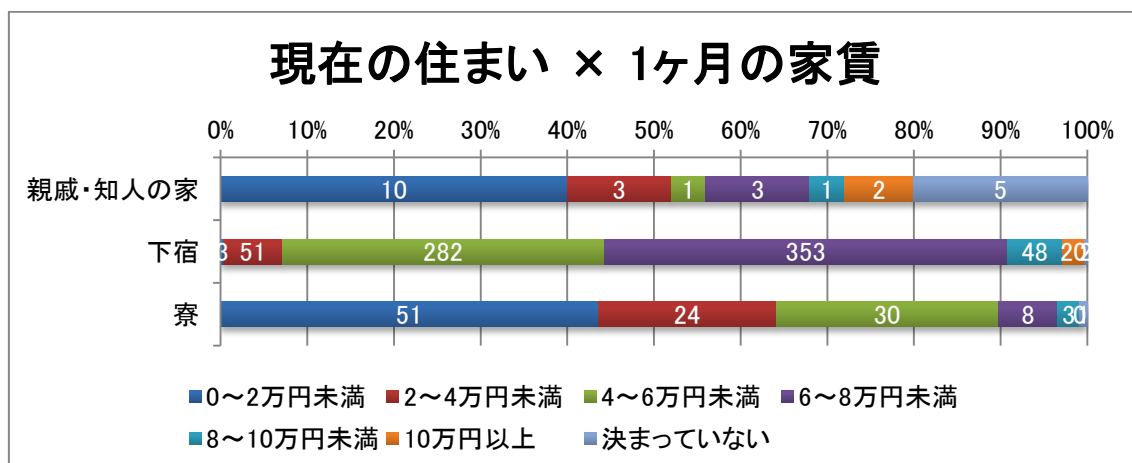


図 10. 1. 1-6 現在の住まい×1ヶ月の家賃(2012)

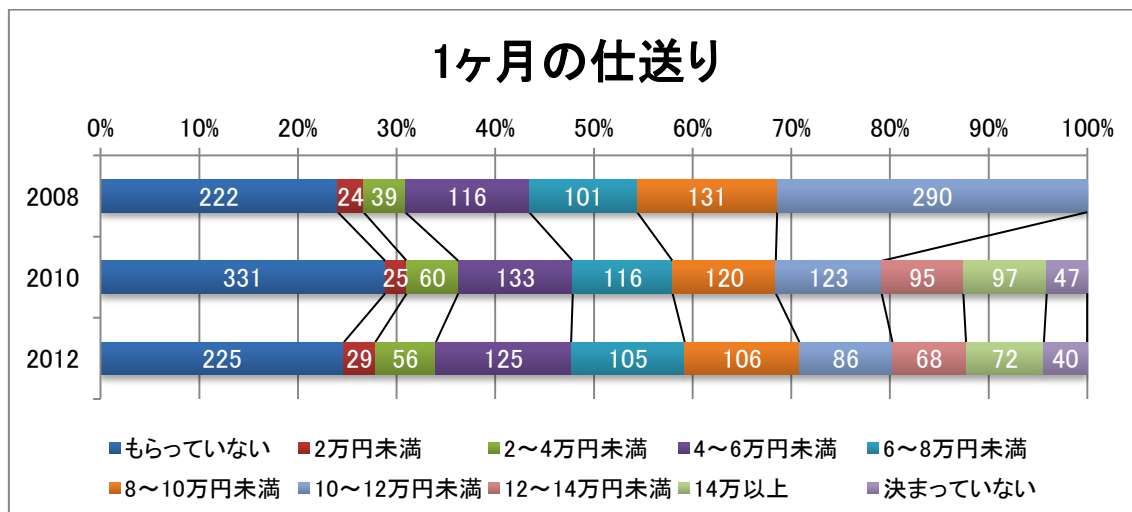


図 10. 1. 1-7 1ヶ月の仕送り(2008～2012)

※学勢調査 2008 では 10 万円以上は区分なし

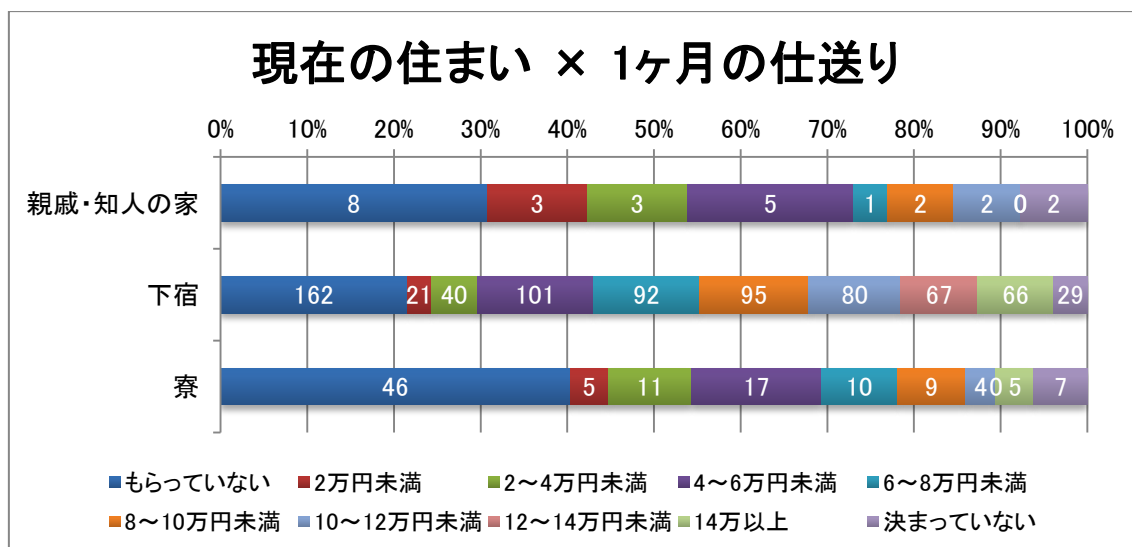


図 10. 1. 1-8 現在の住まい×1ヶ月の仕送り(2012)



10.1.2 食生活

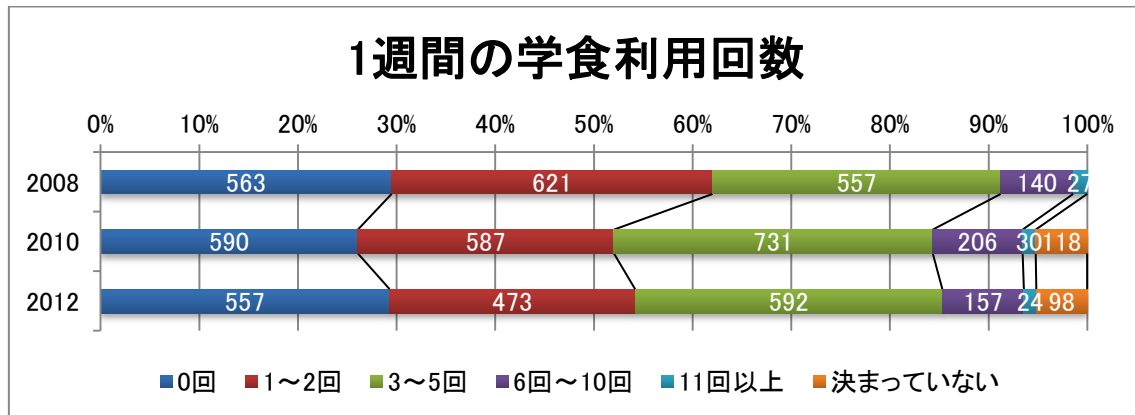


図 10.1.2-1 1週間の学食利用回数(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「決まっていない」の選択肢はなし

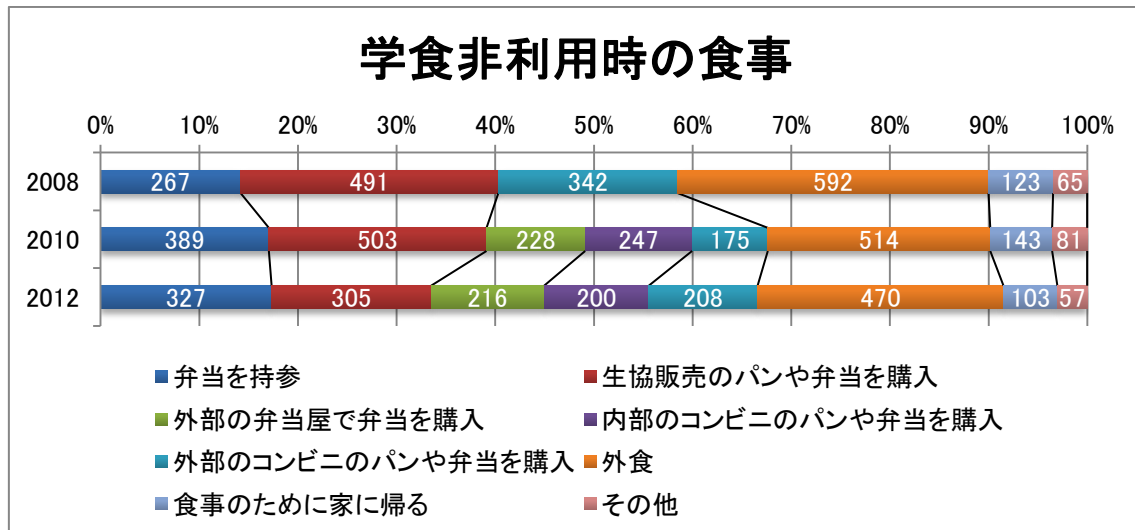


図 10.1.2-2 学食非利用時の食事(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「コンビニなどのパンや弁当を購入」の回答が 342 人

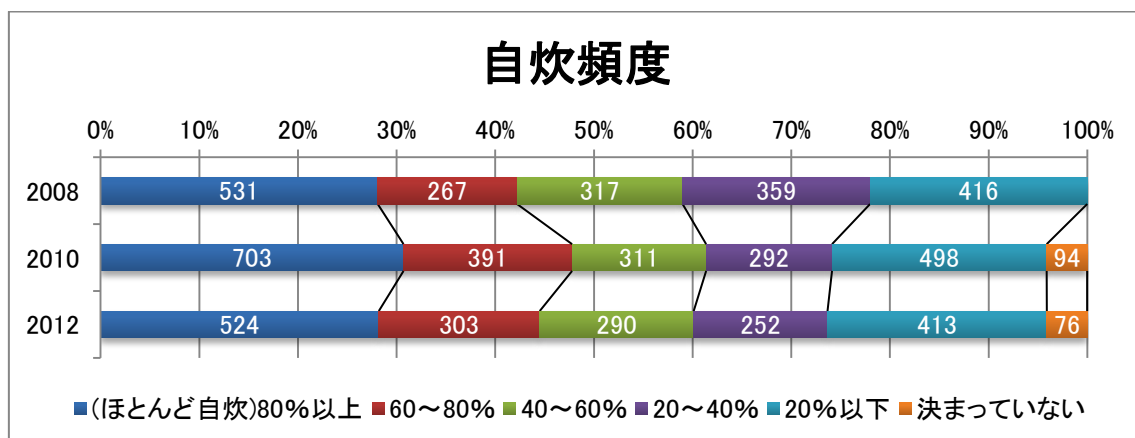


図 10.1.2-3 自炊頻度(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「決まっていない」の選択肢はなし



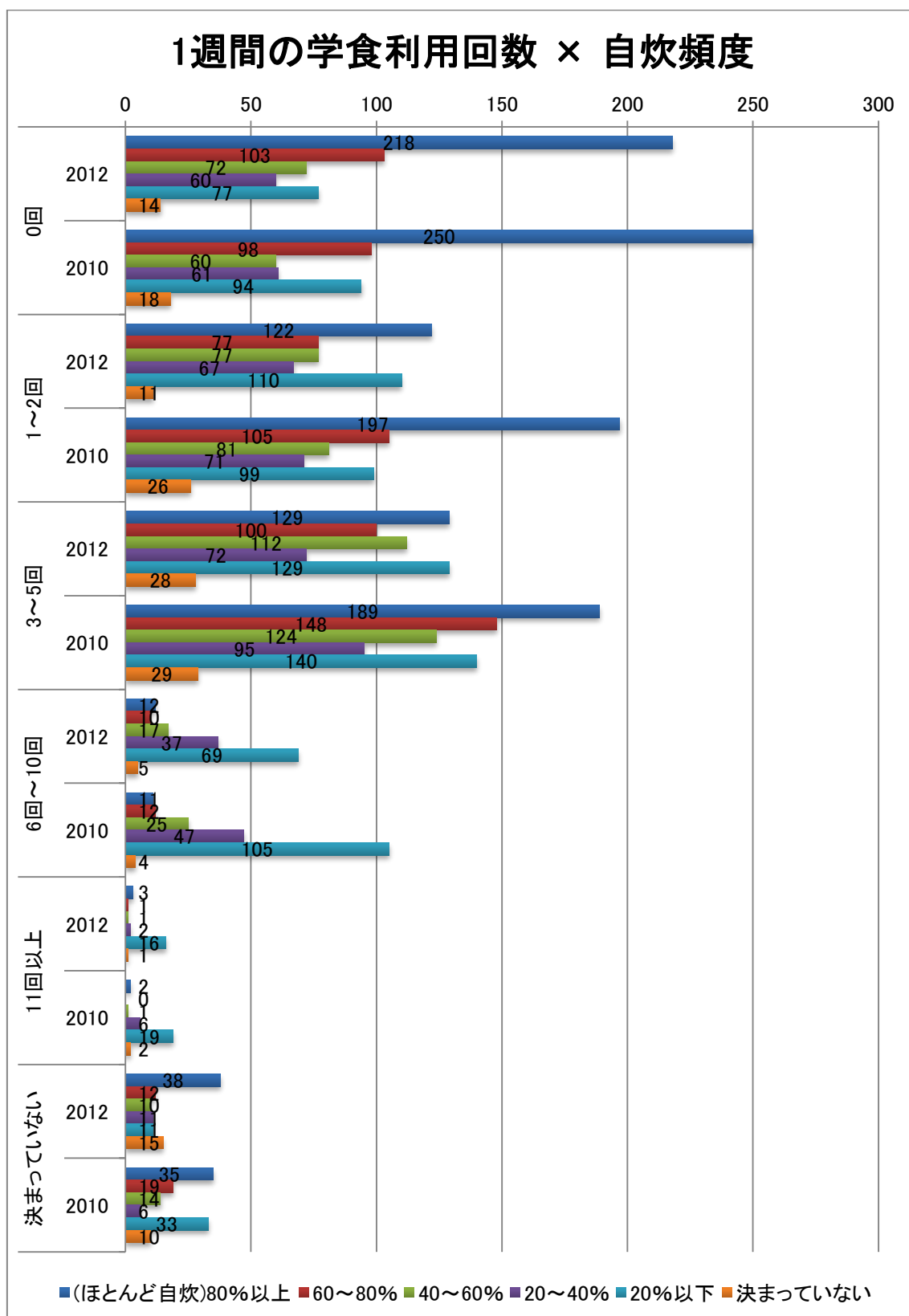


図 10. 1. 2-4 1 週間の学食利用回数 × 自炊頻度 (2012 と 2010 比較)



10.1.3 時間の使い方

平日の平均的な時間の使い方

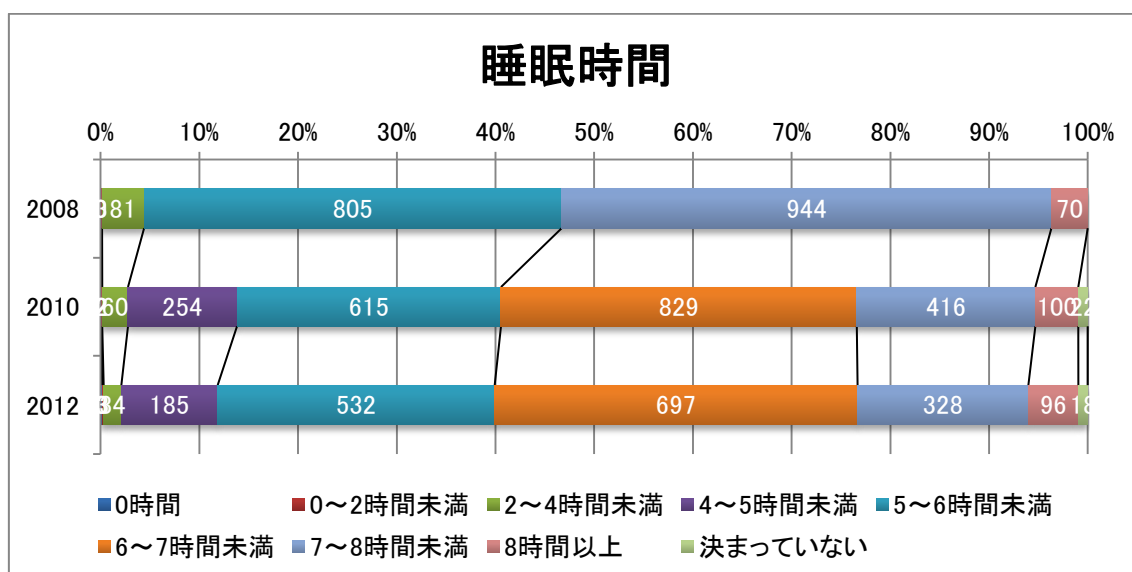


図 10.1.3-1 睡眠時間(2008~2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0~2 時間」「2~4 時間」「4~6 時間」「6~8 時間」「8 時間以上」の 6 種類

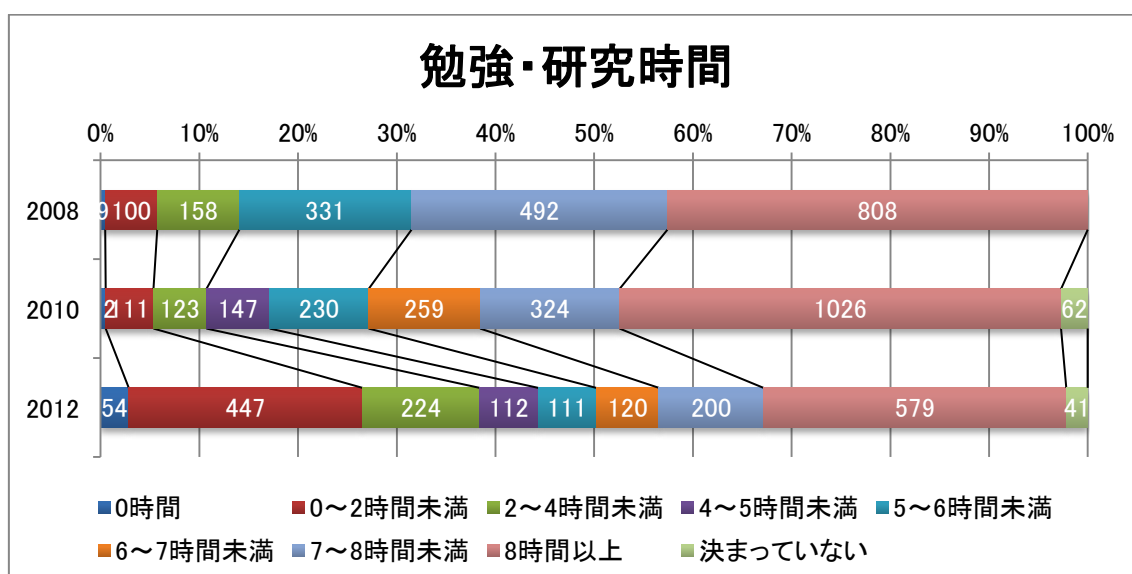


図 10.1.3-2 勉強・研究時間(2008~2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0~2 時間」「2~4 時間」「4~6 時間」「6~8 時間」「8 時間以上」の 6 種類。学勢調査 2012 では質問に「講義の時間は除く」の注釈追加



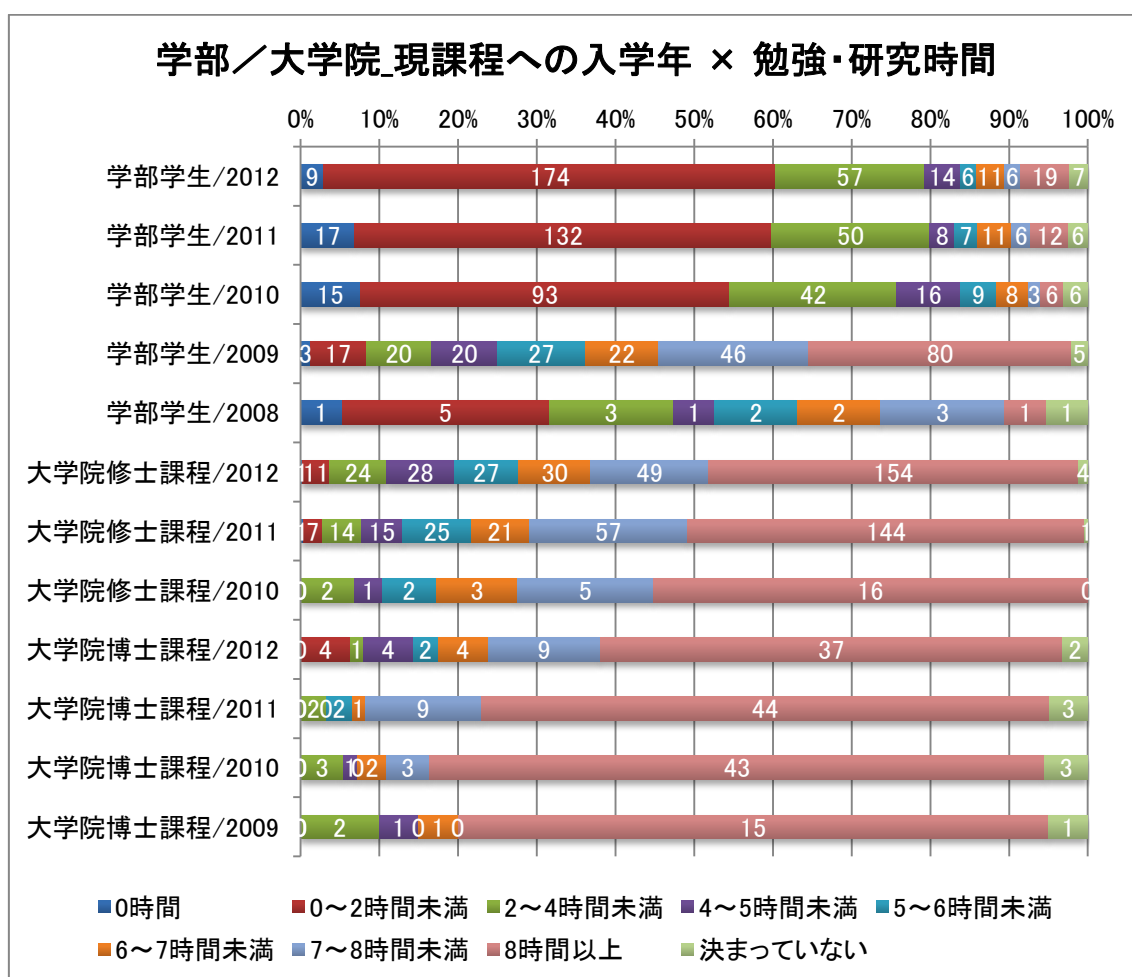


図 10. 1. 3-3 課程_現課程への入学年×勉強・研究時間(2012)

※この設問での「勉強・研究時間」には講義の時間を含まない

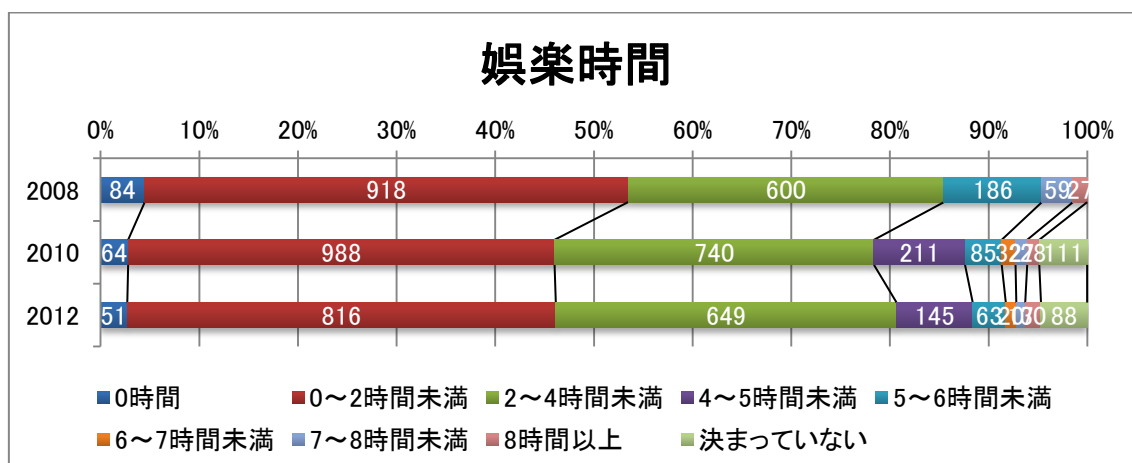


図 10. 1. 3-4 娯楽時間(2008～2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0～2 時間」「2～4 時間」「4～6 時間」「6～8 時間」「8 時間以上」の 6 種類



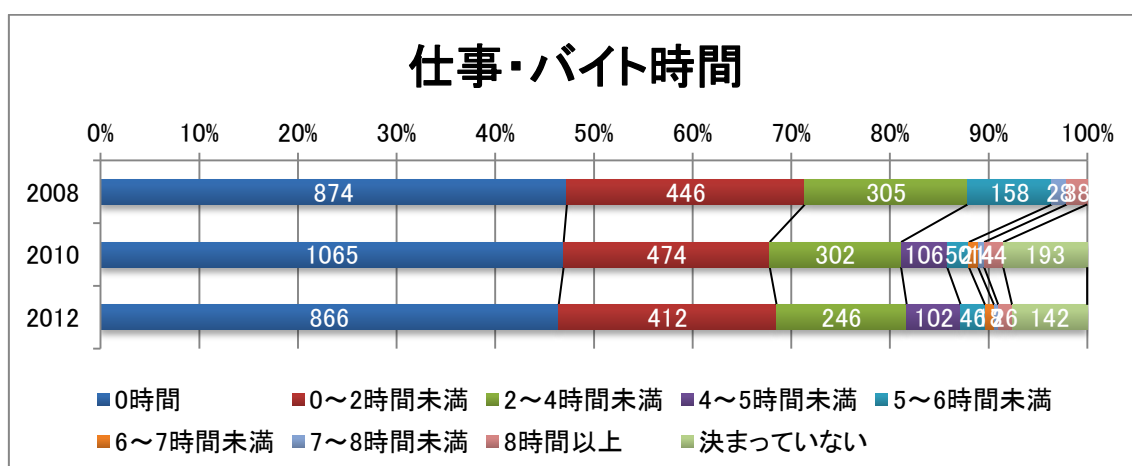


図 10.1.3-5 仕事・バイト時間(2008~2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0~2 時間」「2~4 時間」「4~6 時間」「6~8 時間」「8 時間以上」の 6 種類

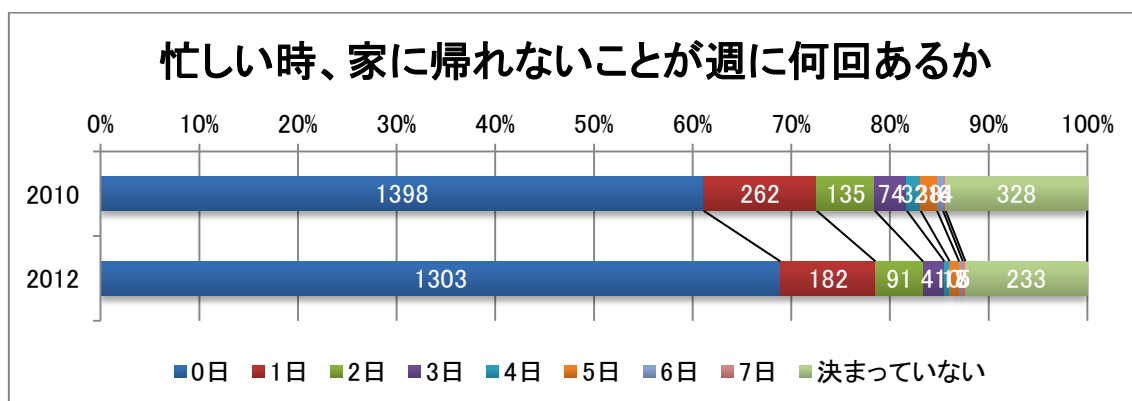


図 10.1.3-6 週あたりの家に帰れない日数比較(2010~2012)

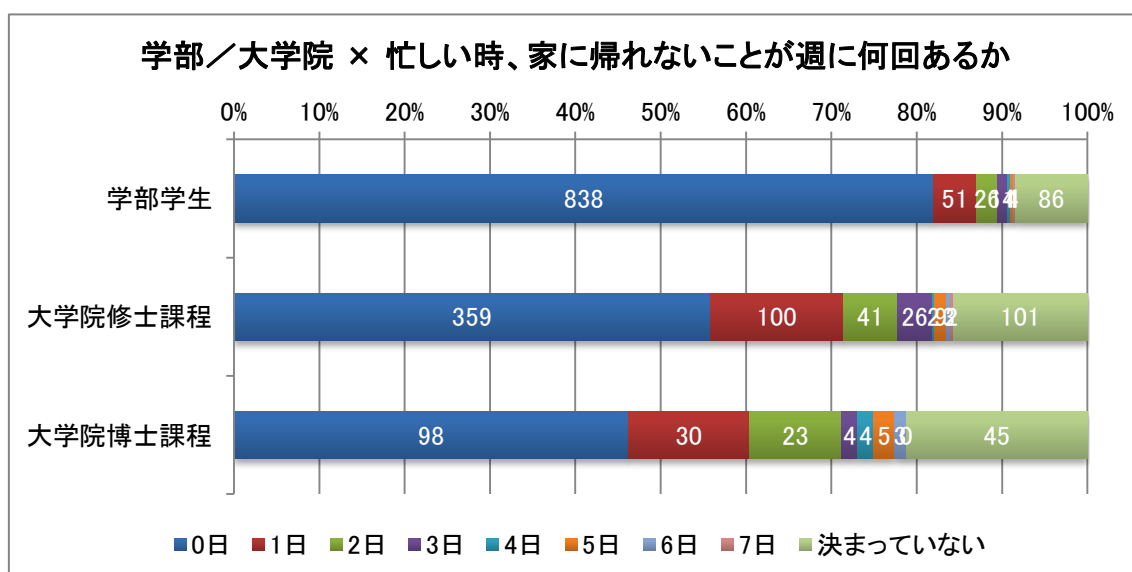


図 10.1.3-7 課程×週あたりの家に帰れない日数(2012)



10. 調査関連

10.1.4 アルバイト

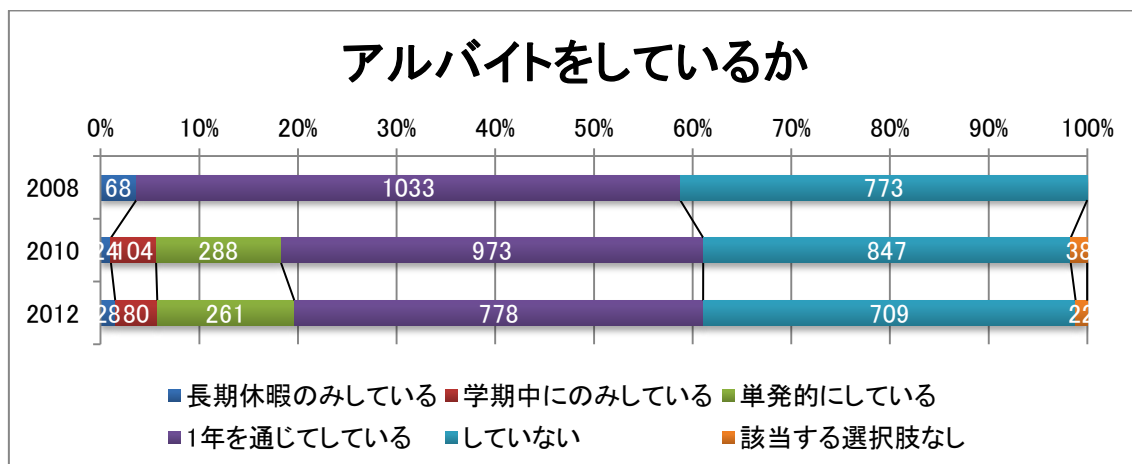


図 10.1.4-1 アルバイトの有無(2008～2012)

※学勢調査 2008 の 1033 名の内訳は「継続的にしている」813 名、「継続的かつ長期休暇中にもアルバイトをしている」220 名。「該当する選択肢なし」の選択肢はなし

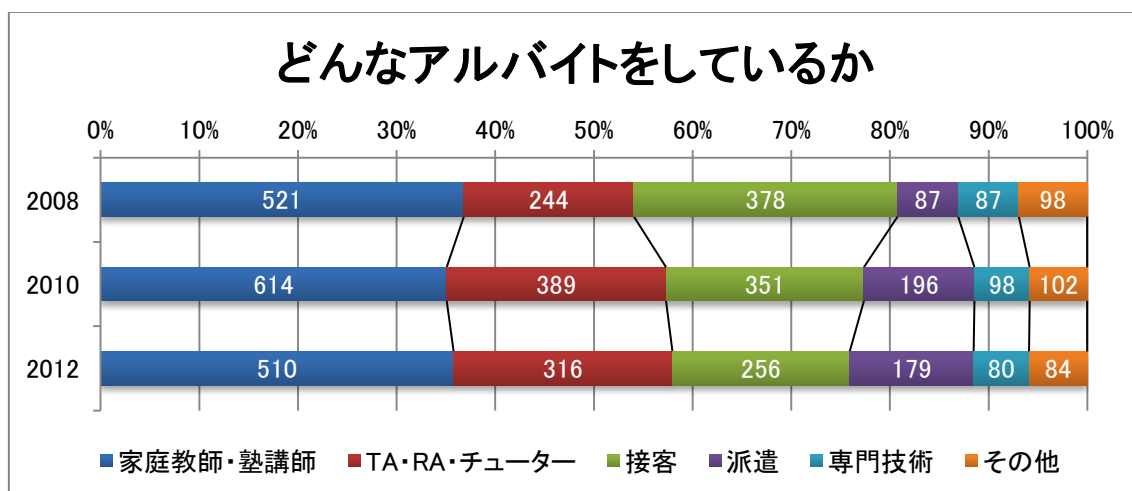


図 10.1.4-2 アルバイトの種類(2008～2012)



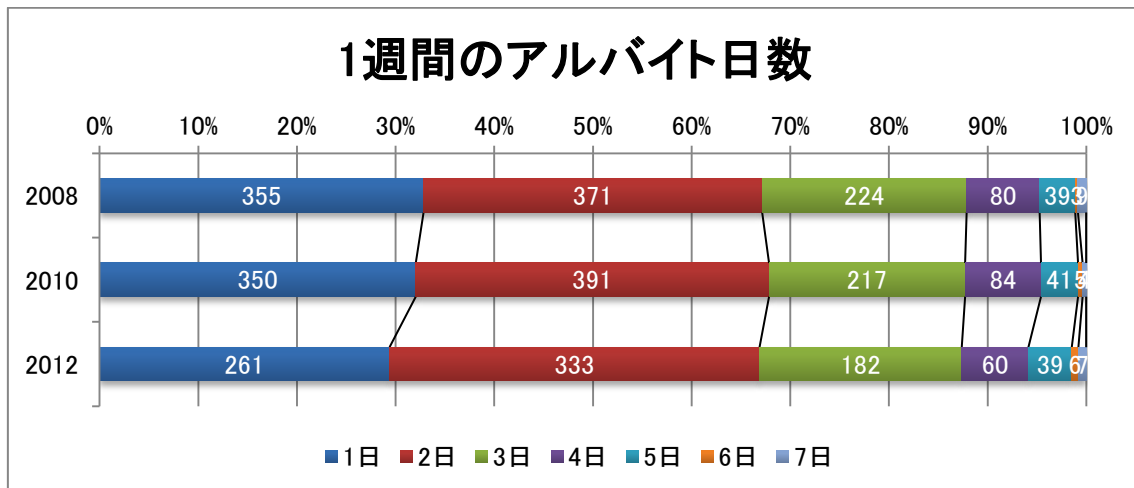


図 10.1.4-3 週あたりのアルバイト日数(2008～2012)

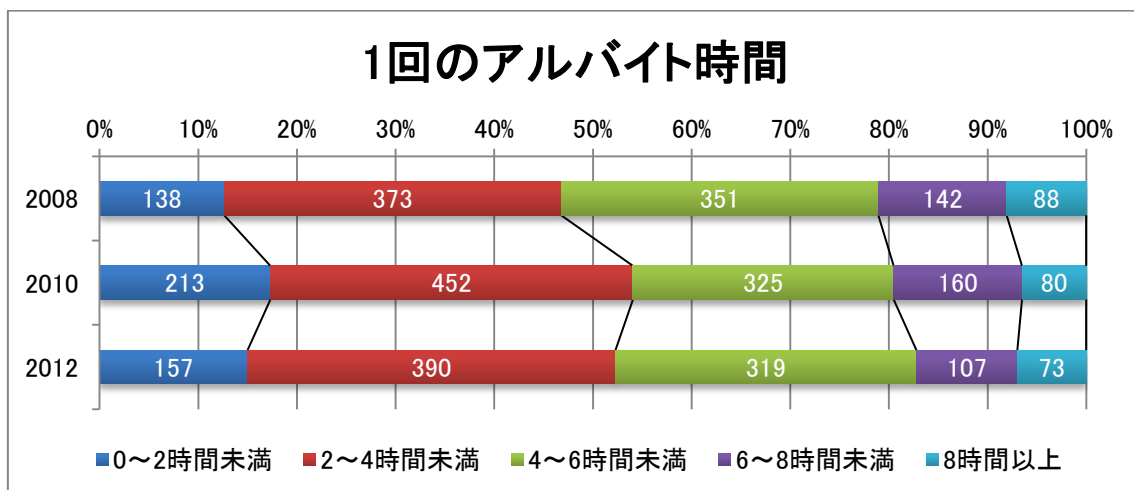


図 10.1.4-4 1回のアルバイト時間(2008～2012)

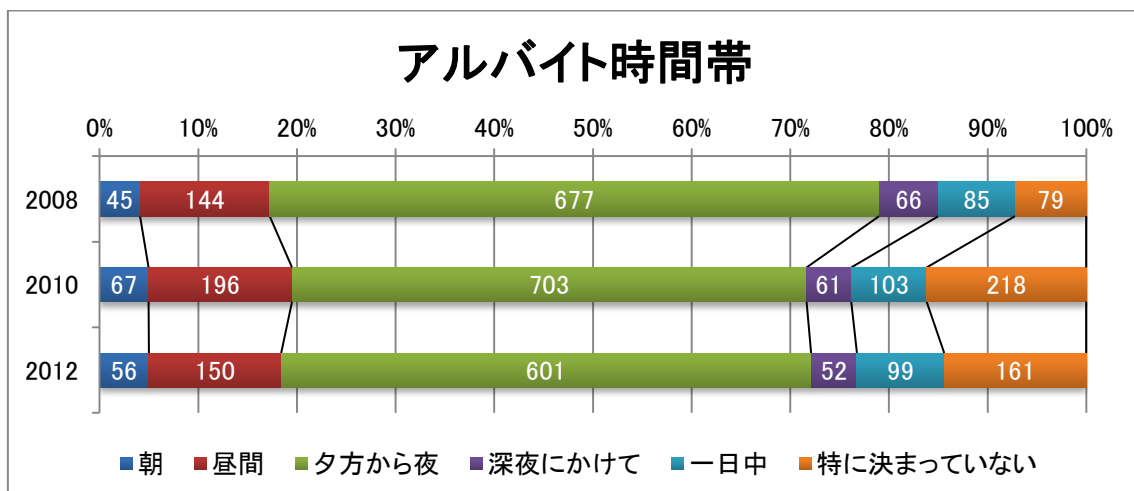


図 10.1.4-5 アルバイトの時間帯(2008～2012)



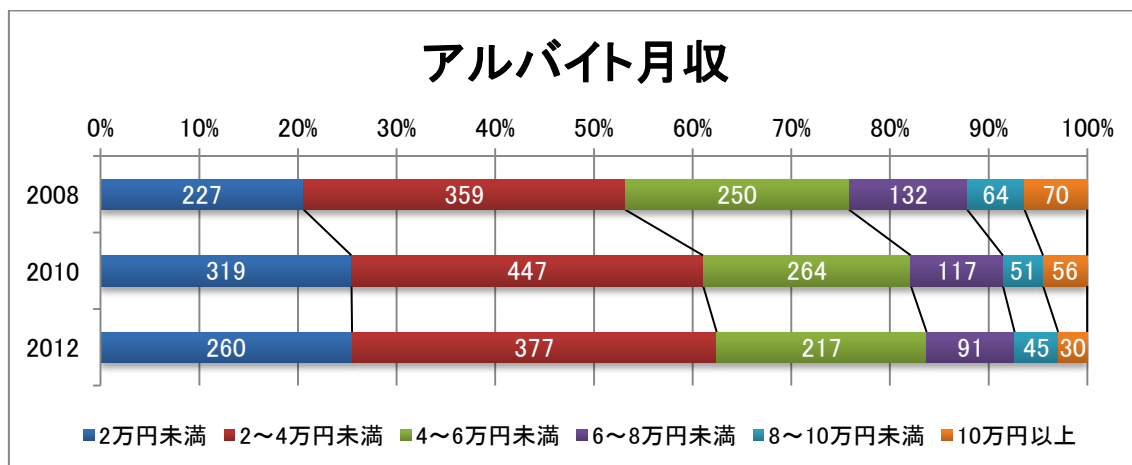


図 10.1.4-6 アルバイト月収(2008～2012)

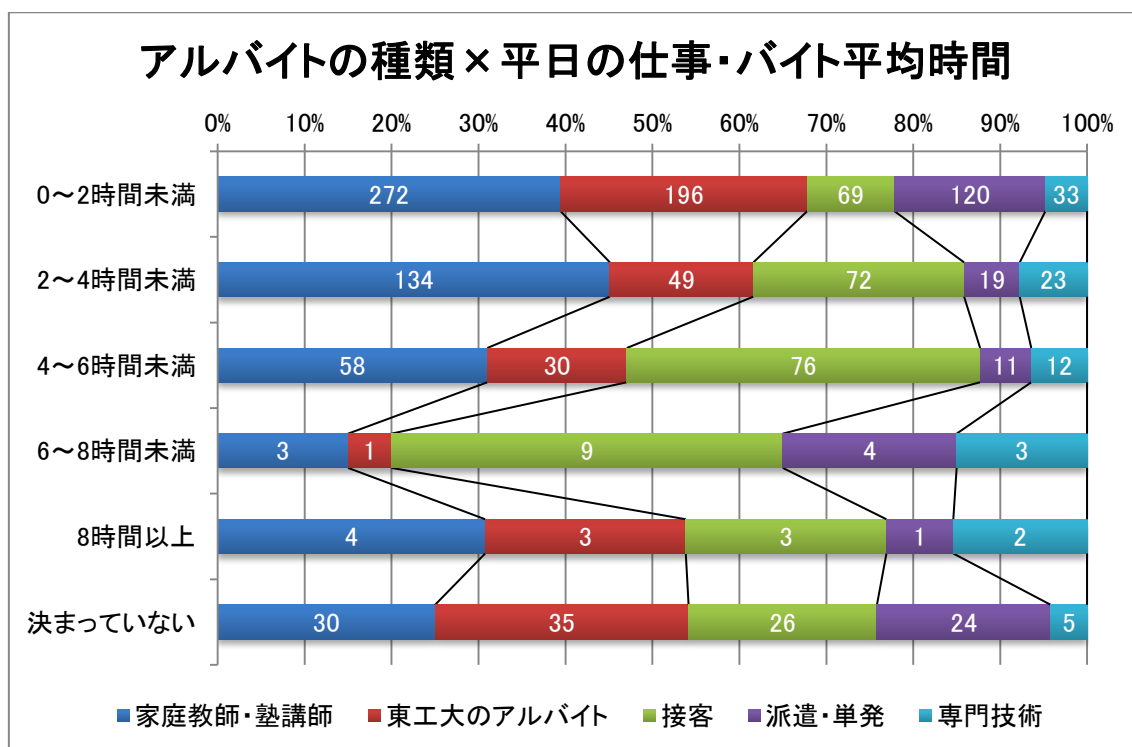


図 10.1.4-7 アルバイトの種類×平日の仕事・バイト時間(2012)



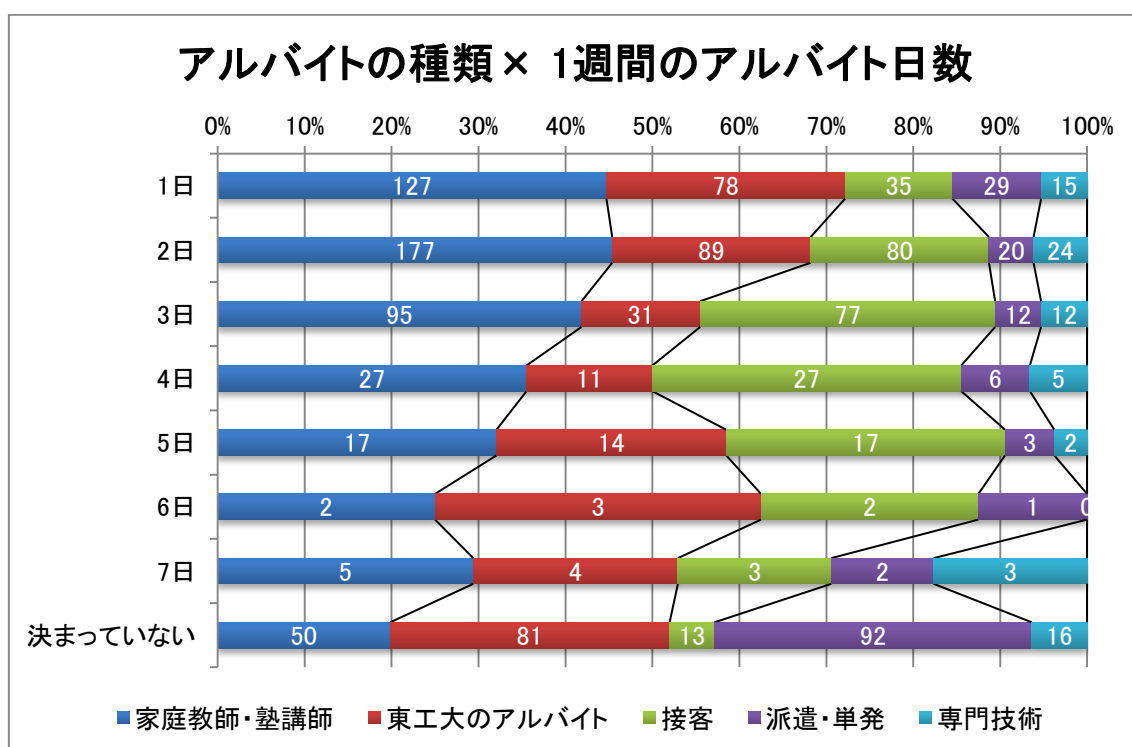


図 10.1.4-8 アルバイトの種類 × 週あたりのアルバイト日数 (2012)

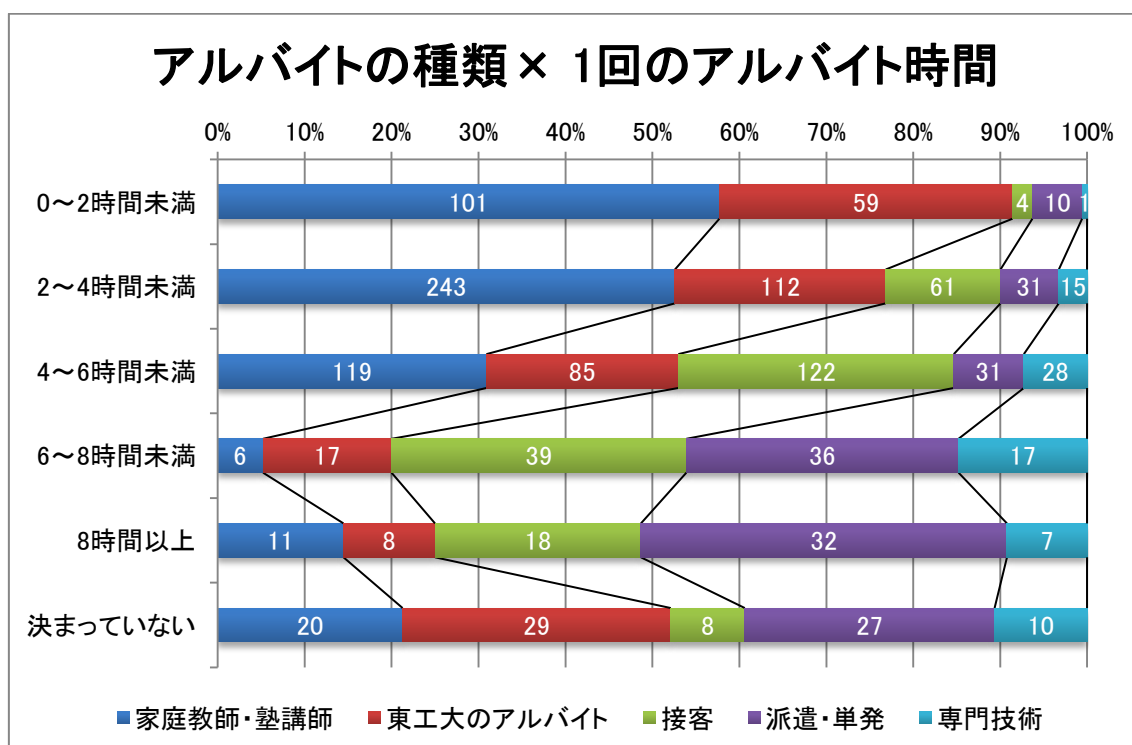


図 10.1.4-9 アルバイトの種類 × 1 回のアルバイト時間 (2012)



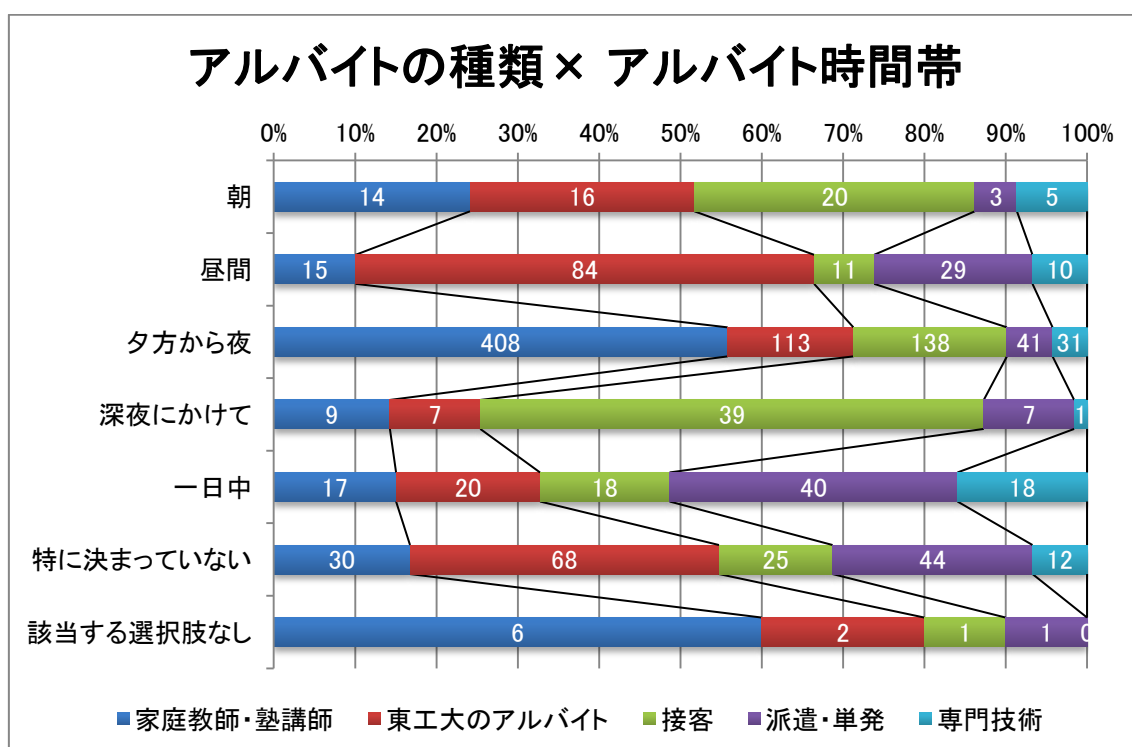


図 10.1.4-10 アルバイトの種類×アルバイト時間帯(2012)

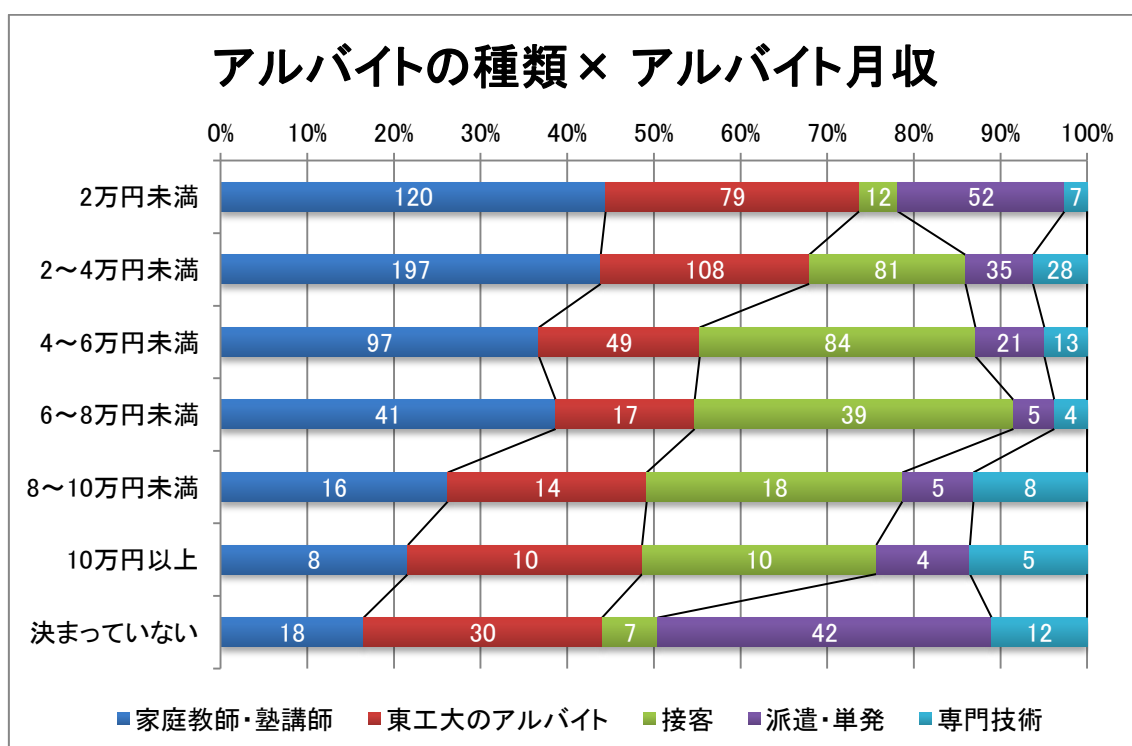


図 10.1.4-11 アルバイトの種類×アルバイト月収(2012)



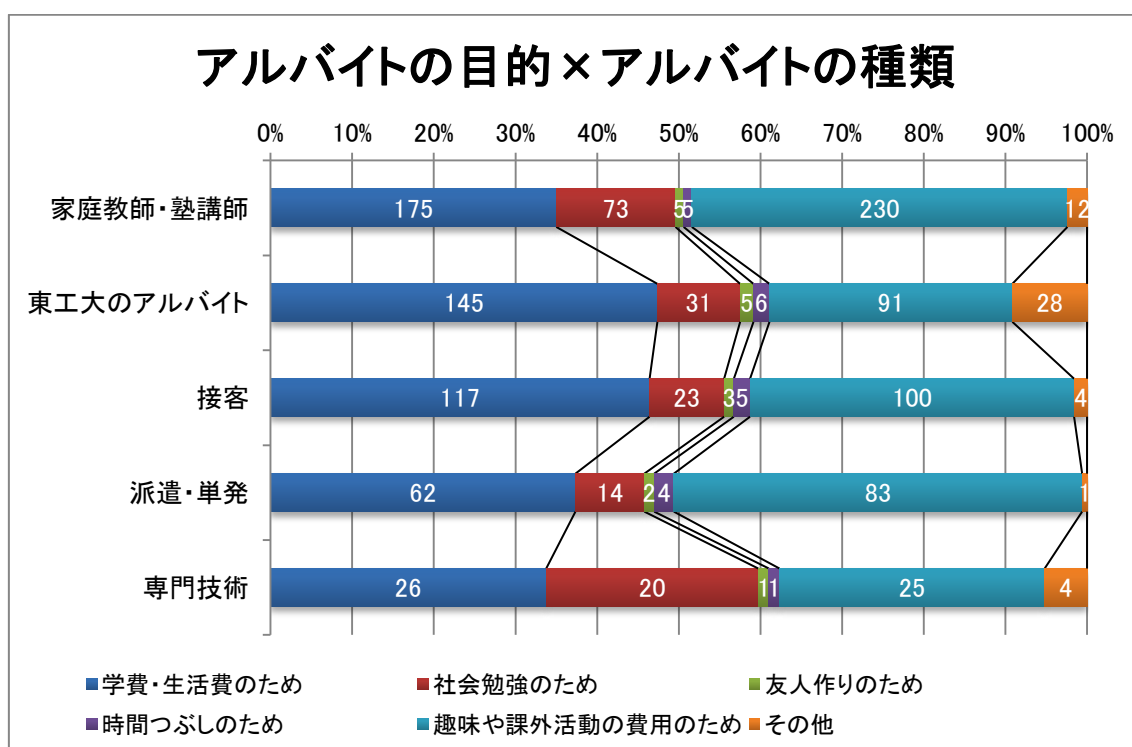


図 10.1.4-12 アルバイトの目的×アルバイトの種類(2012)



10.2 学習状況について

10.2.1 大学への意識

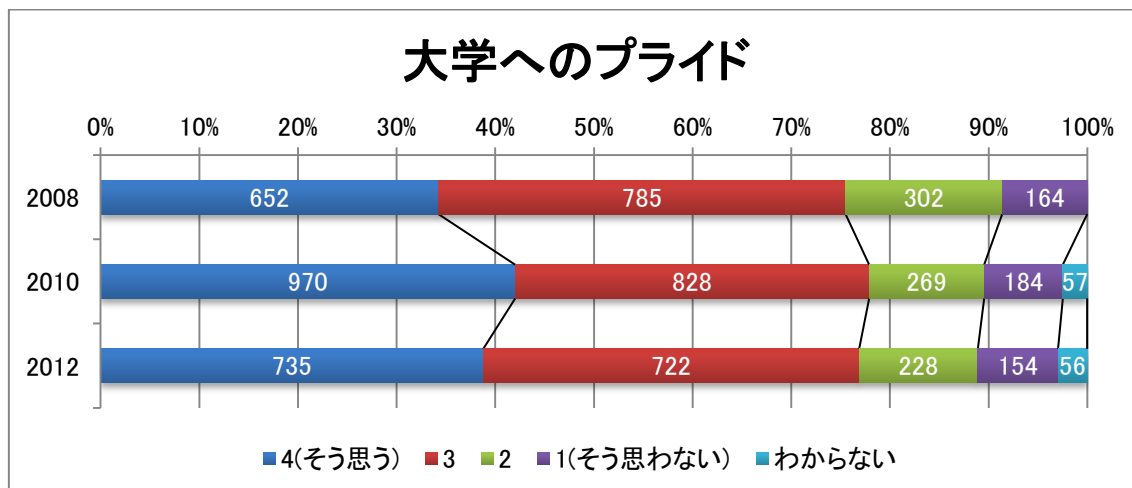


図 10.2.1-1 大学へのプライド(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし

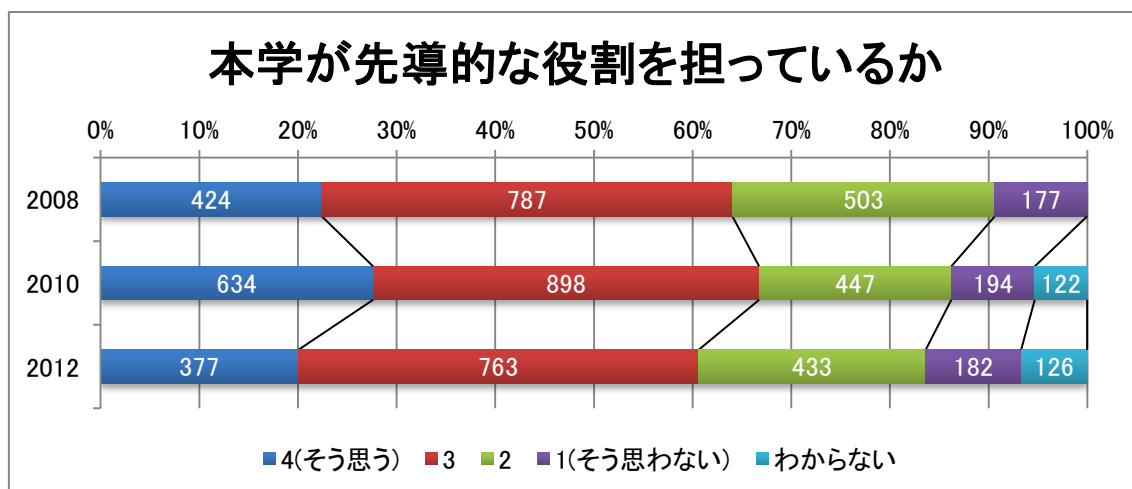


図 10.2.1-2 本学が先導的な役割を担っているか(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし



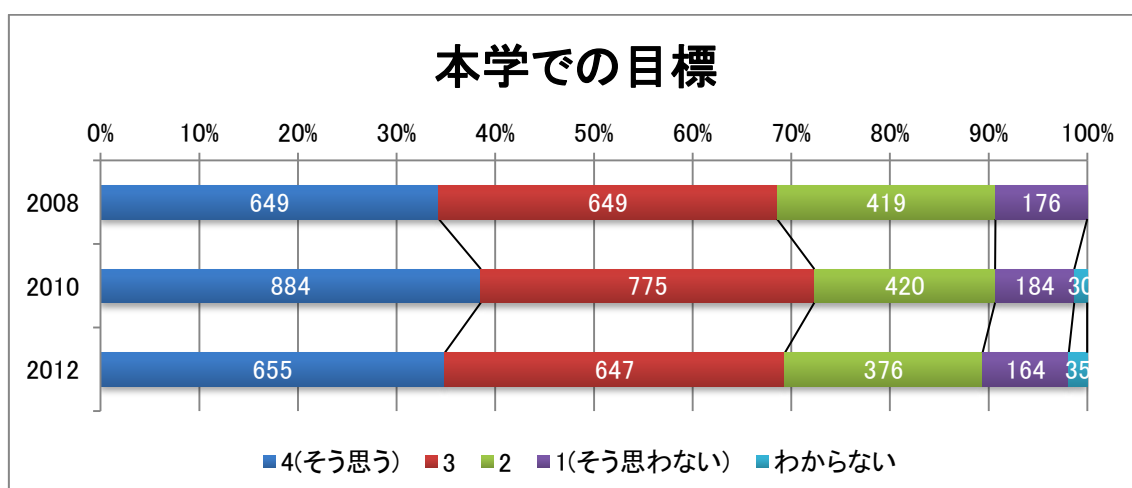


図 10. 2. 1-3 本学での目標 (2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし

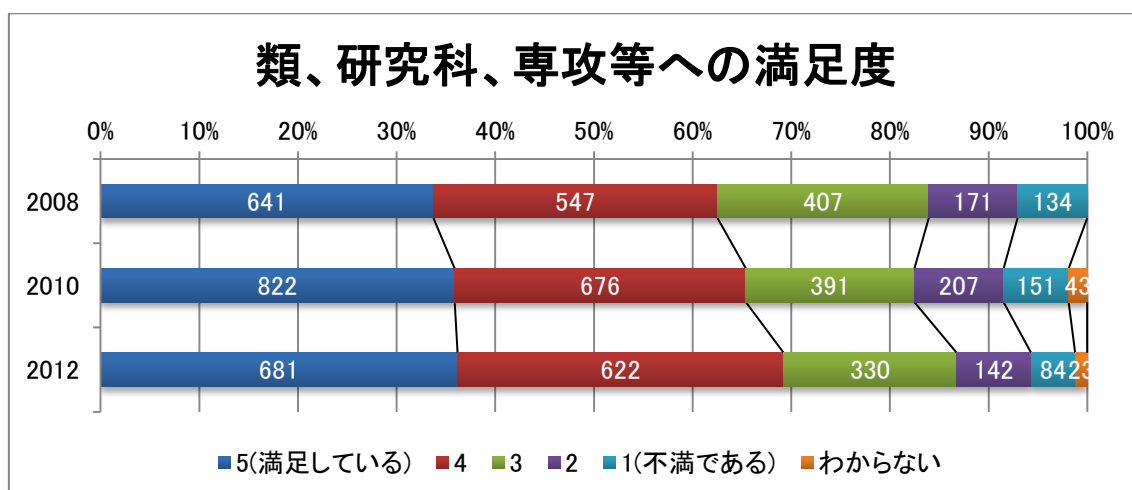


図 10. 2. 1-4 類、学科、専攻等への満足度 (2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし



10.2.2 講義に対する姿勢

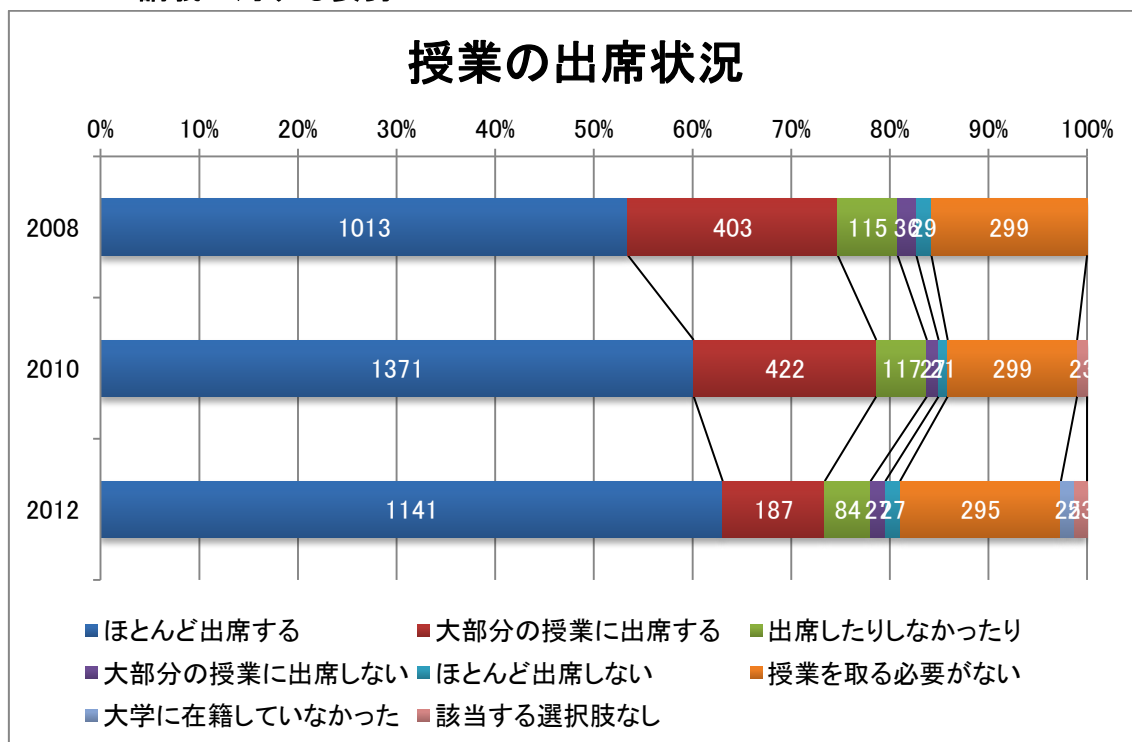


図 10.2.2-1 前期の授業への出席状況 (2008～2012)

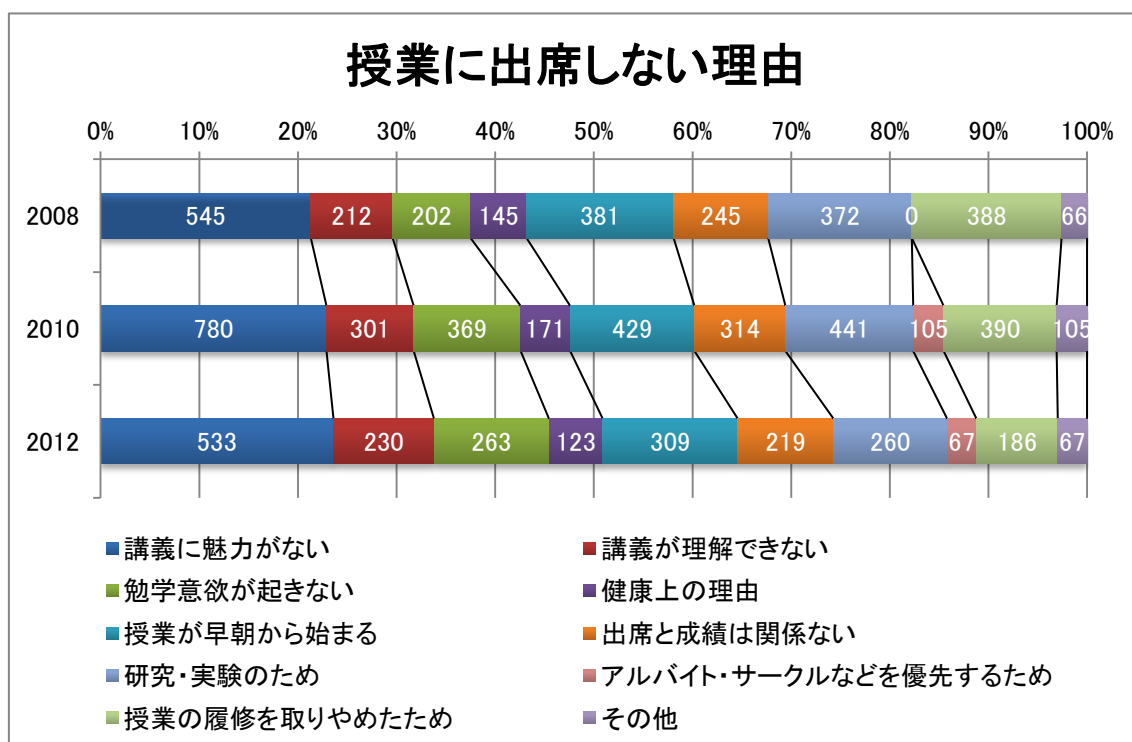


図 10.2.2-2 授業に出席しない理由 (2008～2012)



10.2.3 学修時間

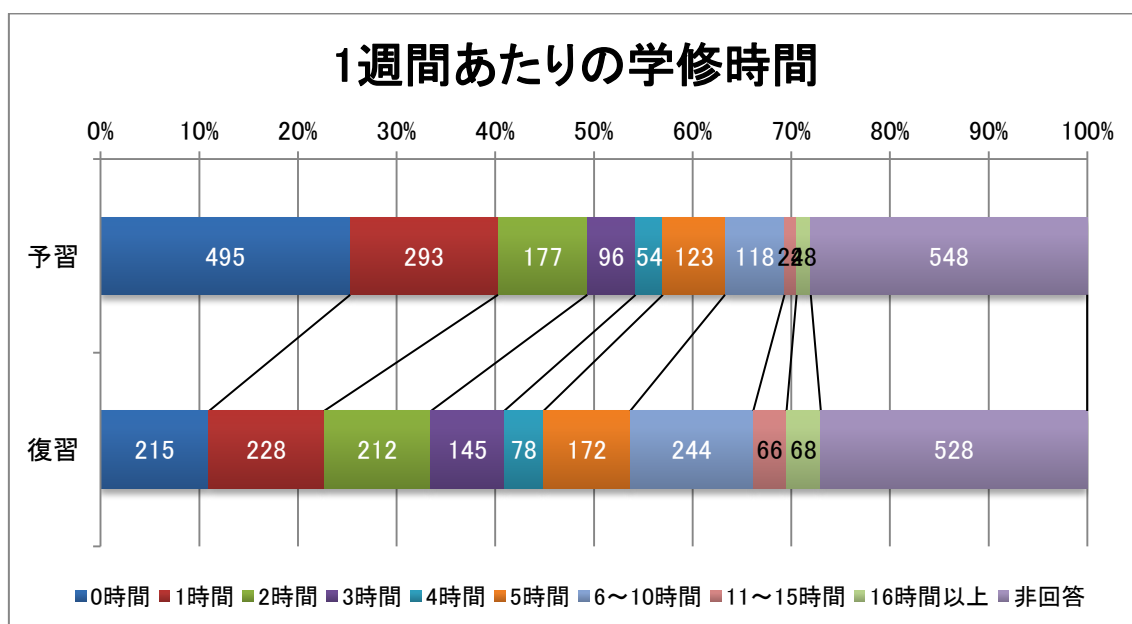
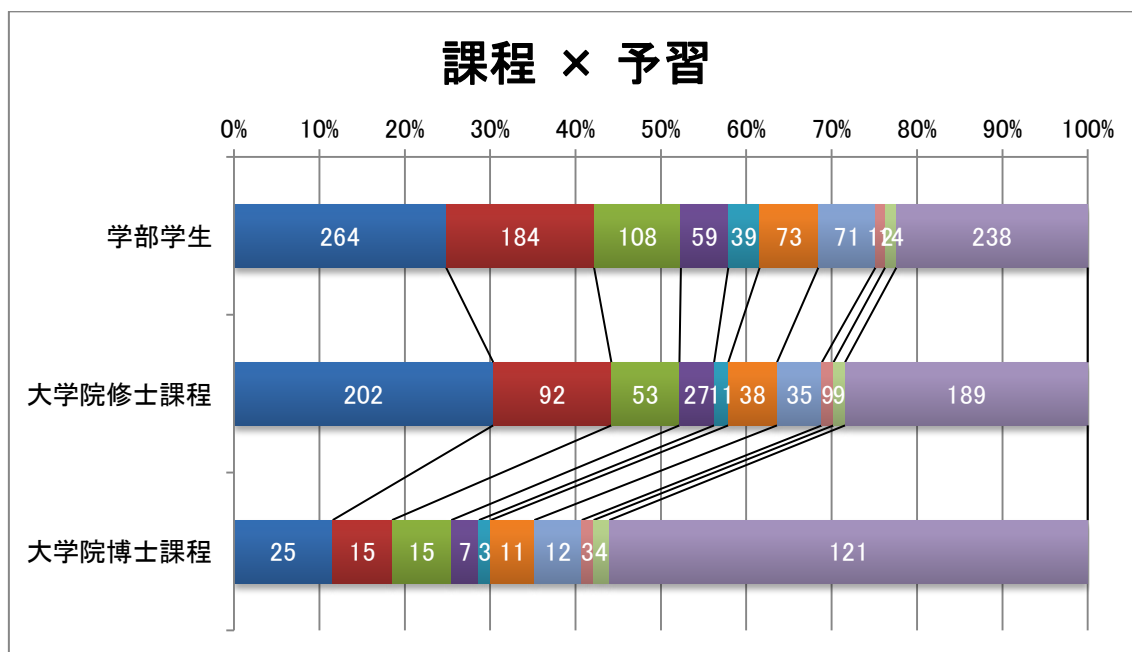


図 10.2.3-1 1週間あたりの予習・復習時間



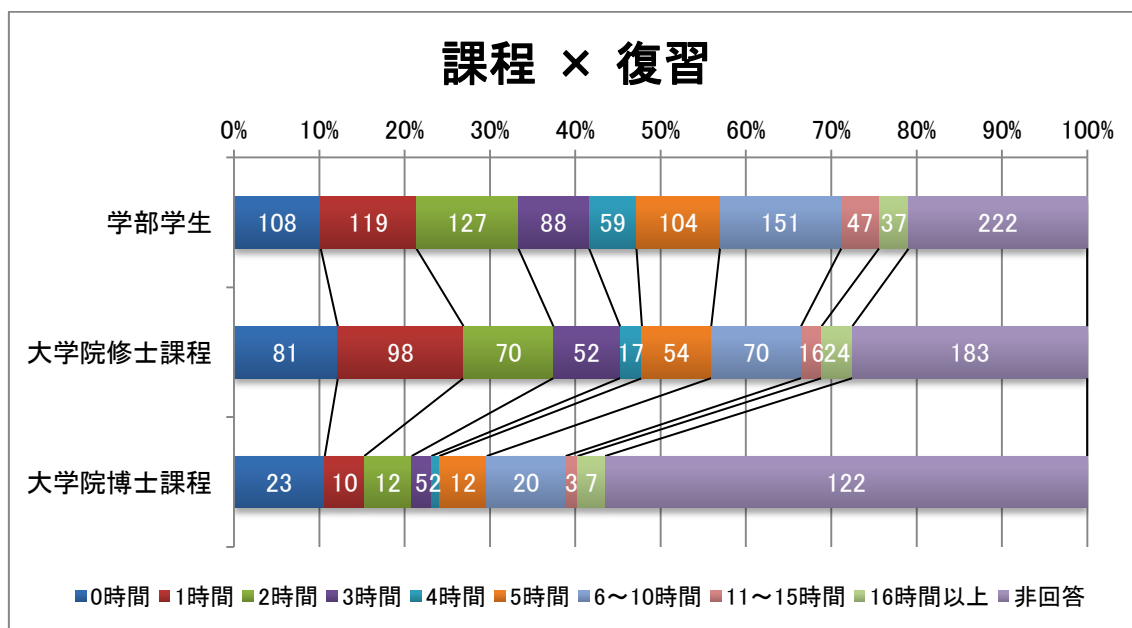


図 10. 2. 3-2 課程×1 週間あたりの予習・復習時間

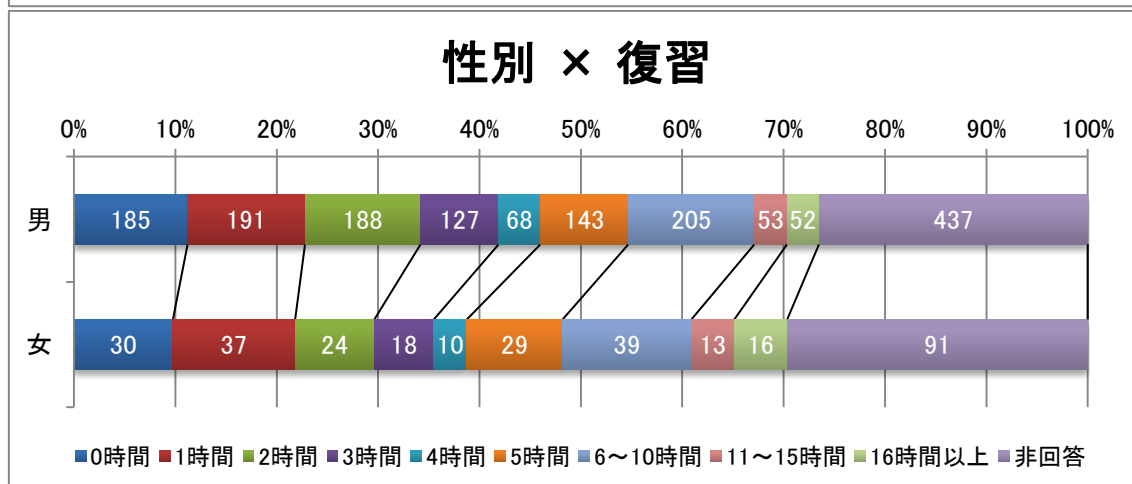
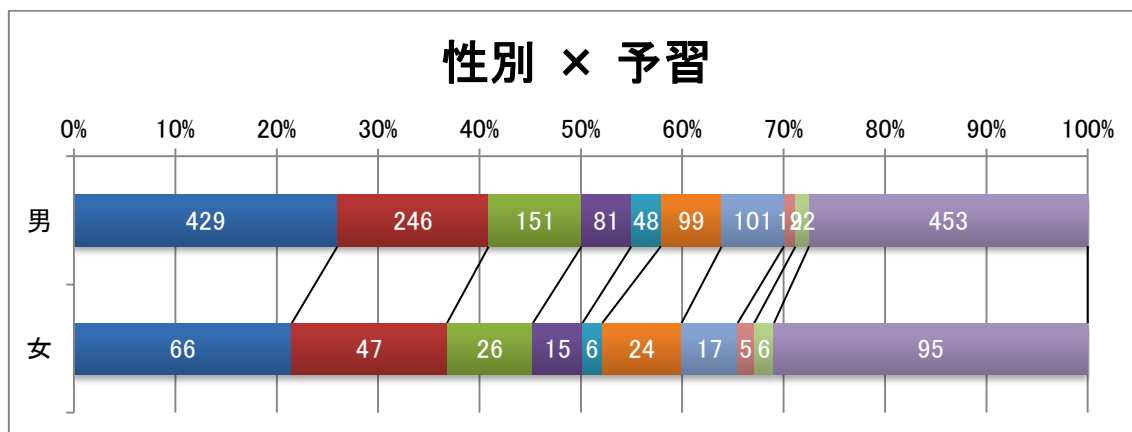


図 10. 2. 3-3 性別×1 週間あたりの予習・復習時間



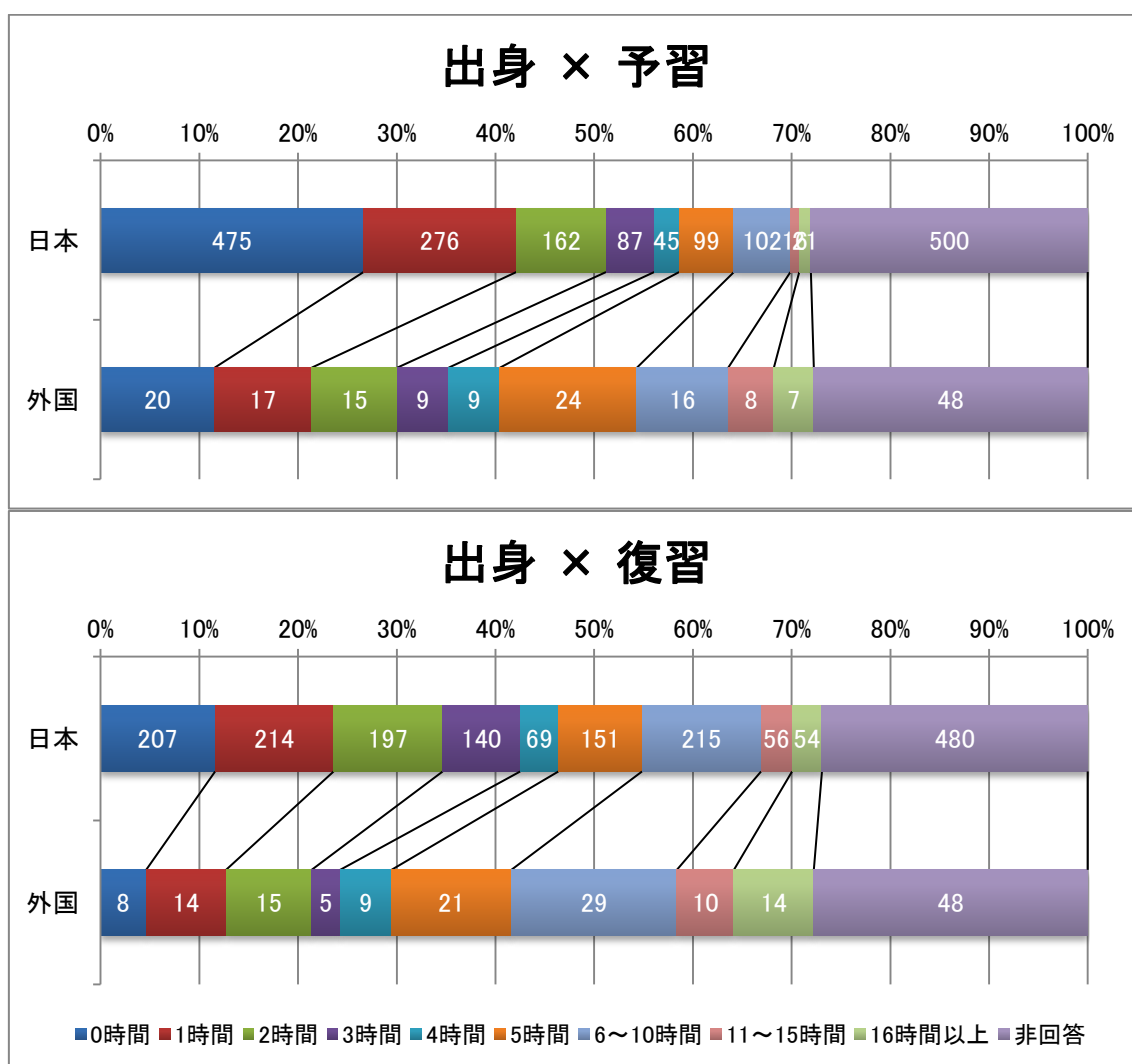


図 10.2.3-4 出身×1週間あたりの予習・復習時間



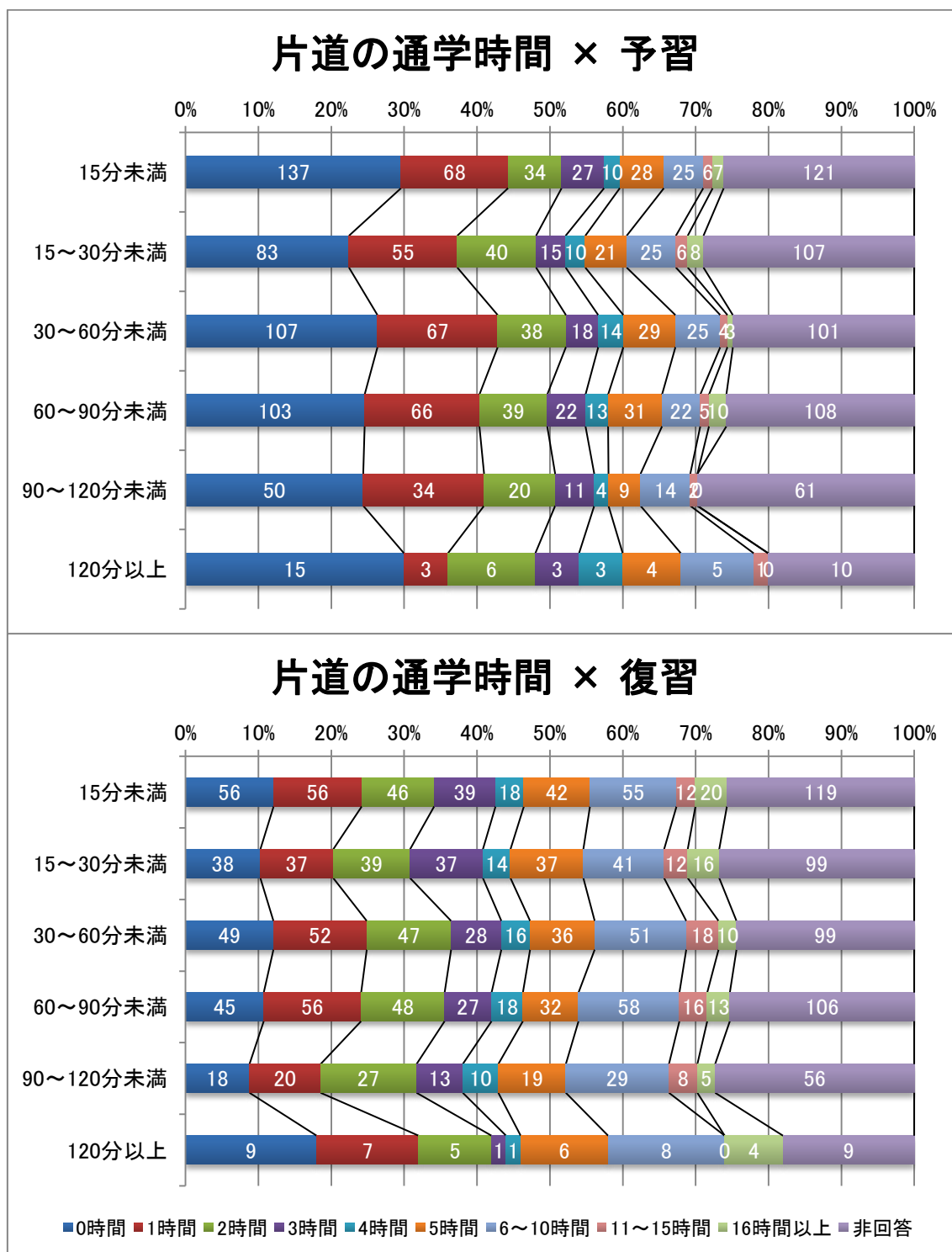


図 10. 2. 3-5 通学時間×1 週間あたりの予習・復習時間



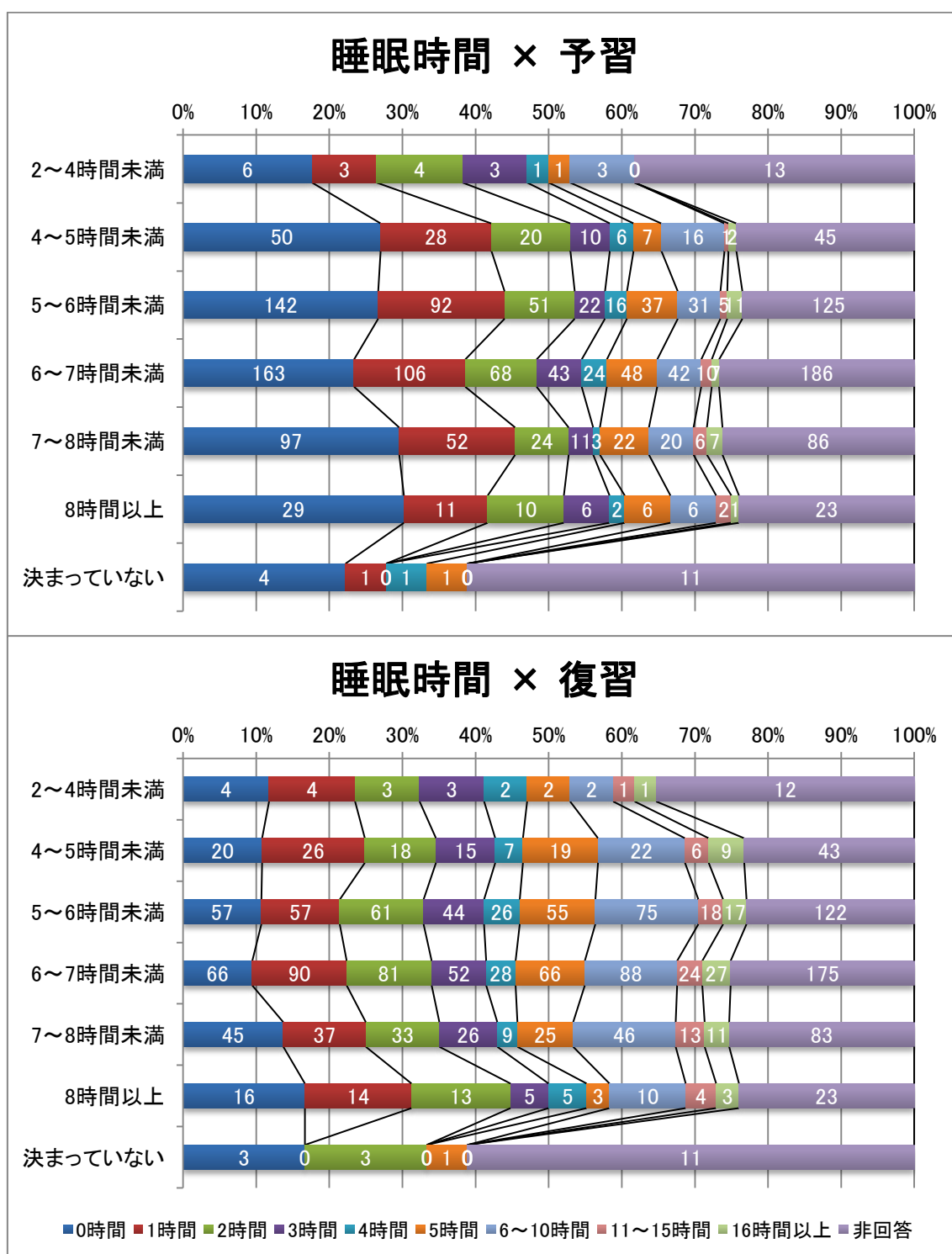


図 10.2.3-6 睡眠時間×1週間あたりの予習・復習時間



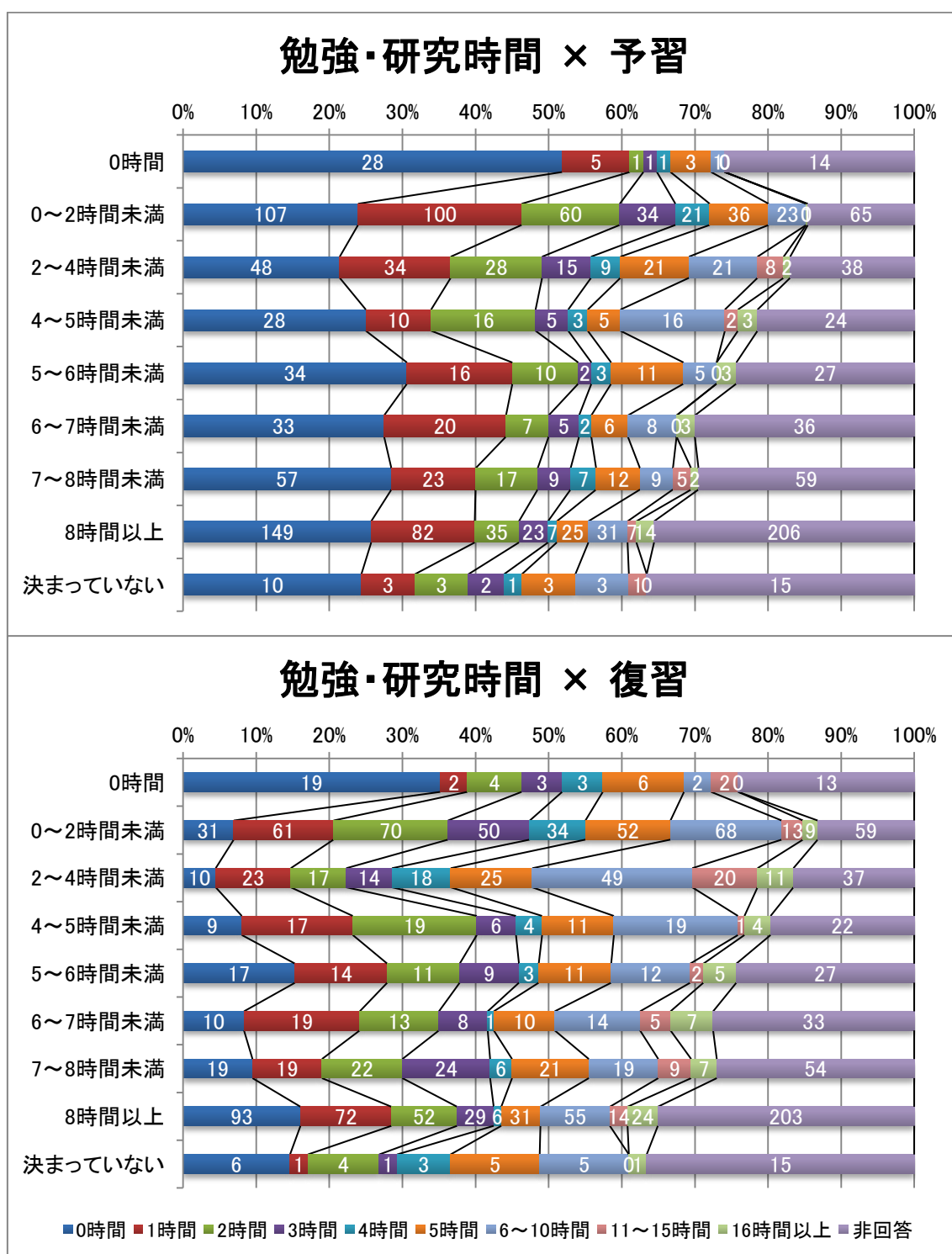


図 10. 2. 3-7 勉強・研究時間×1週間あたりの予習・復習時間



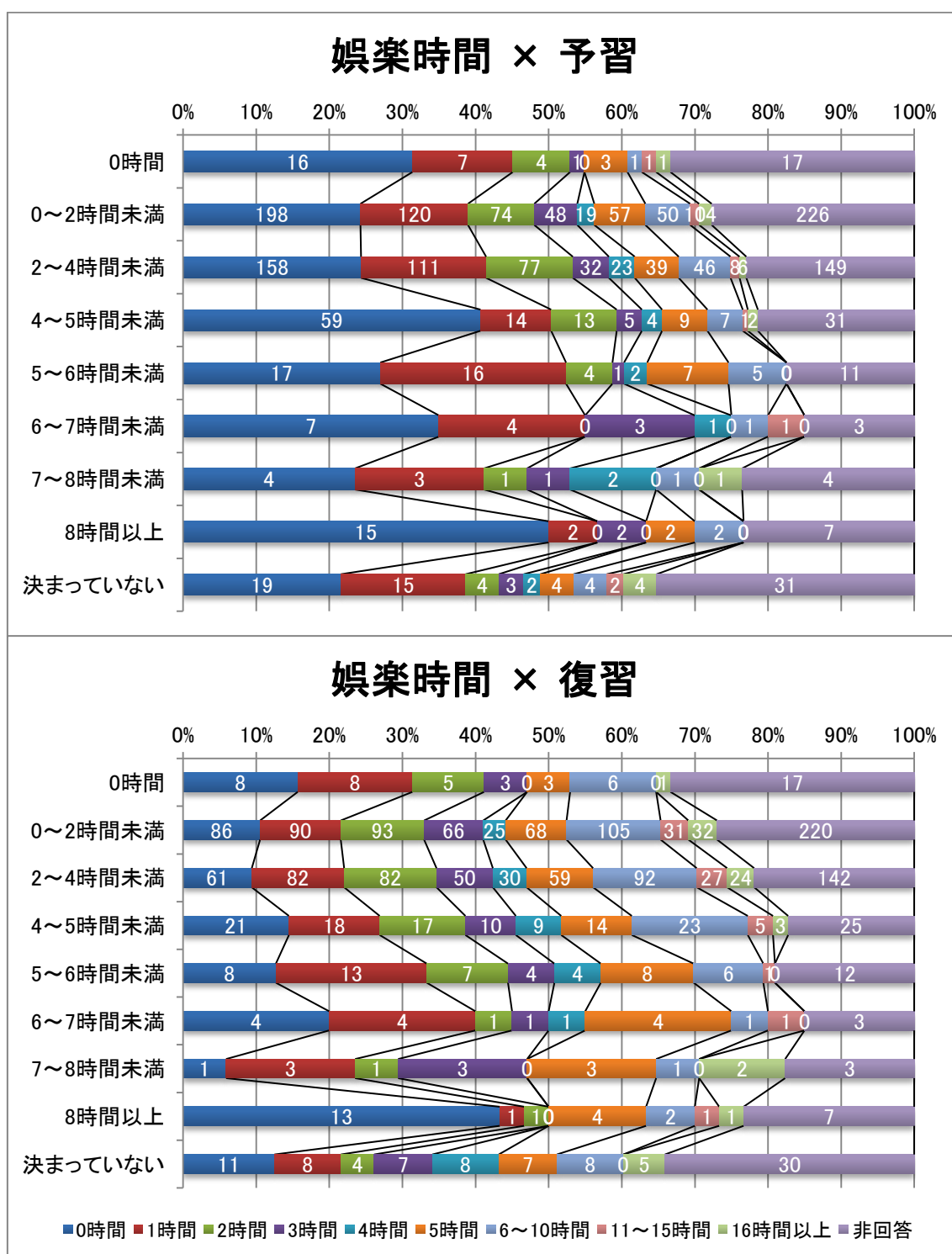


図 10.2.3-8 娯楽時間×1週間あたりの予習・復習時間



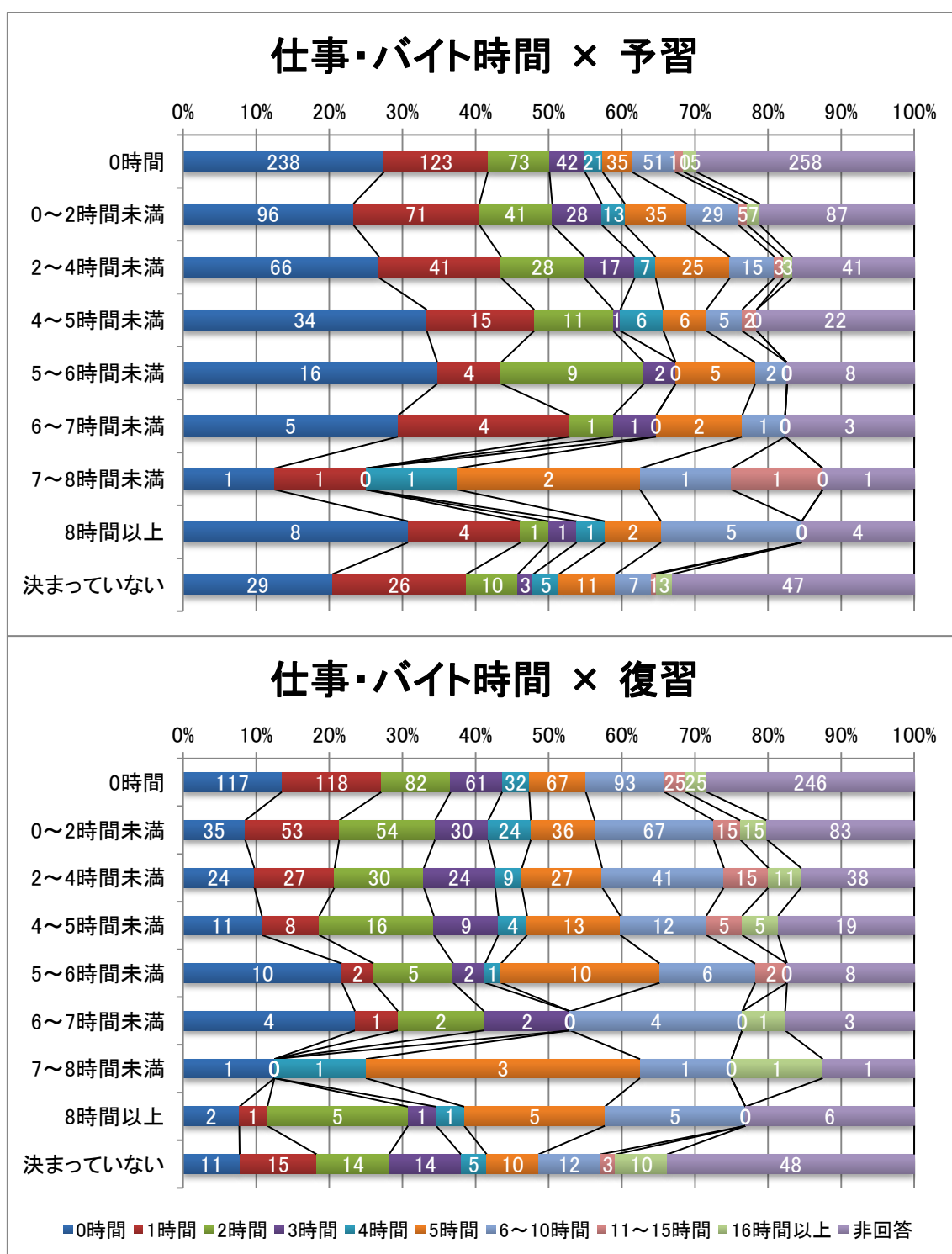


図 10. 2. 3-9 仕事・バイト時間×1週間あたりの予習・復習時間



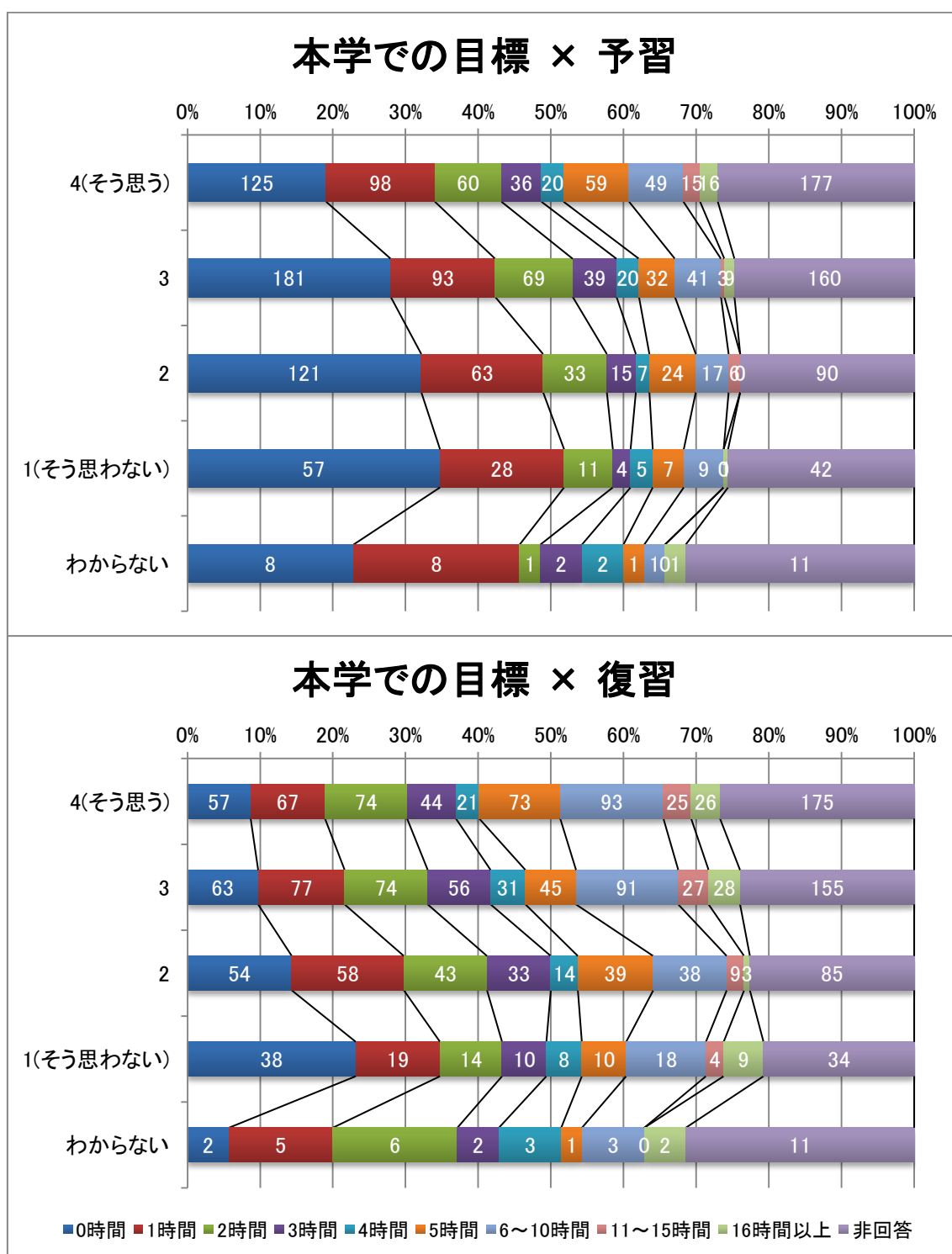


図 10. 2. 3-10 本学での目標×1週間あたりの予習・復習時間



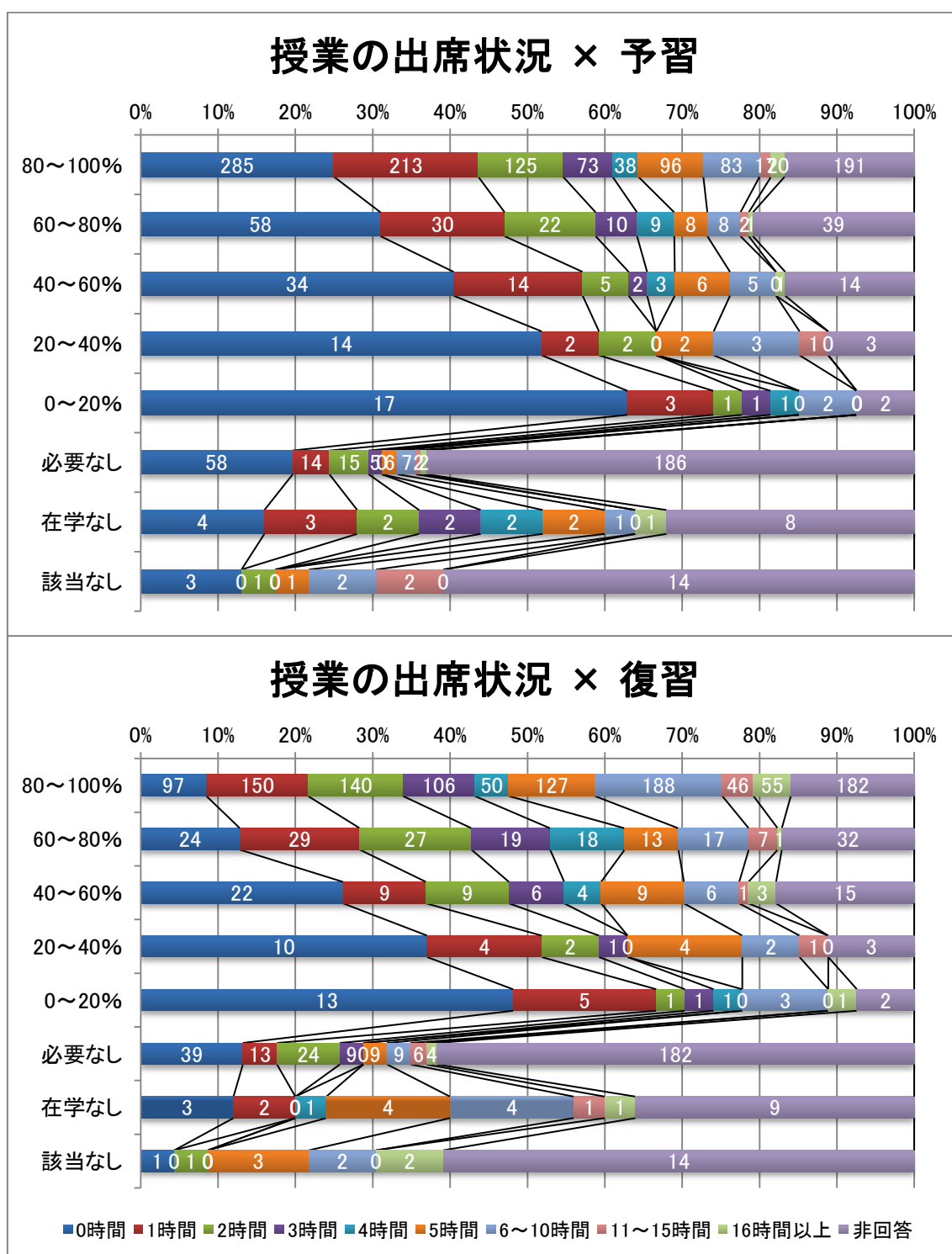


図 10. 2. 3-11 授業の出席状況×1 週間あたりの予習・復習時間



10.3 学勢調査に対して

10.3.1 回答率について

全体の回答率の変化を、図 10.3.1-1 に示しました。学勢調査 2012 では、前回の調査と比較して回答率が減少しており、学勢調査 2008 と同程度の回答率となりました。

2012 年度の学生総数は「東京工業大学プロフィール 2012-2013」の数値を、2010 年度、2008 年度の数値は学勢調査 2010 の数値を使用しました。

図 10.3.1-2 は、学勢調査 2012 の回答者のうち、過去の学勢調査にも回答した経験がある人数です。学勢調査 2012 の回答者数が学勢調査 2010 より減少した原因の一つとして、新規回答者の減少が挙げられます。

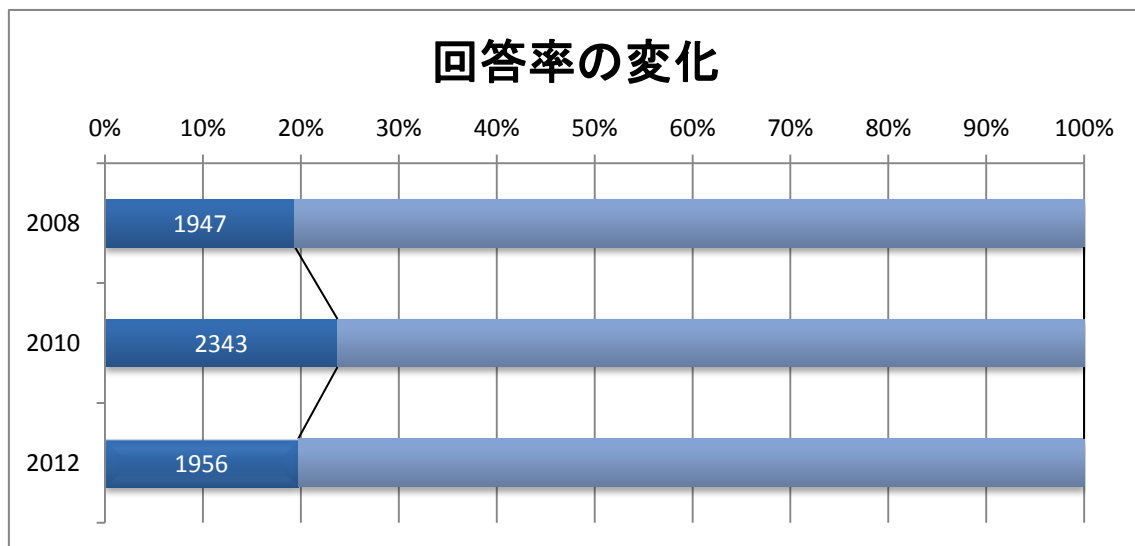


図 10.1.1-1 学勢調査の回答率の変化 (2008～2012)

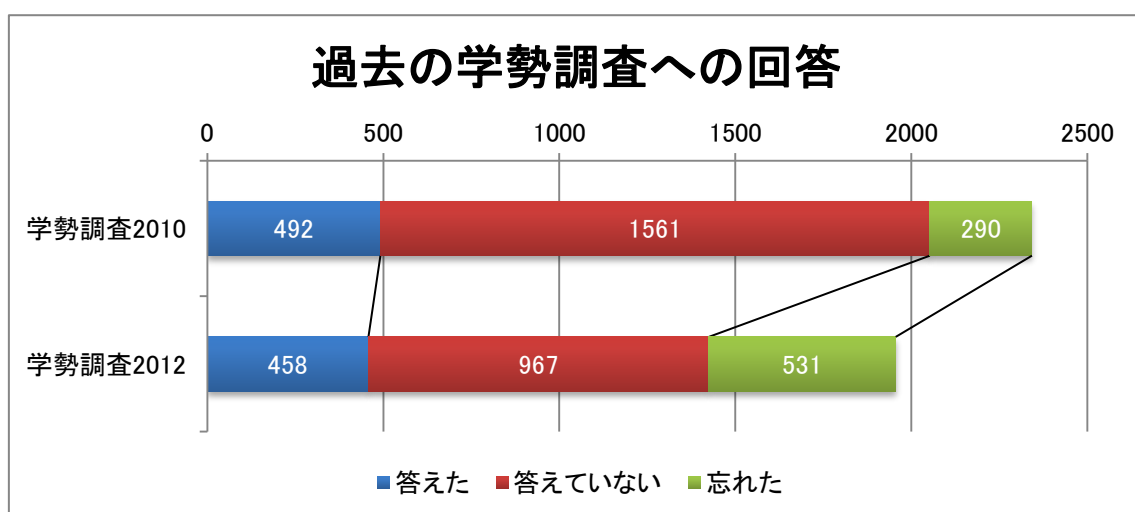


図 10.1.1-2 過去の学勢調査への回答の有無



10.3.2 層ごとの回答率について

図 10.3.2-1 は出身・性別・課程ごとの回答率です。学勢調査 2012 の回答者層は学勢調査 2008 と近くなっています。学勢調査 2012 では、学勢調査 2010 で増加した博士課程の学生の回答率が再び低下してしまいました。

一方、大多数を占める日本出身の学部学生の回答率はあまり変化していません。次回の学勢調査の広報では、もっと幅広い層からの回答を得られるような工夫が必要です。

2008	日本/男性	日本/女性	外国/男性	外国/女性	合計
学部	20%	31%	12%	12%	21%
修士課程	20%	21%	16%	14%	20%
博士課程	15%	17%	10%	11%	14%
合計	20%	25%	13%	13%	19%

2010	日本/男性	日本/女性	外国/男性	外国/女性	合計
学部	22%	31%	25%	22%	23%
修士課程	24%	32%	18%	37%	25%
博士課程	19%	22%	37%	40%	24%
合計	22%	30%	26%	34%	24%

2012	日本/男性	日本/女性	外国/男性	外国/女性	合計
学部	22%	28%	16%	15%	22%
修士課程	18%	23%	18%	20%	19%
博士課程	14%	19%	11%	16%	14%
合計	20%	25%	14%	17%	20%

図 10.3.2-1 学生の層ごとの回答率

※層別の回答率については、赤が最多、青が最少です。

合計の回答率については、緑が最多です。



10.3.3 回答者の傾向の変化

図 10.3.3-1 は学年ごとの回答数の変化を示したグラフです。ここでも、学勢調査 2012 は学勢調査 2008 とほぼ同じ割合を示しており、博士課程の学生の回答率が低下しています。

逆に、学部 1 年生の回答数は過去最多となっています。

図 10.3.3-2 は主な活動場所ごとの回答者数の変化です。このグラフに関しては学勢調査 2012 と学勢調査 2008 で差異があり、学勢調査 2012 では大岡山地区以外からの回答者も増加しています。

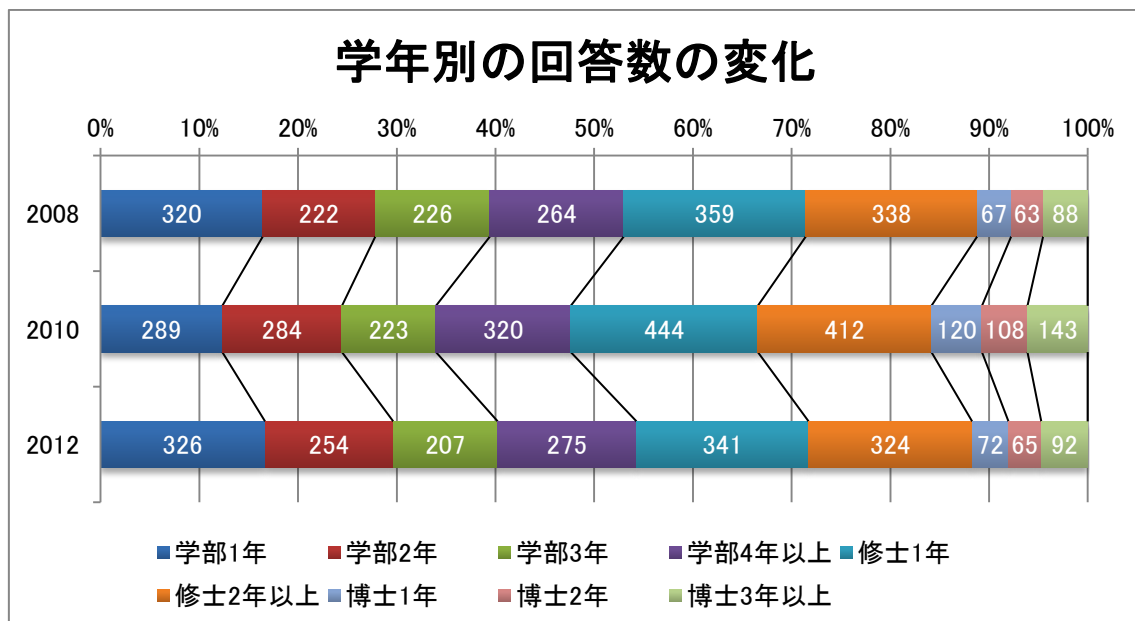


図 10.3.3-1 学年ごとの回答数の変化 (2008～2012)

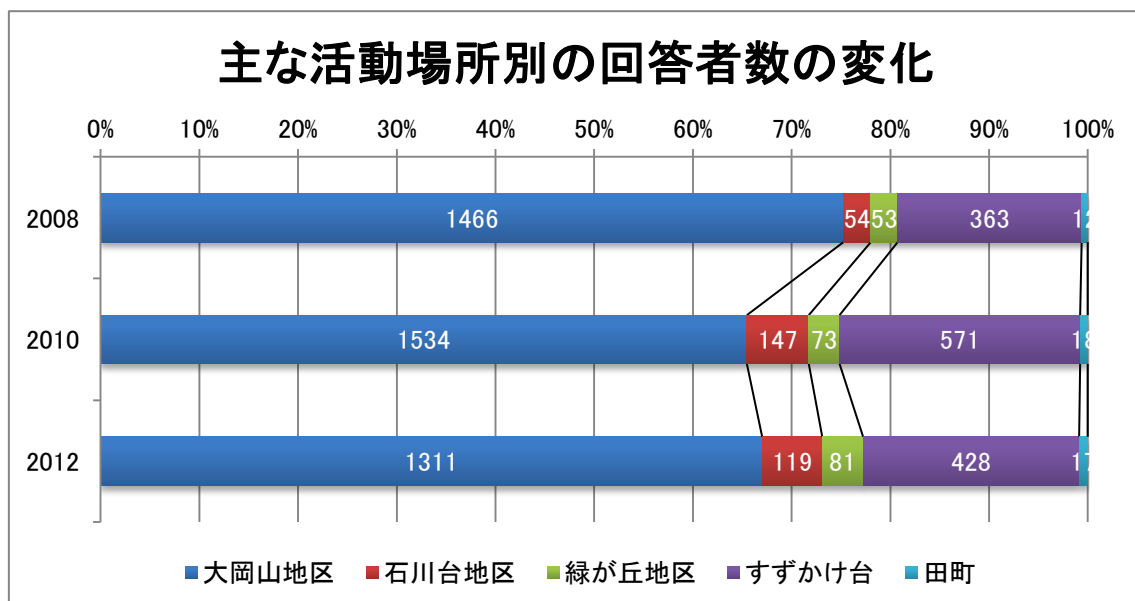


図 10.3.3-2 主な活動場所別の回答者数の変化 (2008～2012)



10. 調査関連

図 10.3.3-3 と図 10.3.3-4 は回答場所を示すグラフであり、課程が上がるにつれて、学内で回答する学生が増加していくことが分かります。

また、博士課程の回答者数が減少したため、アンケートを学内で回答している人数も減少しました。

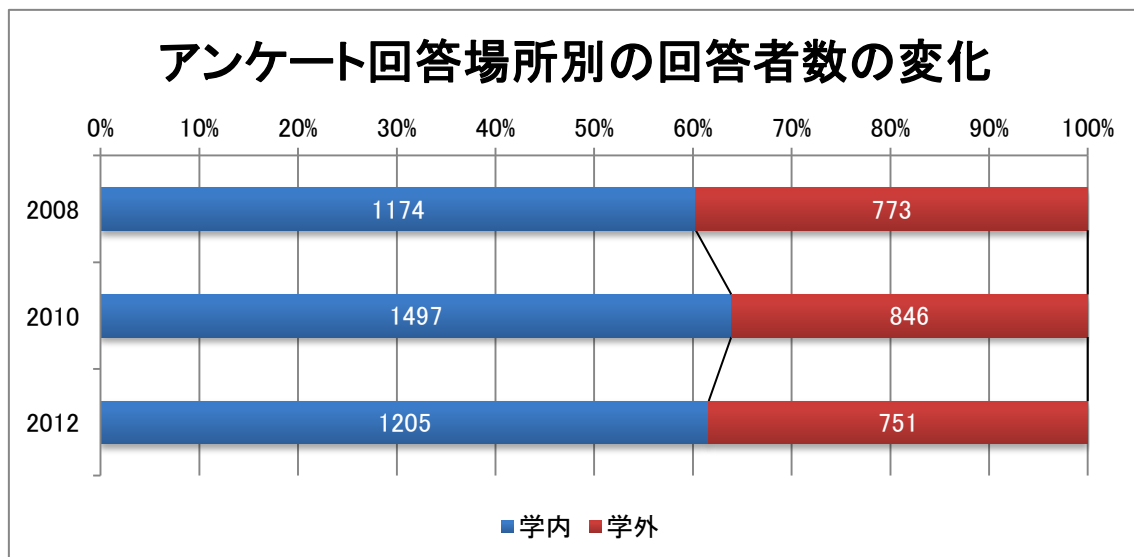


図 10. 3. 3-3 回答場所別の回答者数の変化 (2008～2012)

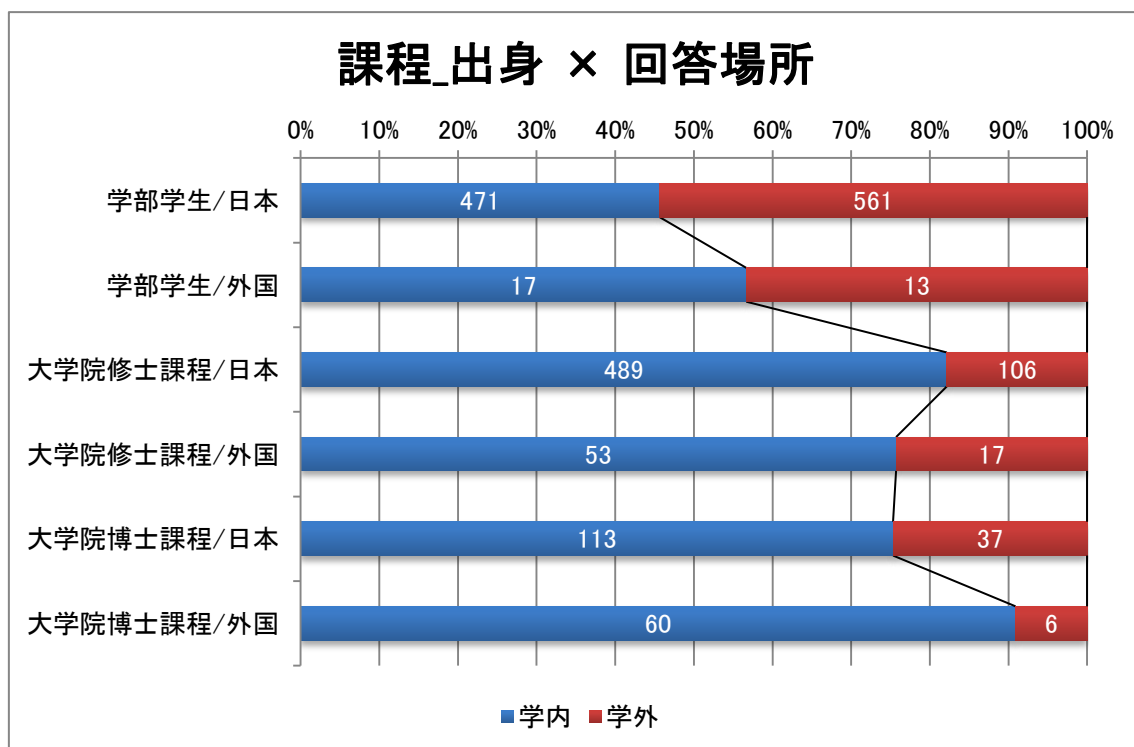


図 10. 3. 3-4 課程・出身×回答場所 (2012)



図 10.3.3-5 は、課程・出身校・国籍で作成したクロスデータです。修士課程、博士課程と進むにつれて東工大出身の学生が減少し、他大学・高専などが出身の学生が増加しています。

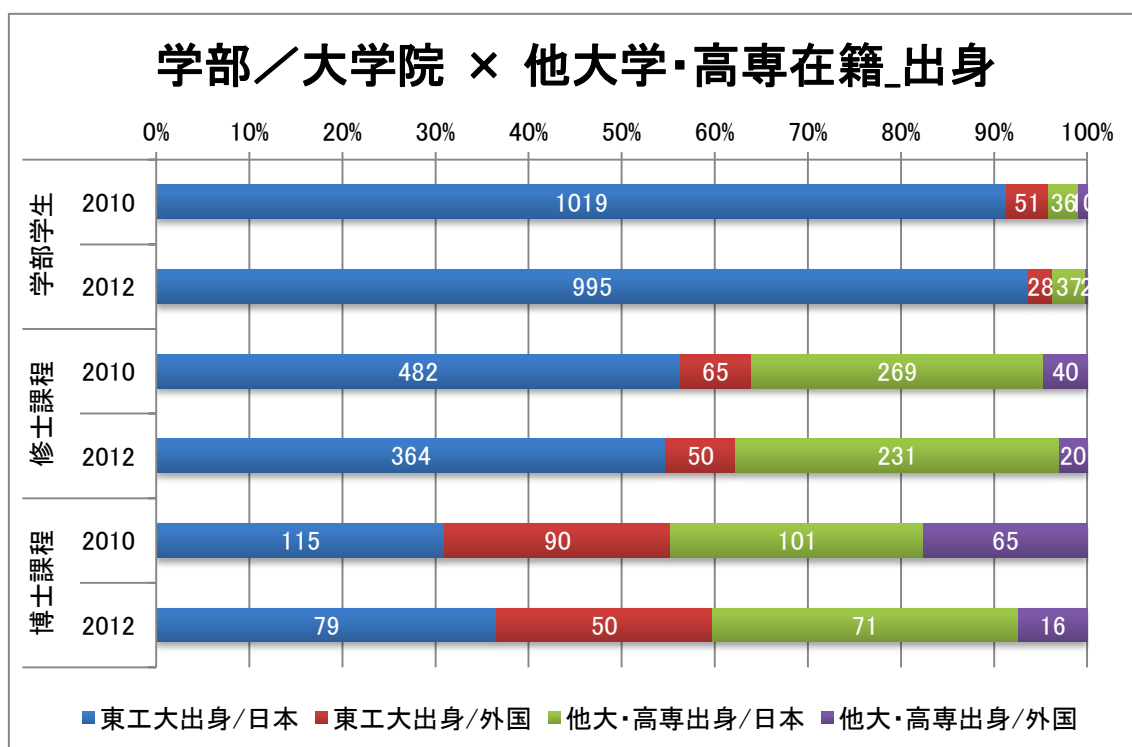


図 10.3.3-5 課程×出身校・国籍別の回答数 (2010、2012)

10.3.4 学勢調査 2012 に対する意見

学勢調査の最後の設問では、学勢調査そのものに対する意見を募集しています。

今回の調査で得られた意見を分類し、以下に示します。

- 学勢調査の取り組みをこのまま続けてほしいという意見が 32 件
- 質問が多い・長いという意見が 36 件
- 設問が良くないという意見が 21 件
- 学外から回答するためのログイン画面に関する意見が 13 件
- 学勢調査の広報に関する意見が 8 件
- 調査に対する不安が 4 件
- 毎年実施して欲しいという意見が 4 件

このように、様々な意見が集まりました。この意見は次回のスタッフに引き継ぎ、今後の学勢調査に活かしていきたいと思っています。



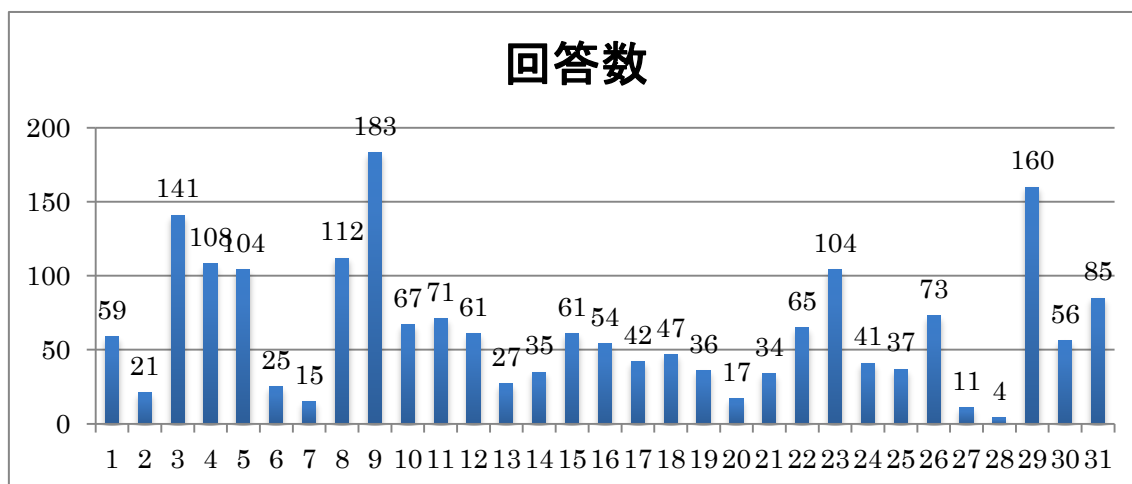
11. 調査資料集

本章では、2012 年 10 月 1 日から 10 月 31 日にかけて行われた学勢調査アンケートの結果を掲載します。

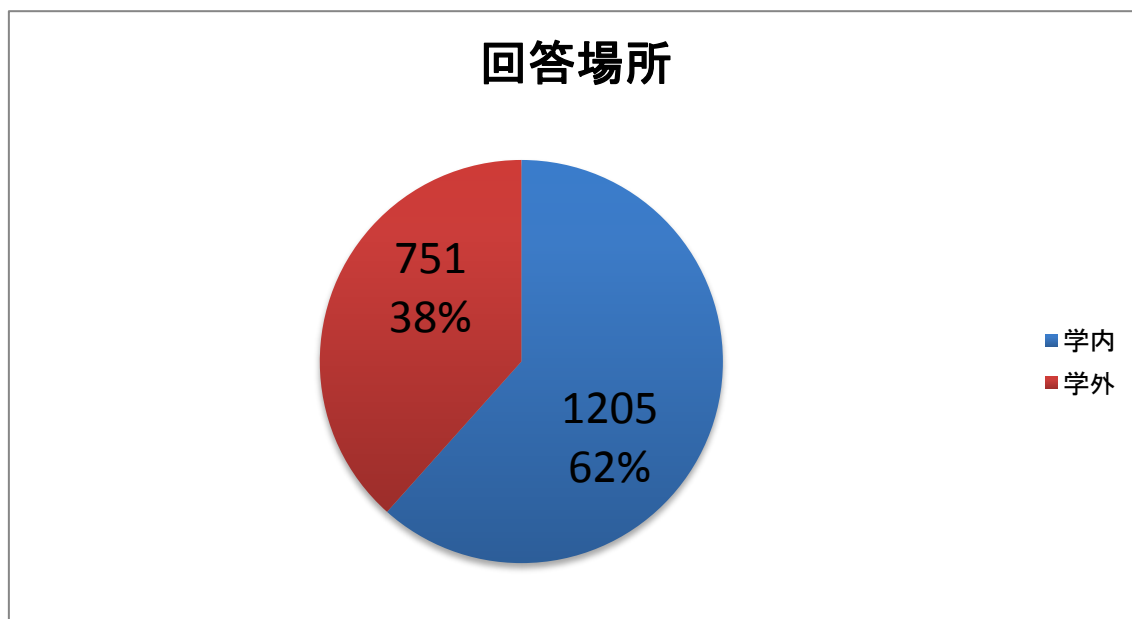
集計対象は自由記述回答の設問以外全てです。集計結果のグラフ・表中の数字は該当選択肢への回答者数です。なお、一部の設問は表記の都合上、実際の設問とは異なっていますが、内容に違いはありません。

0. 基本情報

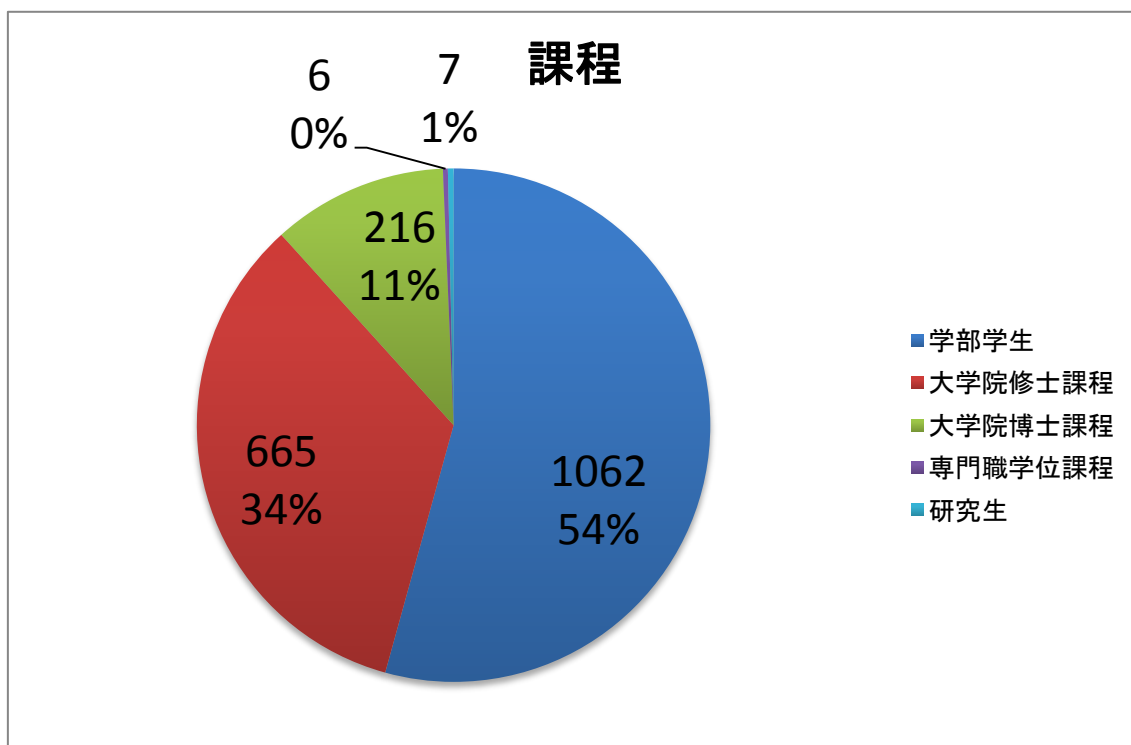
(0)回答日



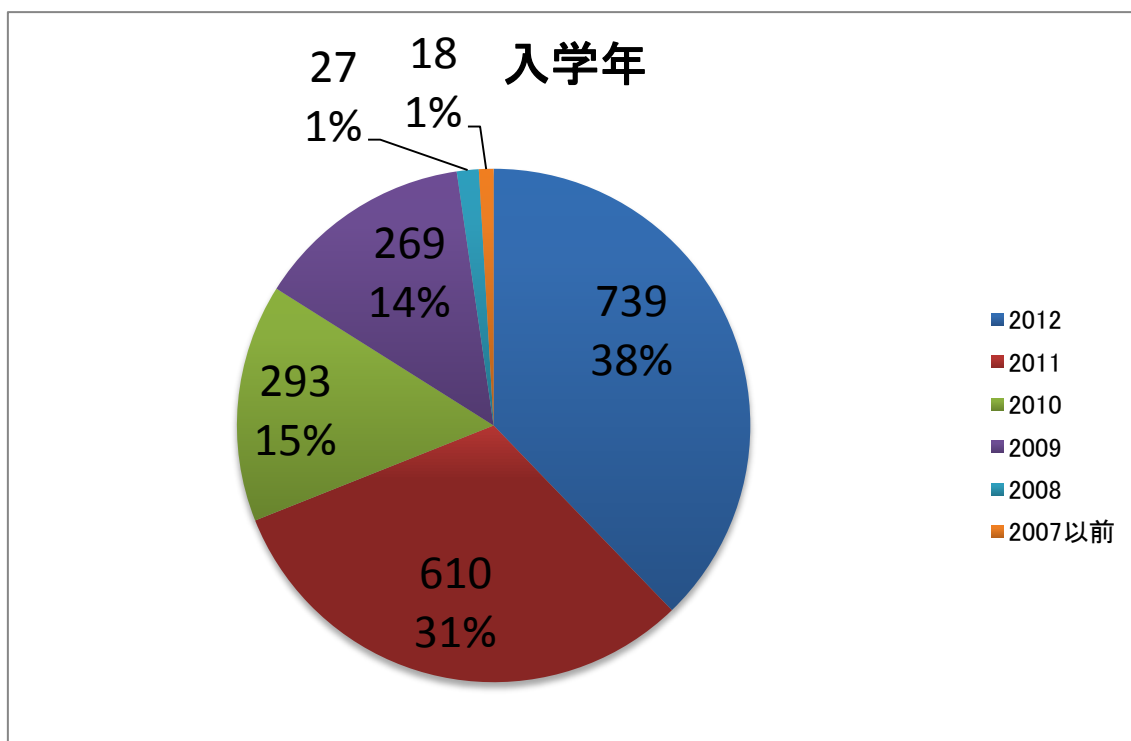
(1)あなたはどこでこのアンケートに回答していますか。



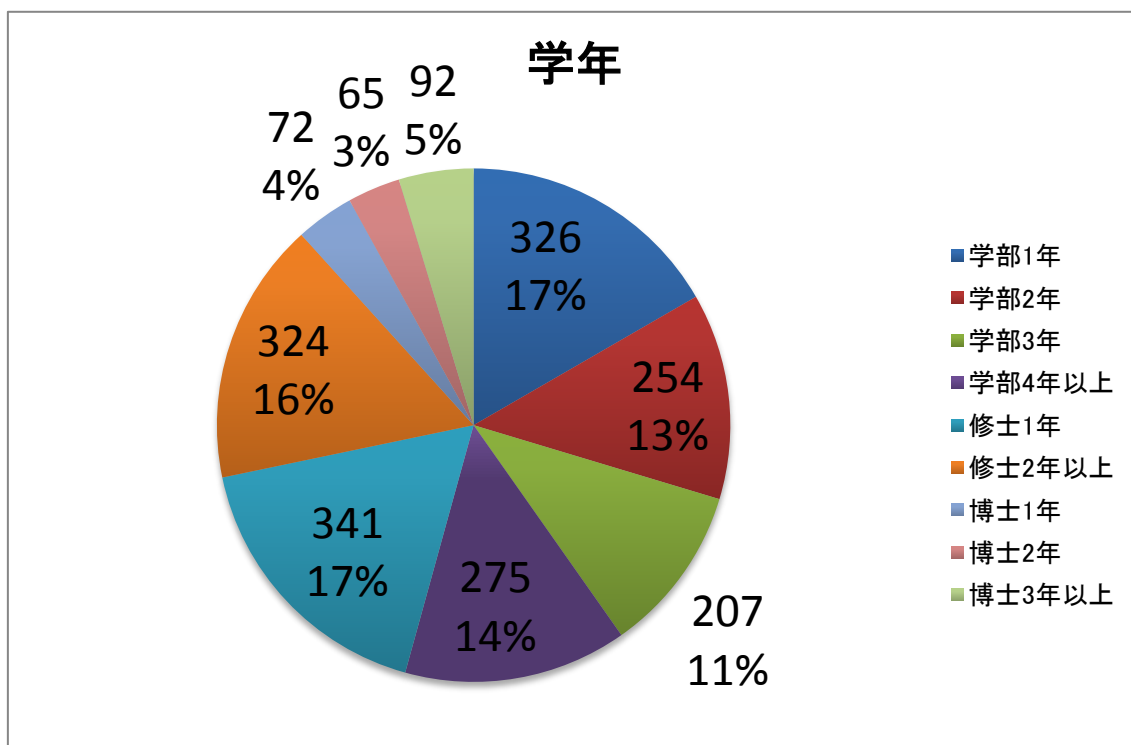
(2)学部／大学院



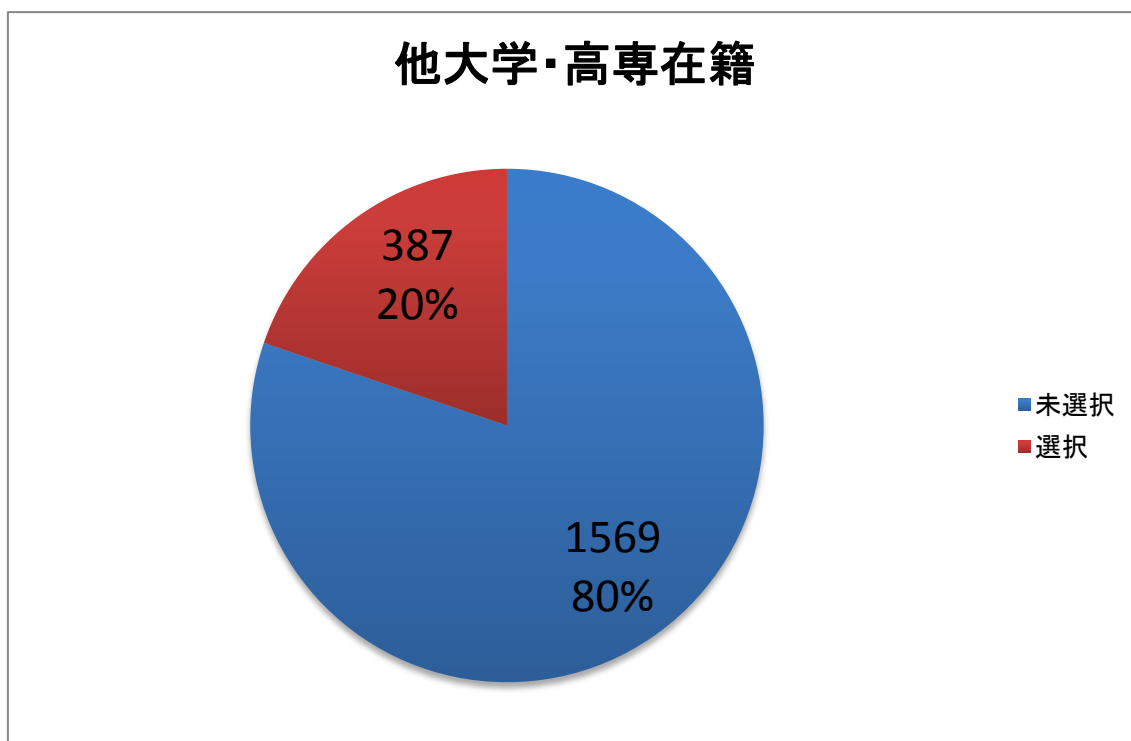
(3)現課程への入学年



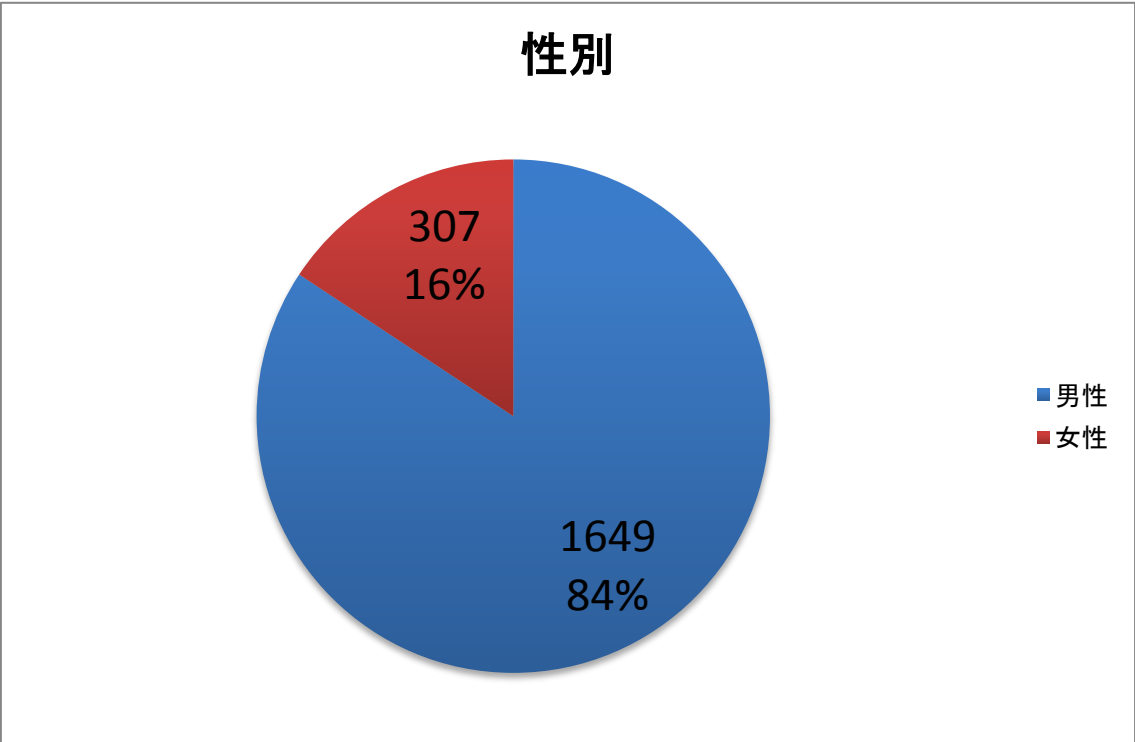
(4)学年



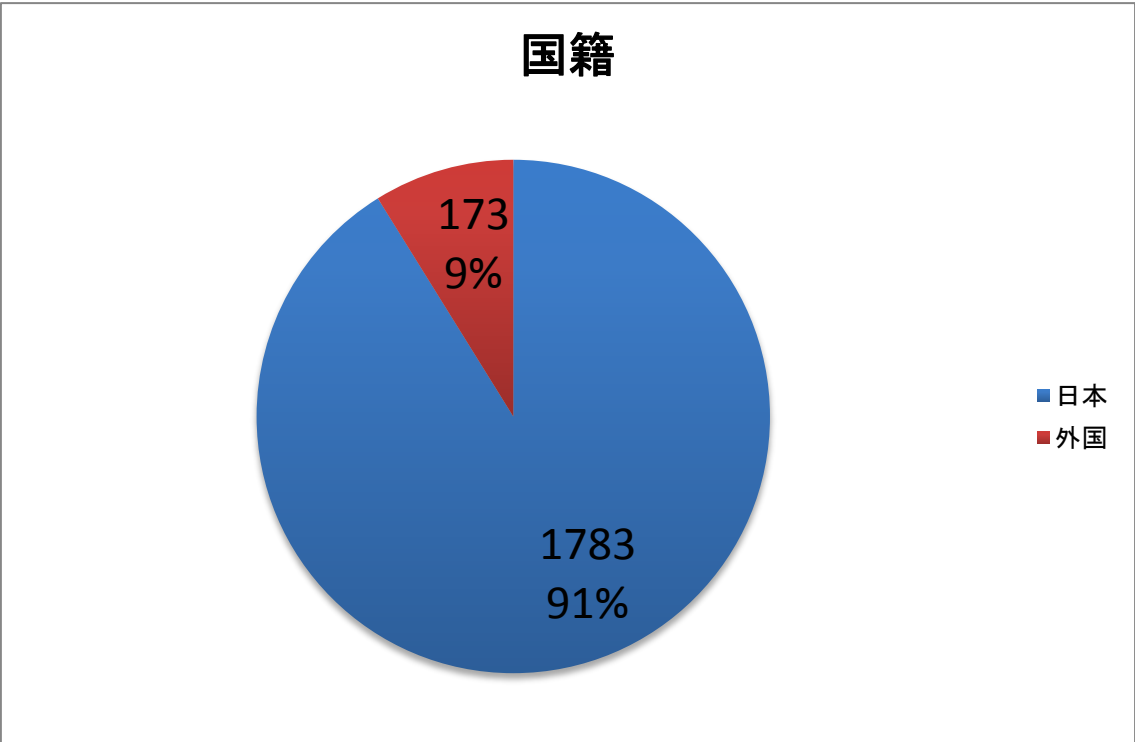
(5)他大学、または高専に在籍していた方はチェックを入れてください。



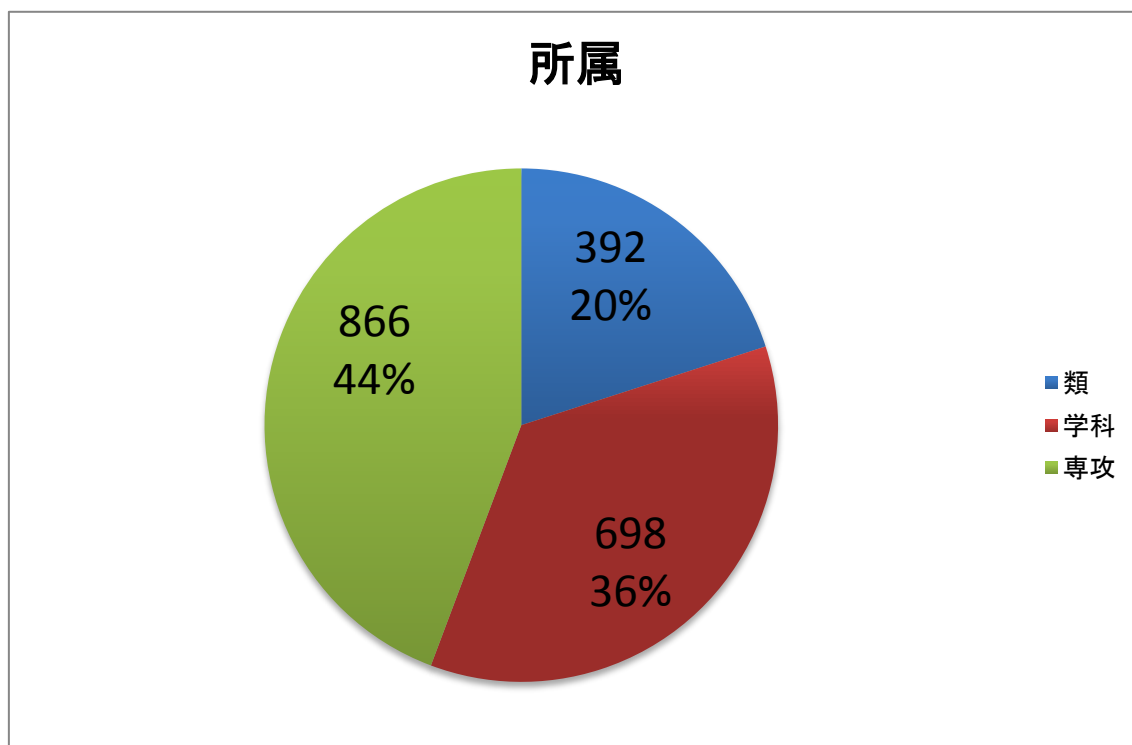
(6)性別



(7)出身



(8)所属(類、学科または専攻名)

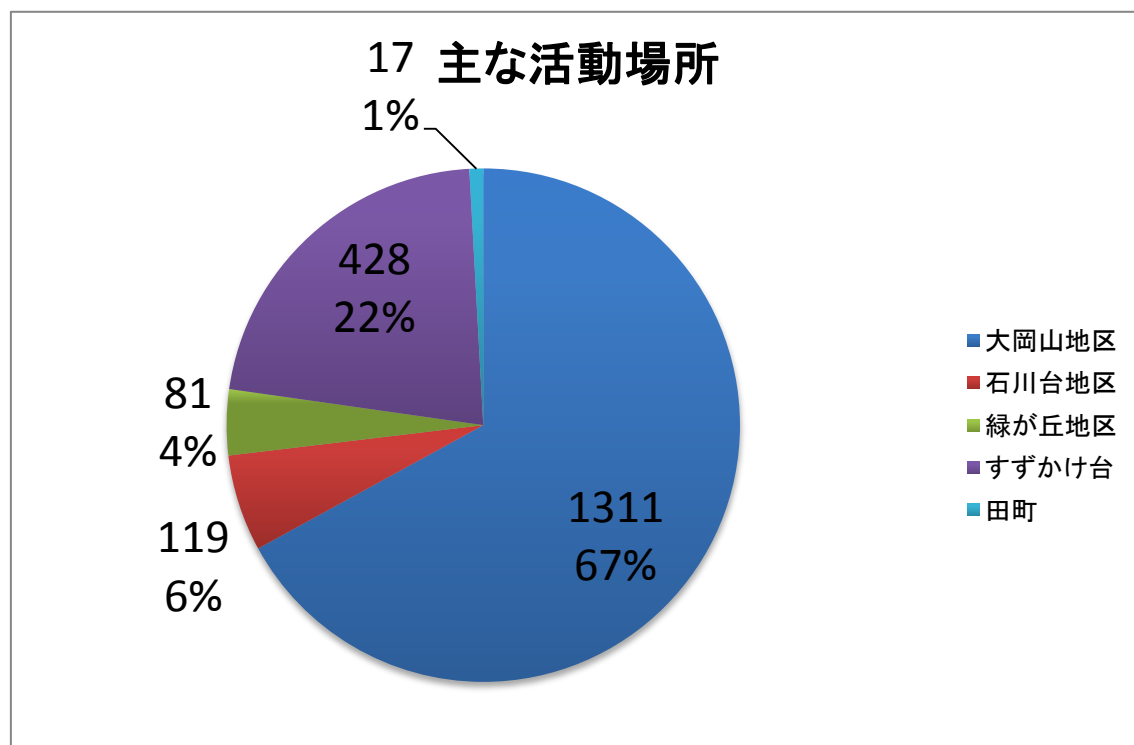


(8-a)所属別回答者数

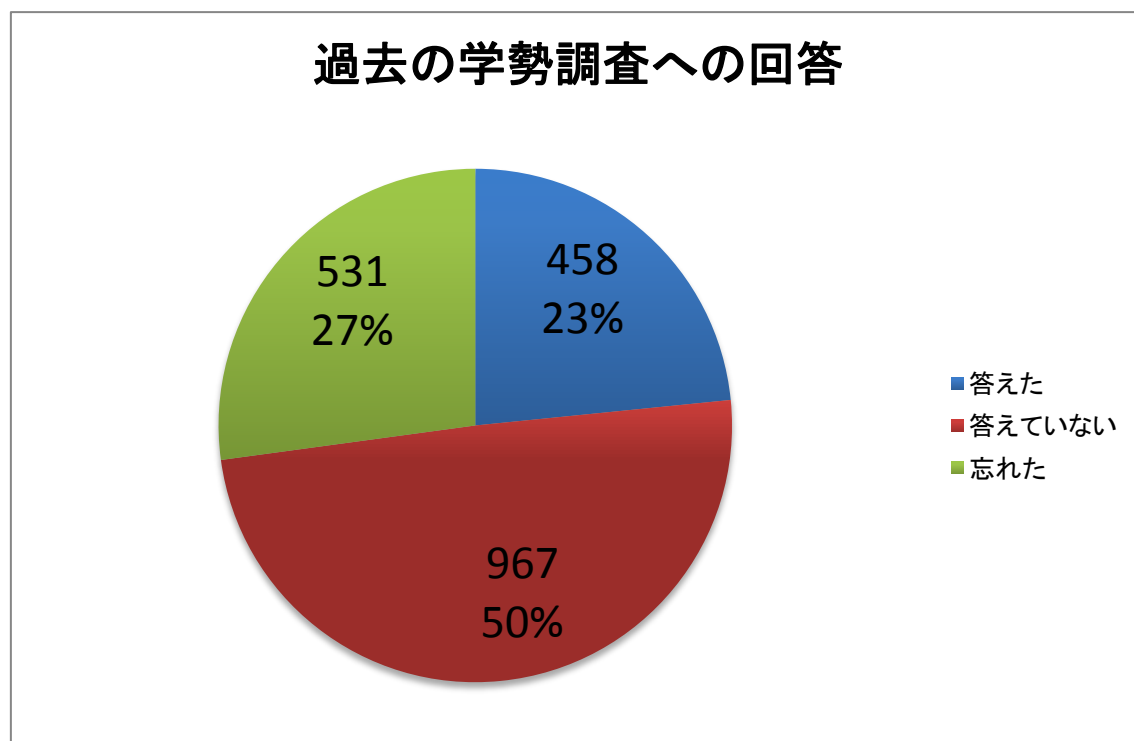
1類		77	材料工学専攻		19
2類		25	有機・高分子物質専攻		28
3類		35	応用化学専攻		16
4類		64	化学工学専攻		17
5類		66	機械物理工学専攻		23
6類		29	機械制御システム専攻		28
7類		59	機械宇宙システム専攻		19
該当する選択肢なし		36	電気電子工学専攻		28
			電子物理工学専攻		17
数学科		23	集積システム専攻		20
物理学科		37	土木工学専攻		15
化学科		24	建築学専攻		14
情報科学科		22	国際開発工学専攻		20
地球惑星科学科		23	原子核工学専攻		22
金属工学科		24	分子生命科学専攻		18
有機材料工学科		22	生体システム専攻		16
無機材料工学科		22	生命情報専攻		21
化学工学コース		22	生物プロセス専攻		17
応用化学コース		27	生体分子機能工学専攻		13
高分子工学科		19	物質科学創造専攻		34
機械科学科		26	物質電子化学専攻		22
機械知能システム学科		21	材料物理科学専攻		31
機械宇宙学科		30	環境理工学創造専攻		24
国際開発工学科		12	人間環境システム専攻		16
制御システム工学科		44	創造エネルギー専攻		27
経営システム工学科		20	化学環境学専攻		21
電気電子工学科		75	物理電子システム創造専攻		18
情報工学科		73	メカノマイクロ工学専攻		21
土木・環境工学科		27	知能システム科学専攻		52
建築学科		24	物理情報システム専攻		19
社会工学科		17	数理・計算科学専攻		11
生命科学科		24	計算工学専攻		22
生命工学科		35	情報環境学専攻		19
該当する選択肢なし		5	人間行動システム専攻		18
			価値システム専攻		7
数学専攻		14	経営工学専攻		23
基礎物理学専攻		12	社会工学専攻		10
物性物理学専攻		14	技術経営専攻		13
化学専攻		15	イノベーション専攻		2
地球惑星科学専攻		11	該当する選択肢なし		5
物質科学専攻		14			



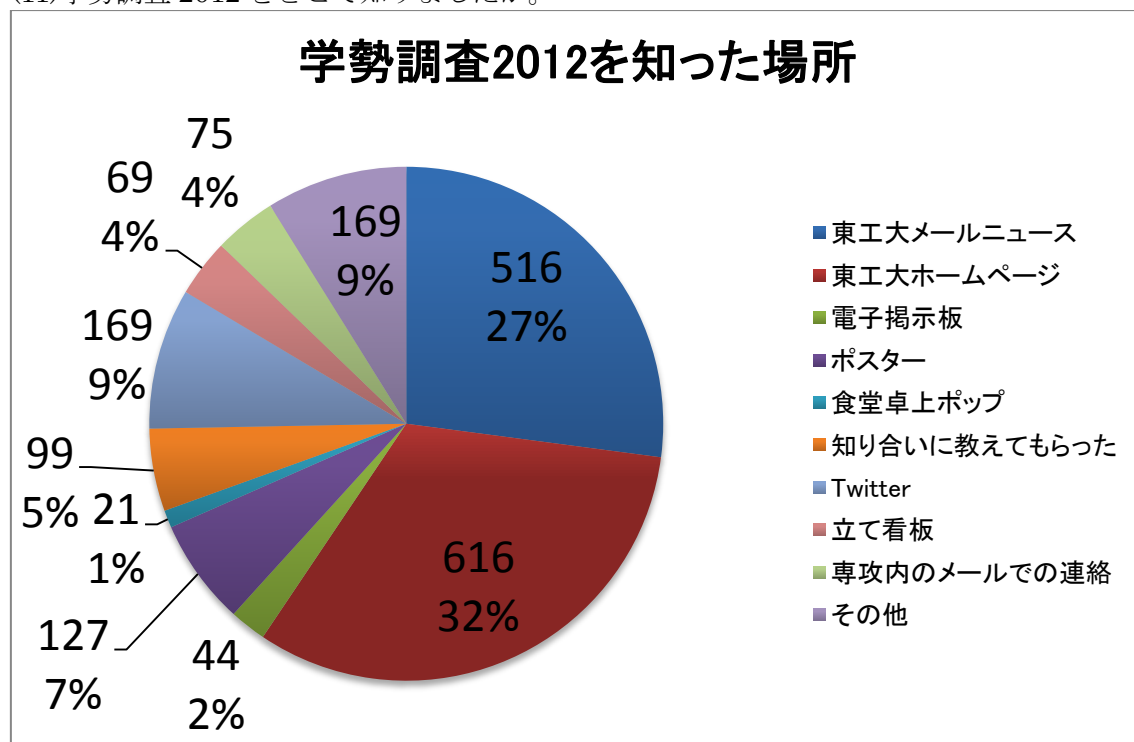
(9)キャンパス内の主な活動場所はどこですか。



(10)過去に実施した学勢調査に回答しましたか。

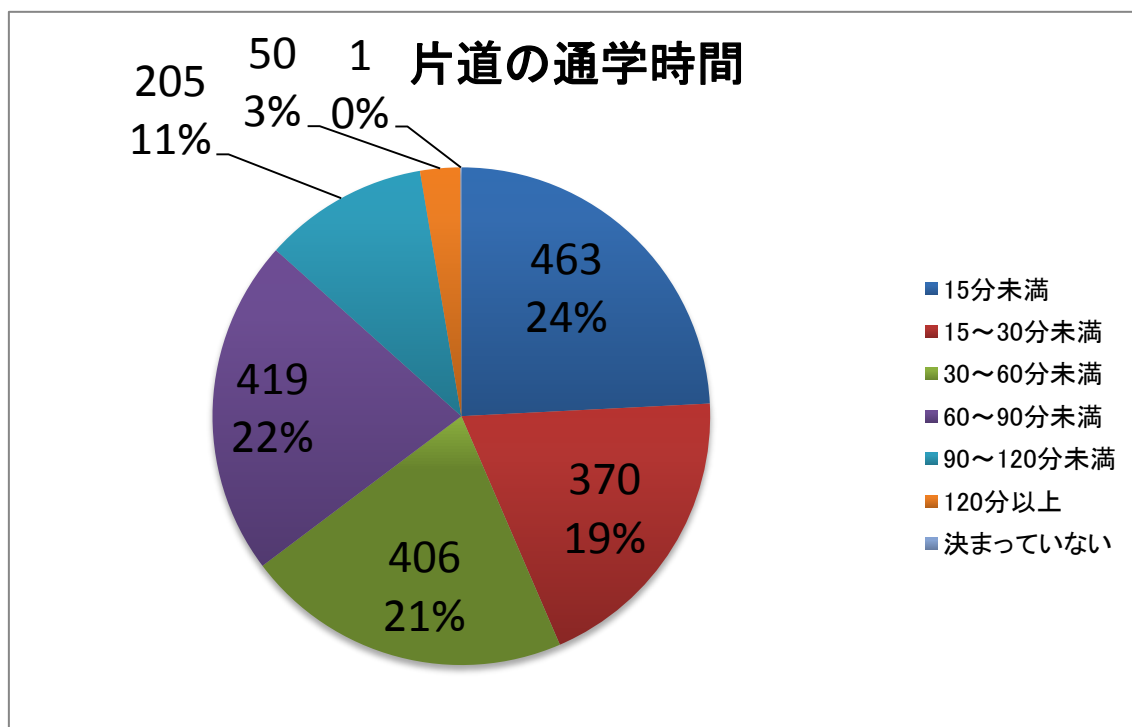


(11)学勢調査 2012 をどこで知りましたか。

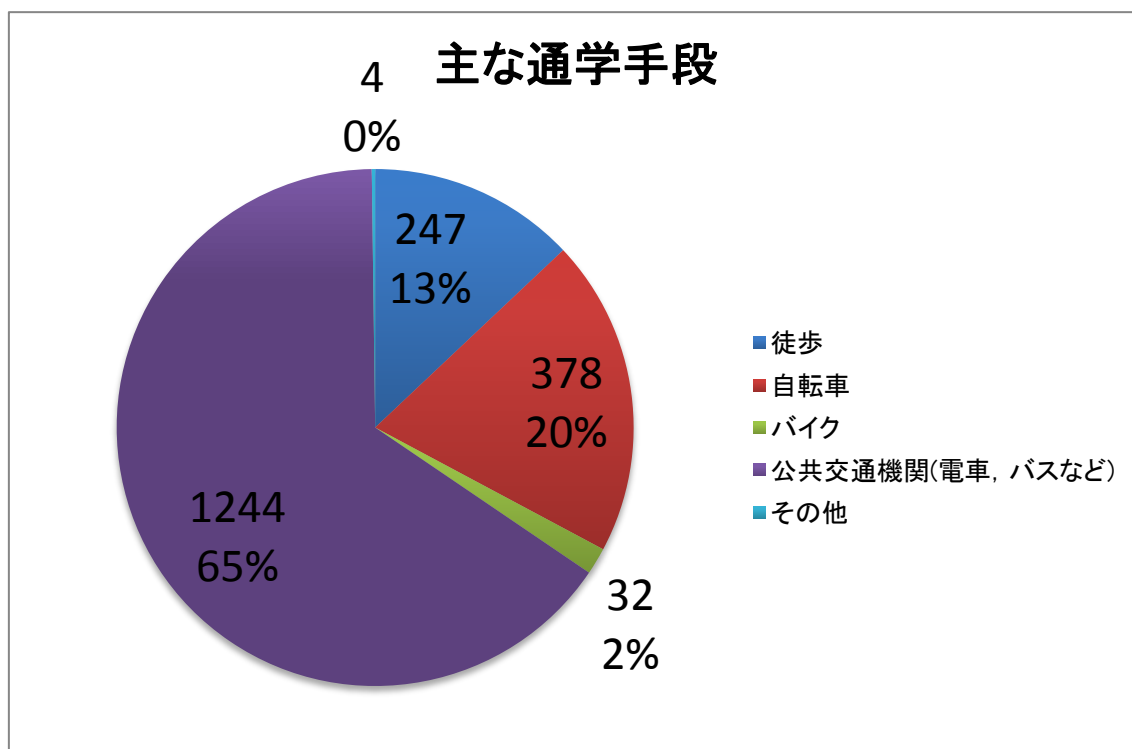


1. 生活基盤について

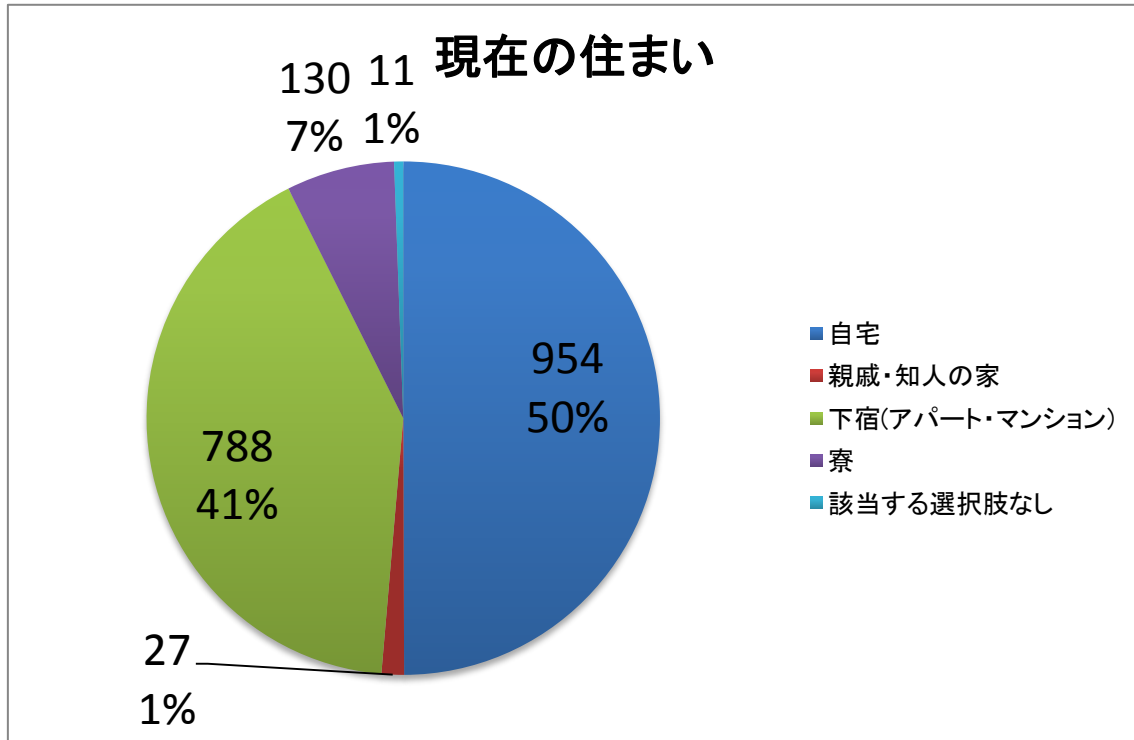
(1)片道の通学時間はどのくらいですか。



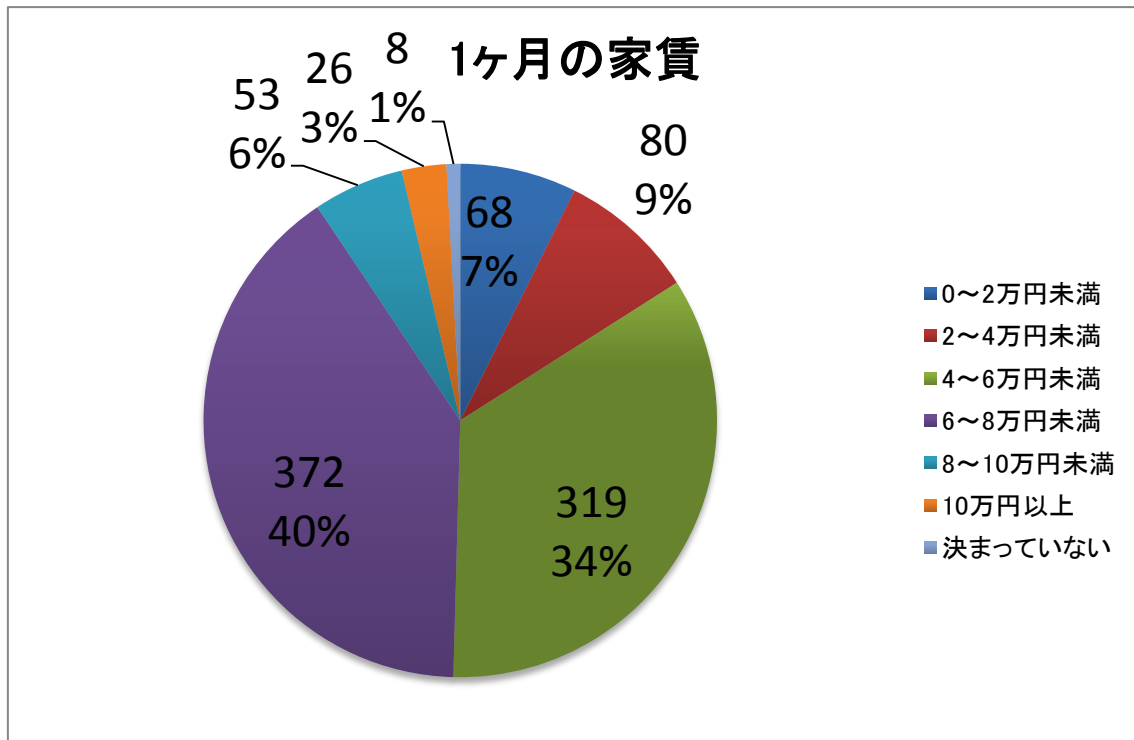
(2)主な通学手段は何ですか。



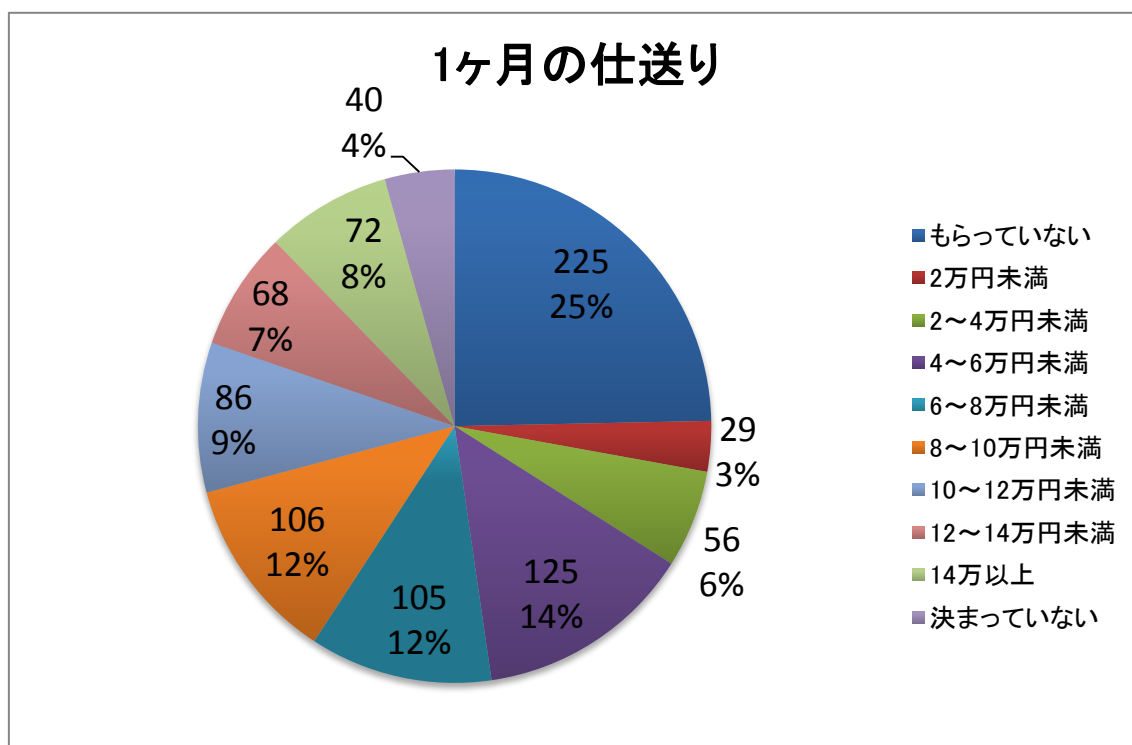
(3)現在の住まいは以下のどれにあたりますか。



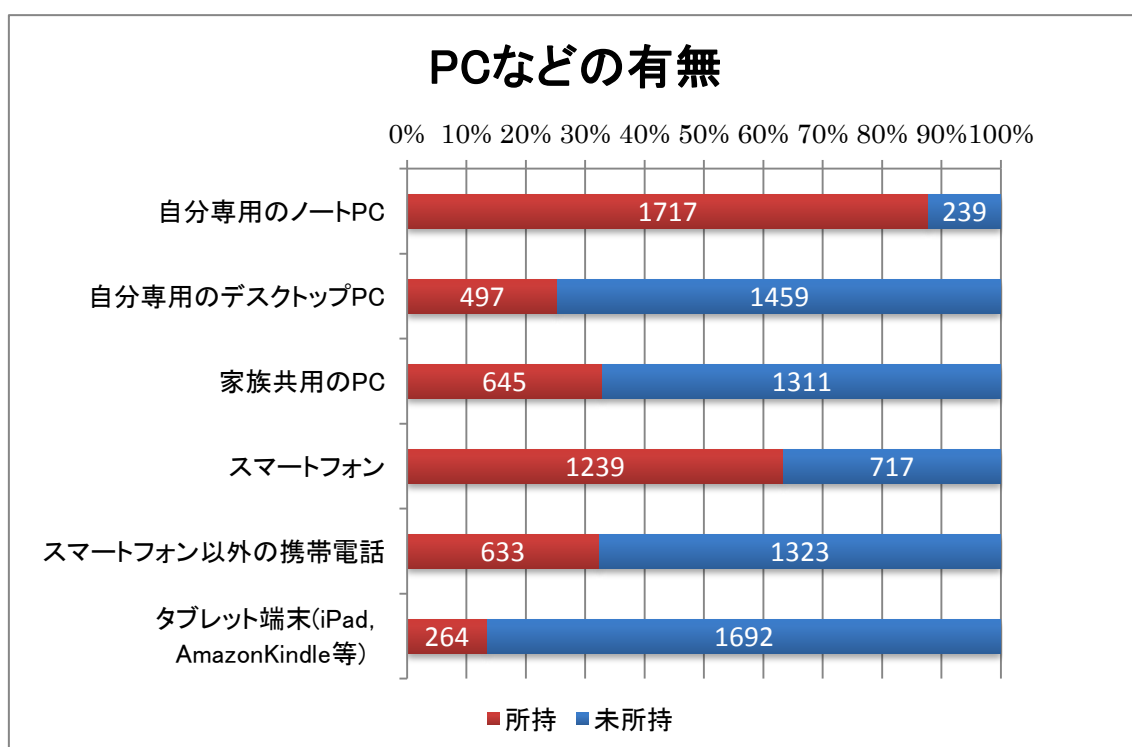
(4)(3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の家賃はどのくらいですか。



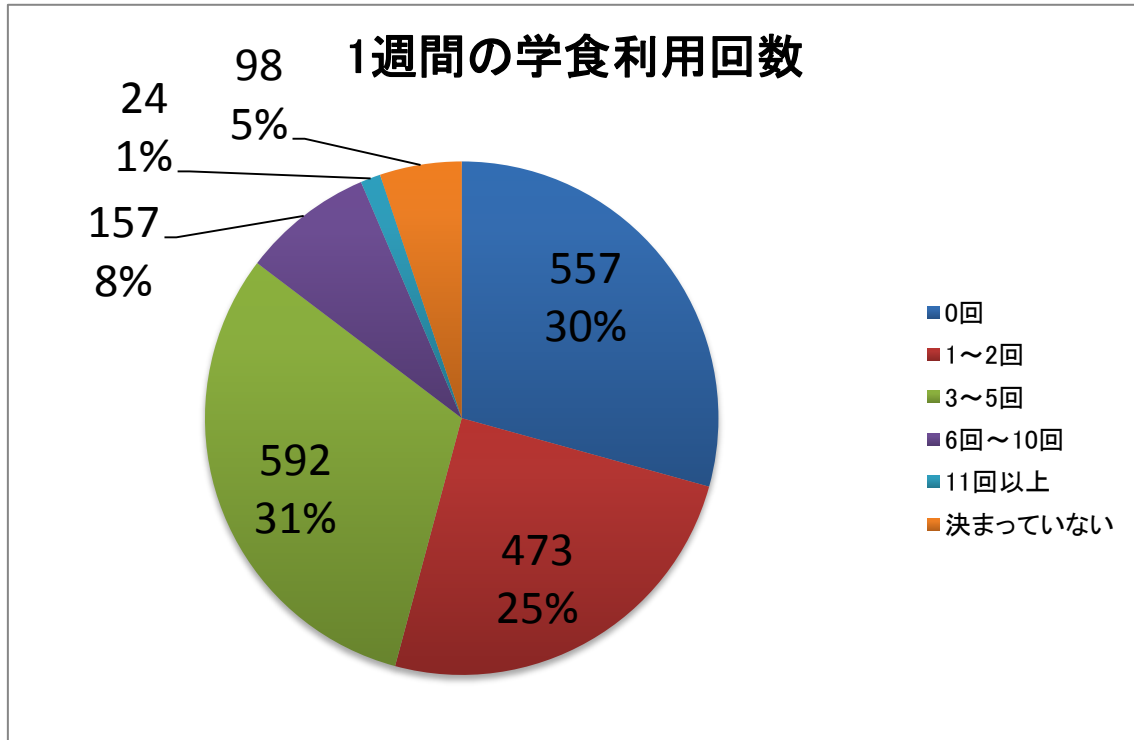
(5)(3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。



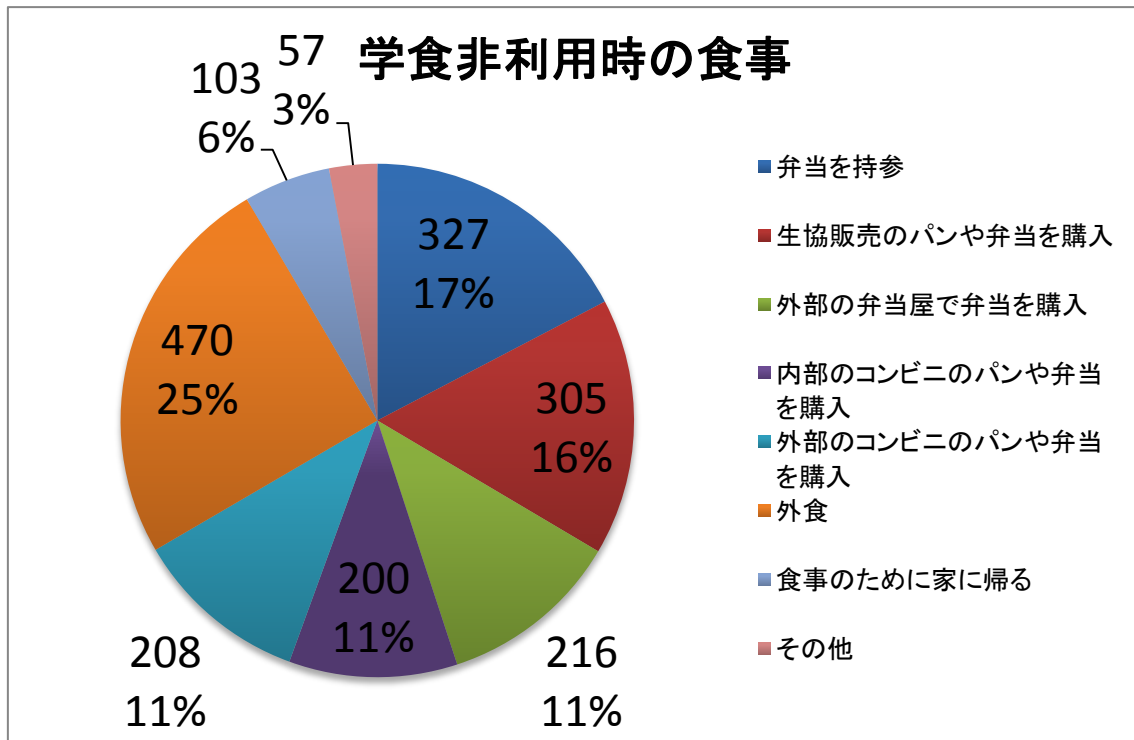
(6)パソコンなどを所有していますか。(複数回答可)



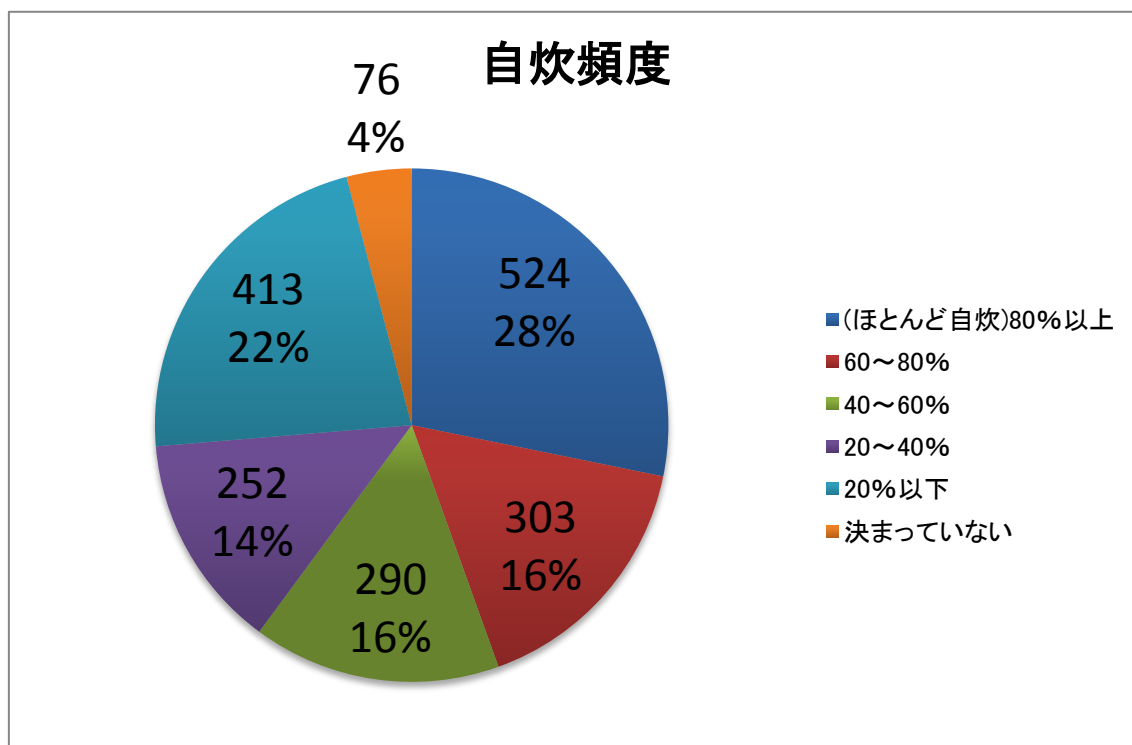
(7)1週間に何回くらい学内の食堂(学食)を利用しますか。



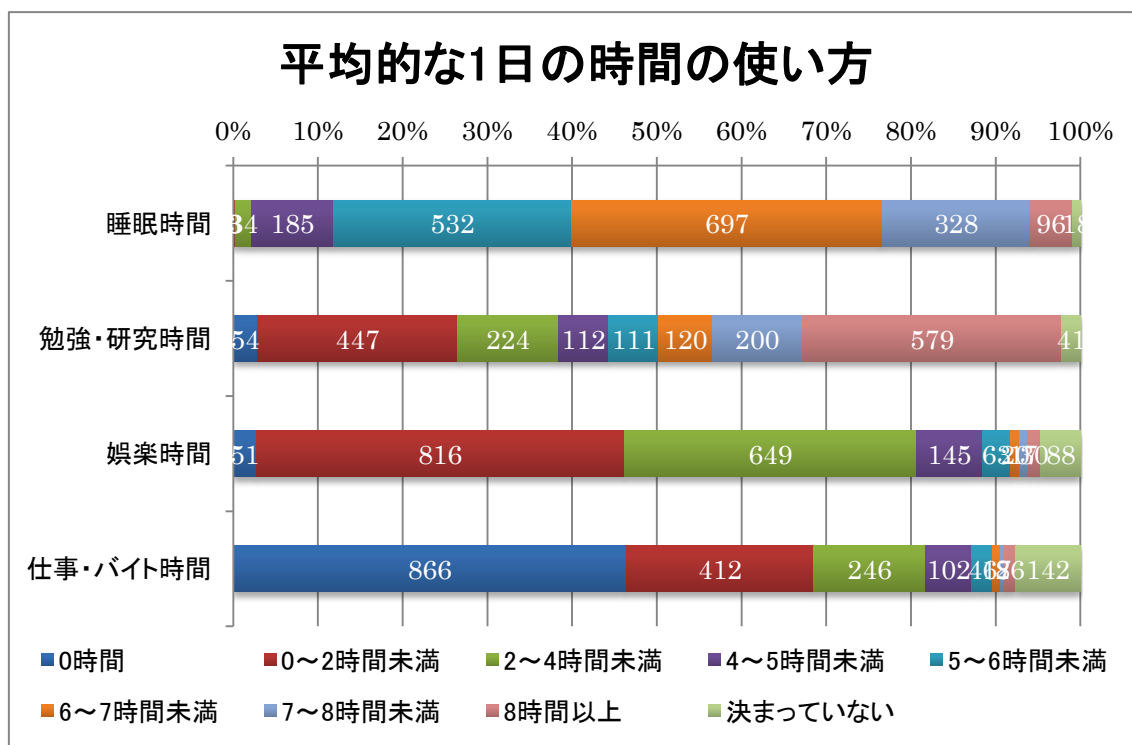
(8)学食を利用しない時は主にどうやって食事をとりますか。



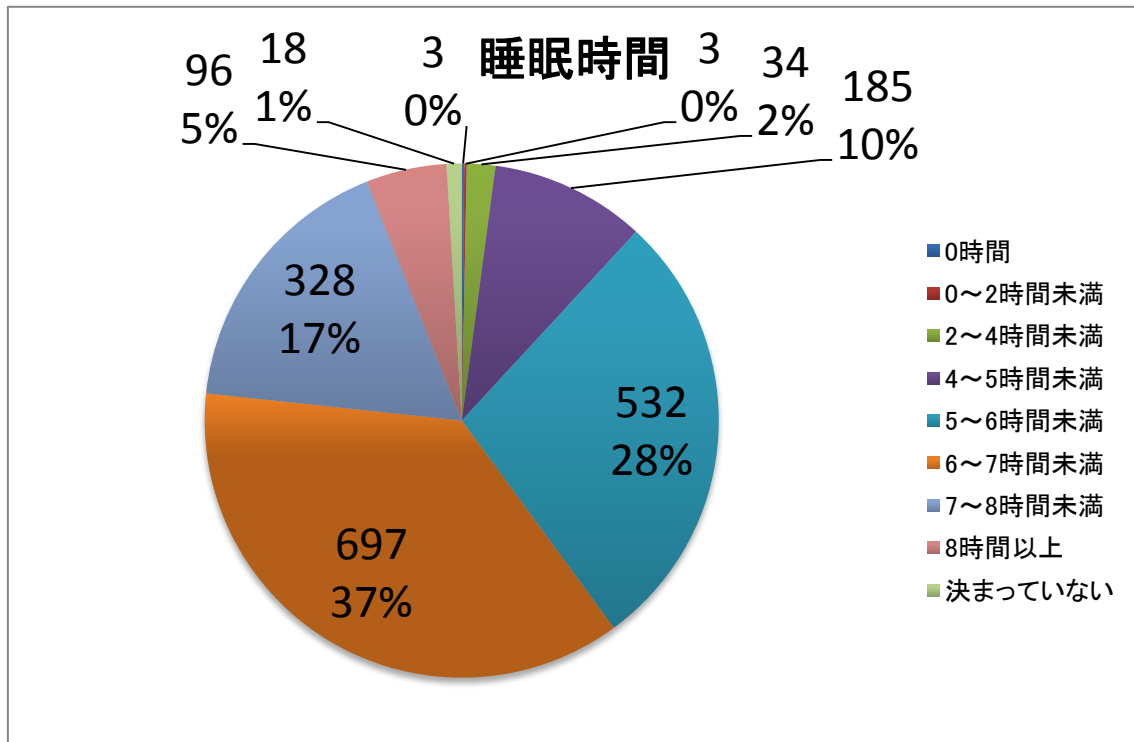
(9) 普段、自炊、もしくは家庭や寮で調理された食事をどのくらいとっていますか。



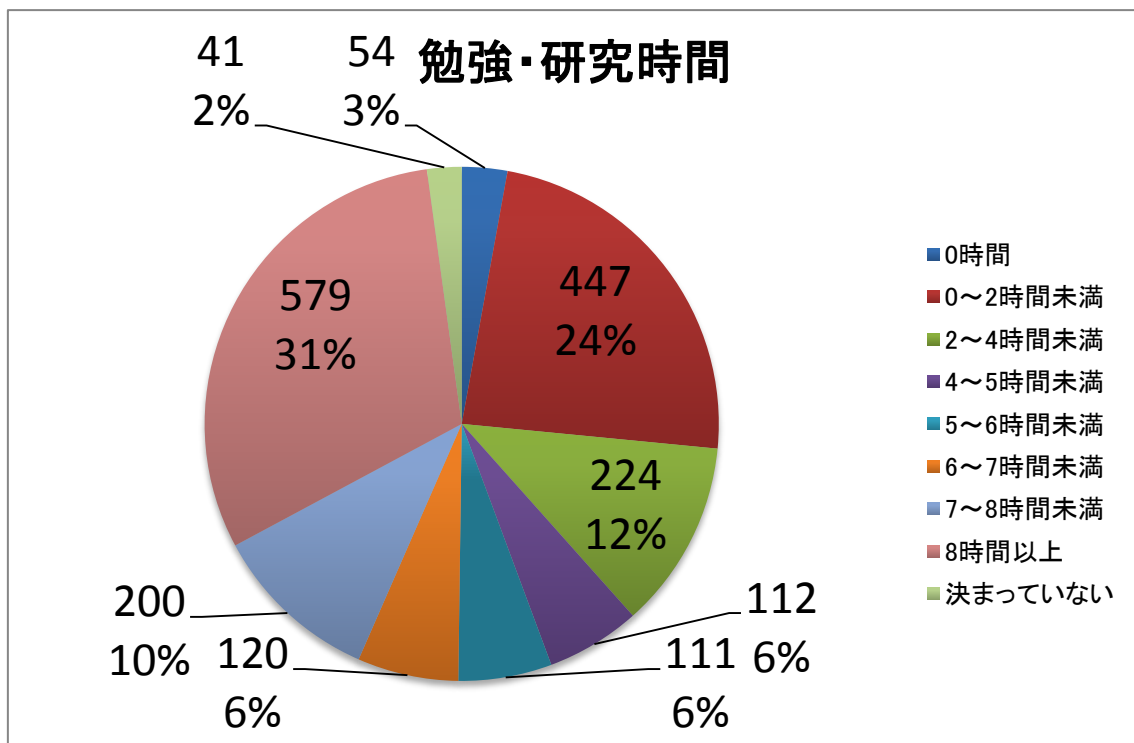
(10) 平日の平均的な時間の使い方を教えてください。



(10-a) 睡眠

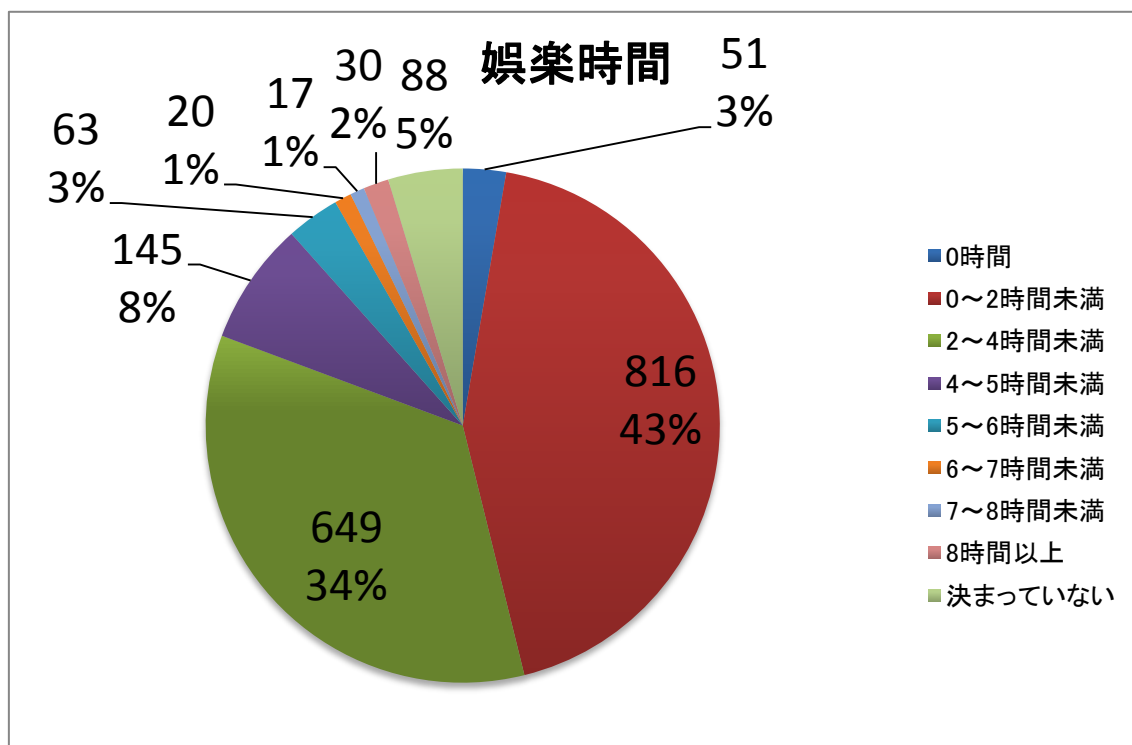


(10-b) 勉強もしくは研究-大学にいる時間を含む(授業の時間を含まない)

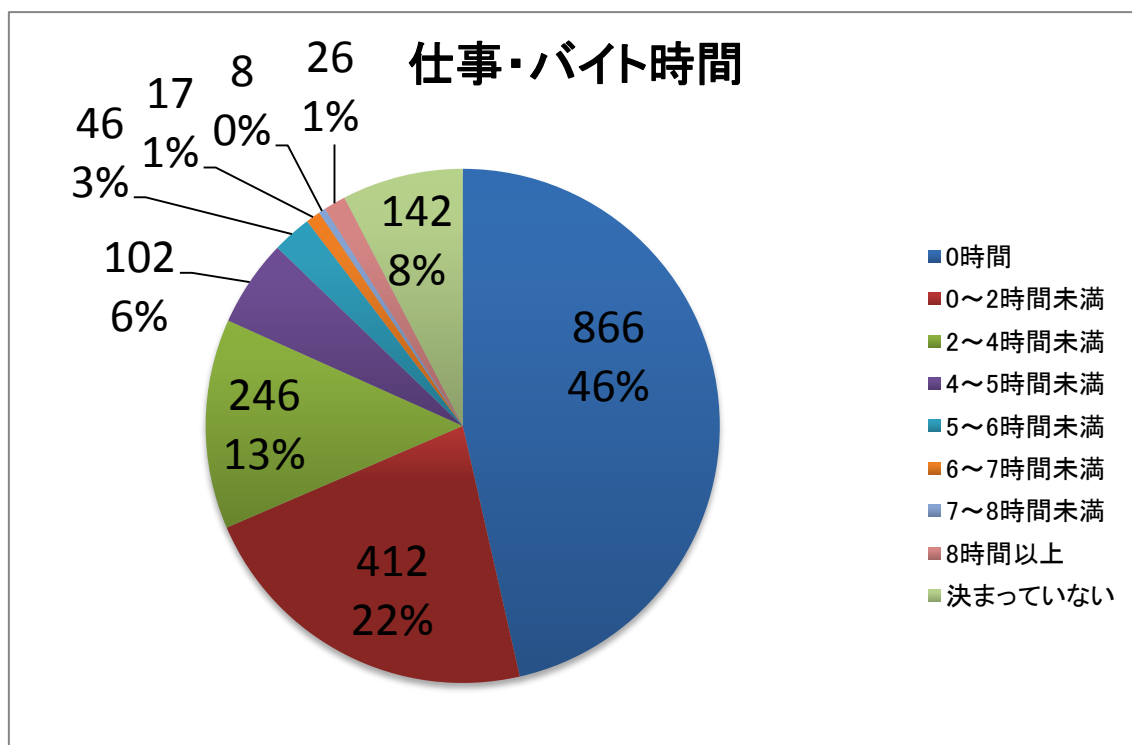


11. 調査資料集

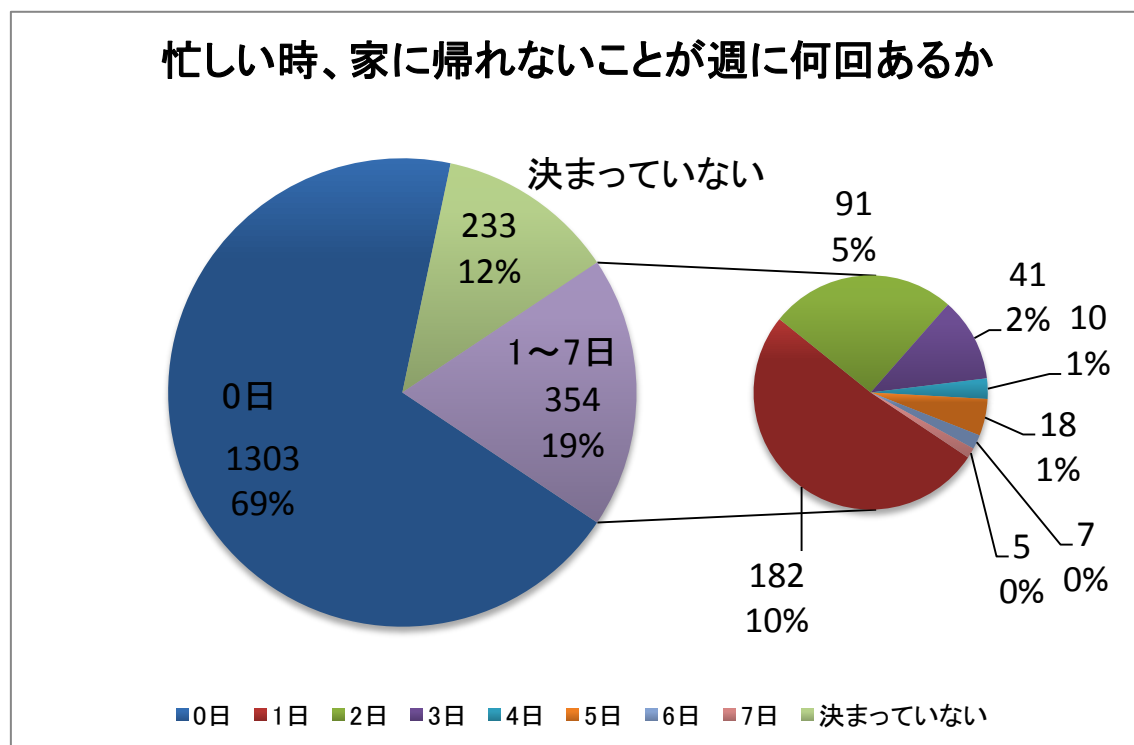
(10-c) 娯楽



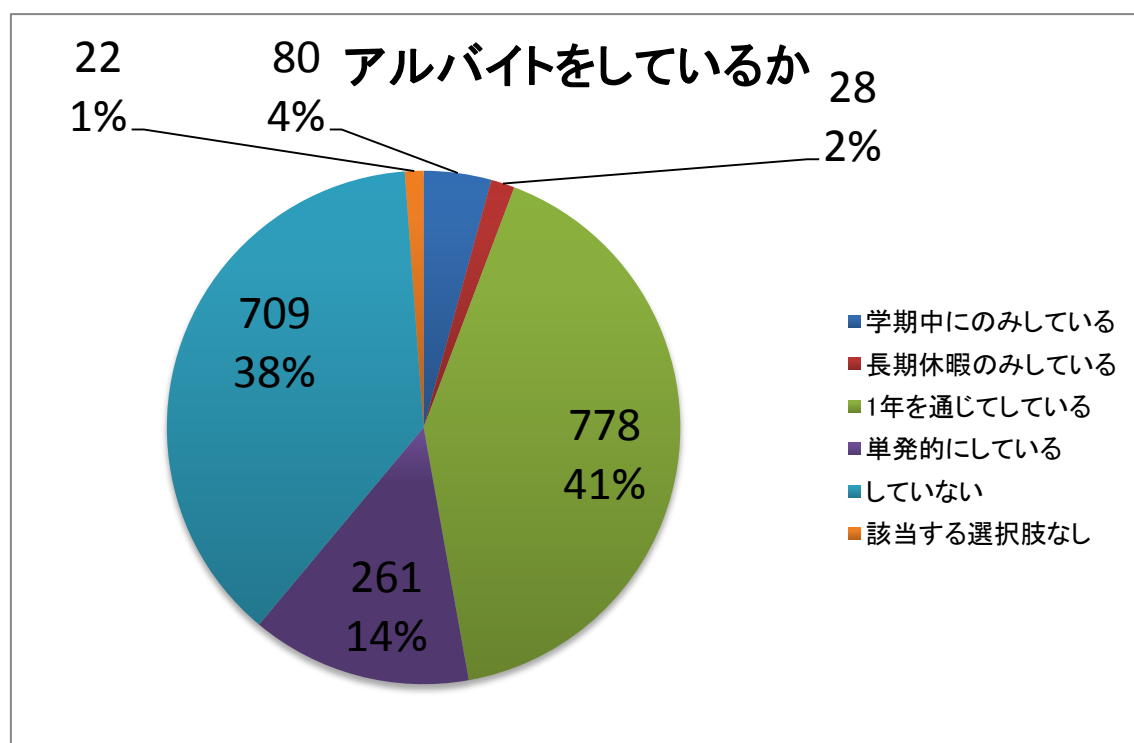
(10-d) 仕事もしくはアルバイト



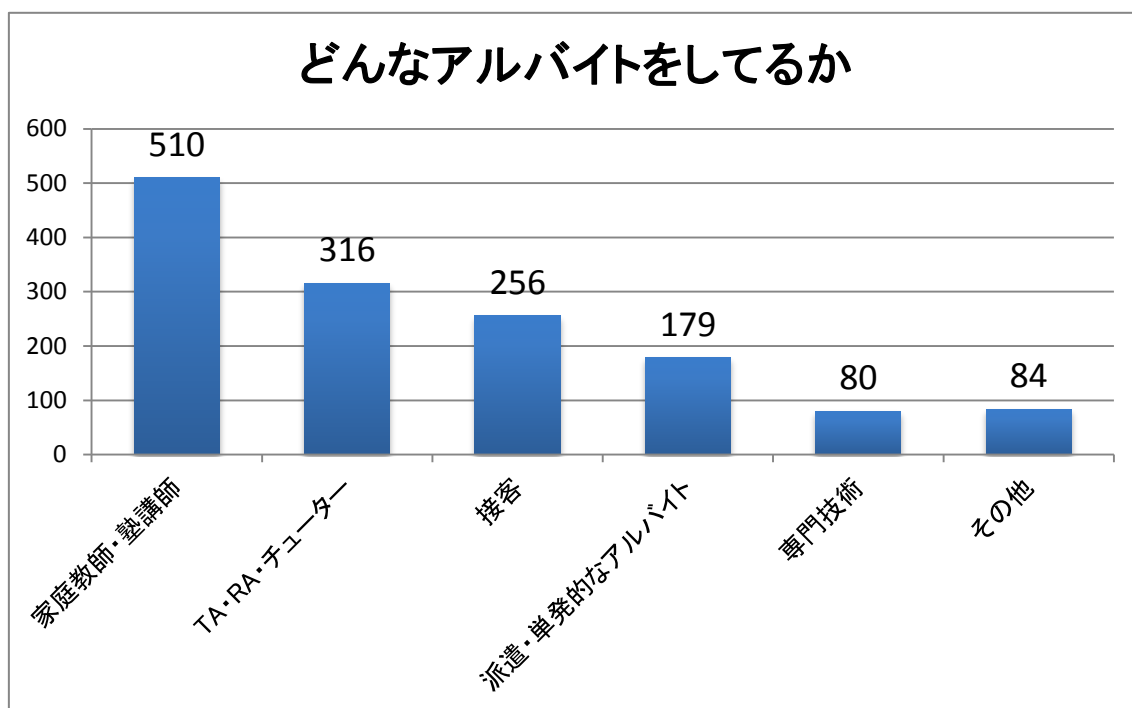
(11)あなたは課題や研究で忙しいときに、家に帰れないことが週何回程度ありますか。



(12)あなたはアルバイトをしていますか。

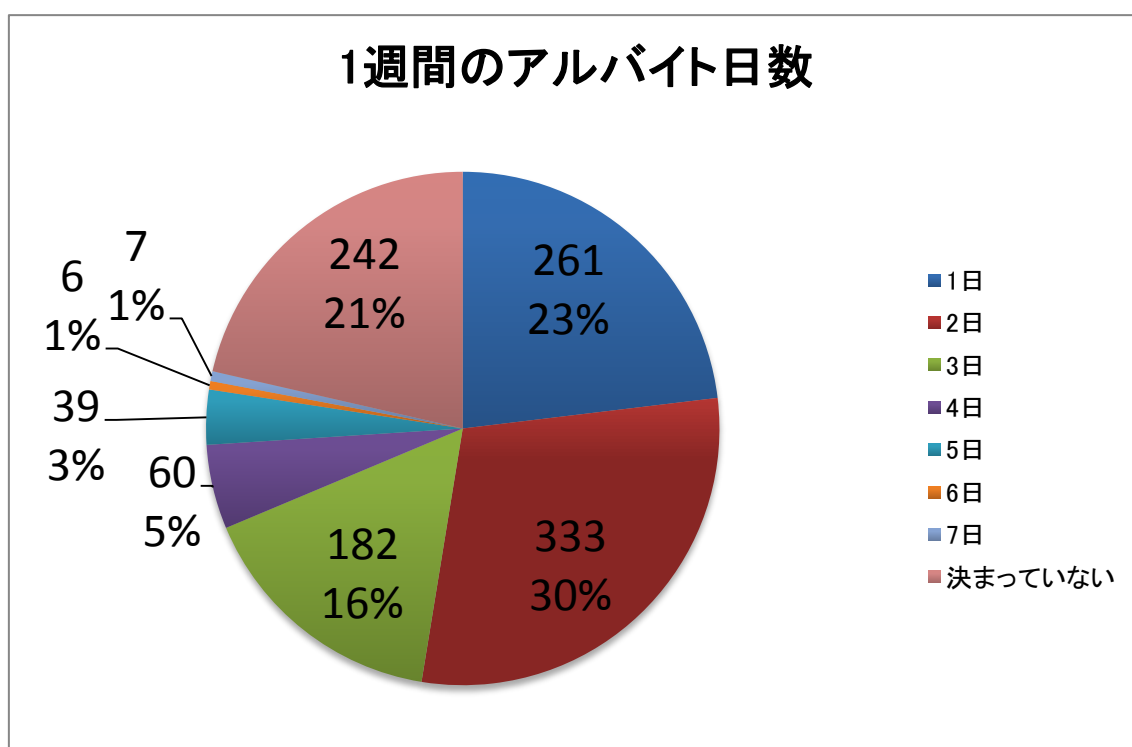


(13)(12)でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。あなたがしているアルバイトの内容を教えてください。(複数回答可)

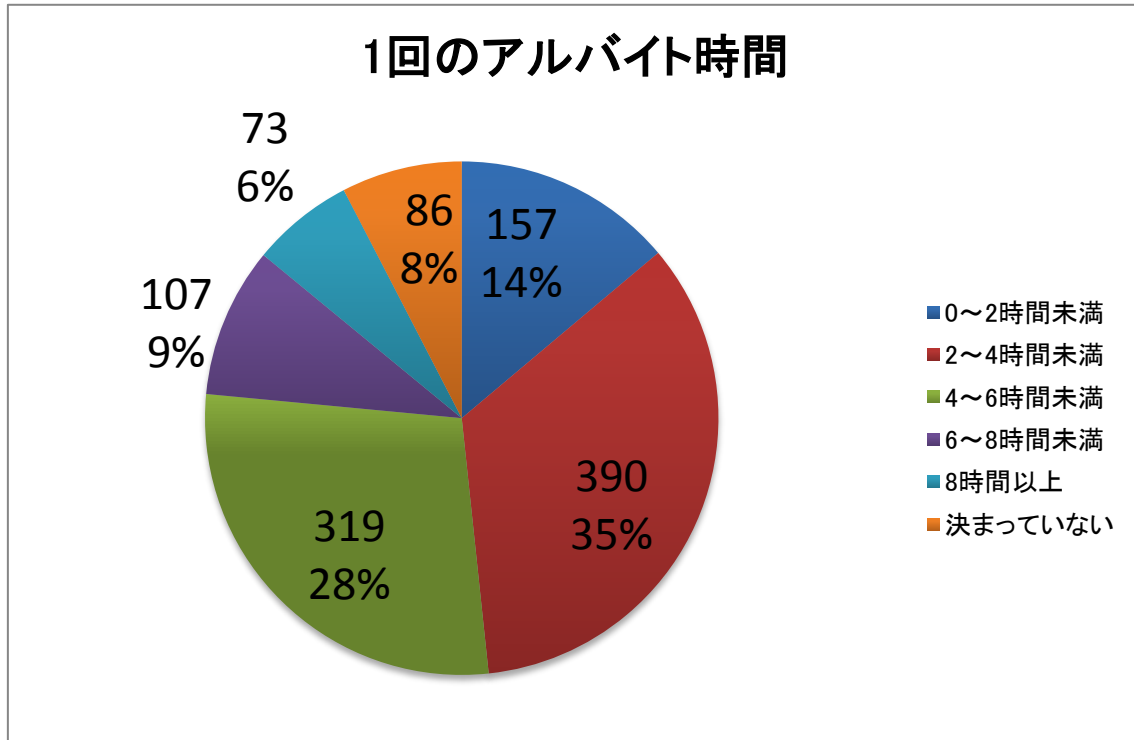


(14)(12)でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。

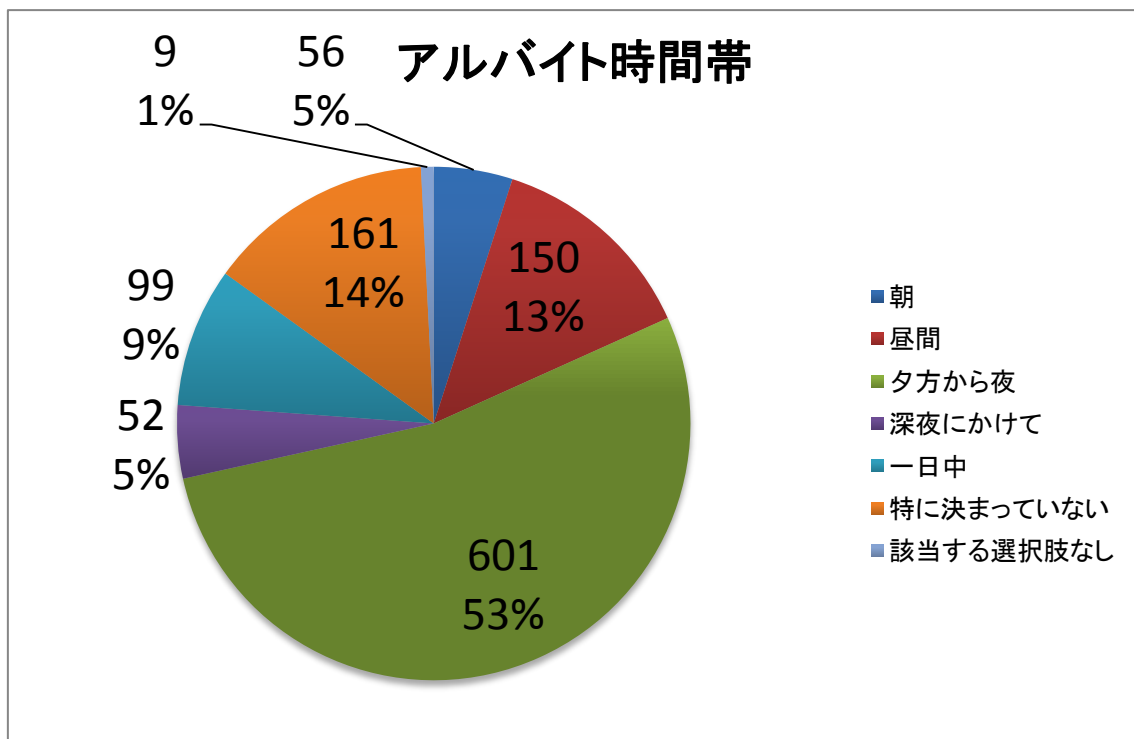
(14-a) 週のアルバイト日数を教えてください。



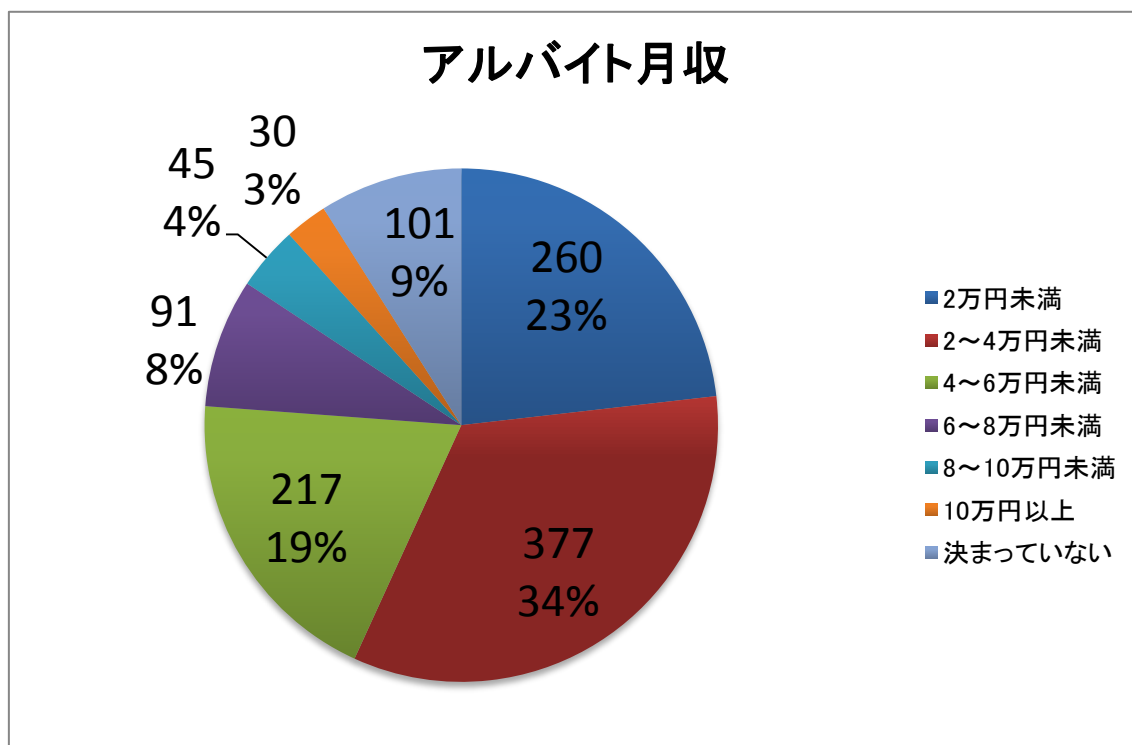
(14-b) 1回あたりのアルバイト時間を教えてください。



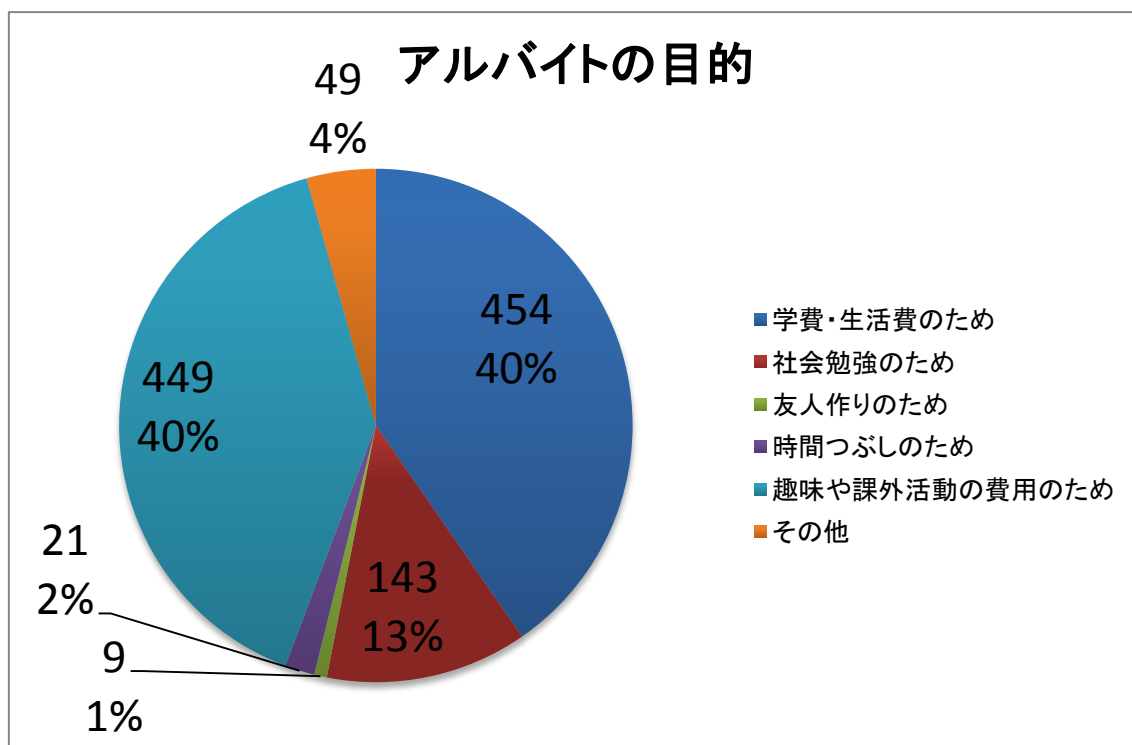
(14-c) アルバイトの時間帯を教えてください。



(14-d) アルバイトの月収を教えてください。

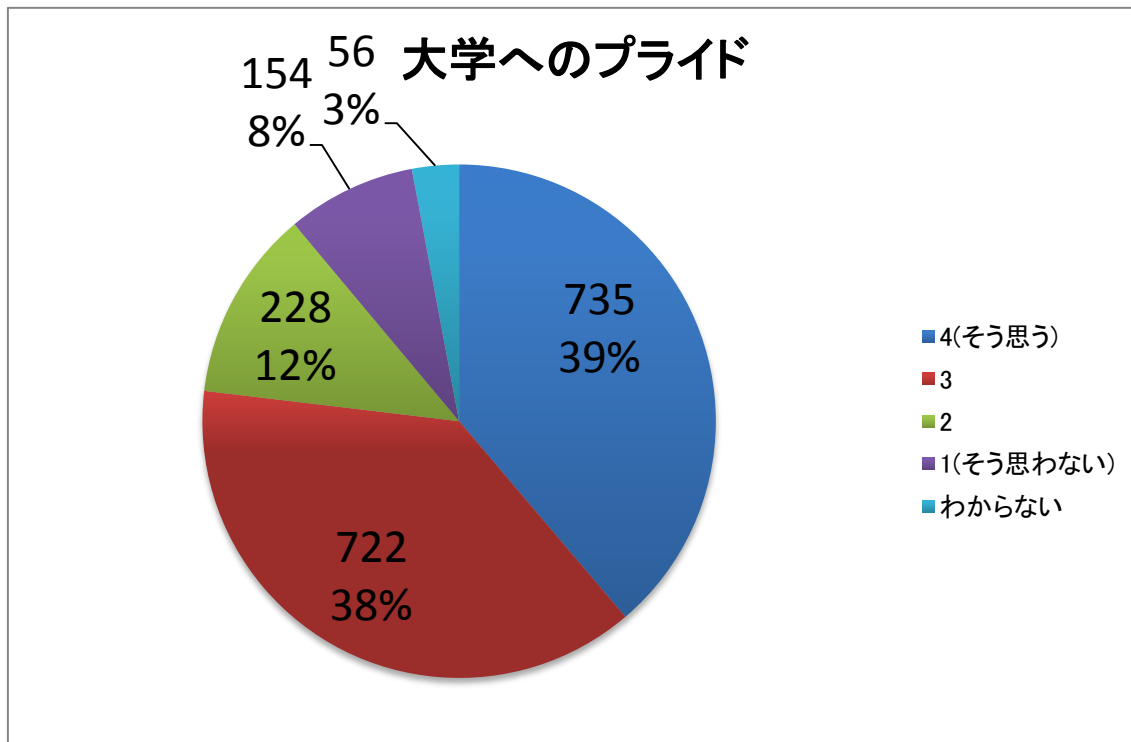


(14-e) アルバイトの目的を教えてください。

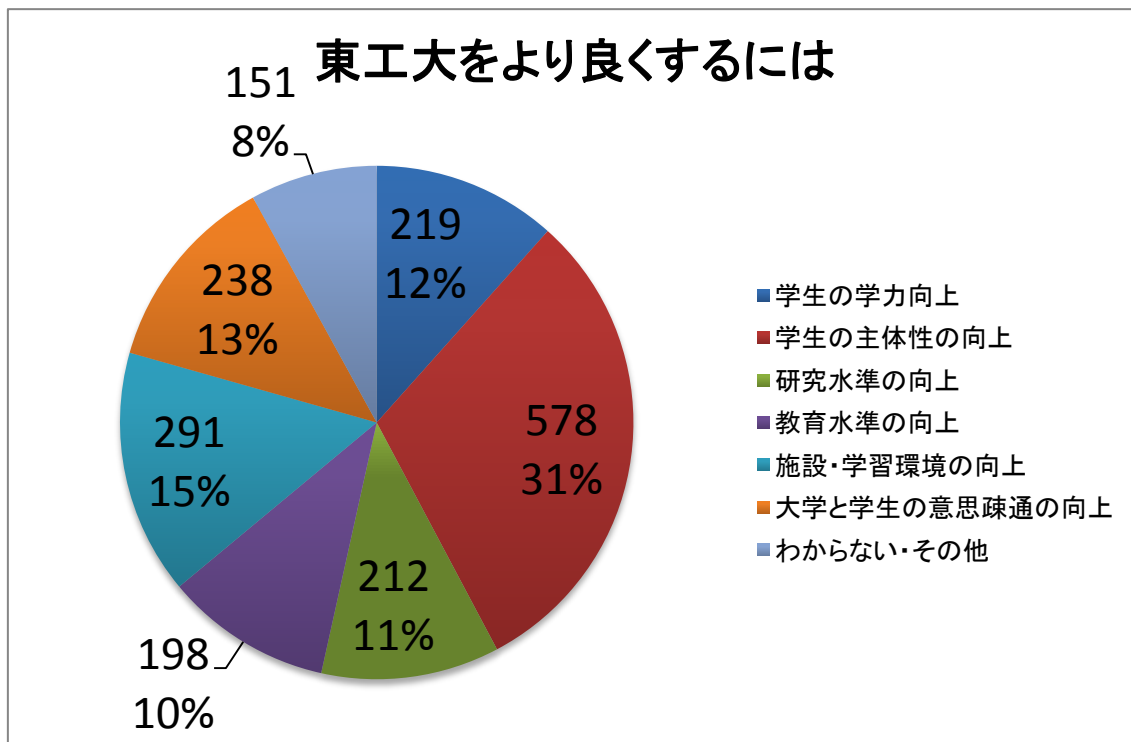


2. 学習状況について

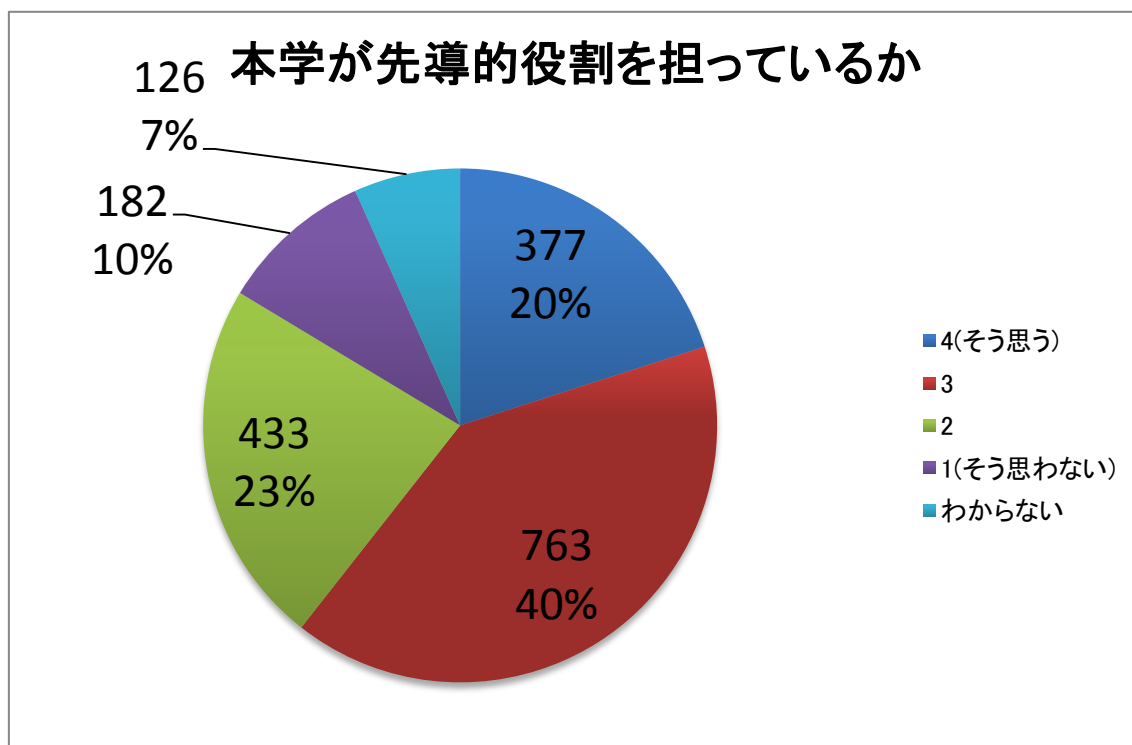
(1)大学にプライドをもっていますか。



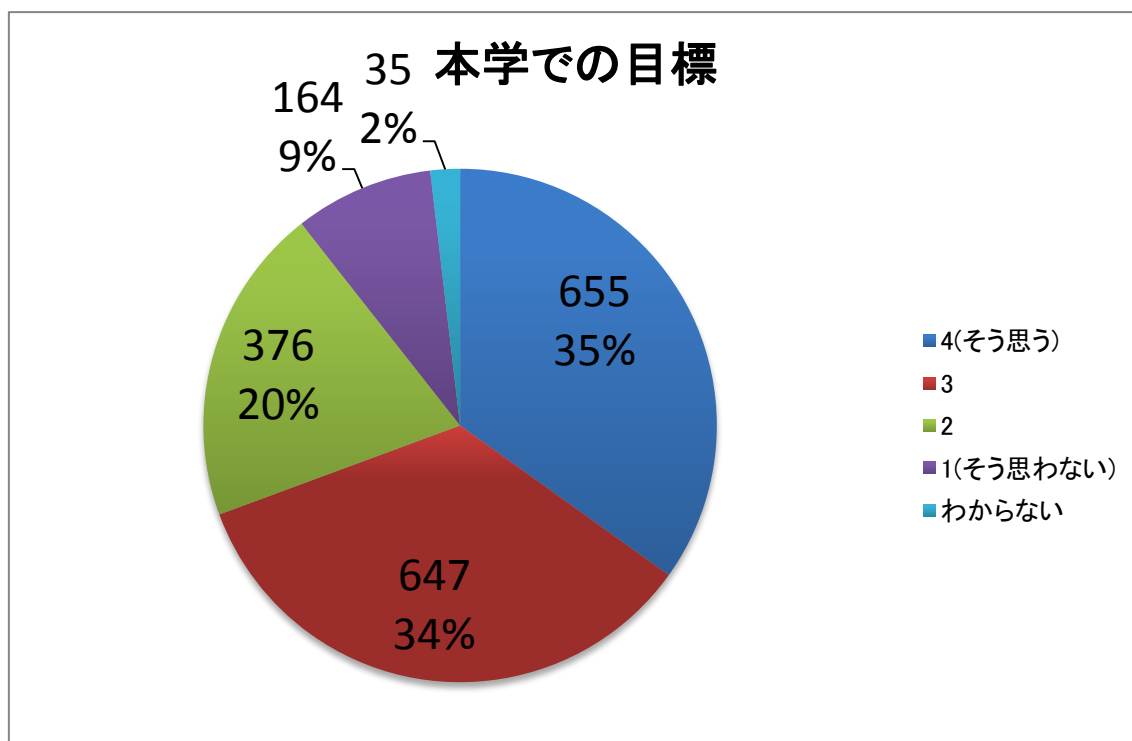
(2)本学をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。



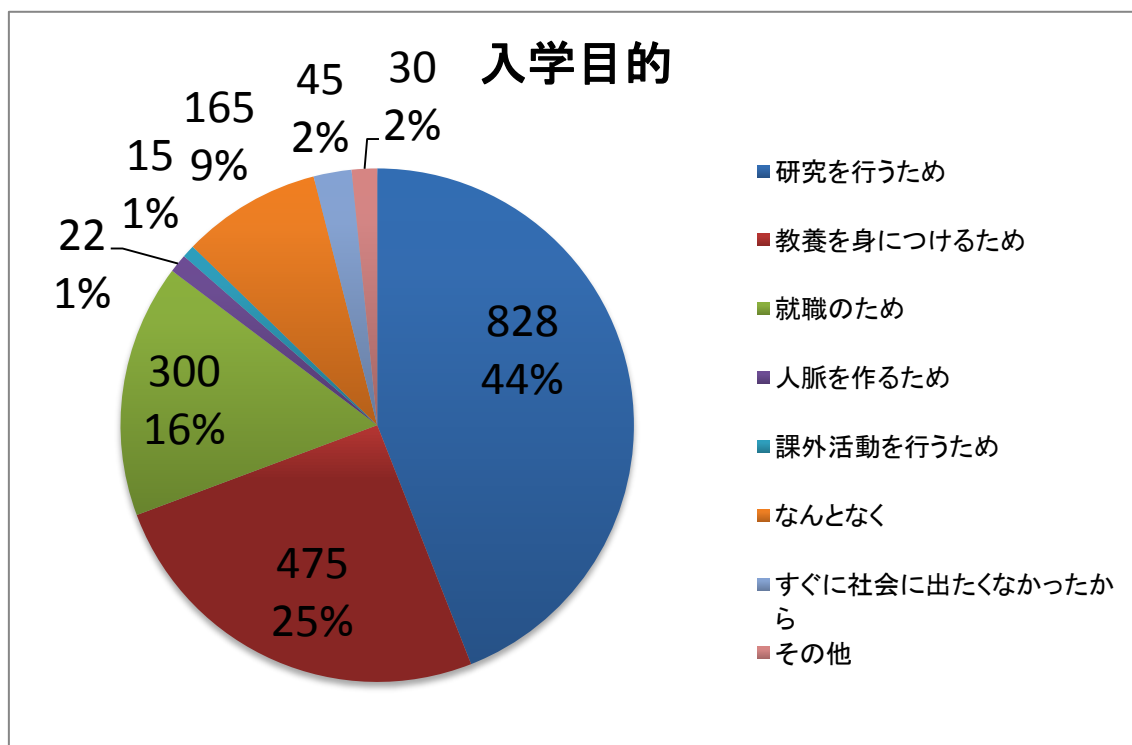
(3) 本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。



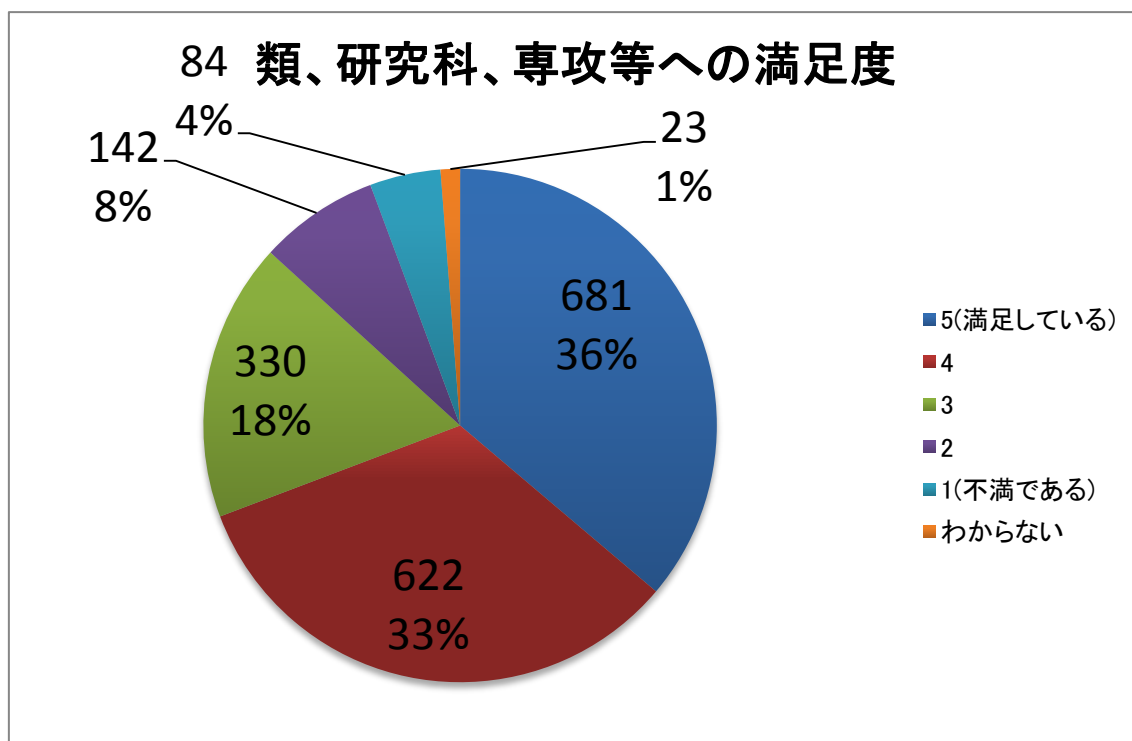
(4) 本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。



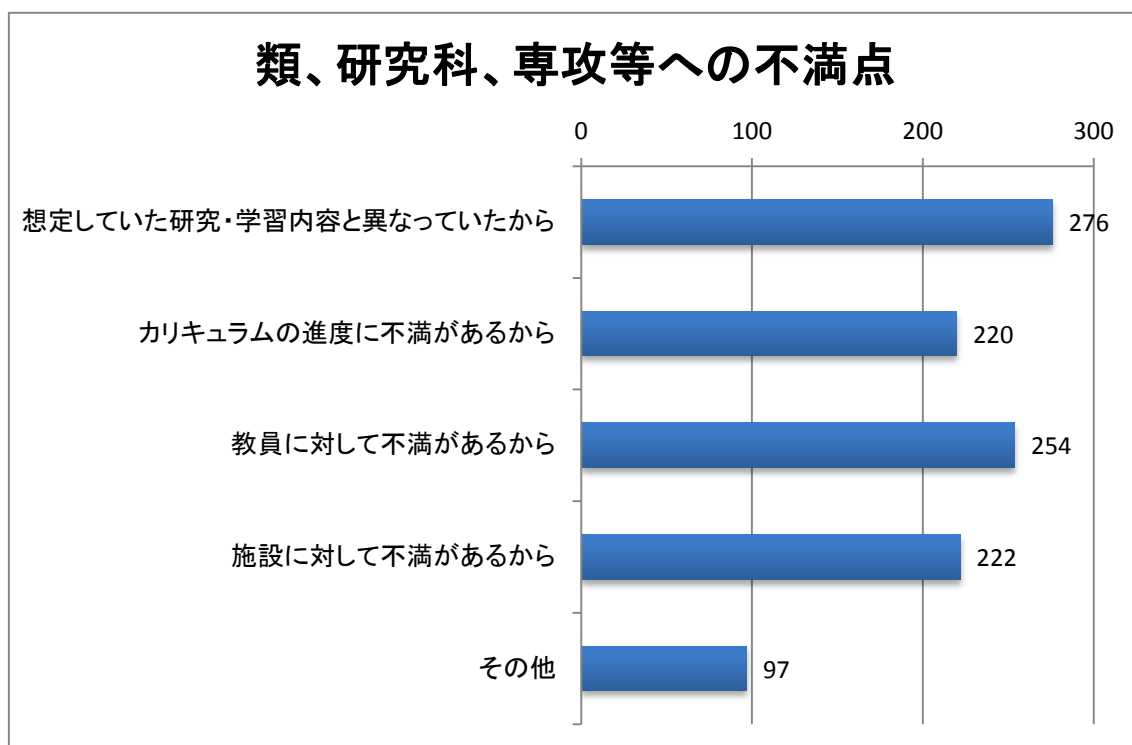
(5)何を行うために、大学に入学しましたか。



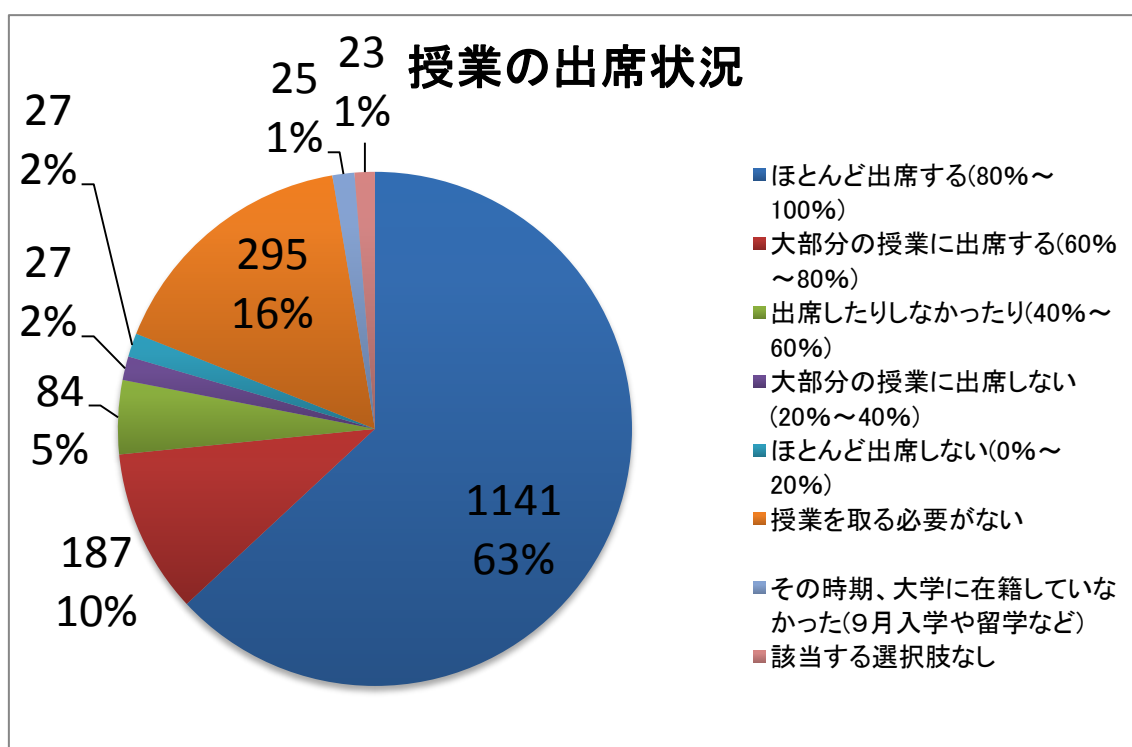
(6)現在在籍している類、研究科、専攻等に満足していますか。



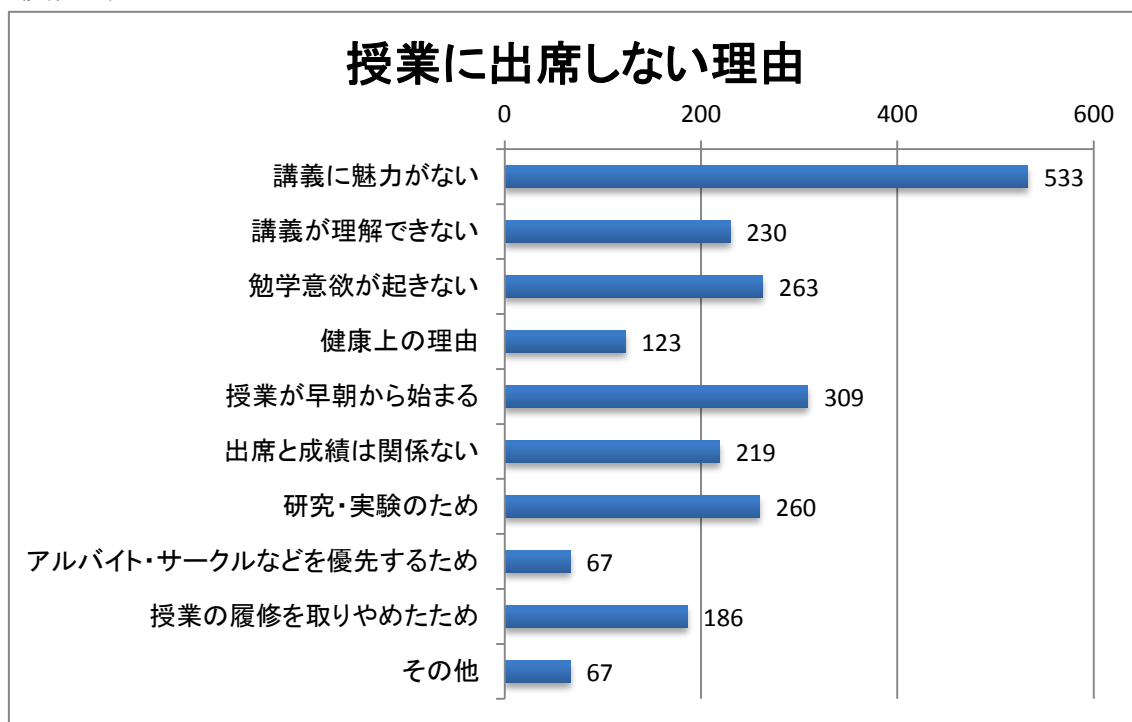
(7)現在在籍している類、研究科、専攻等に不満がある場合、該当するものにマークしてください。(複数回答可)



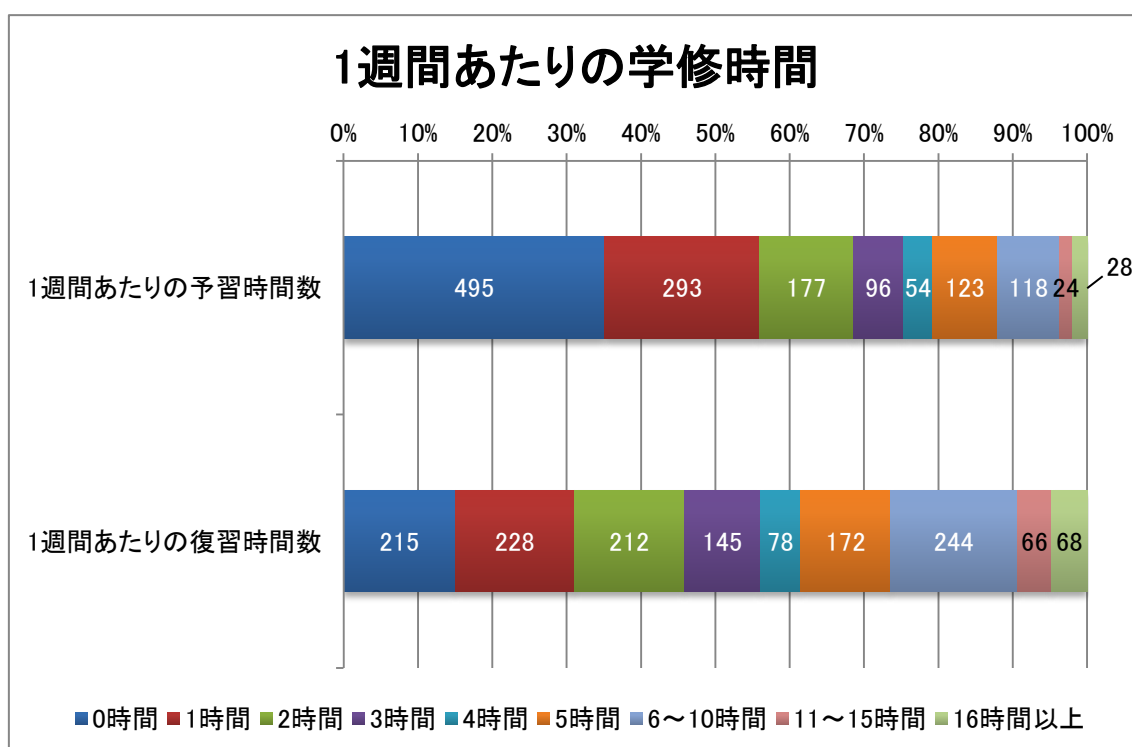
(8)授業の出席状況はどうですか。



(9)履修申告をした授業に出ない主な理由は何ですか。該当するものにマークして下さい。
(複数回答可)

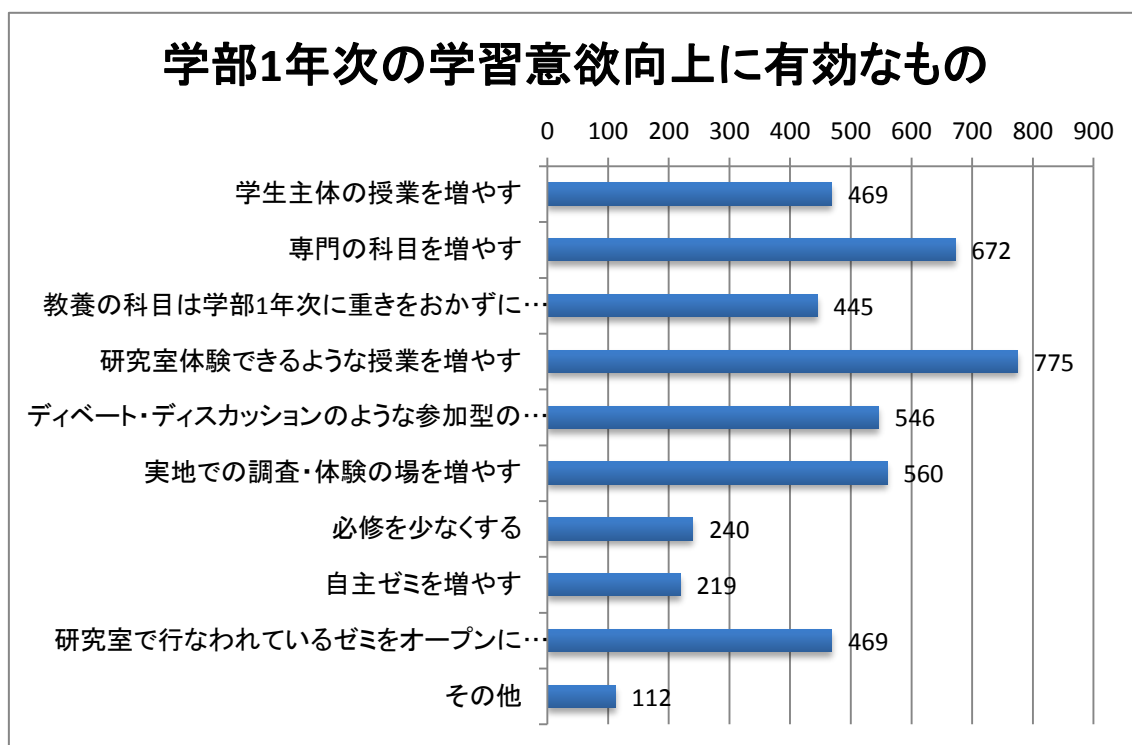


(10)授業をより良く理解するための、1週間(土日含む)あたりの学修時間(予習・復習等)を記入してください。(課題レポート等を含む) (自由記述)

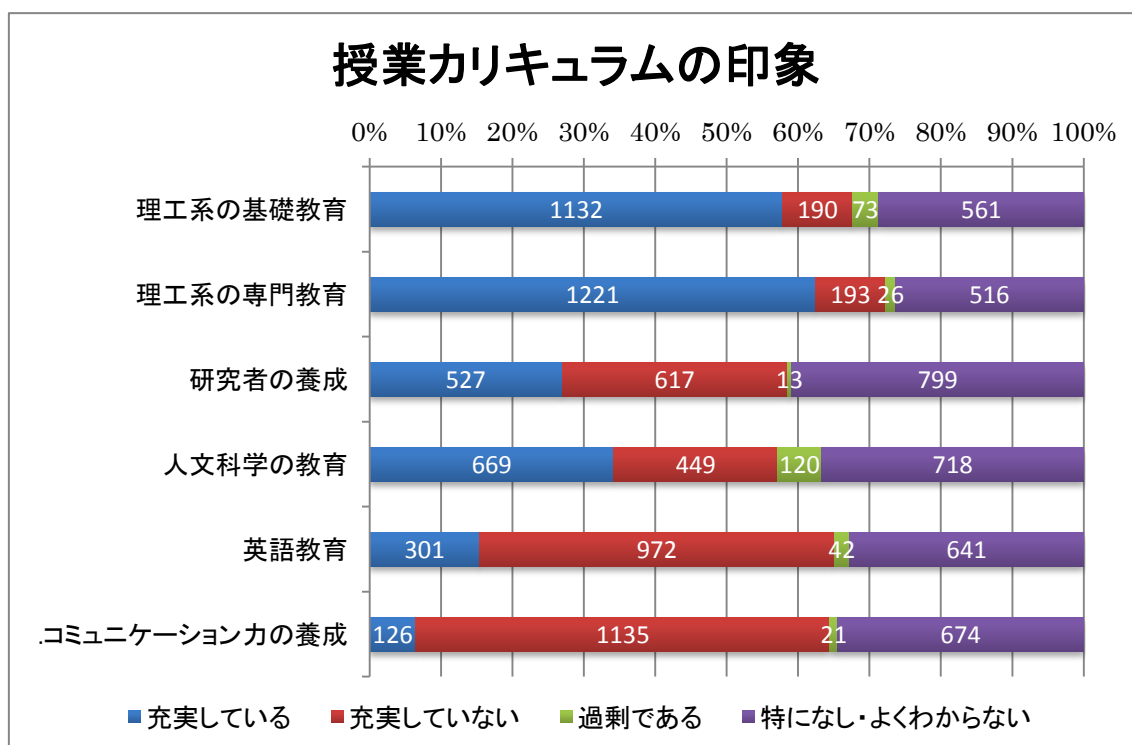


11. 調査資料集

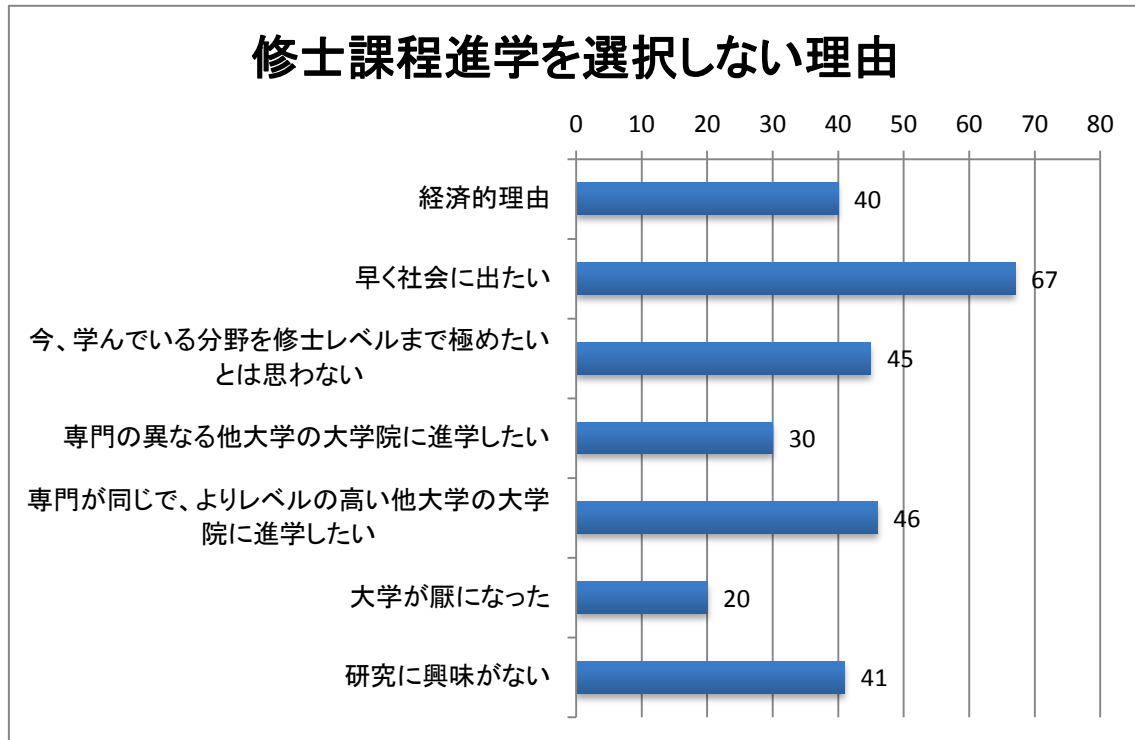
(11)次の項目の中から学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるものにマークして下さい。(複数回答可)



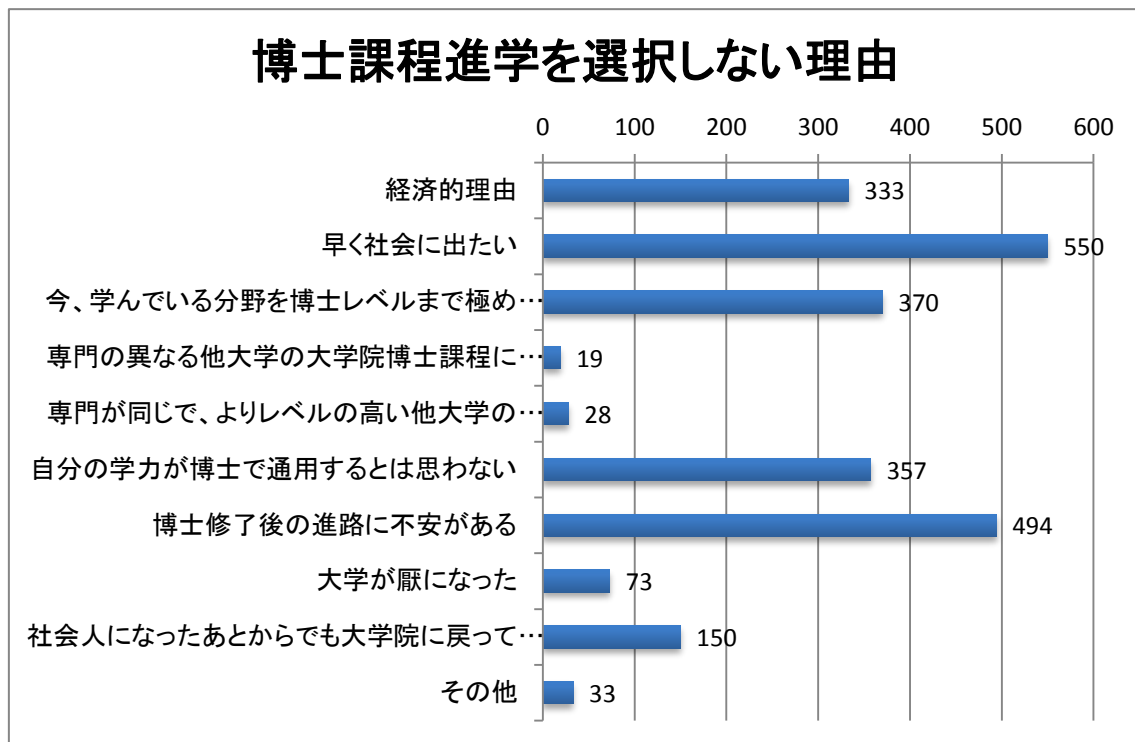
(12)本学の授業・カリキュラムについてどのような印象を持っていますか。



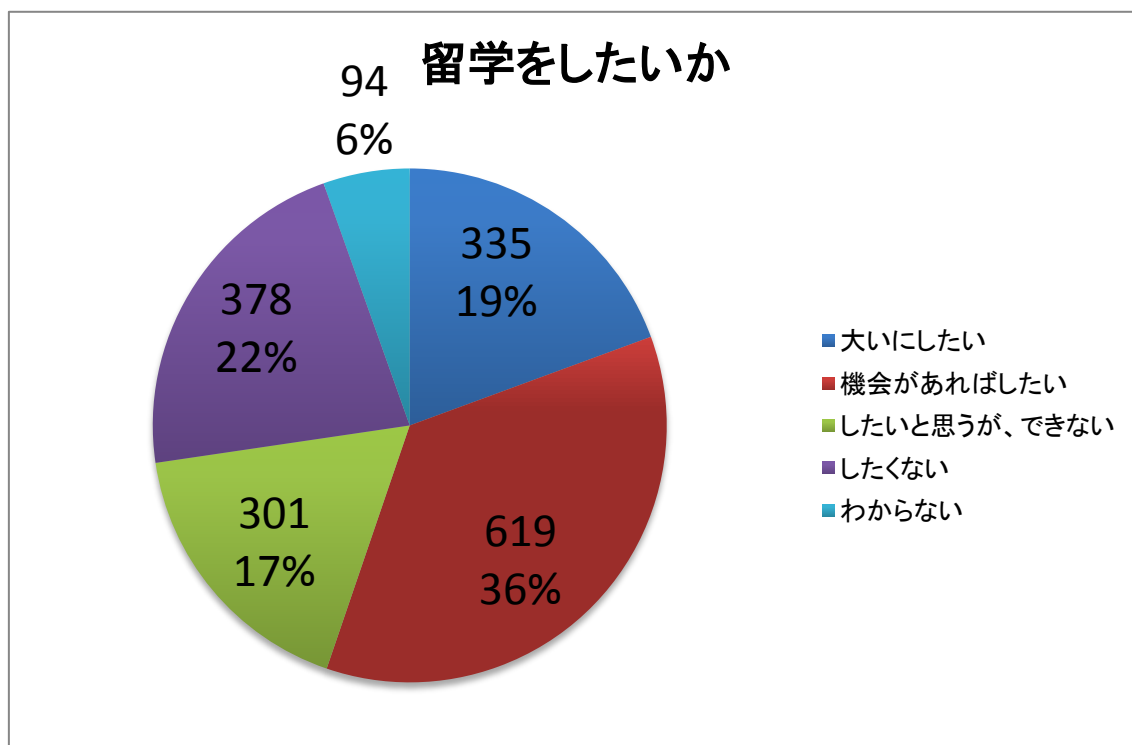
(14)学部生で本学の修士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数回答可)



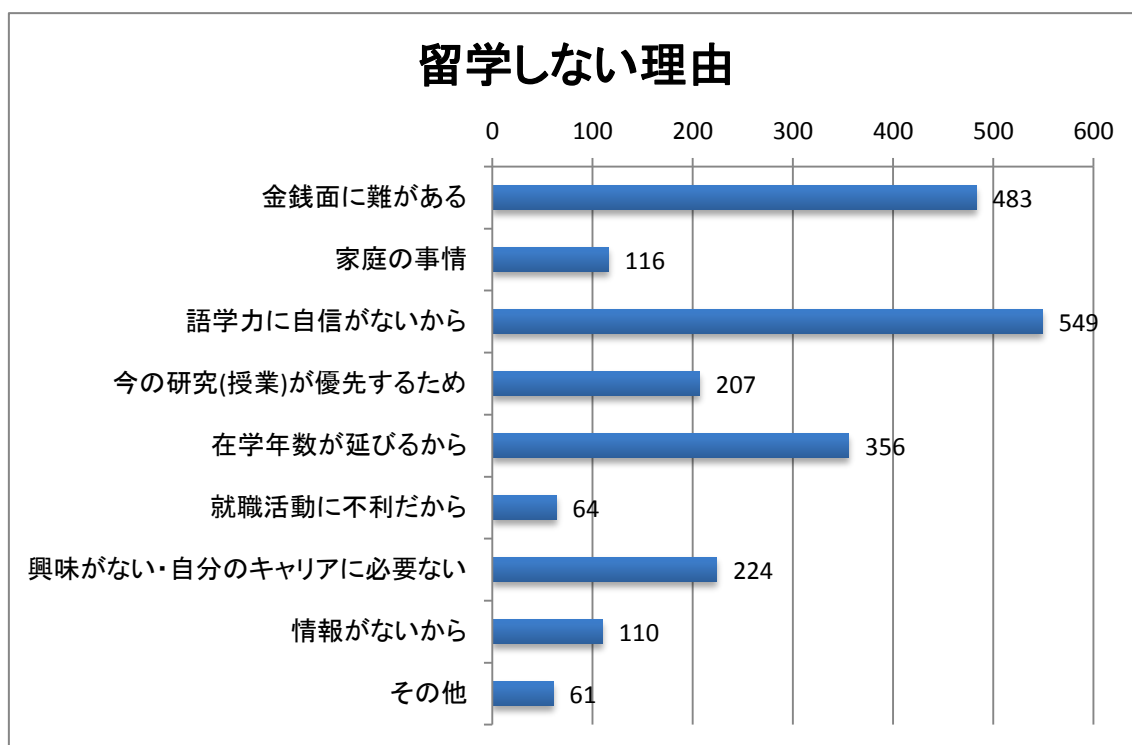
(15)学部生・大学院修士課程学生で本学の博士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)



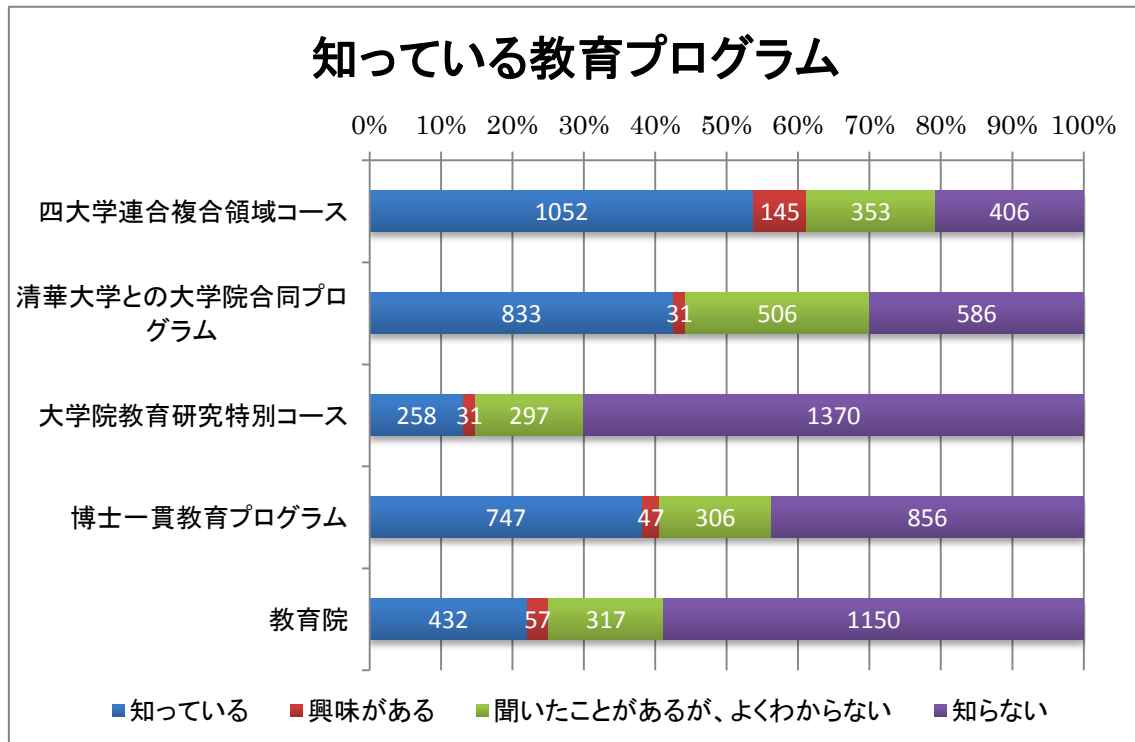
(16)留学をしたいと思いますか。



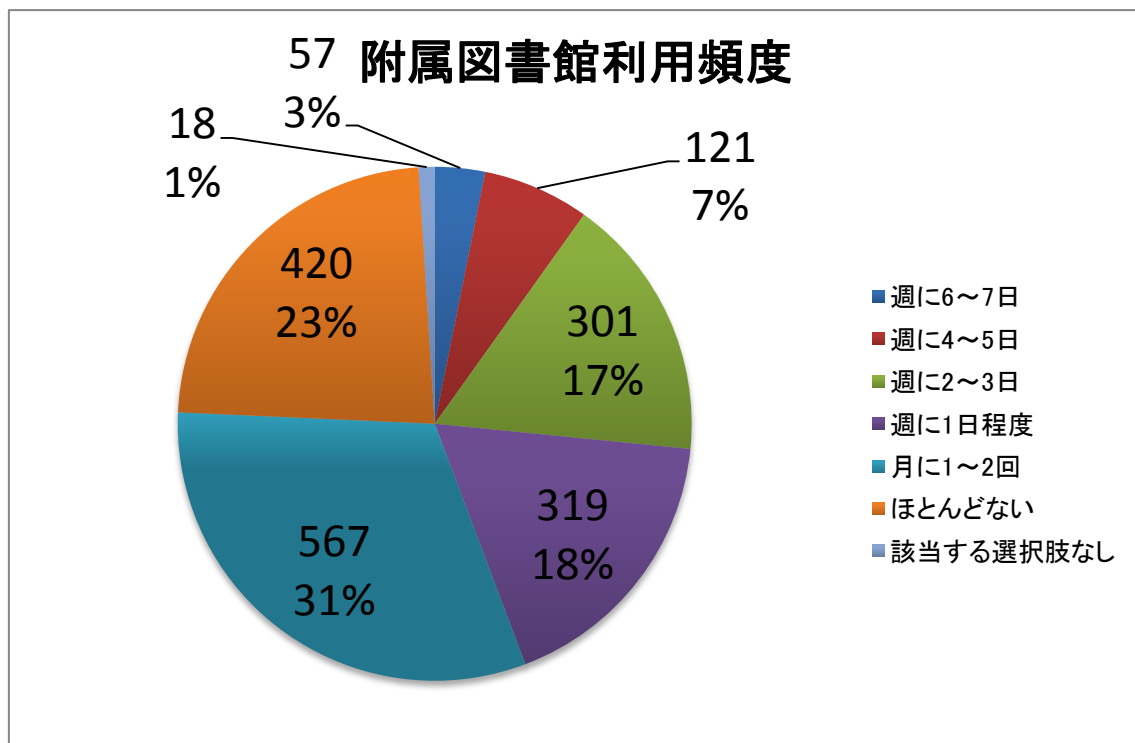
(17)(16)で「したいと思うが、できない」「したくない」「わからない」を回答した方にお尋ねします。その理由を選択してください。(複数回答可)



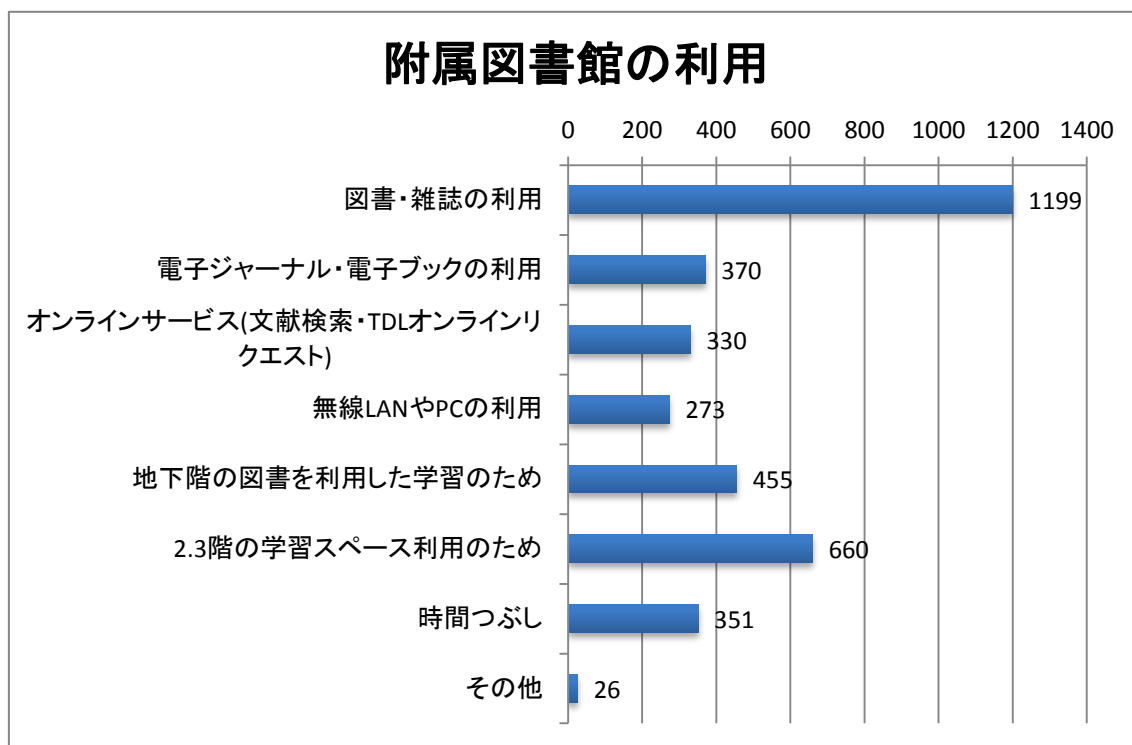
(18)大学で実施している教育プログラム等についてお答えください。



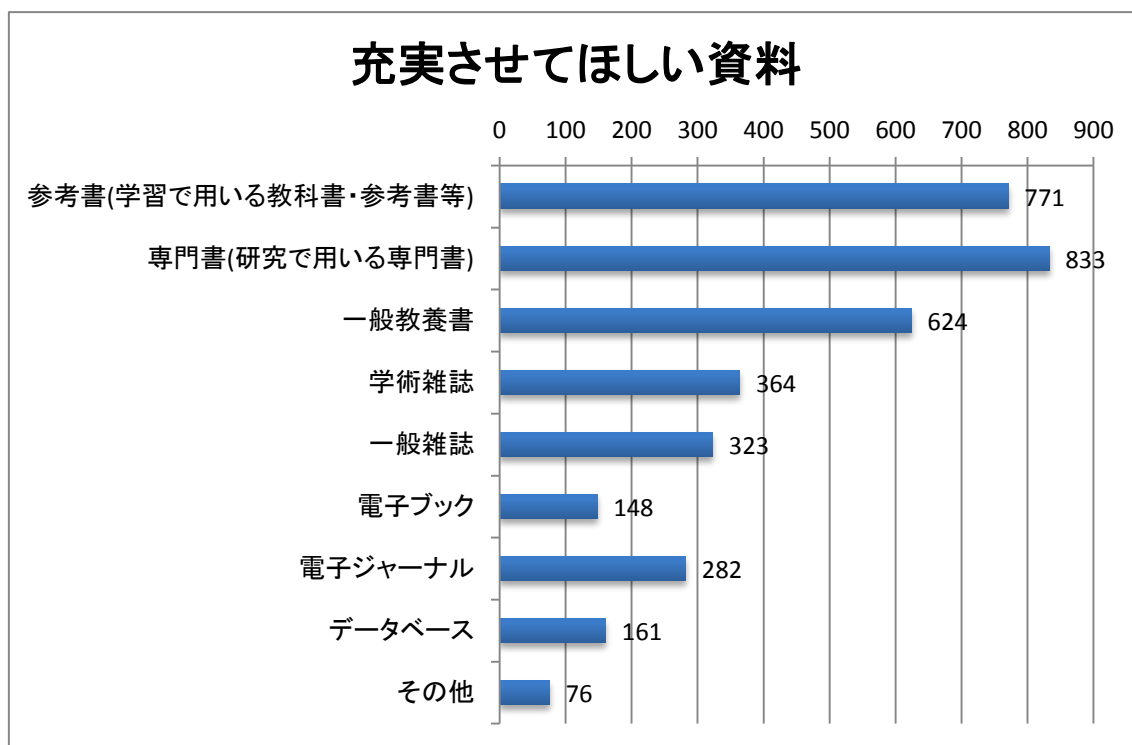
(19) 附属図書館(オンラインサービスを含む)をどの程度利用していますか。



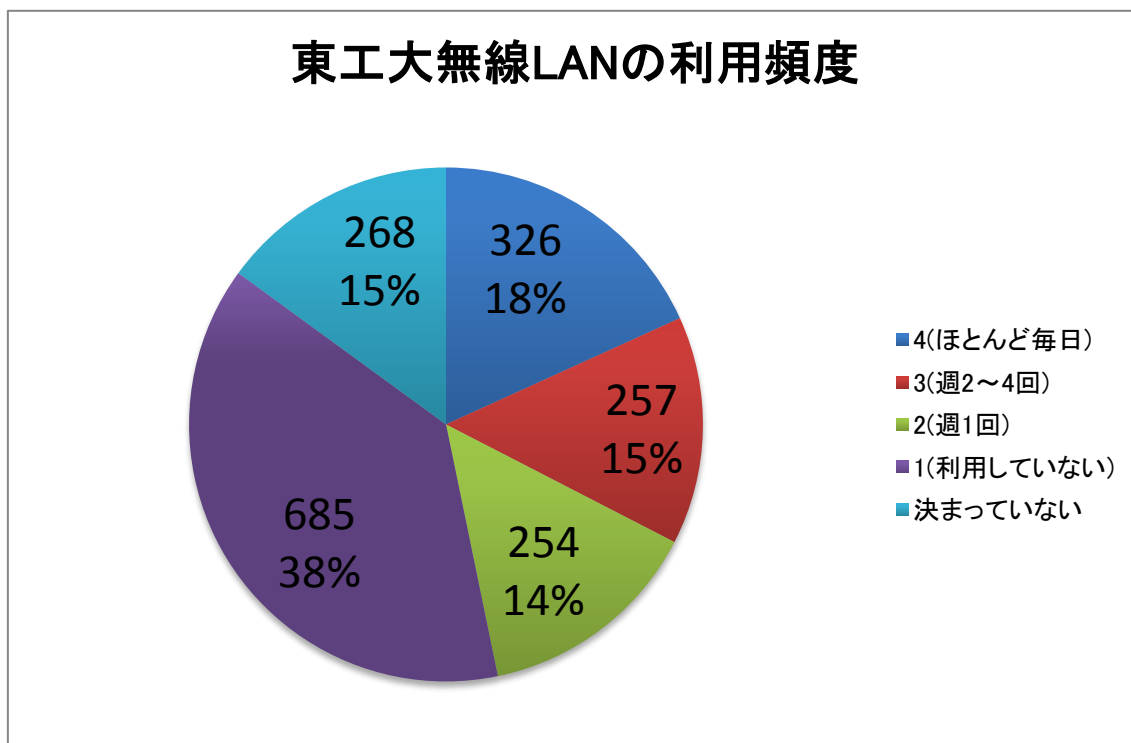
(20) 附属図書館の利用の主ものにマークしてください。(複数回答可)



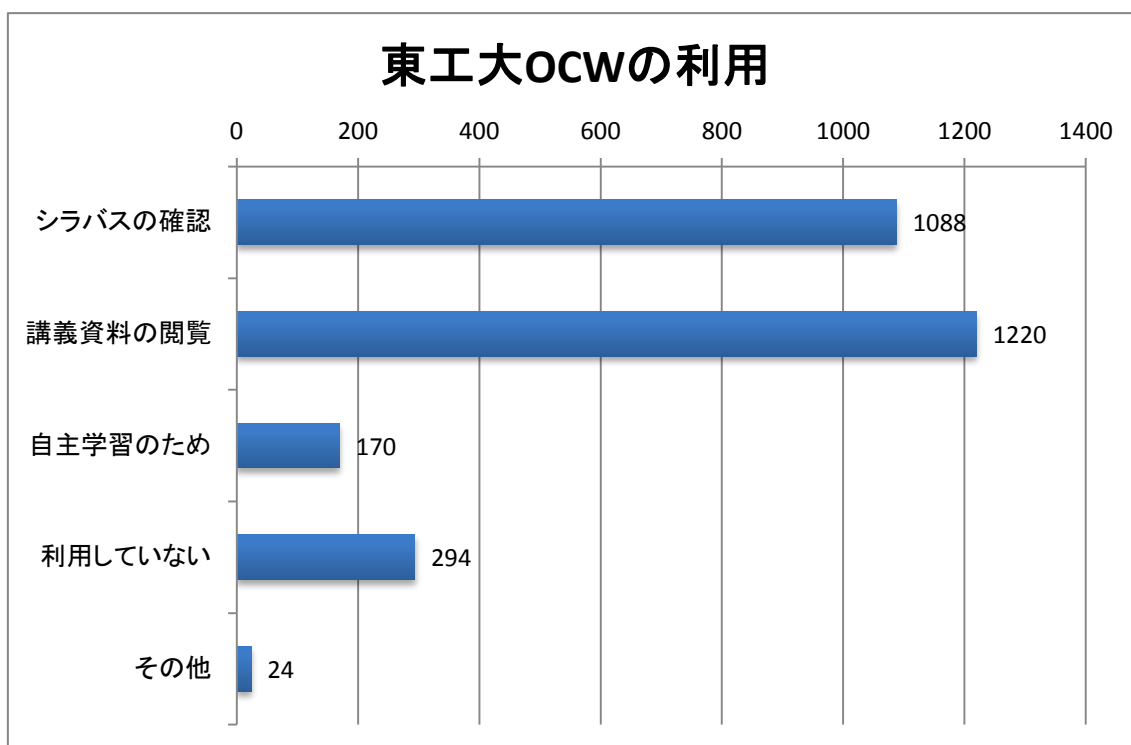
(21) 附属図書館に充実させてほしい資料はどのようなものですか。(複数回答可)



(23)現在，講義室、附属図書館、食堂等に無線 LAN が設置されています。東工大の無線 LAN(Titech・Pubnet)をどのくらい利用していますか。



(24)東京工業大学オープンコースウェア(TOKYOTECH OCW/OCW-i)を利用していますか。



11. 調査資料集

(25)授業を受けにくい講義室がある場合、一番受けにくい講義室を教えてください。

(25-a)建物ごと

	教室の 形状	空調	机	椅子	視聴覚 機器	その他	総数
B2	3	0	2	0	0	3	6
G1	0	0	1	1	0	0	1
G2	0	0	0	0	1	1	1
G3	1	0	0	0	1	2	4
G5	0	0	0	1	1	0	2
石川台	0	0	0	0	0	1	1
I1	6	0	2	0	6	3	10
I2	0	0	1	1	0	0	1
I3	4	7	2	2	0	6	11
I4	1	0	1	0	0	0	1
J2	5	4	3	13	5	4	15
緑が丘	0	0	1	1	0	0	1
M1	4	6	8	10	0	5	13
南講義棟	13	8	12	12	5	7	19
S1	2	0	0	0	0	0	2
S2	7	3	1	3	0	4	14
S3	4	0	3	2	0	4	9
S4	0	0	0	2	0	0	2
S5	15	8	19	11	2	11	32
S6	46	8	21	16	4	15	68
S8	0	0	2	2	1	4	6
VBL	0	0	0	0	0	5	5
W2	7	4	6	17	2	6	31
W3	4	2	3	4	3	5	20
W5	0	1	13	7	1	4	19
W6	4	2	8	7	0	3	17
W8	3	3	0	0	0	8	10
W9	11	1	0	2	1	5	16
本館	26	5	11	11	4	23	59
CIC	3	1	0	0	1	1	4
VLSI	2	2	0	0	0	3	4
世界文明センター	0	0	0	0	0	1	1
N2	1	0	0	0	0	0	1
N6	0	0	1	1	0	0	1
E5	0	0	1	1	0	1	1
E6	0	0	1	1	0	1	1



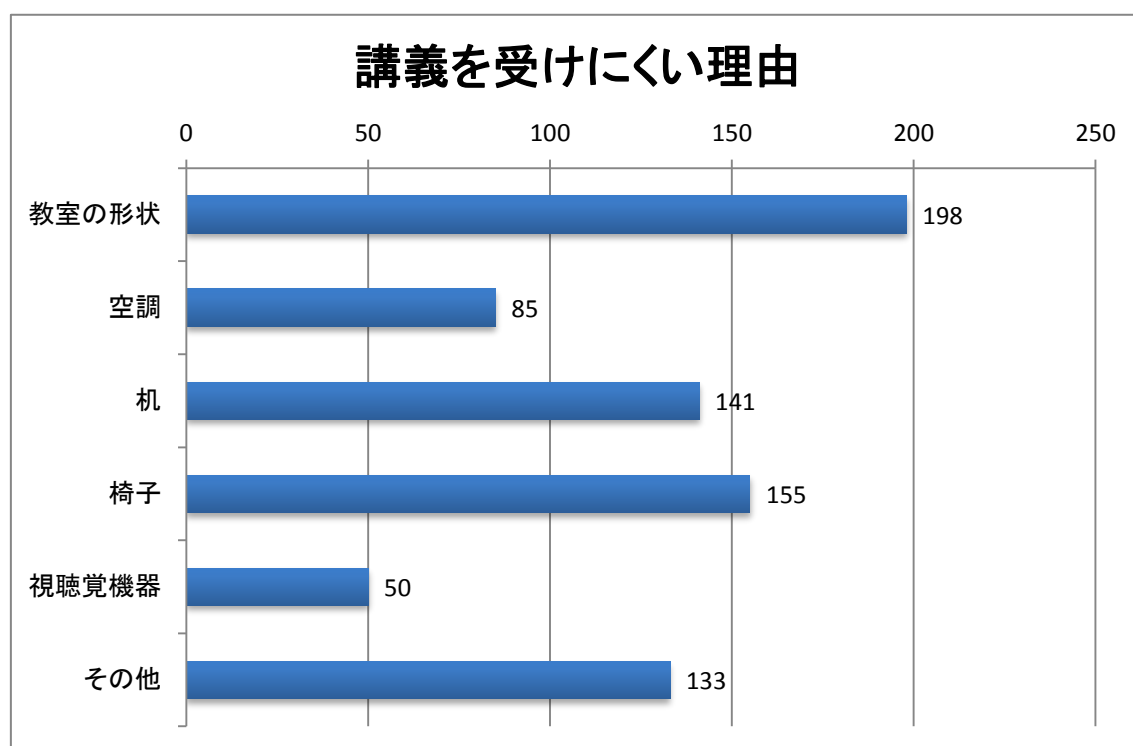
(25-b)講義室ごと

※ 記入された講義室をそのまま集計しているので、講義室名が誤りの場合もあります。

B221		2	J232		2	S8-101		1
B222		2	J234		3	S8-102		3
B223		1	緑が丘地区		1	S8-210		1
B262		1	緑が丘1号館		1	S8-623		1
CIC		1	M111		5	VBL		5
CIC711		1	M113		5	VLSI		4
CIC913		2	M114		3	西2号館		1
G1棟		1	M1-512		1	西2号館2階		1
G114		1	N2-521		1	W241		24
G224		1	S011		19	W242		2
G3棟		1	S101		1	西3号館		2
G311		1	S121		1	2ラボ		3
G321		2	S201		1	3ラボ		2
G5棟		1	S221		4	4ラボ		2
G511		1	S222		5	W321		4
本館		5	S223		6	W322		2
H101		16	S224		1	W323		2
H111		3	南3号館		1	W331		5
H112		1	S311		1	W332		2
H113		7	S312		1	W351		1
H114		2	S321		2	西5号館		1
H115		1	S322		2	W521		6
H116		5	S323		3	W523		1
H121		18	S331		1	W531		9
H135		2	S421		1	W541		5
H136		1	S422		1	西6号館		7
H137		1	南5号館		5	W611		2
石川台地区		1	S511		10	W621		1
石川台1号館2階		1	S512		13	W626		1
I121		5	S515		1	W631		4
I122		3	S5-155		1	W641		2
I123		4	S521		3	西8号館		1
I124		2	南6号館		29	西8号館3階		1
I2-315		1	南6号館2階		1	W831		3
石川台3号館		1	S611		1	W833		5
石川台3号館2階		1	S612		5	西9号館		2
I3-106		1	S621		8	W9-311		1
I3-107		1	S622		3	W932		2
I311		7	S631		3	W933		7
I321		1	S632		4	W934		1
I4 B02-5		1	S633		6	W935		2
J2棟3階		1	S634		7	W9-407		1
J2 1601		1	S635		1	W9-910		1
J221		8	S637		2	世界文明センター		1
J231		1	S638		5			

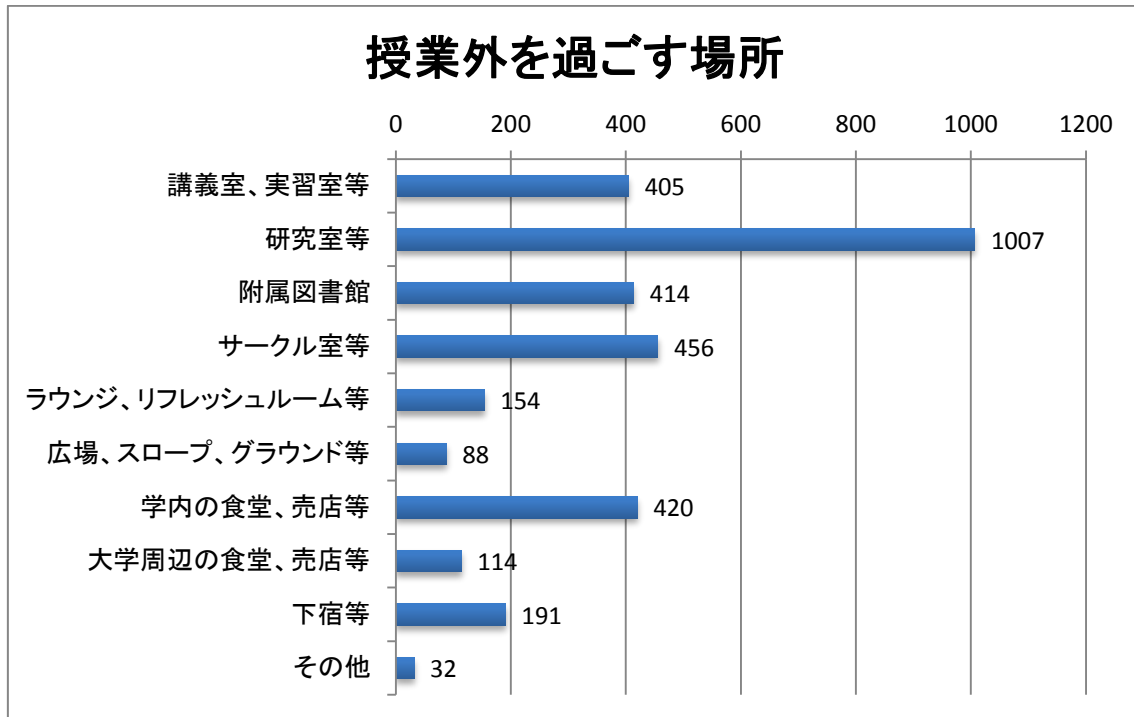
(25-c)講義を受けにくい理由



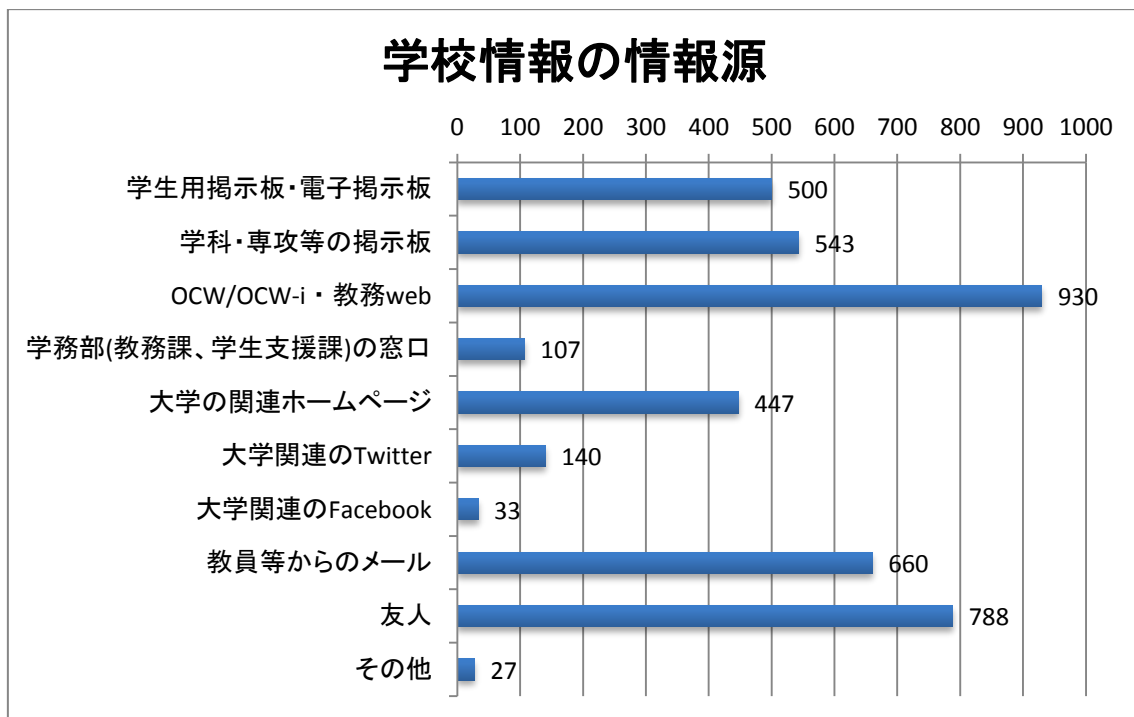


3. キャンパスライフについて

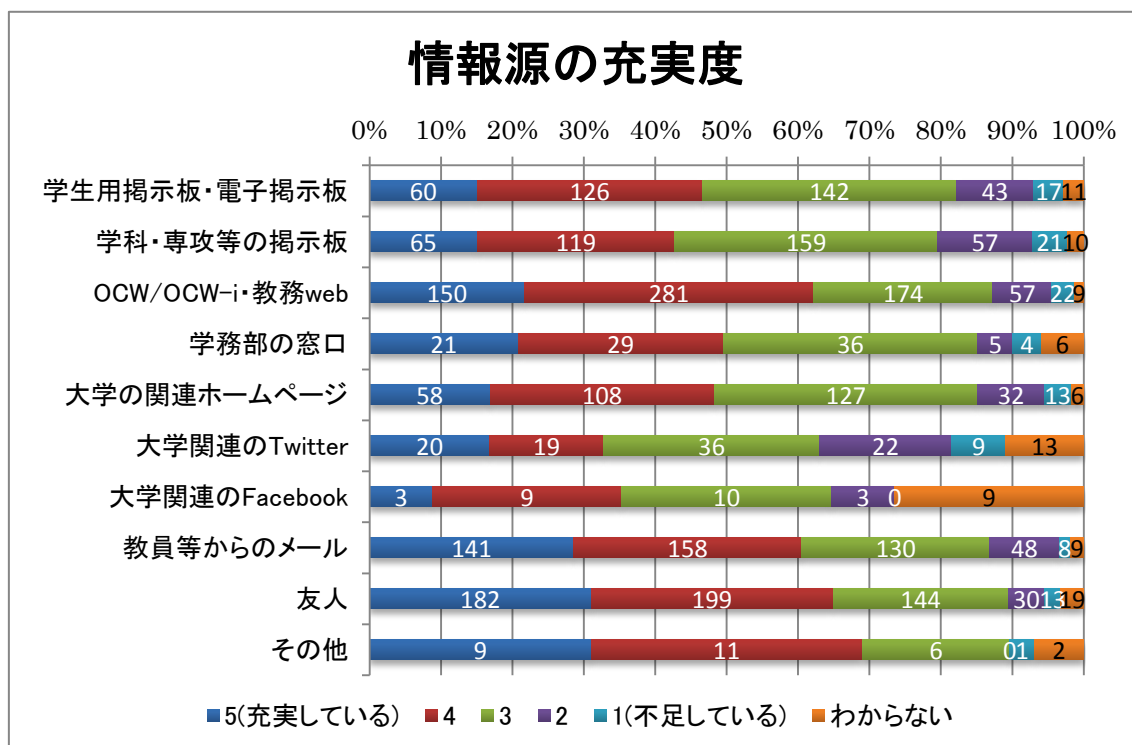
(1)授業の合間や終了後等は主にどこで過ごしていますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)



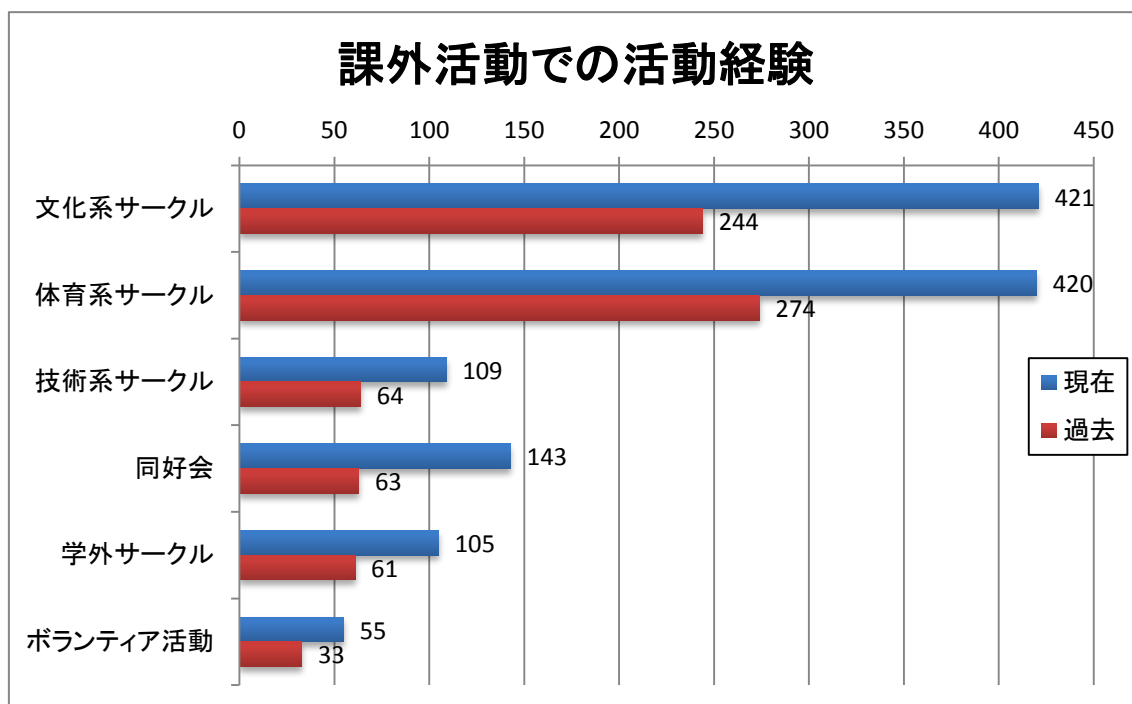
(2)授業や学内行事などの情報について、主な情報源は何ですか。該当するものがあれば3つまでマークして下さい。

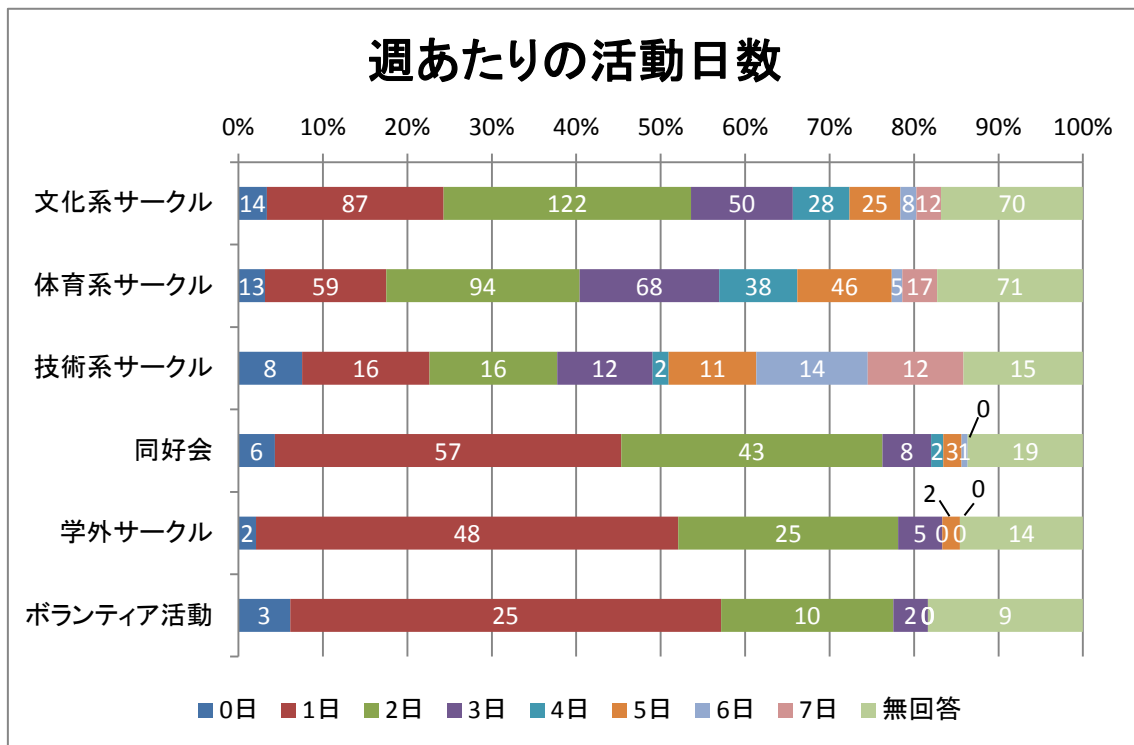


(3)(2)で該当した情報源についての充実度はいかがですか。



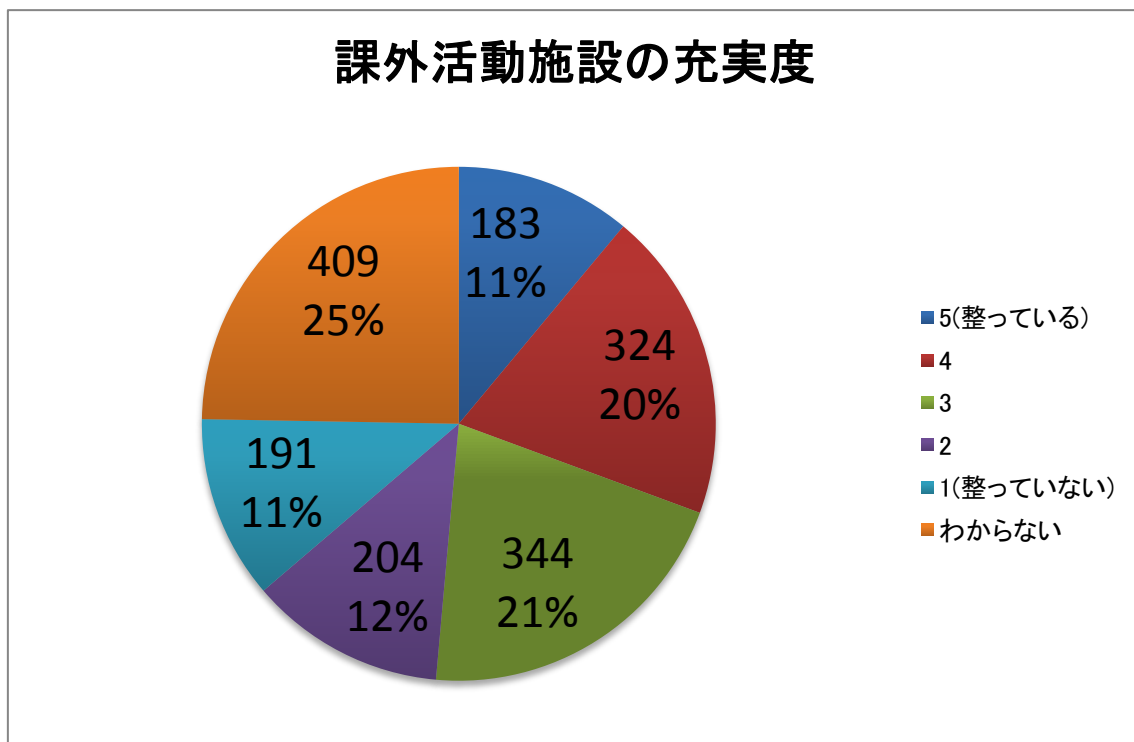
(4)サークル(公認サークル)、同好会(非公認のサークルや同好会)あるいはボランティア等の「現在」および「過去」の活動経験について、該当するところをマークし、現在活動している場合、週あたりの活動日数を記入して下さい。



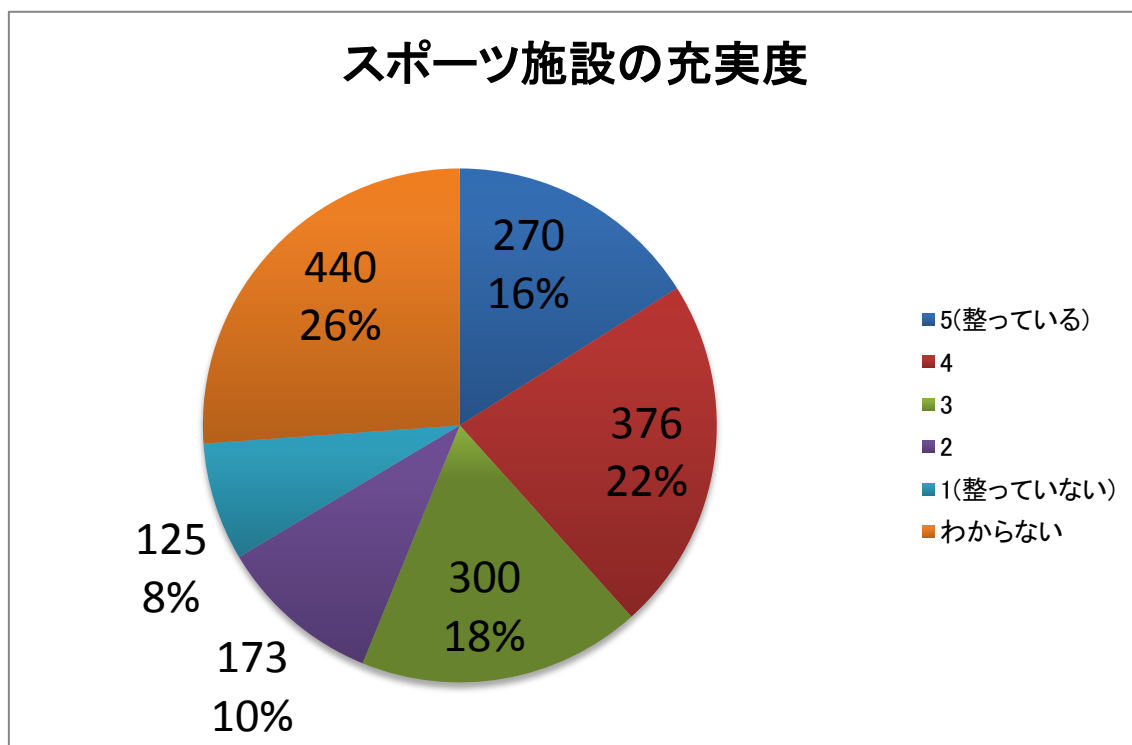


(5)大学の施設についてお聞きします。

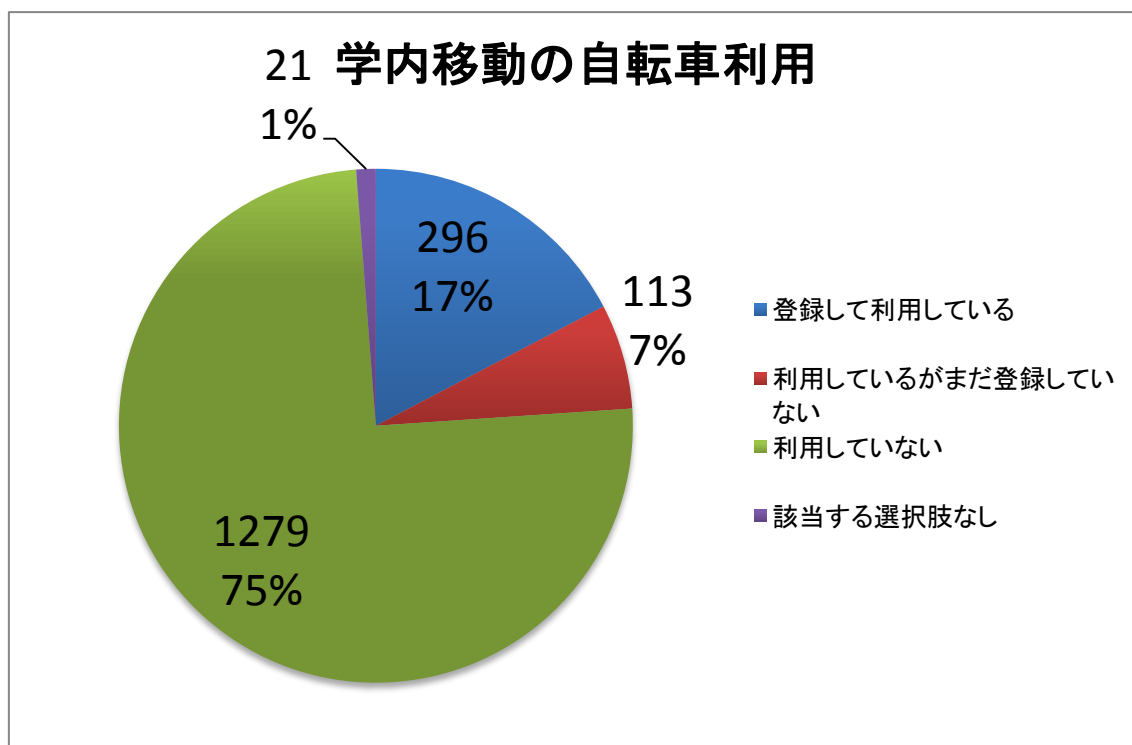
(5-a)サークル棟、大学会館(すずかけホール)等、課外活動施設についての充実度はいかがですか。



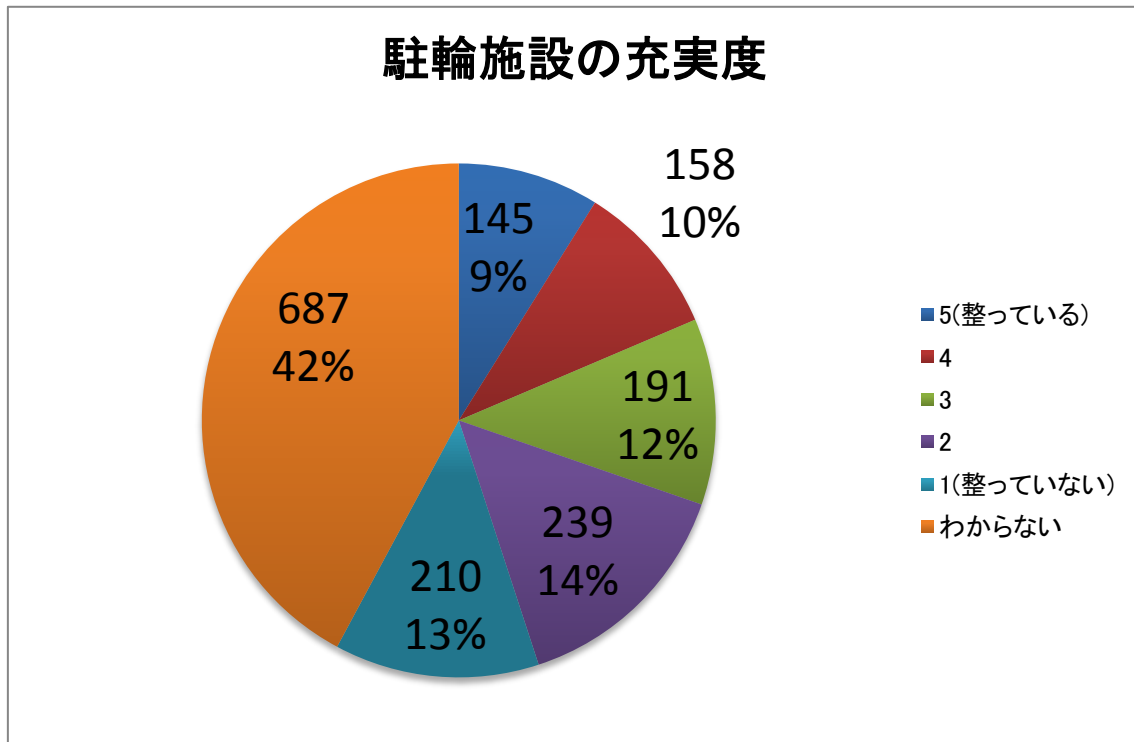
(5-b) スポーツ施設について充実度はいかがですか。



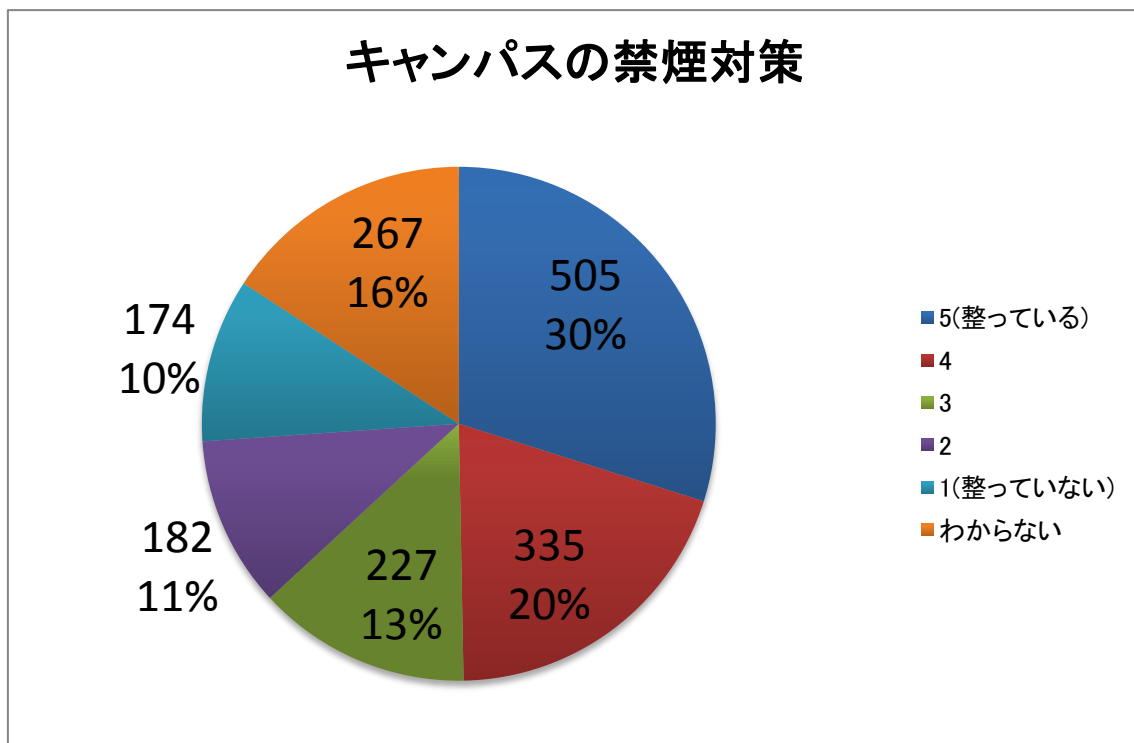
(5-c) 学内移動に自転車を利用していますか。



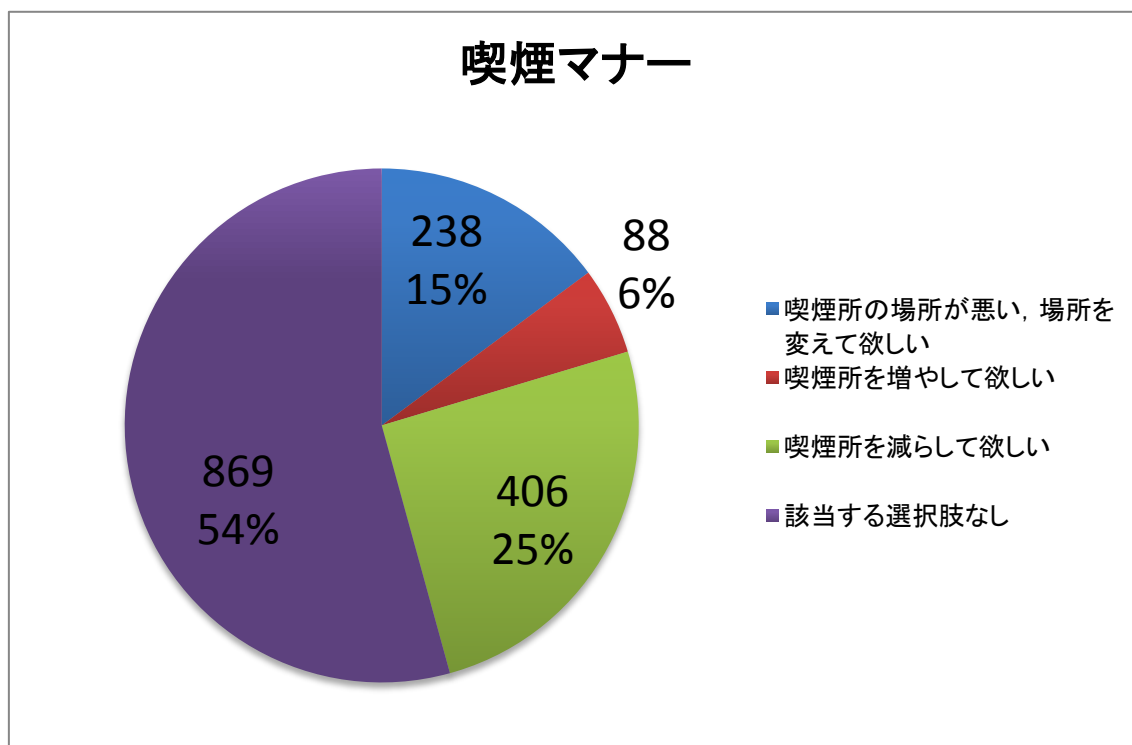
(5-d)駐輪施設の充実度はいかがですか。



(5-e-1)本学のキャンパス内の禁煙対策について

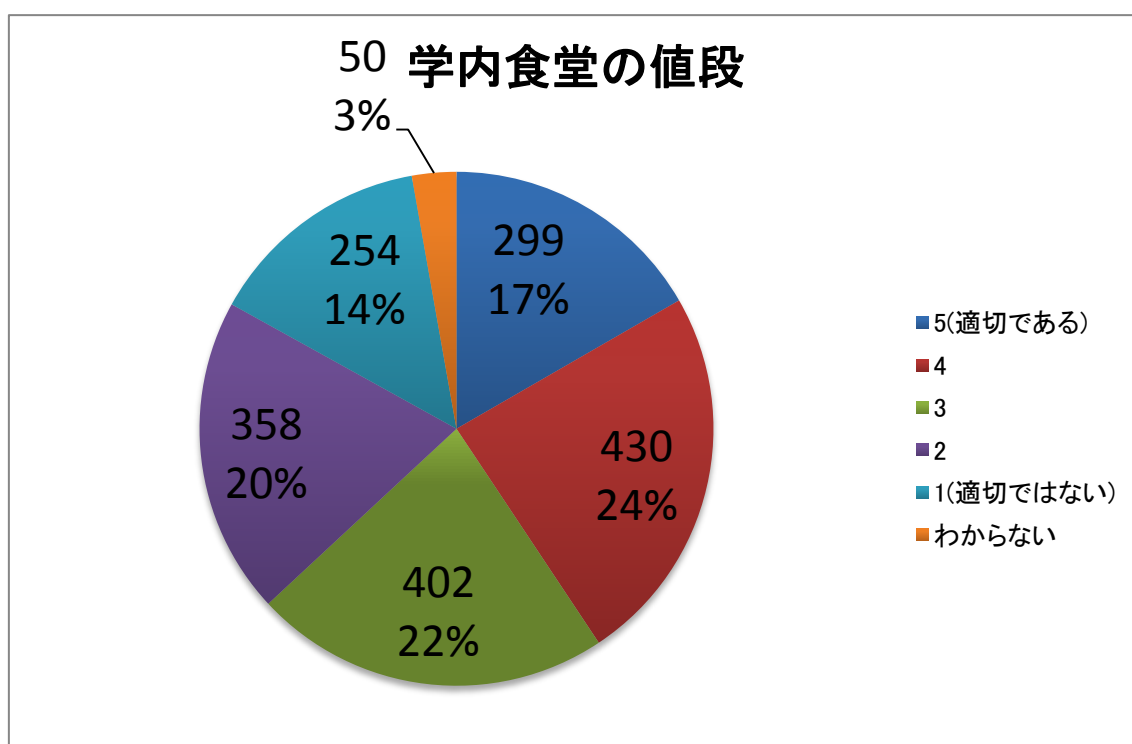


(5-e-2)キャンパス内の喫煙所の配置についてどう思われますか。

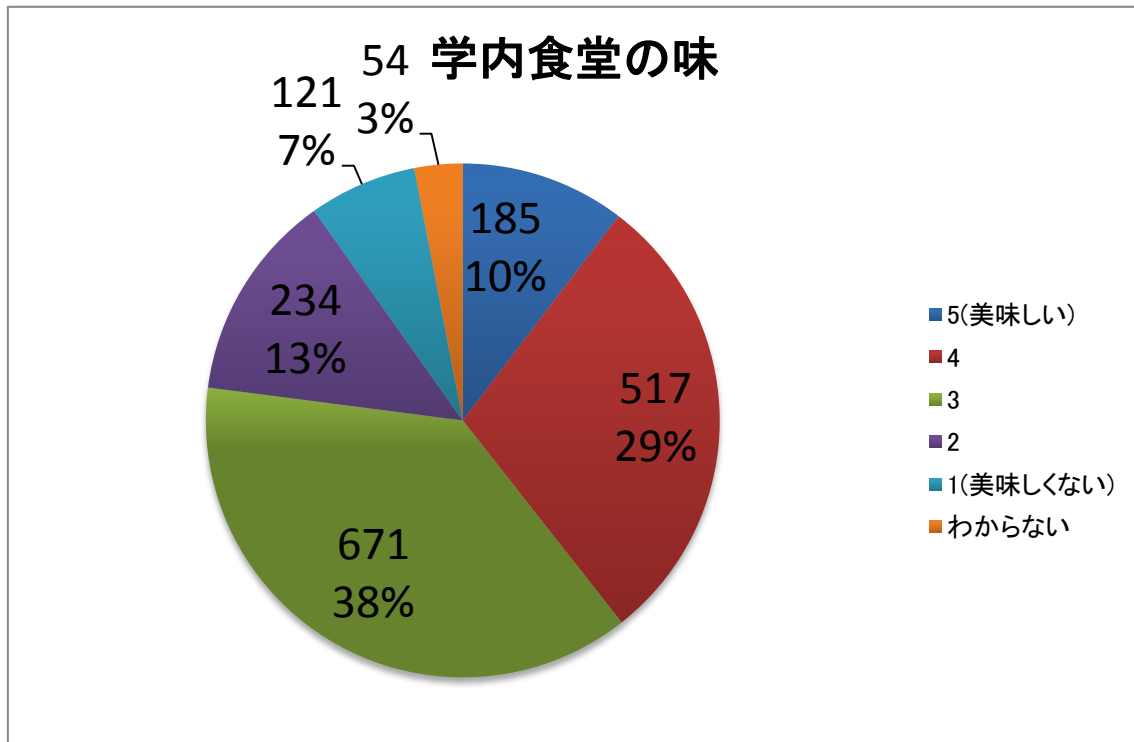


(6)学内の食堂についてお聞きます。

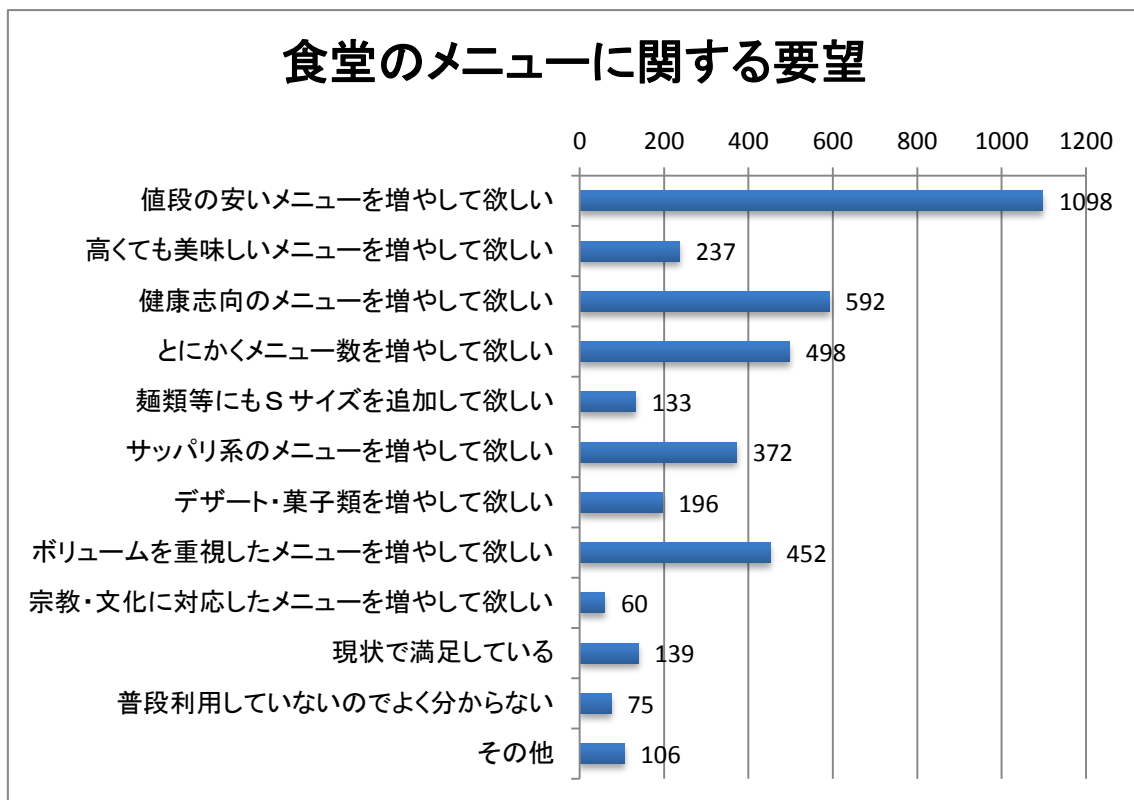
(6-a)値段はいかがですか。



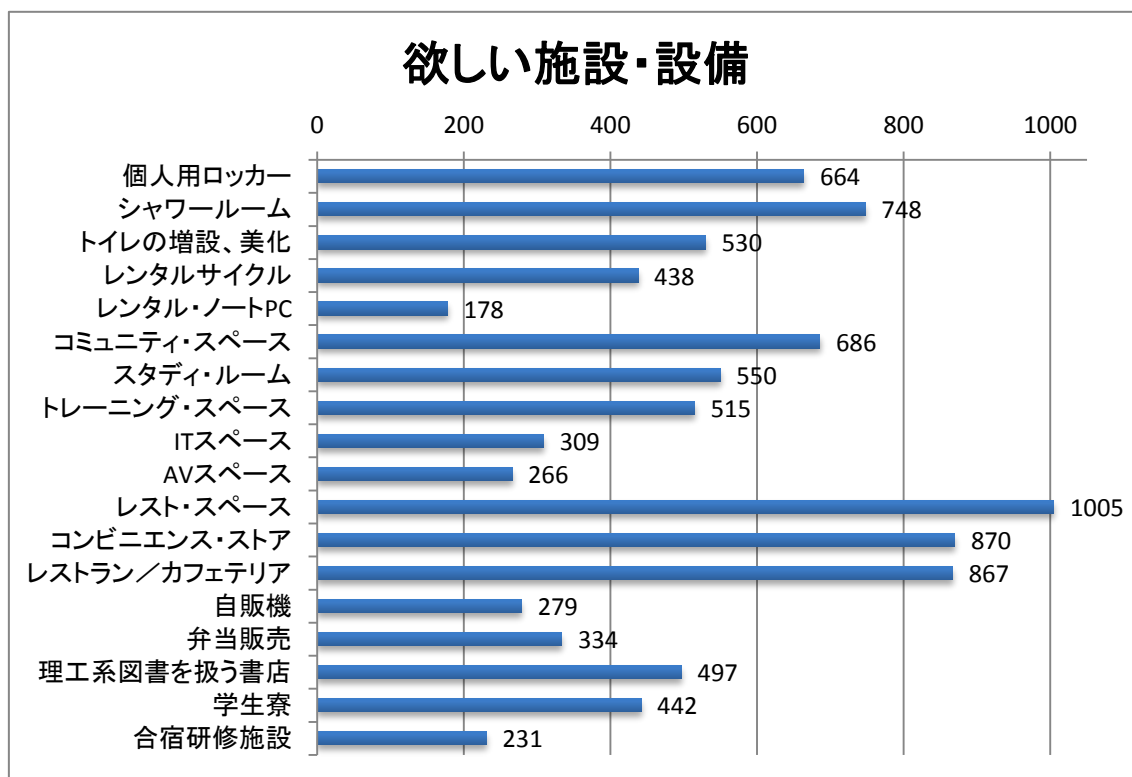
(6-b)味についてはいかがですか。



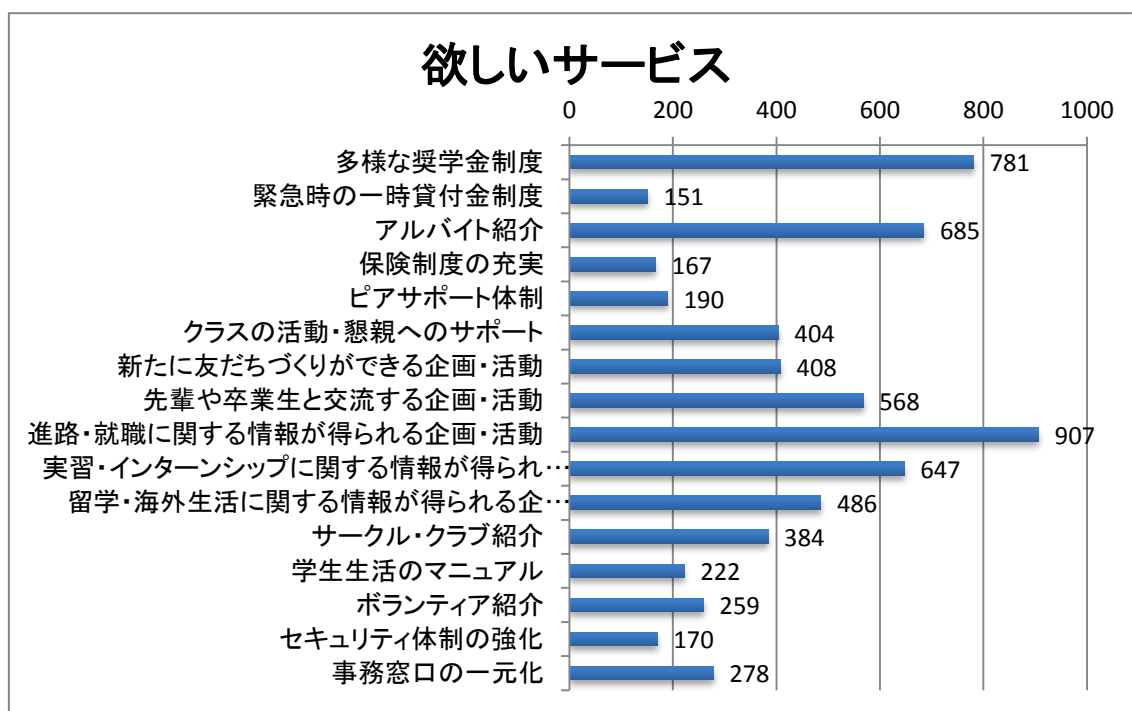
(6-c)メニューについてどう思いますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)



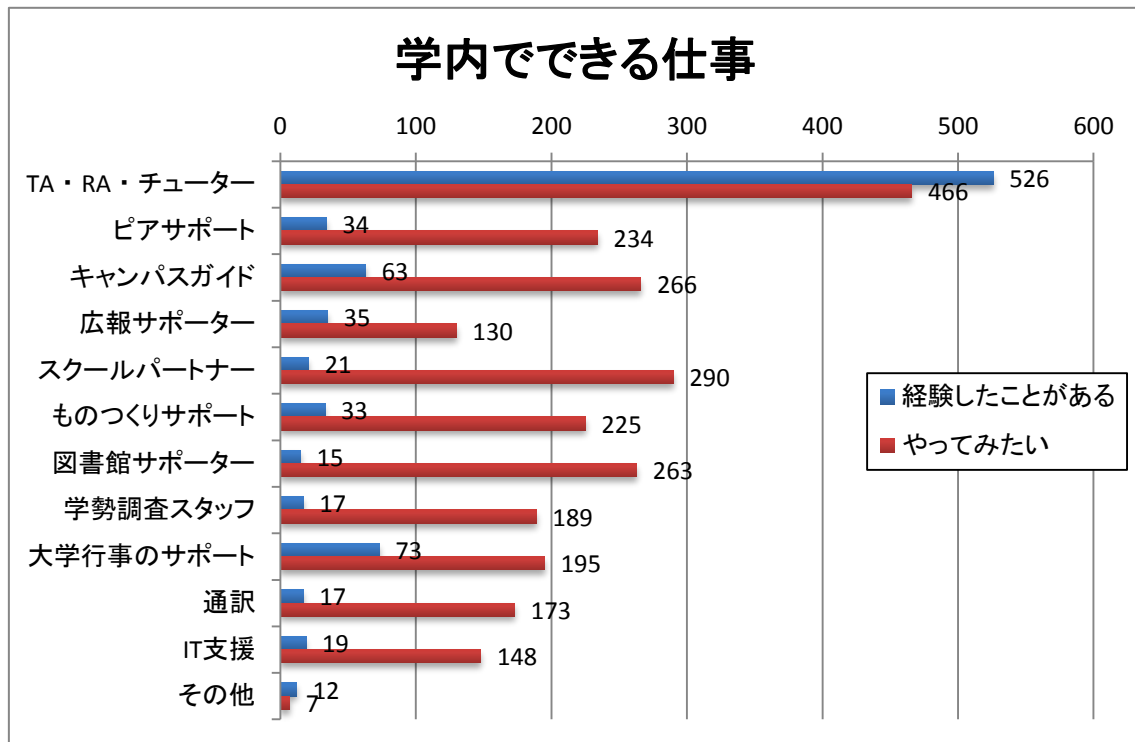
(7)施設・設備について、設置または充実して欲しいものは何ですか。3つまでマークしてください。



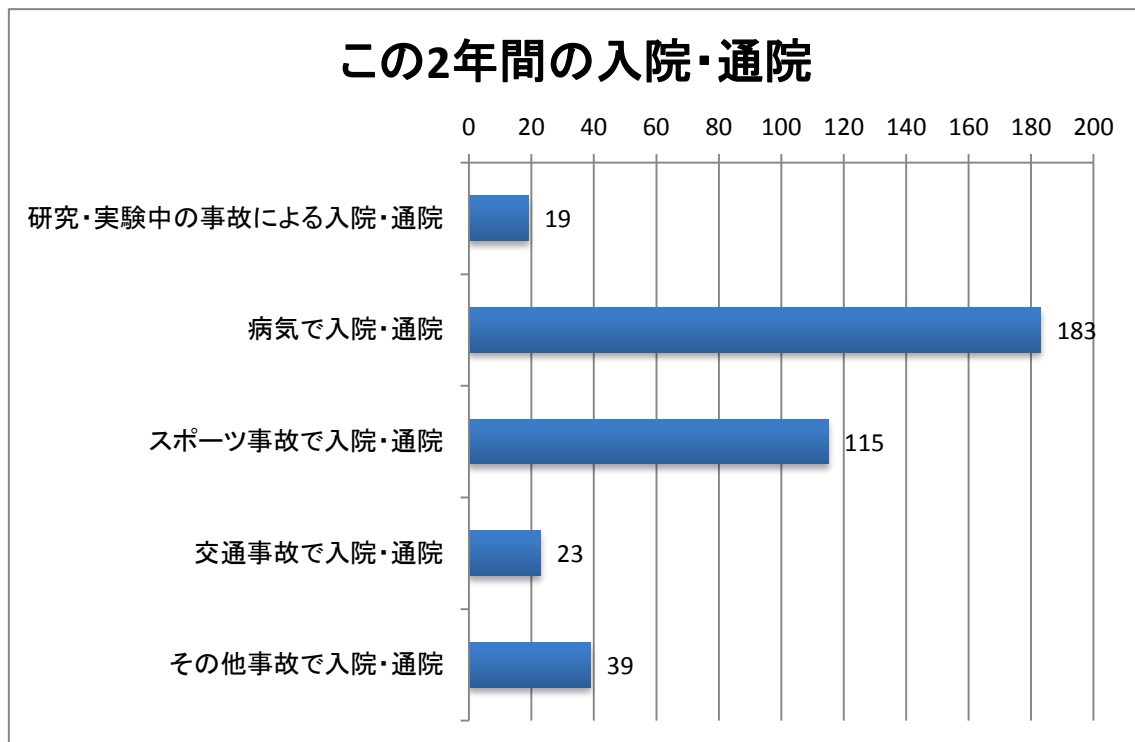
(8)学生生活サービスについて、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものは何ですか。3つまでマークしてください。



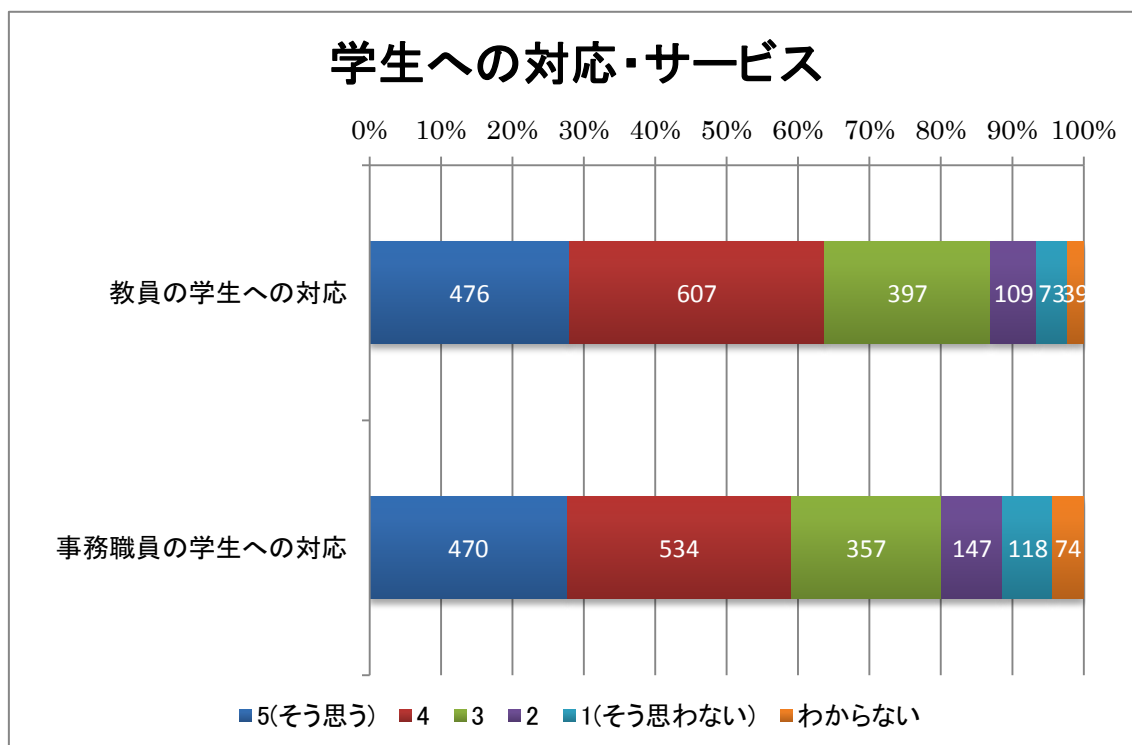
(9)あなたがこれまで経験したことがある、あるいは、興味がありやってみたいと思うものがあればマークしてください。(複数回答可)



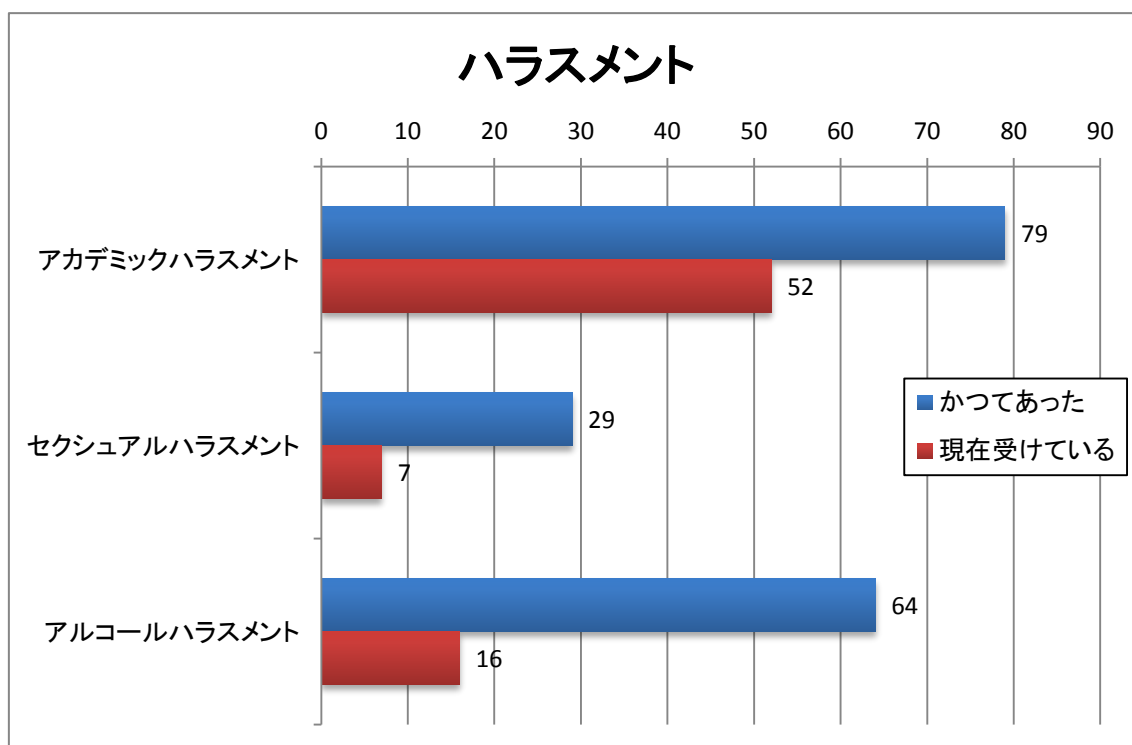
(10)大学生活で、この2年間に入院・通院した経験があればマークしてください。(複数回答可)



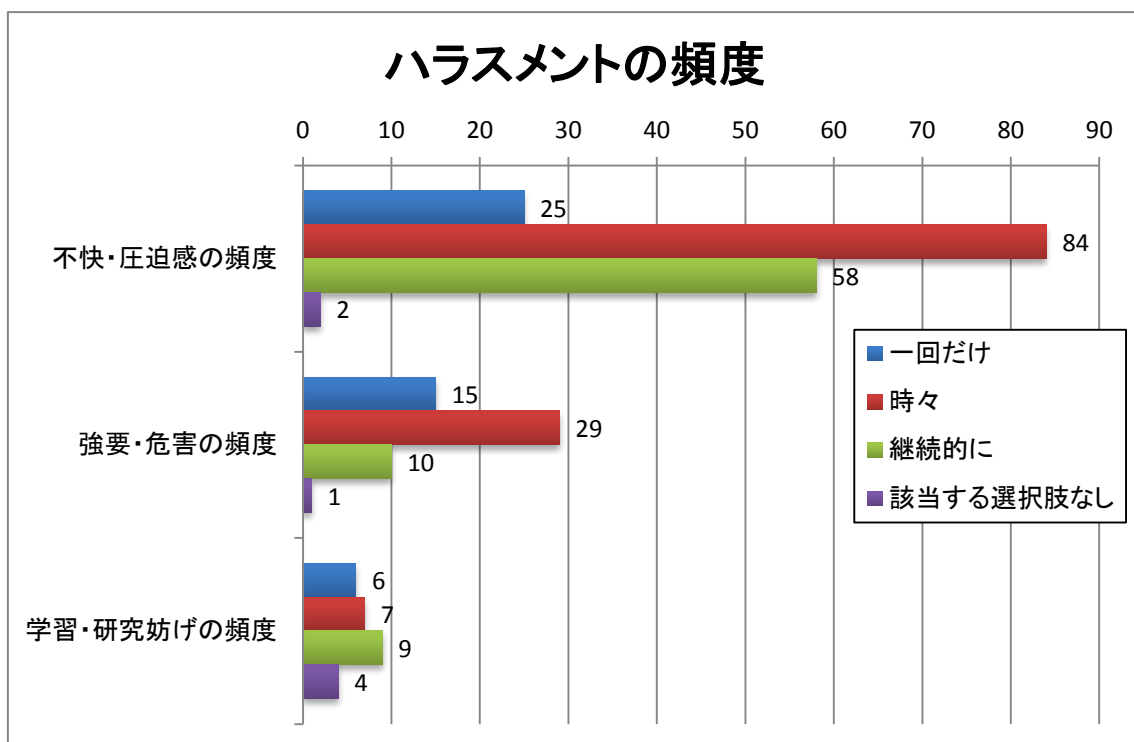
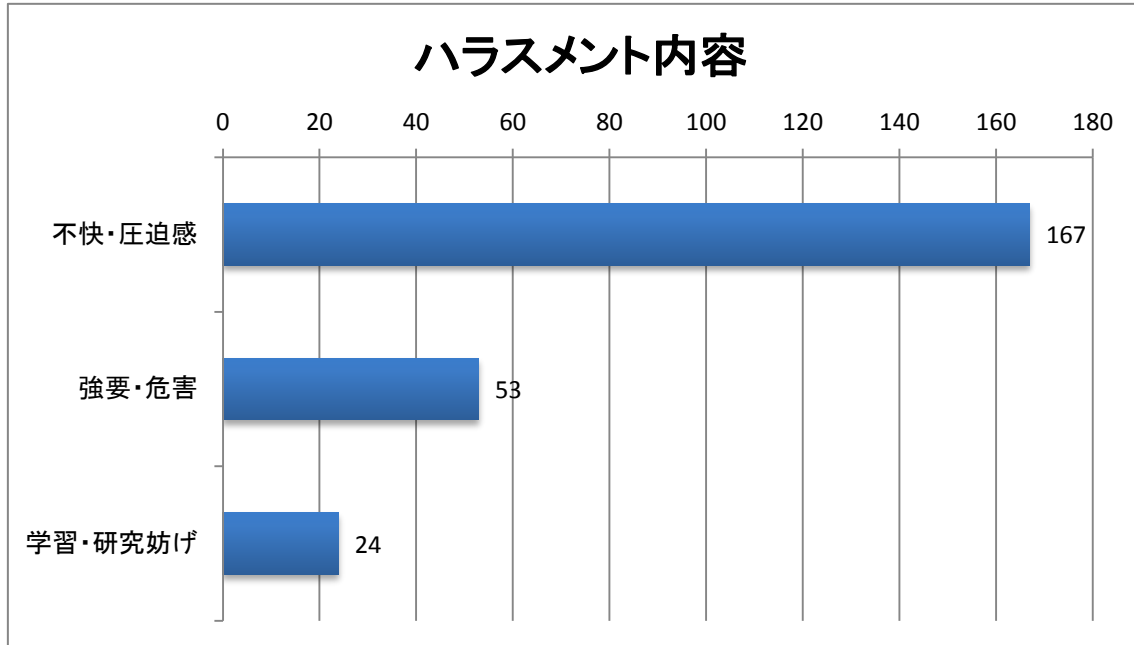
(11)教職員の学生への対応・サービスについてお聞きします。



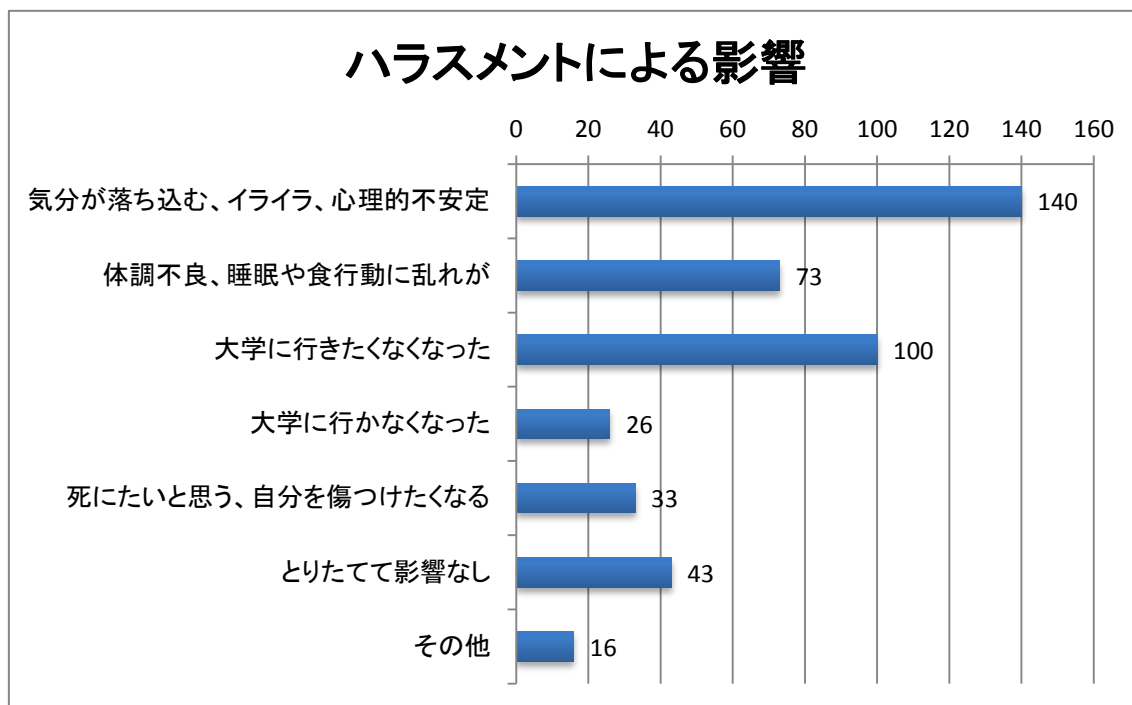
(12)あなたは大学生生活においてハラスメント(立場を利用した深刻な嫌がらせ)を受けた(受けたと感じた)ことがありますか。



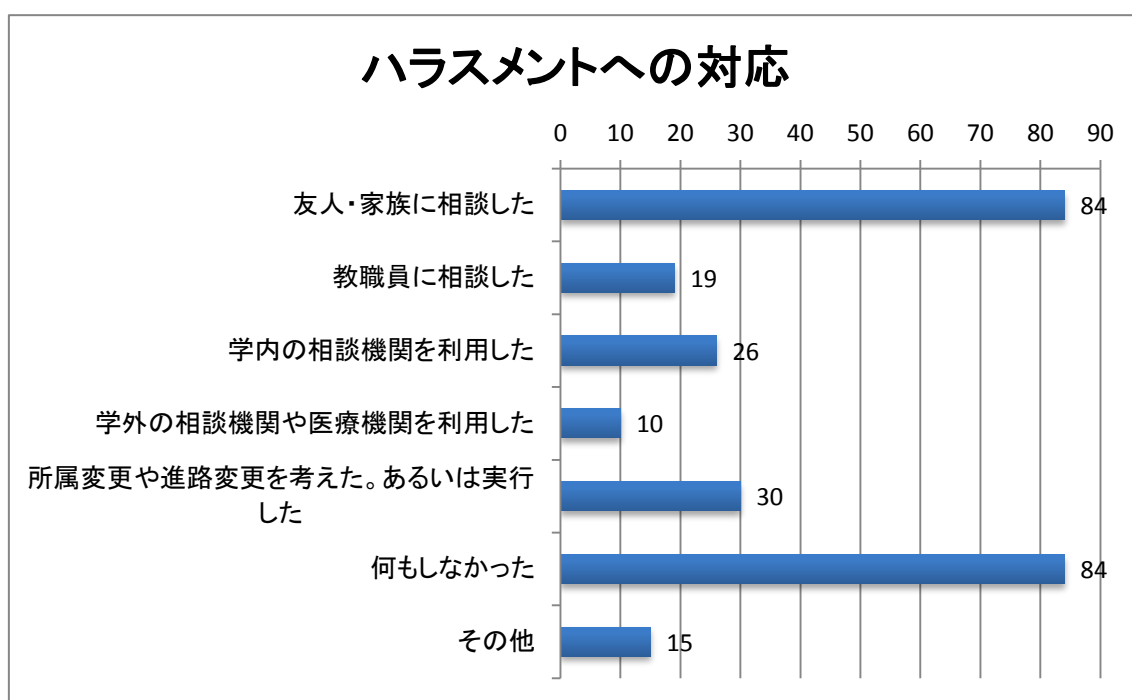
(13)(12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントの内容・程度、および頻度はどのようなものだったでしょうか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)



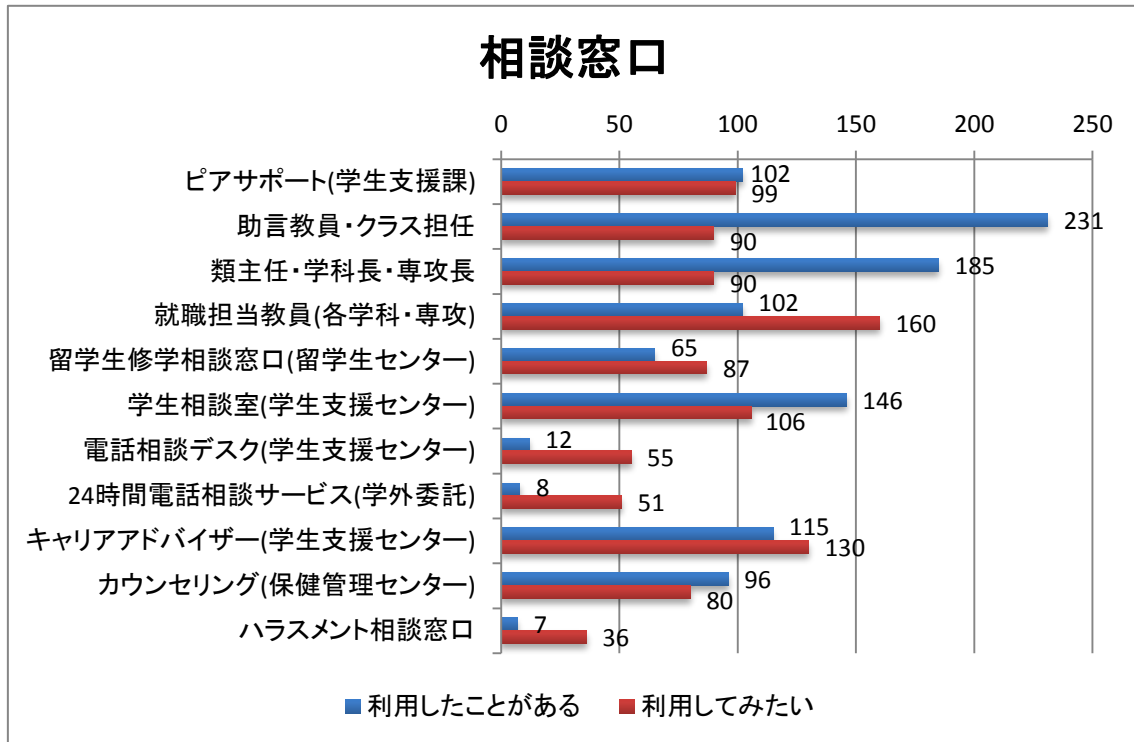
(14)(12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことでどのような影響があったでしょうか。該当するものがあればマークして下さい。(複数回答可)



(15)(12)の a. b.で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことにどう対応したでしょうか。該当するものがあればマークして下さい。(複数回答可)

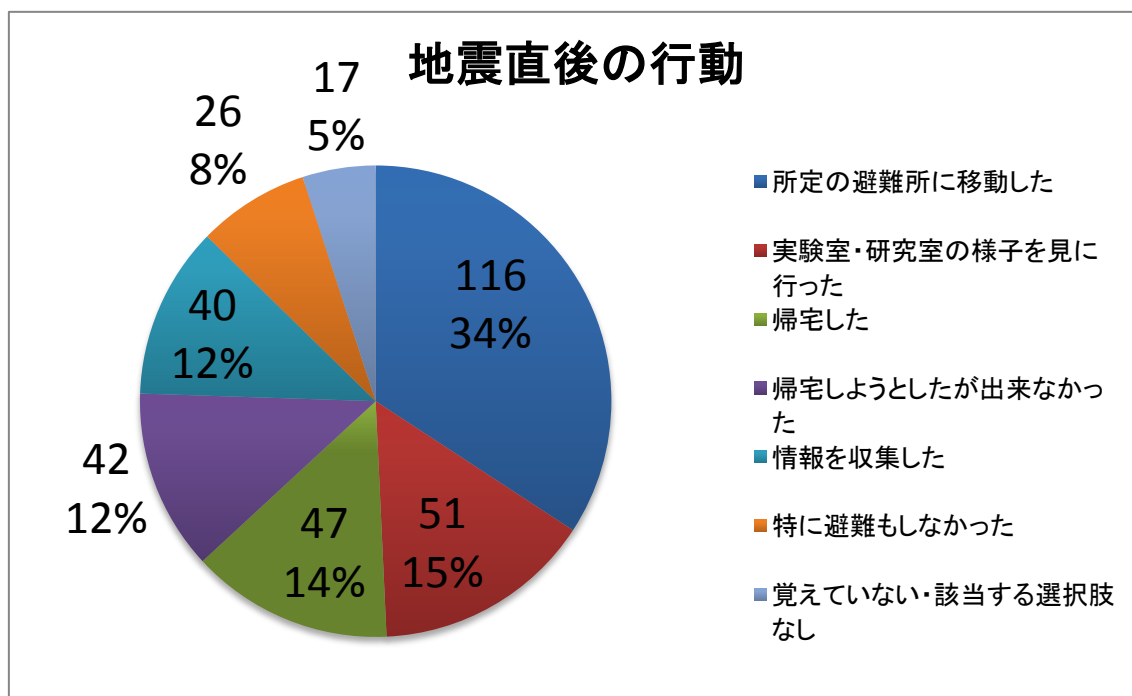


(17) 本学には様々な相談窓口があります。これまでに利用したことがあるもの、あるいは、利用してみたいものがあればマークしてください。(複数回答可)

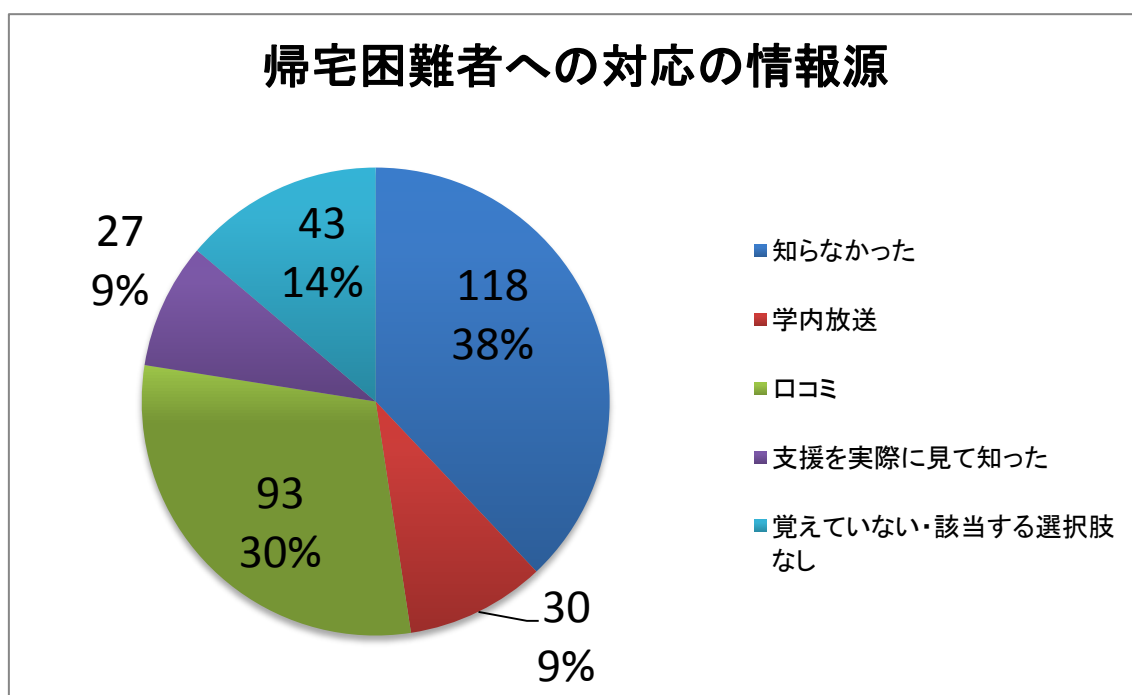


4. 防災関連について

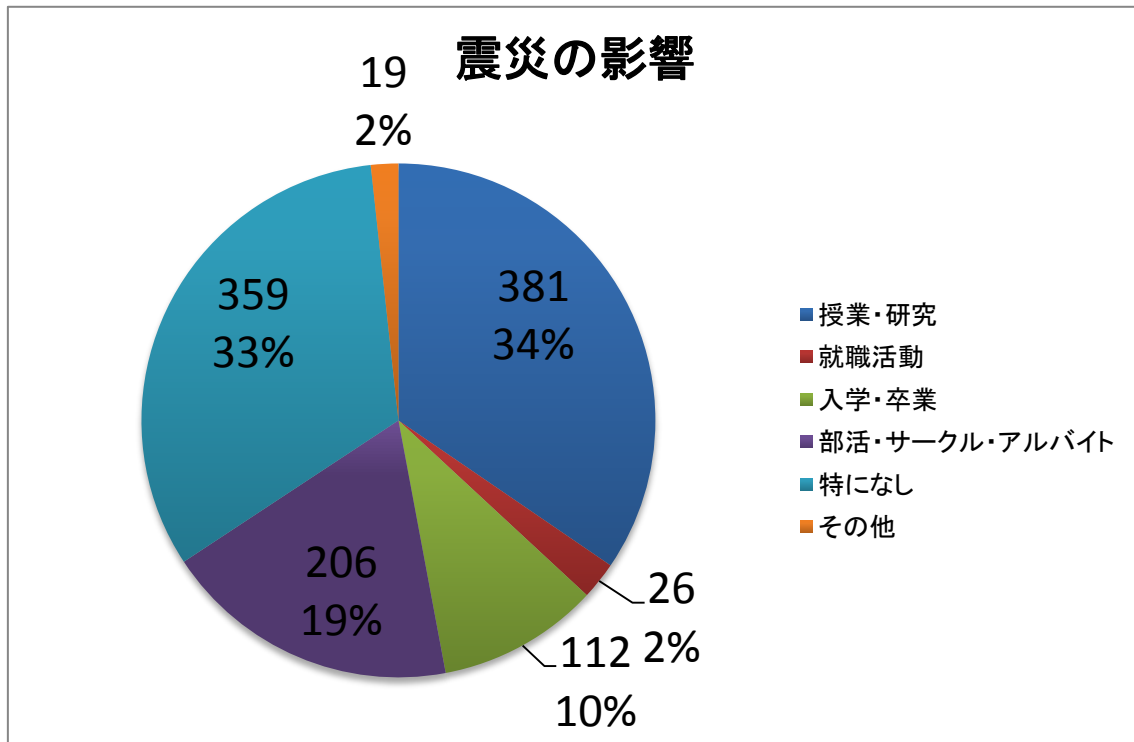
(1)2011 年 3 月 11 日地震発生当時に学内に居た学生に対してお尋ねします。地震発生直後に何をしていましたか。



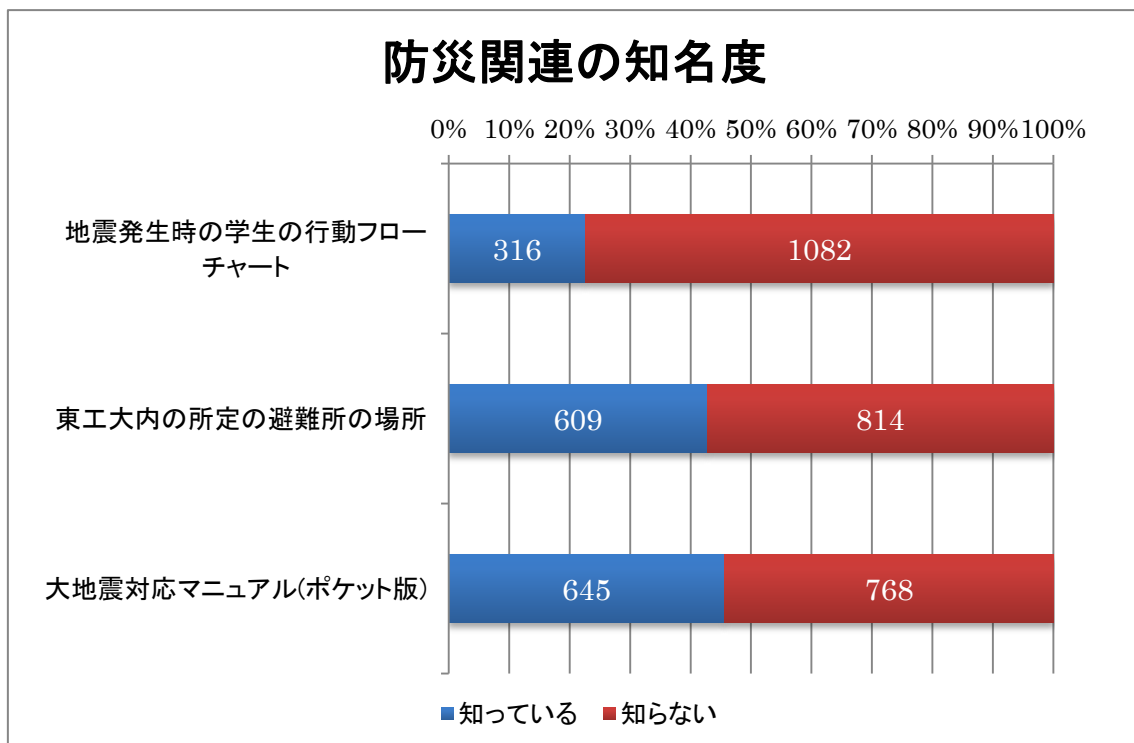
(2)2011 年 3 月 11 日地震発生当時に学内に居た学生に対してお尋ねします。2011 年 3 月 11 日の帰宅困難者への大学の対応をどのように知りましたか。



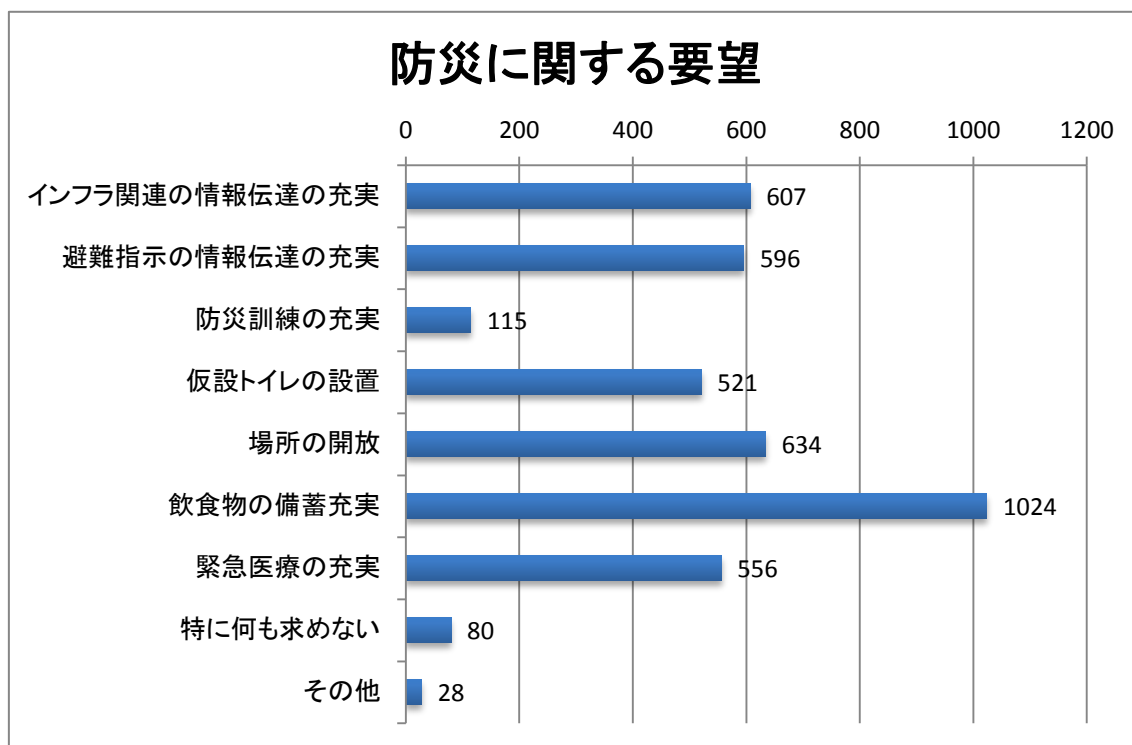
(3)東日本大震災直後、学生生活においてどの分野に影響が出ましたか。



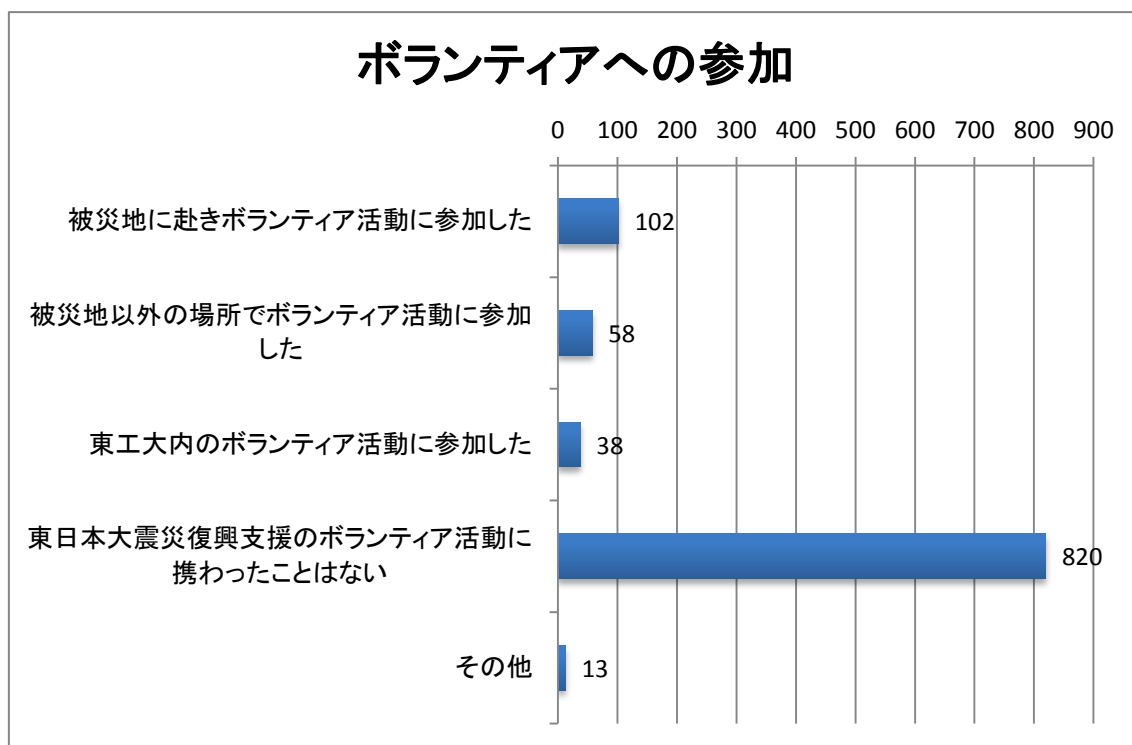
(4)防災関連について、知っているものをマークしてください。(複数選択可)



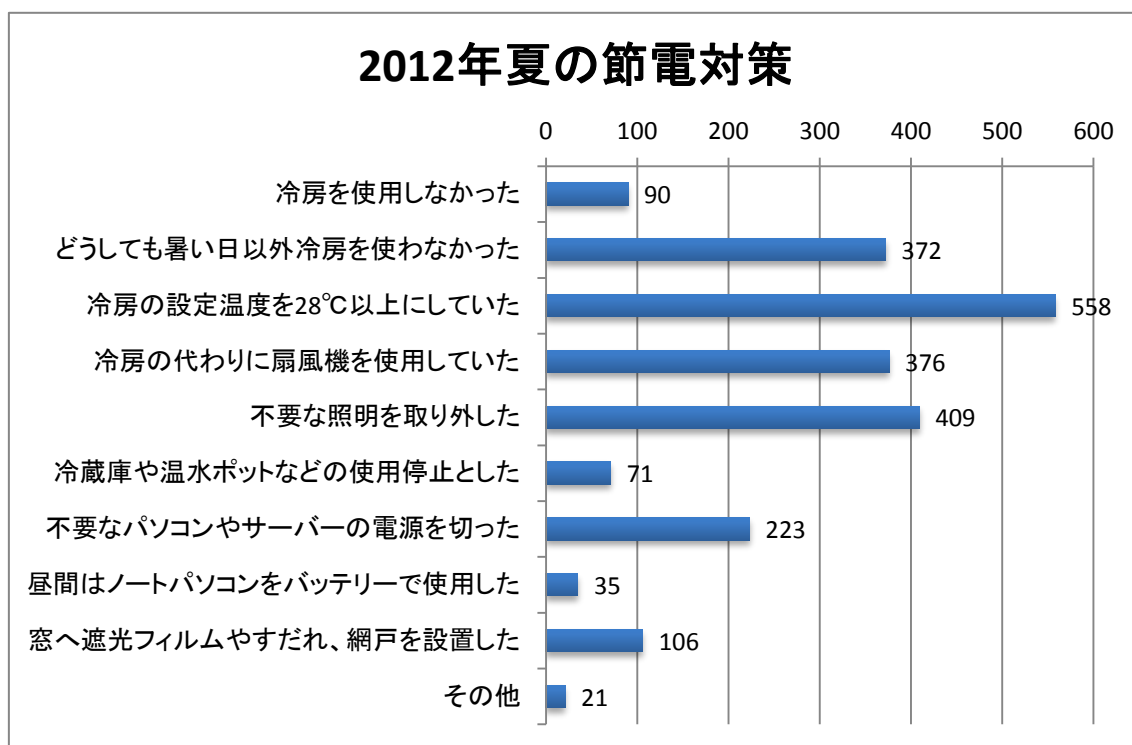
(5)防災関連で大学側に何を求めますか。3つまで選択してください。



(6)東日本大震災復興支援のボランティアに携わった事がありますか。(複数選択可)



(7)2012 年の夏、節電対策として研究室・サークル部室で行っていたものがあればお選びください。(複数選択可)



学勢調査 2012 設問一覧

○：ラジオボタン □：チェックボックス

【 】：ドロップダウンリストの設問(◇は選択肢)

基本情報(必須項目)

あなたはどこでこのアンケートに回答していますか。

○学内 ○学外

学部／大学院

○学部学生 ○大学院修士課程 ○大学院博士課程
○専門職学位課程 ○研究生

現課程への入学年

○2012 ○2011 ○2010
○2009 ○2008 ○2007 以前

他大学、または高専に在籍していた方はチェックを入れてください。

□

性別

○男 ○女

出身

○日本 ○外国

所属(類、学科または専攻名)

○類 ○学科 ○専攻

【類】

◇1 類 ◇2 類 ◇3 類 ◇4 類
◇5 類 ◇6 類 ◇7 類 ◇該当する選択肢なし

【学科】

◇数学科	◇物理学科
◇化学科	◇情報科学科
◇地球惑星科学科	◇金属工学科
◇有機材料工学科	◇無機材料工学科
◇化学工学コース	◇応用化学コース
◇高分子工学科	◇機械科学科
◇機械知能システム学科	◇機械宇宙学科
◇国際開発工学科(開発システム工学科)	◇制御システム工学科
◇経営システム工学科	◇電気電子工学科
◇情報工学科	◇土木・環境工学科(土木工学科)
◇建築学科	◇社会工学科
◇生命科学科	◇生命工学科
◇該当する選択肢なし	

【専攻】

◇数学専攻	◇基礎物理学専攻
◇物性物理学専攻	◇化学専攻
◇地球惑星科学専攻	◇物質科学専攻
◇材料工学専攻	◇有機・高分子物質専攻
◇応用化学専攻	◇化学工学専攻
◇機械物理工学専攻	◇機械制御システム専攻
◇機械宇宙システム専攻	◇電気電子工学専攻



- ◇電子物理工学専攻
- ◇土木工学専攻
- ◇国際開発工学専攻
- ◇分子生命科学専攻
- ◇生命情報専攻
- ◇生体分子機能工学専攻
- ◇物質電子化学専攻
- ◇環境理工学創造専攻
- ◇創造エネルギー専攻
- ◇物理電子システム創造専攻
- ◇知能システム科学専攻
- ◇数理・計算科学専攻
- ◇情報環境学専攻
- ◇価値システム専攻
- ◇社会工学専攻
- ◇イノベーション専攻

- ◇集積システム専攻
- ◇建築学専攻
- ◇原子核工学専攻
- ◇生体システム専攻
- ◇生物プロセス専攻
- ◇物質科学創造専攻
- ◇材料物理科学専攻
- ◇人間環境システム専攻
- ◇化学環境学専攻
- ◇メカノマイクロ工学専攻
- ◇物理情報システム専攻
- ◇計算工学専攻
- ◇人間行動システム専攻
- ◇経営工学専攻
- ◇技術経営専攻
- ◇該当する選択肢なし

キャンパス内の主な活動場所はどこですか。

- 大岡山地区 ○石川台地区 ○緑が丘地区 ○すずかけ台 ○田町

過去に実施した学勢調査に回答しましたか。

- 答えた ○答えていない ○忘れた

【学勢調査 2012 をどこで知りましたか。】

- | | |
|--------------------|---------------|
| ◇東工大メールニュース | ◇東工大ホームページ |
| ◇電子掲示板(プラズマディスプレイ) | ◇ポスター |
| ◇食堂卓上ポップ | ◇知り合いに教えたもらった |
| ◇Twitter | ◇立て看板 |
| ◇専攻内のメールでの連絡 | ◇その他(自由記述) |

1. 生活基盤について

(1) 【片道の通学時間はどのくらいですか。】

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| ◇15 分未満 | ◇15～30 分未満 | ◇30～60 分未満 |
| ◇60～90 分未満 | ◇90～120 分未満 | ◇120 分以上 |
| ◇決まっていない | | |

(2) 【主な通学手段は何ですか。】

- | | | |
|-------------------|------------|------|
| ◇徒歩 | ◇自転車 | ◇バイク |
| ◇公共交通機関(電車, バスなど) | ◇その他(自由記述) | |

(3) 【現在の住まいは以下のどれにあたりますか。】

- | | | |
|-----|------------|-----------------|
| ◇自宅 | ◇親戚・知人の家 | ◇下宿(アパート・マンション) |
| ◇寮 | ◇該当する選択肢なし | |

(4) 【(3) で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の家賃はどのくらいですか。】

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| ◇0～2 万円未満 | ◇2～4 万円未満 | ◇4～6 万円未満 |
| ◇6～8 万円未満 | ◇8～10 万円未満 | ◇10 万円以上 |
| ◇決まっていない | | |

(5) 【(3) で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。】

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| ◇もらっていない | ◇2 万円未満 | ◇2～4 万円未満 |
| ◇4～6 万円未満 | ◇6～8 万円未満 | ◇8～10 万円未満 |
| ◇10～12 万円未満 | ◇12～14 万円未満 | ◇14 万以上 |



11. 調査資料集

◇決まっていない

(6) 以下のうち、所有しているものをすべてマークしてください。(複数選択可)

- | | |
|---|--|
| ☐ 自分専用のノート PC | ☐ 自分専用のデスクトップ PC |
| ☐ 家族共用の PC | ☐ スマートフォン |
| ☐ スマートフォン以外の携帯電話 | ☐ タブレット端末 (iPad, Amazon Kindle 等) |

(7) 【1 週間に何回くらい学内の食堂(学食)を利用しますか。】

- | | | |
|-----------|---------|----------|
| ◇0 回 | ◇1~2 回 | ◇3~5 回 |
| ◇6 回~10 回 | ◇11 回以上 | ◇決まっていない |

(8) 【学食を利用しない時は主にどうやって食事をとりますか。】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ◇弁当を持参 | ◇生協販売のパンや弁当を購入 |
| ◇外部の弁当屋で弁当を購入 | ◇内部のコンビニのパンや弁当を購入 |
| ◇外部のコンビニのパンや弁当を購入 | ◇外食 |
| ◇食事のために家に帰る | ◇その他(自由記述) |

(9) 【普段、自炊、もしくは家庭や寮で調理された食事をどのくらいとっていますか。】

- | | |
|-----------------|----------|
| ◇(ほとんど自炊) 80%以上 | ◇60~80% |
| ◇40~60% | ◇20~40% |
| ◇20%以下 | ◇決まっていない |

(10) 平日の平均的な時間の使い方を教えてください。

10a 【睡眠】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ◇0 時間 | ◇0~2 時間未満 | ◇2~4 時間未満 |
| ◇4~5 時間未満 | ◇5~6 時間未満 | ◇6~7 時間未満 |
| ◇7~8 時間未満 | ◇8 時間以上 | ◇決まっていない |

10b 【勉強もしくは研究-大学にいる時間を含む(授業の時間は含まない)】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ◇0 時間 | ◇0~2 時間未満 | ◇2~4 時間未満 |
| ◇4~5 時間未満 | ◇5~6 時間未満 | ◇6~7 時間未満 |
| ◇7~8 時間未満 | ◇8 時間以上 | ◇決まっていない |

10c 【娯楽】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ◇0 時間 | ◇0~2 時間未満 | ◇2~4 時間未満 |
| ◇4~5 時間未満 | ◇5~6 時間未満 | ◇6~7 時間未満 |
| ◇7~8 時間未満 | ◇8 時間以上 | ◇決まっていない |

10d 【仕事もしくはアルバイト】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ◇0 時間 | ◇0~2 時間未満 | ◇2~4 時間未満 |
| ◇4~5 時間未満 | ◇5~6 時間未満 | ◇6~7 時間未満 |
| ◇7~8 時間未満 | ◇8 時間以上 | ◇決まっていない |

(11) 【あなたは課題や研究で忙しいときに、家に帰れないことが週何回程度ありますか。】

- | | | | | |
|------|------|------|----------|------|
| ◇0 日 | ◇1 日 | ◇2 日 | ◇3 日 | ◇4 日 |
| ◇5 日 | ◇6 日 | ◇7 日 | ◇決まっていない | |

(12) 【あなたはアルバイトをしていますか。】

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| ◇学期中にのみしている | ◇長期休暇のみしている | ◇1 年を通じてしている |
| ◇単発的にしている | ◇していない | ◇該当する選択肢なし |

(13) (12) でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。あなたがしているアルバイトの内容を教えてください。(複数回答可)

- ☐ 家庭教師・塾講師
- ☐ TA・RA・チューター・東工大のアルバイト
- ☐ 接客(ファーストフード, カフェ, 居酒屋, コンビニ, スーパー, 販売など)
- ☐ 派遣・単発的なアルバイト
- ☐ 専門技術(プログラミング, HP 作成など, 翻訳・通訳など)
- ☐ その他(自由記述)



(14) (12) でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。

14a 【週のアルバイト日数】

- ◇1日 ◇2日 ◇3日 ◇4日
◇5日 ◇6日 ◇7日 ◇決まっていない

14b 【1回あたりのアルバイト時間】

- ◇0～2時間未満 ◇2～4時間未満 ◇4～6時間未満
◇6～8時間未満 ◇8時間以上 ◇決まっていない

14c 【アルバイトの時間帯】

- ◇朝 ◇昼間 ◇夕方から夜 ◇深夜にかけて
◇一日中 ◇特に決まっていない ◇該当する選択肢なし

14d 【アルバイトの月収】

- ◇2万円未満 ◇2～4万円未満 ◇4～6万円未満
◇6～8万円未満 ◇8～10万円未満 ◇10万円以上
◇決まっていない

14e 【アルバイトの目的】

- ◇学費・生活費のため ◇社会勉強のため ◇友人作りのため
◇時間つぶしのため ◇趣味や課外活動の費用のため ◇その他(自由記述)

2. 学習状況について

(1) 【大学にプライドをもっていますか。】

- ◇4(そう思う) ◇3 ◇2 ◇1(そう思わない) ◇わからない

(2) 【東工大をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。】

- ◇学生の学力向上 ◇学生の主体性の向上 ◇研究水準の向上
◇教育水準の向上 ◇施設・学習環境の向上 ◇わからない・その他

(3) 【本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。】

- ◇4(そう思う) ◇3 ◇2 ◇1(そう思わない) ◇わからない

(4) 【本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。】

- ◇4(そう思う) ◇3 ◇2 ◇1(そう思わない) ◇わからない

(5) 【何を行うため、大学に入学しましたか。】

- ◇研究を行うため ◇教養を身につけるため ◇就職のため
◇人脈を作るため ◇課外活動を行うため ◇なんとなく
◇すぐに社会に出たくなかったから ◇その他(自由記述)

(6) 【現在在籍している類、研究科、専攻等に満足していますか。】

- ◇5(満足している) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(不満である) ◇わからない

(7) 現在在籍している類、研究科、専攻等に不満がある場合、該当するものにマークしてください。(複数選択可)

- ☐ 想定していた研究・学習内容と異なっていたから
☐ カリキュラムの進度に不満があるから
☐ 教員に対して不満があるから
☐ 施設に対して不満があるから
☐ その他(自由記述)

(8) 【今年度の前期の授業の出席状況はどうでしたか。】

- ◇ほとんど出席する(80%～100%) ◇大部分の授業に出席する(60%～80%)
◇出席したりしなかったり(40%～60%) ◇大部分の授業に出席しない(20%～40%)
◇ほとんど出席しない(0%～20%) ◇授業をとる必要がない
◇その時期、大学に在籍していなかった(9月入学や留学など)
◇該当する選択肢なし



(9) 履修申告をした授業に出ない主な理由は何ですか。該当するものにマークしてください。
(複数回答可)

- ☐ 講義に魅力がない ☐ 講義が理解できない ☐ 勉強意欲が起きない
☐ 健康上の理由 ☐ 授業が早朝から始まる ☐ 出席と成績は関係ない
☐ 研究・実験のため ☐ アルバイト・サークルなどを優先するため
☐ 授業の履修を取りやめたため ☐ その他(自由記述)

(10) 授業をより良く理解するための、1週間(土日含む)あたりの学修時間(予習・復習等)を記入してください。(課題レポート等を含む)

1週間あたり予習に費やした総時間数()時間

1週間あたり復習に費やした総時間数()時間

(11) 次の項目の中から学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるものにマークして下さい。(複数回答可)

- ☐ 学生主体の授業を増やす
☐ 専門の科目を増やす
☐ 教養の科目は学部1年次に重きをおかずに学部2~4年次においても履修できるようにする
☐ 研究室体験できるような授業を増やす
☐ ディベート・ディスカッションのような参加型の授業を増やす
☐ 実地での調査・体験の場を増やす
☐ 必修を少なくする
☐ 自主ゼミを増やす
☐ 研究室で行われているゼミをオープンにし、学部生が自由に公聴できるようにする
☐ その他(自由記述)

(12) 本学の授業・カリキュラムについてどのような印象を持っていますか。

a 理工系の基礎教育

- ☐ 充実している ☐ 充実していない ☐ 過剰である ☐ 特になし・よくわからない

b 理工系の専門教育

- ☐ 充実している ☐ 充実していない ☐ 過剰である ☐ 特になし・よくわからない

c 研究者の養成(研究計画の立案や論文の書き方などの教育)

- ☐ 充実している ☐ 充実していない ☐ 過剰である ☐ 特になし・よくわからない

d 人文科学(文系科目・総合科目)などの教育

- ☐ 充実している ☐ 充実していない ☐ 過剰である ☐ 特になし・よくわからない

e 英語教育

- ☐ 充実している ☐ 充実していない ☐ 過剰である ☐ 特になし・よくわからない

f コミュニケーション力の養成

- ☐ 充実している ☐ 充実していない ☐ 過剰である ☐ 特になし・よくわからない

(13) 本学の学習カリキュラムについて、ご意見がある場合は記入してください。

(自由記述)

(14) 学部生で本学の修士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数回答可)

- ☐ 経済的理由 ☐ 早く社会に出たいから
☐ 今、学んでいる分野を修士レベルまで極めたいとは思わないから
☐ 専門の異なる他大学の大学院に進学したいから
☐ 専門が同じで、よりレベルの高い他大学の大学院に進学したいから
☐ 大学が厭になった ☐ 研究に興味がない ☐ その他(自由記述)

(15) 学部生・大学院修士課程学生で本学の博士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

- ☐ 経済的理由 ☐ 早く社会に出たいから



- ☐ 今、学んでいる分野を博士レベルまで極めたいとは思わないから
- ☐ 専門の異なる他大学の大学院博士課程に進学したいから
- ☐ 専門が同じで、よりレベルの高い他大学の大学院博士課程に進学したいから
- ☐ 自分の学力が博士で通用するとは思わないから
- ☐ 博士修了後の進路に不安があるから
- ☐ 大学が厭になった
- ☐ 社会人になったあとからでも大学院に戻ってこられるから
- ☐ その他(自由記述)

(16) 【留学をしたいと思いますか。】

- ◇大いにしたい ◇機会があればしたい ◇したいと思うが、できない
- ◇したくない ◇わからない

(17) (16)で留学を「したいと思うが、できない」「したくない」「わからない」を回答した方にお尋ねします。その理由を選択して下さい。(複数回答可)

- ☐ 金銭面に難がある ☐ 家庭の事情
- ☐ 語学力に自信がないから ☐ 今の研究(授業)が優先するため
- ☐ 在学年数が延びるから ☐ 就職活動に不利だから
- ☐ 興味がない・自分のキャリアに必要な ☐ 情報がないから
- ☐ その他(自由記述)

(18) 大学で実施している教育プログラム等についてお答えください。

a 四大学連合複合領域コース

- ☐ 知らない ☐ 知っている ☐ 興味がある ☐ 聞いたことがあるが、よくわからない

b 精華大学との大学院合同プログラム

- ☐ 知らない ☐ 知っている ☐ 興味がある ☐ 聞いたことがあるが、よくわからない

c 大学院教育研究特別コース

- ☐ 知らない ☐ 知っている ☐ 興味がある ☐ 聞いたことがあるが、よくわからない

d 博士一貫教育プログラム

- ☐ 知らない ☐ 知っている ☐ 興味がある ☐ 聞いたことがあるが、よくわからない

e 教育院(グローバルリーダー教育院/環境エネルギー協創教育院/情報生命博士教育院/グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント教育院)

- ☐ 知らない ☐ 知っている ☐ 興味がある ☐ 聞いたことがあるが、よくわからない

(19) 【附属図書館(オンラインサービスを含む)をどの程度利用していますか。】

- ◇週に6~7日 ◇週に4~5日 ◇週に2~3日
- ◇週に1日程度 ◇月に1~2回 ◇ほとんどない
- ◇該当する選択肢なし

(20) 附属図書館の利用の主なものにマークして下さい。(複数回答可)

- ☐ 図書・雑誌の利用 ☐ 電子ジャーナル・電子ブックの利用
- ☐ オンラインサービス(文献検索・TDL オンラインリクエスト)
- ☐ 無線 LAN や PC の利用 ☐ 地下階の図書を利用した学習のため
- ☐ 2, 3 階の学習スペース利用のため ☐ 時間つぶし
- ☐ その他(自由記述)

(21) 附属図書館に充実させてほしい資料はどのようなものですか。(複数回答可)

- ☐ 参考書(学習で用いる教科書・参考書等) ☐ 専門書(研究で用いる専門書)
- ☐ 一般教養書 ☐ 学術雑誌 ☐ 一般雑誌
- ☐ 電子ブック ☐ 電子ジャーナル ☐ データベース
- ☐ その他(自由記述)

(22) 附属図書館に対する要望を自由に記入してください。

(自由記述)

(23) 【現在、講義室、附属図書館、食堂等に無線 LAN が設置されています。東工大の無線



LAN(Titech-Pubnet)をどのくらい利用していますか。】

- ◇4(ほとんど毎日) ◇3(週2~4回) ◇2(週1回)
 ◇1(利用していない) ◇決まっていない

(24) 東京工業大学オープンコースウェア(TOKYO TECH OCW/OCW-i)を利用していますか。

- ☐ シラバスの確認 ☐ 講義資料の閲覧 ☐ 自主学习のため
☐ その他(自由記述)

(25) 授業を受けにくい講義室がある場合、一番受けにくい講義室を教えてください。

講義室名称(H101等の名称で記載)

(自由記述)

講義を受けにくい理由

- ☐ 教室の形状 ☐ 空調 ☐ 机 ☐ 椅子
☐ 視聴覚機器 ☐ その他(自由記述)

3. キャンパスライフについて

(1) 授業の合間や終了後等は主にどこで過ごしていますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)

- ☐ 講義室、実習室等(授業用の部屋) ☐ 研究室等
☐ 附属図書館 ☐ サークル室等(課外活動用の部屋)
☐ ラウンジ、リフレッシュルーム等(建物内の共有スペース)
☐ 広場、スロープ、グラウンド等(屋外) ☐ 学内の食堂、売店等
☐ 大学周辺の食堂、売店等 ☐ 下宿等
☐ その他(自由記述)

(2) 授業や学内行事などの情報について、主な情報源は何ですか。該当するものがあれば3つまでマークして下さい。

- ☐ 学生用掲示板・電子掲示板(プラズマディスプレイ)
☐ 学科・専攻等の掲示板 ☐ OCW/OCW-i・教務 web
☐ 学務部(教務課、学生支援課)の窓口 ☐ 大学の関連ホームページ
☐ 大学関連の Twitter ☐ 大学関連の Facebook
☐ 教員等からのメール ☐ 友人 ☐ その他(自由記述)

(3) 【(2)で該当した情報源それぞれについての充実度はいかがですか。】

- ◇5(充実している) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(不足している) ◇わからない

(4) サークル(公認サークル)、同好会(非公認のサークルや同好会)あるいはボランティア等の「現在」および「過去」の活動経験について、該当するところをマークし、現在活動している場合、週あたりの活動日数を記入して下さい。

- | | | |
|----------|--|------------------------------------|
| 文化系サークル | ☐ 活動回数(現在): ()日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 体育系サークル | ☐ 活動回数(現在): ()日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 技術系サークル | ☐ 活動回数(現在): ()日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 同好会 | ☐ 活動回数(現在): ()日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| 学外のサークル | ☐ 活動回数(現在): ()日/週 | ☐ 過去に所属していた |
| ボランティア活動 | ☐ 活動回数(現在): ()日/週 | ☐ 過去に所属していた |

(5) 大学の施設についてお聞きします。

a 【サークル棟、大学会館(すずかけホール)等、課外活動施設についての充実度はいかがですか。】

- ◇5(整っている) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(整っていない) ◇わからない

b 【スポーツ施設について充実度はいかがですか。】

- ◇5(整っている) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(整っていない) ◇わからない

c 【学内移動に自転車を利用していますか。】



- ◇登録して利用している ◇利用しているがまだ登録していない
◇利用していない ◇該当する選択肢なし
- d 【駐輪施設の充実度はいかがですか。】
◇5(整っている) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(整っていない) ◇わからない
- e-1 【本学のキャンパス内の禁煙対策について】
◇5(整っている) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(整っていない) ◇わからない
- e-2 【キャンパス内の喫煙所の配置についてどう思われますか。】
◇喫煙所の場所が悪い、場所を変えて欲しい ◇喫煙所を増やして欲しい
◇喫煙所を減らして欲しい ◇該当する選択肢なし
- e-3 喫煙・喫煙マナーなどについてご意見があればお書きください。
(自由記述)
- f 施設に関してご意見があればお書きください。
(自由記述)
- (6) 学内の食堂についてお聞きします。
- a 【値段はいかがですか。】
◇5(適切である) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(適切ではない) ◇わからない
- b 【味についてはいかがですか。】
◇5(美味しい) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(美味しくない) ◇わからない
- c メニューについてどう思いますか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)
☐ 値段の安いメニューを増やして欲しい。
☐ 高くても美味しいメニューを増やして欲しい。
☐ 健康志向のメニューを増やして欲しい。
☐ とにかくメニュー数を増やして欲しい。
☐ 麺類等にもSサイズを追加して欲しい。
☐ サッパリ系のメニューを増やして欲しい。
☐ デザート・菓子類を増やして欲しい。
☐ ボリュームを重視したメニューを増やして欲しい。
☐ 宗教・文化に対応したメニューを増やして欲しい。
☐ 現状で満足している。
☐ 普段利用していないのでよく分からない。
☐ その他(自由記述)
- (7) 施設・設備について、設置または充実して欲しいものは何ですか。それぞれについて最大3つまでマークしてください。
- a 個別利用スペース／備品
☐ 個人用ロッカー ☐ シャワールーム ☐ トイレの増設、美化
☐ 学内移動用の無料レンタルサイクル ☐ レンタル・ノート PC
- b 共同利用スペース
☐ コミュニティ・スペース(友人と談笑できる空間)
☐ スタディ・ルーム(静かに勉学できる自習室)
☐ トレーニング・スペース(トレーニング・ルーム、プール、体育館、フットサル場)
☐ IT スペース(インターネットが自由に接続可能な場)
☐ AV スペース(音楽や映画が鑑賞できる空間)
☐ レスト・スペース(安心して仮眠が取れる場)
- c 店舗関係
☐ コンビニエンス・ストア ☐ レストラン／カフェテリア ☐ 自販機
☐ 弁当販売 ☐ 理工系図書を扱う書店
- d 学外施設
☐ 学生寮 ☐ 合宿研修施設



e キャンパス内の施設・設備についてご意見があればお書きください。

(自由記述)

(8) 学生生活サービスについて、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものは何ですか。それぞれについて最大3つまでマークしてください。

a 経済的サポート

- ☐ 多様な奨学金制度 ☐ 緊急時の一時貸付金制度 ☐ アルバイト紹介
☐ 保険制度の充実(学内外を問わず24時間をカバー、より割安な掛金、支払い金の増額、災害保険の取り扱い)

b 交流サポート

- ☐ ピアサポート体制(先輩等に身近な問題を気軽に相談できる)
☐ クラス(類・学科・専攻等)の活動・懇親へのサポート
☐ 新たに友だちづくりができる企画・活動
☐ 先輩や卒業生と交流する企画・活動

c キャリアサポート

- ☐ 進路・就職に関する情報が得られる企画・活動
☐ 実習・インターンシップに関する情報が得られる企画・活動
☐ 留学・海外生活に関する情報が得られる企画・活動

d その他

- ☐ サークル・クラブ紹介 ☐ 学生生活のマニュアル(冊子・レクチャー等)
☐ ボランティア紹介
☐ セキュリティ体制の強化(防犯上の心配を除去するために)
☐ 事務窓口の一元化(教務課、学務課、学生支援課、入試課を1カ所にまとめる)

e 学生生活サービスについてご意見があればお書きください。

(自由記述)

(9) あなたがこれまで経験したことがある、あるいは、興味がありやってみたいと思うものがあればマークしてください。(複数回答可)

TA・RA・チューター

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

ピアサポート(後輩への学生生活上の相談)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

キャンパスガイド(見学希望の高校生、保護者等に)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

広報サポーター(広報誌『てくてく』やWebなどを通じて本学の特徴を学外へ発信)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

スクールパートナー(近隣の小中学校にて学習・実験等のサポート)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

ものづくりサポート(ものづくり教育研究支援センター等での製作・技術指導)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

図書館サポーター(資料の配架や整理、広報、展示等の企画、学習相談、館内見学の対応など)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

学勢調査スタッフ(この調査の作成・集計・解析、提言書作成)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

大学行事(オリエンテーション、入学式、卒業式等)のサポート

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

通訳(イベント開催時、海外からの来客)

- ☐ 非選択 ☐ 経験したことがある ☐ やってみたい

IT支援(ネットワーク管理、ホームページ作成等)



○非選択 ○経験したことがある ○やってみたい
 その他(自由記述)

○非選択 ○経験したことがある ○やってみたい

(10) 大学生生活で、この2年間に入院・通院した経験があればマークしてください。(複数回答可)

- | | |
|--|-------------------------------------|
| ☐ 研究・実験中の事故による入院・通院 | ☐ 病気で入院・通院 |
| ☐ スポーツ事故で入院・通院 | ☐ 交通事故で入院・通院 |
| ☐ その他事故で入院・通院 | |

(11) 教職員の学生への対応・サービスについてお聞きます。

a 【教員の学生への対応は適切ですか。】

◇5(そう思う) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(そう思わない) ◇わからない

b 【事務職員の学生への対応は適切ですか。】

◇5(そう思う) ◇4 ◇3 ◇2 ◇1(そう思わない) ◇わからない

c 学生への対応・サービスについて思うところがあれば自由にご記入下さい。

(自由記述)

(12) あなたは大学生活においてハラスメント(立場を利用した深刻な嫌がらせ)を受けた(受けたと感じた)ことがありますか。

a 【アカデミックハラスメント(権力関係にもとづく教職員等の不適切な言動により圧迫を受け、不利益を被ること)】

◇かつてあった ◇現在受けている ◇ない ◇該当する選択肢なし

b 【セクシュアルハラスメント(望まない性的な言動により不快感を抱いたり、不利益を被ること)】

◇かつてあった ◇現在受けている ◇ない ◇該当する選択肢なし

c 【アルコールハラスメント(飲酒の強要)】

◇かつてあった ◇現在受けている ◇ない ◇該当する選択肢なし

(13) (12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントの内容・程度、および頻度はどのようなものだったでしょうか。該当するものにマークして下さい。(複数回答可)

☐ 言葉、態度や雰囲気によって不快・圧迫を感じた。

頻度: ◇一回だけ ◇時々 ◇継続的に ◇該当する選択肢なし

☐ 望まないことを強要されたり、身体に危害を加えられたり、加えられそうになった。

頻度: ◇一回だけ ◇時々 ◇継続的に ◇該当する選択肢なし

☐ 装置使用や研究室入室の制限、あるいは捺印の拒否など、学習／研究を続けることを妨げられた。

頻度: ◇一回だけ ◇時々 ◇継続的に ◇該当する選択肢なし

(14) (12)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことでどのような影響があったでしょうか。該当するものがあればマークして下さい。(複数回答可)

☐ 気分が落ち込んだり、イライラしたり、心理的に不安定になった。

☐ 体調不良となったり、睡眠や食行動に乱れが生じたりした。

☐ 大学に行きたくなくなった。

☐ 大学に行かなくなった。

☐ 死にたいと思ったり、自分を傷つけたくなったりした。

☐ とりたてて影響はなかった。

☐ その他(自由記述)

(15) (12)の(a)(b)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことにどう対応したでしょうか。該当するものがあればマークして下さい。(複数回答可)



- ☐友人・家族に相談した。
 ☐教職員に相談した。
☐学内の相談機関を利用した。
 ☐学外の相談機関や医療機関を利用した。
☐所属変更(研究室等)や進路変更(就職、休退学等)を考えた。あるいは実行した。
☐何もなかった。
 ☐その他(自由記述)

(16) ハラスメントの防止策について、ご意見があればお書きください。

(自由記述)

(17) 本学には様々な相談窓口があります。これまでに利用したことがあるもの、あるいは、利用してみたいものがあればマークしてください。(複数回答可)

a 先輩

ピアサポート(学生支援課)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

b 教職員

助言教員・クラス担任

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

類主任・学科長・専攻長

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

就職担当教員(各学科・専攻)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

留学生修学相談窓口(留学生センター)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

学生相談室(学生支援センター)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

c 専門スタッフ等

電話相談デスク(学生支援センター)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

24 時間電話相談サービス(学外委託)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

キャリアアドバイザー(学生支援センター)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

カウンセリング(保健管理センター)

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

ハラスメント相談窓口

- ☐非選択
 ☐利用したことがある
 ☐利用してみたい

4. 防災関連

(1) 【2011 年 3 月 11 日地震発生当時に学内に居た学生に対してお尋ねします。地震発生直後に何をしていましたか。】

- ☐◇所定の避難所に移動した
 ☐◇実験室・研究室の様子を見に行った
☐◇帰宅した
 ☐◇帰宅しようとしたが出来なかった
☐◇情報を収集した
 ☐◇覚えていない・該当する選択肢なし

(2) 【2011 年 3 月 11 日地震発生当時に学内に居た学生に対してお尋ねします。2011 年 3 月 11 日の帰宅困難者への大学の対応をどのように知りましたか。】

- ☐◇知らなかった
 ☐◇学内放送
 ☐◇口コミ
 ☐◇実際に見て知った
☐◇覚えていない・該当する選択肢なし

(3) 【東日本大震災直後、学生生活においてどの分野に影響が出ましたか】

- ☐◇授業・研究
 ☐◇就職活動
 ☐◇入学・卒業
☐◇部活・サークル・アルバイト
 ☐◇特になし



◇その他(自由記述)

(4) 防災関連について、知っているものをマークしてください。(複数選択可)

a 地震発生時の学生の行動フローチャート

☐ 知らない ☐ 知っている

b 東工大内の所定の避難所の場所

☐ 知らない ☐ 知っている

c 大地震対応マニュアル(ポケット版)

☐ 知らない ☐ 知っている

(5) 防災関連で大学側に何を求めますか。3 つまで選択してください。

☐ インフラ関連の情報伝達の充実 ☐ 避難指示の情報伝達の充実

☐ 防災訓練の充実 ☐ 仮設トイレの設置 ☐ 場所の開放

☐ 飲食物の備蓄充実 ☐ 緊急医療の充実 ☐ 特に何も求めない

☐ その他(自由記述)

(6) 東日本大震災復興支援のボランティアに携わったことがありますか。(複数選択可)

☐ 被災地に赴きボランティア活動に参加した

☐ 被災地以外の場所でボランティア活動に参加した

☐ 東工大内のボランティア活動に参加した

☐ 東日本大震災復興支援のボランティア活動に携わったことはない

☐ その他(自由記述)

(7) 今年の夏、節電対策として研究室・サークル部室で行っていたものがあればお選びください。(複数選択可)

☐ 冷房を使用しなかった ☐ どうしても暑い日以外冷房を使わなかった

☐ 冷房の設定温度を 28℃以上にしていた ☐ 冷房の代わりに扇風機を使用していた

☐ 不要な照明を取り外した ☐ 冷蔵庫や温水ポットなどの使用停止とした

☐ 不要なパソコンやサーバーの電源を切った

☐ 昼間はノートパソコンをバッテリーで使用した

☐ 窓へ遮光フィルムやすだれ、網戸を設置した ☐ その他(自由記述)

5. その他

(1) あなたが本学に特に要望する事項があれば、どんなことでも自由にご記入ください。

(自由記述)

(2) 今回の学勢調査についての意見があれば、ご自由にご記入下さい。

(自由記述)



謝辞

本提言書作成に際して、下記の方々に厚く御礼申し上げます。

学勢調査 2012 に回答して頂いた、1956 名

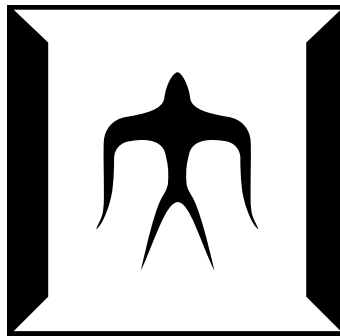
総務部 評価・広報課 御中
国際部 留学生交流課 御中
国際部 国際事業課 御中
学務部 教務課 御中
学務部 学生支援課 御中
外国語研究教育センター 御中
研究推進部 研究企画課 御中
研究推進部 情報図書館課 御中
研究推進部 情報基盤課 御中
施設運営部 施設安全企画課 御中
すずかけ台地区事務部 総務課 御中
すずかけ台地区事務部 学務課 御中
東京工業大学生生活協同組合 御中

学勢調査 2012 スタッフ

代表	理学部	化学科	学部 3 年	金 相殷
副代表	工学部	制御システム工学科	学部 3 年	中嶋 渉
サービス担当				
	工学部	経営システム工学科	学部 3 年	川村 通
	生命理工学部	7 類	学部 1 年	近藤 麻梨子
施設担当				
	工学部	電気電子工学科	学部 3 年	木下 治紀
	生命理工学部	生命科学科	学部 3 年	堀川 雄太郎
学習担当				
	工学部	情報工学科	学部 2 年	植田 聖司
研究担当				
	理工学研究科	地球惑星科学専攻	博士 1 年	鈴木 和恵
図書館担当				
	工学部	機械宇宙学科	学部 4 年	松井 孝太郎
生協担当				
	生命理工学部	7 類	学部 1 年	佐々野 晴花
防災担当				
	理工学研究科	機械物理工学専攻	修士 1 年	藤巻 雄介
	生命理工学部	生命工学科	学部 2 年	西久保 匠
翻訳担当				
	理学部	物理学科	学部 3 年	村上 勇樹
データ処理担当				
	情報理工学研究科	数理計算科学専攻	修士 2 年	桂 悠哉

学勢調査 WG 教職員スタッフ

理工学研究科	機械物理工学専攻 教授	岩附 信行（主査）
総合理工学研究科	創造エネルギー専攻 教授	岡村 哲至
保健管理センター	教授	齋藤 憲司
理工学研究科	材料工学専攻 教授	篠崎 和夫
社会理工学研究科	人間行動システム専攻 教授	西原 明法
留学生センター	教授	野原 佳代子
学生支援センター	特任准教授	山田 恵美子
学生支援課	課長	秋友 豊香
学生支援課	支援企画グループ長	松永 修
学生支援課	支援企画グループ	土橋 勇樹
学生支援 GP	事務	高橋 知子



学勢調査 2012 提言書
2013 年 3 月
学勢調査スタッフ一同